

基本計画書

基本計画書									
事項		記入欄							備考
計画の区分		研究科の設置							
フリガナ設置者		コクリツダイガクホウジンオビヒロチクサンダイガク 国立大学法人帯広畜産大学							
フリガナ大学の名称		オビヒロチクサンダイガクダイガクイン 帯広畜産大学大学院 (Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine Graduate School)							
大学本部の位置		北海道帯広市稲田町西2線11番地							
大学の目的		帯広畜産大学は、「日本の食料基地」として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃う北海道十勝地域において、生命、食料、環境をテーマに「農学」「畜産科学」「獣医学」に関する教育研究を推進し、知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、「食を支え、暮らしを守る人材の育成を通じて地域及び国際社会に貢献する」ことを目的とする。							
新設学部等の目的		本学が掲げている「獣医学分野と農畜産学分野を融合した教育研究体制、国際通用力を持つ教育課程及び食の安全確保のための教育システムを保有する我が国唯一の国立農学系単科大学として、グローバル社会の要請に即した農学系人材を育成する」との第3期中期目標のもと、獣医・農畜産融合の教育研究体制を構築し、農学分野が直面する課題解決に資する人材育成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称		入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	畜産学研究科 (Graduate Schools of Animal and Veterinary Sciences and Agriculture)								
	畜産科学専攻博士前期課程 (Master's Program of Animal Science and Agriculture)	2	48	-	96	修士 (農学) 修士 (畜産衛生学) 修士 (動物医科学)	平成30年4月第1年次	帯広市稲田町西2線11番地	基礎となる学部等 畜産学部畜産科学課程
	計		48		96				
	畜産科学専攻博士後期課程 (Doctoral Program of Animal Science and Agriculture)	3	10	-	30	博士 (農学) 博士 (畜産衛生学)	平成30年4月第1年次	帯広市稲田町西2線11番地	基礎となる学部等 畜産学研究科畜産科学専攻博士前期課程
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	獣医学専攻博士課程 (Doctoral Program of Veterinary Science)	4	5	-	20	博士 (獣医学)	平成30年4月第1年次	帯広市稲田町西2線11番地	基礎となる学部等 畜産学部共同獣医学課程
	計		15		50				
	畜産学研究科 <u>畜産衛生学専攻 (博士後期課程)</u> (廃止) (△7) ※平成30年4月学生募集停止								
	畜産学研究科 <u>畜産生命科学専攻 (修士課程)</u> (廃止) (△18) ※平成30年4月学生募集停止								
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	畜産学研究科 <u>食品科学専攻 (修士課程)</u> (廃止) (△10) ※平成30年4月学生募集停止								
	畜産学研究科 <u>資源環境農学専攻 (修士課程)</u> (廃止) (△13) ※平成30年4月学生募集停止								
	畜産学研究科 <u>畜産衛生学専攻 (博士前期課程)</u> (廃止) (△15) ※平成30年4月学生募集停止								

教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数								
			講義	演習	実験・実習	計									
	畜産学研究科畜産科学専攻博士前期課程		50科目	30科目	0科目	80科目	30単位								
畜産学研究科畜産科学専攻博士後期課程		6科目	17科目	0科目	23科目	12単位									
畜産学研究科獣医学専攻博士課程		12科目	27科目	0科目	39科目	30単位									
教員組織の概要	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼 任 教 員 等						
			教授	准教授	講師	助教	計	助手							
	新設	畜産学研究科 畜産科学専攻(博士前期課程)	27人 (27)	21人 (21)	1人 (1)	14人 (14)	63人 (63)	0人 (0)	59人 (59)	平成29年3月設置計画申請 平成29年3月設置計画申請					
		畜産学研究科 畜産科学専攻(博士後期課程)	24 (24)	21 (21)	1 (1)	14 (14)	60 (60)	0 (0)	47 (47)						
		畜産学研究科 獣医学専攻(博士課程)	17 (17)	10 (10)	2 (2)	12 (12)	41 (41)	0 (0)	66 (66)						
		計	68 (68)	52 (52)	4 (4)	40 (40)	164 (164)	0 (0)	— ()						
	既設	—	— ()	— ()	— ()	— ()	— ()	— ()	— ()						
		計	— ()	— ()	— ()	— ()	— ()	— ()	— ()						
		合 計	68 (68)	52 (52)	4 (4)	40 (40)	164 (164)	0 (0)	— ()						
	教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体					
事 務 職 員		69人 (69)		45人 (45)		114人 (114)									
技 術 職 員		21 (21)		58 (58)		79 (79)									
図 書 館 専 門 職 員		4 (4)		2 (2)		6 (6)									
そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)									
計		94 (94)		105 (105)		199 (199)									
校地等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計						
	校 舎 敷 地		334,950㎡		— ㎡		— ㎡		334,950㎡						
	運 動 場 用 地		65,025㎡		— ㎡		— ㎡		65,025㎡						
	小 計		399,975㎡		— ㎡		— ㎡		399,975㎡						
	そ の 他		76,585㎡		— ㎡		— ㎡		76,585㎡						
	合 計		476,560㎡		— ㎡		— ㎡		476,560㎡						
校 舎		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計							
		30,398㎡ (30,398㎡)		— ㎡ (㎡)		— ㎡ (㎡)		30,398㎡ (30,398㎡)							
教室等	講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設						
	18室		2室		165室		3室 (補助職員0人)		1室 (補助職員0人)						
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称				室 数								
			畜産科学専攻博士前期課程 / 後期課程				70 室								
			獣医学専攻博士課程				51 室								
図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕点		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点		大学全体
	畜産学研究科 畜産科学専攻		214,798 [49,015] (214,798 [49,015])		6,244 [1,268] (6,244 [1,268])		8 [7] (8 [7])		2,396 (2396)		0 0		0 0		
	計		214,798 [49,015] (214,798 [49,015])		6,244 [1,268] (6,244 [1,268])		8 [7] (8 [7])		2,396 (2396)		0 0		0 0		
図書館			面積		閲覧座席数				収 納 可 能 冊 数						
			2,336㎡		166				224,194						
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要										
			2,894㎡		野球場、アイスホッケー場、サッカー場 ラグビー場、アメリカンフットボール場										

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金）による
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—		
		設備購入費	—	—	—	—	—	—		
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要			—						

既設大学等の状況	大学の名称	帯広畜産大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	畜産学部	年	人	年次人 3年次	人		倍		北海道帯広市稲田町西2線11番地
	共同獣医学課程	6	40	—	200	学士（獣医）	1.01	平成24年度	
	畜産科学課程	4	200	10	860	学士（農学）	1.01	平成20年度	
	畜産学研究科 修士課程								北海道帯広市稲田町西2線11番地
	畜産生命科学専攻	2	18	—	36	修士（農学）	0.80	平成22年度	
	食品科学専攻	2	10	—	20	修士（農学）	1.05	平成22年度	
	資源環境農学専攻	2	13	—	26	修士（農学）	0.84	平成22年度	
	畜産学研究科 博士課程								北海道帯広市稲田町西2線11番地
畜産衛生学専攻	2	15	—	30	修士（畜産衛生学）	1.06	平成16年度		
畜産衛生学専攻	3	7	—	21	博士（畜産衛生学）	0.90	平成18年度		

	名称：原虫病研究センター
	目的：大学並びに各省庁との研究連携により、人獣共通原虫病の制圧と動物生産工場による蛋白質資源の確保に努め、我が国は勿論、世界人類の健康と福祉に学術的に貢献し得る原虫病に関する総合的研究を行う。
	所在地：北海道帯広市稲田町西2線11番地
	設置年月：昭和59年4月
	規模等：建物3,118㎡
	名称：地域連携推進センター
	目的：本学のもつ様々な資源を地域貢献に役立てるため、受託研究や共同研究の実施支援や技術相談、知的財産の権利化・管理、学校教育支援事業、地元自治体との連携事業、国際標準の食品安全マネジメントシステムに関する社会人研修等の活動を行う。
	所在地：北海道帯広市稲田町西2線11番地
	設置年月：平成8年5月
	規模等：建物1,347㎡
	名称：畜産フィールド科学センター
	目的：牧草やトウモロコシを主体に粗飼料を完全自給し、乳用子牛の生産から搾乳牛の飼育、そして生乳生産から乳製品の加工処理・販売までの一貫した酪農特化型モデル農場である。また、学内共同利用施設として、農場・精密圃場・肥育牛舎・肉畜処理施設・食肉加工実習工場・農業機械実習研究施設を統合し、農畜産・獣医学のフィールド実践教育と応用的基盤研究の拠点として機能する。
	所在地：北海道帯広市稲田町西2線11番地
	設置年月：昭和24年5月
	規模等：138.5ha
	名称：動物医療センター
	目的：一般外来の動物のほか、畜産フィールド科学センターの動物の診療を行う。また、教育病院として診断・治療を通して学部学生や大学院生などの臨床実習や学術研究を行う。
	所在地：北海道帯広市稲田町西2線11番地
	設置年月：昭和22年3月
	規模等：建物2,270㎡
	名称：動物・食品検査診断センター
	目的：畜産物の生産から流通・消費に至る過程で発生する、または発生が危惧される個々の問題に対処し、食の安全性確保に寄与する。
	所在地：北海道帯広市稲田町西2線11番地
	設置年月：平成14年8月
	規模等：建物1,100㎡

附属施設の概要	<p>名称：附属図書館</p> <p>目的：図書館資料を体系的に収集・整理・保存し、その利用奉仕につとめ、広く学術文化の向上に寄与する。</p> <p>所在地：北海道帯広市稲田町西 2 線11 番地</p> <p>設置年月：昭和24年 5 月</p> <p>規模等：建物2,336㎡</p>
	<p>名称：保健管理センター</p> <p>目的：学生・職員の初期治療や健康管理を行うと共に「こころの相談室」を定期的に開設する。</p> <p>所在地：北海道帯広市稲田町西 2 線11 番地</p> <p>設置年月：昭和45年 7 月</p> <p>規模等：建物268㎡</p>
	<p>名称：大学教育センター</p> <p>目的：入学者の選抜、教育の企画、調整及び運営、学生の相談及び支援を行い、教育の充実を図る。</p> <p>所在地：北海道帯広市稲田町西 2 線11 番地</p> <p>設置年月：平成16年 4 月</p> <p>規模等：総合研究棟 I 号館内</p>
	<p>名称：イングリッシュ・リソース・センター</p> <p>目的：国際的人材育成を目指して学生、教員等の実践的な英語能力の向上を図るため、英語教育に関する教材開発、授業改善等に関する支援を行うとともに大学の管理運営上必要となる支援を行う。</p> <p>所在地：北海道帯広市稲田町西 2 線11 番地</p> <p>設置年月：平成21年 4 月</p> <p>規模等：総合研究棟 I 号館内</p>
	<p>名称：情報処理センター</p> <p>目的：「情報処理」についての教育、研究の中心的役割を担い、学内ネットワークシステムの拠点である。また、事務系の業務サーバを一元管理し、安全性の確保、運用の効率化を実現する。</p> <p>所在地：北海道帯広市稲田町西 2 線11 番地</p> <p>設置年月：平成 4 年 2 月</p> <p>規模等：建物849㎡</p>
	<p>名称：食品加工実習施設</p> <p>目的：農場から食卓までの一連の過程を実践する実習だけではなく、食品衛生、家畜衛生、など公衆衛生学の教育・研究にも活用する。</p> <p>所在地：北海道帯広市稲田町西 2 線11 番地</p> <p>設置年月：平成24年12月</p> <p>規模等：建物1,315㎡</p>

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 6 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(畜産学研究科 畜産科学専攻 博士前期課程 家畜生産学コース)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 必修 科目	国際農畜産衛生科学特論	1・2①	2			○			5	4	0	0	0	兼3	オムニバス
	生物資源環境科学特論	1・2①	2			○			8	4	0	1	0		オムニバス
	特別研究特論	1・2	2			○			24	21	1	11	0	兼45	集中
	English Communication for Science	1・2前	2			○			0	0	0	0	0	兼3	
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			37	29	1	12	0	兼51	
共通 選択 科目	環境法制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	共同
	教育学特論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学特論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	歴史と生命	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	体育と健康	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼2	
	「北海道文学」論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	西洋環境文化論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	外交と食料	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	知的財産制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	教育統計と教育データ分析	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	海外フィールドワークⅠ	1・2		2			○		1	0	0	0	0	兼1	集中
	海外フィールドワークⅡ	1・2		4			○		1	0	0	0	0	兼1	集中
	国内フィールドワーク	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中
	アカデミックプレゼンテーション演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中
	コーポレートワーク演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中
畜産 衛生 学 位 プ ロ グ ラ ム 科 目	畜産衛生学特論	1・2②		2※		○			2	5	0	0	0	兼4	オムニバス ※学位プログラム選択者は必修
	食品衛生・有害物質特論	1・2④		2※		○			1	1	0	0	0		オムニバス ※学位プログラム選択者は必修
	畜産衛生課題研究	2通		4			○		1	0	0	0	0		集中
	HACCPシステム構築演習	1・2		2			○		1	0	0	0	0		集中
	食品関連法規と食品製造・加工設備保全特論	1・2		2		○			1	0	0	0	0	兼8	集中、オムニバス
	食品検査学演習	1・2		2			○		1	1	0	0	0		
	食品流通・地域産業活性化特論	1・2②		2		○			1	0	0	0	0		
	企業戦略特論	1・2③		2		○			1	0	0	0	0		
	小計（23科目）	—	0	50	0	—			83	64	3	3	0	兼142	
家畜 生 産 科 学 コ ー ス 科 目	家畜生産科学特別研究Ⅰ	1・2通	4				○		3	7	1	2	0	兼1	オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上 オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上 オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上 オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上
	家畜生産科学特別研究Ⅱ	2通	4				○		3	7	1	4	0	兼1	
	家畜生産科学特論	1・2①	2			○			3	7	1	4	0	兼1	
	家畜生産科学特別演習	1・2通	4				○		3	7	1	4	0	兼1	
	家畜育種繁殖学特論	1・2②		2		○			2	3	0	1	0		
	家畜管理栄養学特論	1・2③		2		○			0	3	1	1	0	兼1	
	家畜生体機能学特論	1・2④		2		○			1	1	0	2	0		
	小計（7科目）	—	14	6	0	—			15	35	5	18	0	兼5	
環 境 生 態 学 コ ー ス 科 目	環境生態学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		2	2	0	2	0	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス	
	環境生態学特別研究Ⅱ	2通		4			○		2	2	0	2	0		
	環境生態学特論	1・2①		2		○			2	2	0	3	0		
	環境生態学特別演習	1・2通		4			○		2	2	0	3	0		
	環境生命科学特論	1・2④		2		○			2	2	0	3	0		
	生態システム生命科学特論	1・2③		2		○			1	2	0	3	0		
	保全生態リスク管理学特論	1・2②		2		○			2	2	0	3	0		
	小計（7科目）	—	0	20	0	—			13	14	0	19	0		

専 門 科 目	食 品 科 学 コ ー ス 科 目	食品科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		8	5	0	2	0		
		食品科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		8	5	0	2	0		
		食品科学特論	1・2①		2			○		5	3	0	0	0	オムニバス	
		食品科学特別演習	1・2通		4			○		8	5	0	2	0	オムニバス	
		食品加工・利用学特論	1・2②		2			○		3	2	0	0	0	オムニバス	
		食品栄養化学特論	1・2③		2			○		2	1	0	1	0	オムニバス	
		食品機能科学特論	1・2④		2			○		2	2	0	1	0	オムニバス	
		小計（7科目）	—	0	20	0		—		36	23	0	8	0		
	農 業 経 済 学 コ ー ス 科 目	農業経済学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		3	1	0	1	0		
		農業経済学特別研究Ⅱ	2通		4			○		3	1	0	1	0		
農業経済学特論		1・2①		2			○		4	1	0	1	0	オムニバス		
農業経済学特別演習		1・2通		4			○		4	1	0	1	0	オムニバス		
畜産経営学特論		1・2③		2			○		1	1	0	0	0	オムニバス		
農業政策学特論		1・2④		2			○		1	0	0	0	0			
応用農業統計学特論		1・2②		2			○		2	0	0	0	0	オムニバス		
小計（7科目）	—	0	20	0		—		18	5	0	4	0				
農 業 環 境 工 学 コ ー ス 科 目	農業環境工学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		4	3	0	0	0			
	農業環境工学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	3	0	0	0			
	農業環境工学特論	1・2①		2			○		4	3	0	0	0	オムニバス		
	農業環境工学特別演習	1・2通		4			○		4	3	0	0	0	オムニバス		
	農業機械システム工学特論	1・2④		2			○		3	1	0	0	0	オムニバス		
	農業農村工学特論	1・2②		2			○		1	1	0	0	0	共同		
	農業環境物理学特論	1・2③		2			○		0	1	0	0	0			
小計（7科目）	—	0	20	0		—		20	15	0	0	0				
植 物 生 産 科 学 コ ー ス 科 目	植物生産科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		4	3	0	4	0			
	植物生産科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	3	0	4	0			
	植物生産科学特論	1・2①		2			○		4	3	0	4	0	オムニバス		
	植物生産科学特別演習	1・2通		4			○		4	3	0	4	0	オムニバス		
	植物遺伝育種学特論	1・2③		2			○		2	2	0	3	0	オムニバス		
	植物生産環境学特論	1・2④		2			○		3	1	0	3	0	オムニバス		
	植物生産管理学特論	1・2②		2			○		3	1	0	2	0	オムニバス		
	小計（7科目）	—	0	20	0		—		24	16	0	24	0			
動 物 医 科 学 コ ー ス 科 目	動物医科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		0	0	0	0	0	兼44		
	動物医科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		0	0	0	0	0	兼44		
	動物医科学特論	1・2①		2			○		0	0	0	0	0	兼8	オムニバス	
	動物医科学特別演習	1・2通		4			○		0	0	0	0	0	兼24	オムニバス	
	動物機能医科学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼4	オムニバス	
	動物機能医科学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス	
	動物病態・病因制御学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼4	オムニバス	
	動物病態・病因制御学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼8	オムニバス	
	動物臨床科学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス	
	動物臨床科学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス	
	動物臨床科学特論Ⅲ	1・2④		2			○		0	0	0	0	0	兼3	オムニバス	
	小計（11科目）	—	0	28	0		—		0	0	0	0	0	兼154		
合計（80科目）			—	22	184	0		—		246	201	9	88	0	兼352	
学位又は称号		修士（農学） / 修士（畜産衛生学）			学位又は学科の分野				農学分野							
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目22単位、専門科目（自コース科目）の選択科目から4単位以上、共通選択科目及び専門科目（他コース科目）から4単位以上修得し、30単位以上修得すること。 畜産衛生学位プログラム履修者は、プログラム必修科目から4単位、プログラム選択科目から4単位以上修得した上で、コースの履修要件を満たすこと。								1 学年の学期区分				4 期				
								1 学期の授業期間				8 週				
								1 時限の授業時間				90分				

（注）

- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(畜産学研究科 畜産科学専攻 博士前期課程 環境生態学コース)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通必修科目	国際農畜衛生科学特論	1・2①	2			○			5	4	0	0	0	兼3	オムニバス
	生物資源環境科学特論	1・2①	2			○			8	4	0	1	0		オムニバス
	特別研究特論	1・2	2			○			24	21	1	11	0	兼45	集中
	English Communication for Science	1・2前	2			○			0	0	0	0	0	兼3	
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			37	29	1	12	0	兼51	
共通選択科目	環境法制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	共同
	教育学特論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学特論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	歴史と生命	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	体育と健康	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼2	
	「北海道文学」論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	西洋環境文化論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	外交と食料	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	知的財産制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	教育統計と教育データ分析	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	海外フィールドワークⅠ	1・2		2			○		1	0	0	0	0	兼1	集中
	海外フィールドワークⅡ	1・2		4			○		1	0	0	0	0	兼1	集中
	国内フィールドワーク	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中
	アカデミックプレゼンテーション演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中
	コーポレートワーク演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中
畜産衛生学位プログラム科目	畜産衛生学特論	1・2②		2※		○			2	5	0	0	0	兼4	オムニバス ※学位プログラム選択者は必修
	食品衛生・有害物質特論	1・2④		2※		○			1	1	0	0	0		オムニバス ※学位プログラム選択者は必修
	畜産衛生課題研究	2通		4			○		1	0	0	0	0		
	HACCPシステム構築演習	1・2		2			○		1	0	0	0	0		集中
	食品関連法規と食品製造・加工設備保全特論	1・2		2		○			1	0	0	0	0		集中
	食品検査学演習	1・2		2			○		1	1	0	0	0	兼8	集中、オムニバス
	食品流通・地域産業活性化特論	1・2②		2		○			1	0	0	0	0		
	企業戦略特論	1・2③		2		○			1	0	0	0	0		
	小計（23科目）	—	0	50	0	—			83	64	3	3	0	兼142	
家畜生産科学コース科目	家畜生産科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		3	7	1	2	0	兼1	オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上 オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上 オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上 オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上
	家畜生産科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		3	7	1	4	0	兼1	
	家畜生産科学特論	1・2①		2		○			3	7	1	4	0	兼1	
	家畜生産科学特別演習	1・2通		4			○		3	7	1	4	0	兼1	
	家畜育種繁殖学特論	1・2②		2		○			2	3	0	1	0		
	家畜管理栄養学特論	1・2③		2		○			0	3	1	1	0	兼1	
	家畜生体機能学特論	1・2④		2		○			1	1	0	2	0		
	小計（7科目）	—	0	20	0	—			15	35	5	18	0	兼5	
	環境生態学コース科目	環境生態学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		2	2	0	2	0	
環境生態学特別研究Ⅱ		2通		4			○		2	2	0	2	0		
環境生態学特論		1・2①		2		○			2	2	0	3	0		
環境生態学特別演習		1・2通		4			○		2	2	0	3	0		
環境生命科学特論		1・2④		2		○			2	2	0	3	0		
生態システム生命科学特論		1・2③		2		○			1	2	0	3	0		
保全生態リスク管理学特論		1・2②		2		○			2	2	0	3	0		
小計（7科目）		—	14	6	0	—			13	14	0	19	0		

専 門 科 目	食 品 科 学 コ ー ス 科 目	食品科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		8	5	0	2	0		
		食品科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		8	5	0	2	0		
		食品科学特論	1・2①		2			○		5	3	0	0	0	オムニバス	
		食品科学特別演習	1・2通		4			○		8	5	0	2	0	オムニバス	
		食品加工・利用学特論	1・2②		2			○		3	2	0	0	0	オムニバス	
		食品栄養化学特論	1・2③		2			○		2	1	0	1	0	オムニバス	
		食品機能科学特論	1・2④		2			○		2	2	0	1	0	オムニバス	
	小計（7科目）		—	0	20	0		—		36	23	0	8	0		
	農 業 経 済 学 コ ー ス 科 目	農業経済学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		3	1	0	1	0		
		農業経済学特別研究Ⅱ	2通		4			○		3	1	0	1	0		
		農業経済学特論	1・2①		2			○		4	1	0	1	0	オムニバス	
		農業経済学特別演習	1・2通		4			○		4	1	0	1	0	オムニバス	
畜産経営学特論		1・2③		2			○		1	1	0	0	0	オムニバス		
農業政策学特論		1・2④		2			○		1	0	0	0	0			
応用農業統計学特論		1・2②		2			○		2	0	0	0	0	オムニバス		
小計（7科目）		—	0	20	0		—		18	5	0	4	0			
農 業 環 境 工 学 コ ー ス 科 目	農業環境工学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		4	3	0	0	0			
	農業環境工学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	3	0	0	0			
	農業環境工学特論	1・2①		2			○		4	3	0	0	0	オムニバス		
	農業環境工学特別演習	1・2通		4			○		4	3	0	0	0	オムニバス		
	農業機械システム工学特論	1・2④		2			○		3	1	0	0	0	オムニバス		
	農業農村工学特論	1・2②		2			○		1	1	0	0	0	共同		
	農業環境物理学特論	1・2③		2			○		0	1	0	0	0			
小計（7科目）		—	0	20	0		—		20	15	0	0	0			
植 物 生 産 科 学 コ ー ス 科 目	植物生産科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		4	3	0	4	0			
	植物生産科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	3	0	4	0			
	植物生産科学特論	1・2①		2			○		4	3	0	4	0	オムニバス		
	植物生産科学特別演習	1・2通		4			○		4	3	0	4	0	オムニバス		
	植物遺伝育種学特論	1・2③		2			○		2	2	0	3	0	オムニバス		
	植物生産環境学特論	1・2④		2			○		3	1	0	3	0	オムニバス		
	植物生産管理学特論	1・2②		2			○		3	1	0	2	0	オムニバス		
小計（7科目）		—	0	20	0		—		24	16	0	24	0			
動 物 医 科 学 コ ー ス 科 目	動物医科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		0	0	0	0	0	兼44		
	動物医科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		0	0	0	0	0	兼44		
	動物医科学特論	1・2①		2			○		0	0	0	0	0	兼8	オムニバス	
	動物医科学特別演習	1・2通		4			○		0	0	0	0	0	兼24	オムニバス	
	動物機能医科学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼4	オムニバス	
	動物機能医科学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス	
	動物病態・病因制御学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼4	オムニバス	
	動物病態・病因制御学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼8	オムニバス	
	動物臨床科学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス	
	動物臨床科学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス	
	動物臨床科学特論Ⅲ	1・2④		2			○		0	0	0	0	0	兼3	オムニバス	
	小計（11科目）		—	0	28	0		—		0	0	0	0	0	兼154	
合計（80科目）			—	22	184	0		—		246	201	9	88	0	兼352	
学位又は称号		修士（農学） / 修士（畜産衛生学）			学位又は学科の分野			農学分野								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目22単位、専門科目（自コース科目）の選択科目から4単位以上、共通選択科目及び専門科目（他コース科目）から4単位以上修得し、30単位以上修得すること。 畜産衛生学位プログラム履修者は、プログラム必修科目から4単位、プログラム選択科目から4単位以上修得した上で、コースの履修要件を満たすこと。								1学年の学期区分				4期				
								1学期の授業期間				8週				
								1時限の授業時間				90分				

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校（収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(畜産学研究科 畜産科学専攻 博士前期課程 食品科学コース)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通必修科目	国際農畜産衛生科学特論	1・2①	2			○			5	4	0	0	0	兼3	オムニバス
	生物資源環境科学特論	1・2①	2			○			8	4	0	1	0		オムニバス
	特別研究特論	1・2	2			○			24	21	1	11	0	兼45	集中
	English Communication for Science	1・2前	2			○			0	0	0	0	0	兼3	
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			37	29	1	12	0	兼51	
共通選択科目	環境法制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	共同
	教育学特論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学特論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	歴史と生命	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	体育と健康	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼2	
	「北海道文学」論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	集中
	西洋環境文化論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	外交と食料	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	知的財産制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	教育統計と教育データ分析	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	海外フィールドワークⅠ	1・2		2			○		1	0	0	0	0	兼1	集中
	海外フィールドワークⅡ	1・2		4			○		1	0	0	0	0	兼1	集中
	国内フィールドワーク	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中
	アカデミックプレゼンテーション演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中
	コーポレートワーク演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中
畜産衛生学位プログラム科目	畜産衛生学特論	1・2②		2※		○			2	5	0	0	0	兼4	オムニバス ※学位プログラム選択者は必修
	食品衛生・有害物質特論	1・2④		2※		○			1	1	0	0	0		オムニバス ※学位プログラム選択者は必修
	畜産衛生課題研究	2通		4			○		1	0	0	0	0		集中
	HACCPシステム構築演習	1・2		2			○		1	0	0	0	0	兼8	集中
	食品関連法規と食品製造・加工設備保全特論	1・2		2		○			1	0	0	0	0		集中
	食品検査学演習	1・2		2			○		1	1	0	0	0		集中、オムニバス
	食品流通・地域産業活性化特論	1・2②		2		○			1	0	0	0	0	兼8	集中
	企業戦略特論	1・2③		2		○			1	0	0	0	0		集中
	小計（23科目）	—	0	50	0	—			83	64	3	3	0	兼142	
家畜生産科学コース科目	家畜生産科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		3	7	1	2	0	兼1	オムニバス
	家畜生産科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		3	7	1	4	0	兼1	
	家畜生産科学特論	1・2①		2		○			3	7	1	4	0	兼1	オムニバス
	家畜生産科学特別演習	1・2通		4			○		3	7	1	4	0	兼1	オムニバス
	家畜育種繁殖学特論	1・2②		2		○			2	3	0	1	0	兼1	オムニバス
	家畜管理栄養学特論	1・2③		2		○			0	3	1	1	0		オムニバス
	家畜生体機能学特論	1・2④		2		○			1	1	0	2	0		オムニバス
	小計（7科目）	—	0	20	0	—			15	35	5	18	0	兼5	
	環境生態学コース科目	環境生態学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		2	2	0	2	0	オムニバス
環境生態学特別研究Ⅱ		2通		4			○		2	2	0	2	0		
環境生態学特論		1・2①		2		○			2	2	0	3	0	オムニバス	オムニバス
環境生態学特別演習		1・2通		4			○		2	2	0	3	0		
環境生命科学特論		1・2④		2		○			2	2	0	3	0	オムニバス	オムニバス
生態システム生命科学特論		1・2③		2		○			1	2	0	3	0		
保全生態リスク管理学特論		1・2②		2		○			2	2	0	3	0	オムニバス	オムニバス
小計（7科目）		—	0	20	0	—			13	14	0	19	0		

専門科目	食品科学コース科目	食品科学特別研究Ⅰ	1・2通	4			○		8	5	0	2	0	オムニバス オムニバス オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上 オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上 オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上	
		食品科学特別研究Ⅱ	2通	4			○		8	5	0	2	0		
		食品科学特論	1・2①	2			○		5	3	0	0	0		
		食品科学特別演習	1・2通	4			○		8	5	0	2	0		
		食品加工・利用学特論	1・2②		2		○		3	2	0	0	0		
		食品栄養化学特論	1・2③		2		○		2	1	0	1	0		
		食品機能科学特論	1・2④		2		○		2	2	0	1	0		
	小計（7科目）		—	14	6	0	—			36	23	0	8	0	
	農業経済学コース科目	農業経済学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		3	1	0	1	0	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
		農業経済学特別研究Ⅱ	2通		4			○		3	1	0	1	0	
		農業経済学特論	1・2①		2			○		4	1	0	1	0	
		農業経済学特別演習	1・2通		4			○		4	1	0	1	0	
		畜産経営学特論	1・2③		2			○		1	1	0	0	0	
		農業政策学特論	1・2④		2			○		1	0	0	0	0	
		応用農業統計学特論	1・2②		2			○		2	0	0	0	0	
	小計（7科目）		—	0	20	0	—			18	5	0	4	0	
	農業環境学コース科目	農業環境工学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		4	3	0	0	0	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス 共同
		農業環境工学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	3	0	0	0	
		農業環境工学特論	1・2①		2			○		4	3	0	0	0	
		農業環境工学特別演習	1・2通		4			○		4	3	0	0	0	
		農業機械システム工学特論	1・2④		2			○		3	1	0	0	0	
		農業農村工学特論	1・2②		2			○		1	1	0	0	0	
農業環境物理学特論		1・2③		2			○		0	1	0	0	0		
小計（7科目）		—	0	20	0	—			20	15	0	0	0		
植物生産科学コース科目	植物生産科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		4	3	0	4	0	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス	
	植物生産科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	3	0	4	0		
	植物生産科学特論	1・2①		2			○		4	3	0	4	0		
	植物生産科学特別演習	1・2通		4			○		4	3	0	4	0		
	植物遺伝育種学特論	1・2③		2			○		2	2	0	3	0		
	植物生産環境学特論	1・2④		2			○		3	1	0	3	0		
	植物生産管理学特論	1・2②		2			○		3	1	0	2	0		
小計（7科目）		—	0	20	0	—			24	16	0	24	0		
動物医科学コース科目	動物医科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		0	0	0	0	0	兼44	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	動物医科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		0	0	0	0	0	兼44	
	動物医科学特論	1・2①		2			○		0	0	0	0	0	兼8	
	動物医科学特別演習	1・2通		4			○		0	0	0	0	0	兼24	
	動物機能医科学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼4	
	動物機能医科学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼5	
	動物病態・病因制御学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼4	
	動物病態・病因制御学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼8	
	動物臨床科学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼5	
	動物臨床科学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼5	
	動物臨床科学特論Ⅲ	1・2④		2			○		0	0	0	0	0	兼3	
	小計（11科目）		—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	
合計（80科目）			—	22	184	0	—			246	201	9	88	0	兼352
学位又は称号		修士（農学） / 修士（畜産衛生学）			学位又は学科の分野				農学分野						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必修科目22単位、専門科目（自コース科目）の選択科目から4単位以上、共通選択科目及び専門科目（他コース科目）から4単位以上修得し、30単位以上修得すること。 畜産衛生学位プログラム履修者は、プログラム必修科目から4単位、プログラム選択科目から4単位以上修得した上で、コースの履修要件を満たすこと。								1 学年の学期区分				4 期			
								1 学期の授業期間				8 週			
								1 時限の授業時間				90分			

（注）

- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(畜産学研究科 畜産科学専攻 博士前期課程 農業経済学コース)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 必修 科目	国際農畜衛生科学特論	1・2①	2			○			5	4	0	0	0	兼3	オムニバス
	生物資源環境科学特論	1・2①	2			○			8	4	0	1	0		オムニバス
	特別研究特論	1・2	2			○			24	21	1	11	0	兼45	集中
	English Communication for Science	1・2前	2			○			0	0	0	0	0	兼3	
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			37	29	1	12	0	兼51	
共通 選択 科目	環境法制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	共同
	教育学特論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	教育心理学特論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	歴史と生命	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	体育と健康	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼2	
	「北海道文学」論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	西洋環境文化論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	外交と食料	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	知的財産制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	教育統計と教育データ分析	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	海外フィールドワークⅠ	1・2		2			○		1	0	0	0	0	兼1	集中
	海外フィールドワークⅡ	1・2		4			○		1	0	0	0	0	兼1	集中
	国内フィールドワーク	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中
	アカデミックプレゼンテーション演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中
	コーポレートワーク演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中
畜産衛生学 学位プログラム 科目	畜産衛生学特論	1・2②		2※		○			2	5	0	0	0	兼4	オムニバス ※学位プログラム選択者は必修
	食品衛生・有害物質特論	1・2④		2※		○			1	1	0	0	0		オムニバス ※学位プログラム選択者は必修
	畜産衛生課題研究	2通		4			○		1	0	0	0	0		
	HACCPシステム構築演習	1・2		2			○		1	0	0	0	0		集中
	食品関連法規と食品製造・加工設備保全特論	1・2		2		○			1	0	0	0	0		集中
	食品検査学演習	1・2		2			○		1	1	0	0	0	兼8	集中、オムニバス
	食品流通・地域産業活性化特論	1・2②		2		○			1	0	0	0	0		
	企業戦略特論	1・2③		2		○			1	0	0	0	0		
	小計（23科目）	—	0	50	0	—			83	64	3	3	0	兼142	
家畜生産科学 コース科目	家畜生産科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		3	7	1	2	0	兼1	オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上 オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上 オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上 オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上
	家畜生産科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		3	7	1	4	0	兼1	
	家畜生産科学特論	1・2①		2		○			3	7	1	4	0	兼1	
	家畜生産科学特別演習	1・2通		4			○		3	7	1	4	0	兼1	
	家畜育種繁殖学特論	1・2②		2		○			2	3	0	1	0		
	家畜管理栄養学特論	1・2③		2		○			0	3	1	1	0	兼1	
	家畜生体機能学特論	1・2④		2		○			1	1	0	2	0		
	小計（7科目）	—	0	20	0	—			15	35	5	18	0	兼5	
環境生態学 コース科目	環境生態学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		2	2	0	2	0	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス	
	環境生態学特別研究Ⅱ	2通		4			○		2	2	0	2	0		
	環境生態学特論	1・2①		2		○			2	2	0	3	0		
	環境生態学特別演習	1・2通		4			○		2	2	0	3	0		
	環境生命科学特論	1・2④		2		○			2	2	0	3	0		
	生態システム生命科学特論	1・2③		2		○			1	2	0	3	0		
	保全生態リスク管理学特論	1・2②		2		○			2	2	0	3	0		
	小計（7科目）	—	0	20	0	—			13	14	0	19	0		

専 門 科 目	食 品 科 学 コ ー ス 科 目	食品科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		8	5	0	2	0		
		食品科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		8	5	0	2	0		
		食品科学特論	1・2①		2			○		5	3	0	0	0	オムニバス	
		食品科学特別演習	1・2通		4			○		8	5	0	2	0	オムニバス	
		食品加工・利用学特論	1・2②		2			○		3	2	0	0	0	オムニバス	
		食品栄養化学特論	1・2③		2			○		2	1	0	1	0	オムニバス	
		食品機能科学特論	1・2④		2			○		2	2	0	1	0	オムニバス	
		小計（7科目）	—	0	20	0		—		36	23	0	8	0		
	農 業 経 済 学 コ ー ス 科 目	農業経済学特別研究Ⅰ	1・2通	4				○		3	1	0	1	0		
		農業経済学特別研究Ⅱ	2通	4				○		3	1	0	1	0		
		農業経済学特論	1・2①	2				○		4	1	0	1	0	オムニバス	
		農業経済学特別演習	1・2通	4				○		4	1	0	1	0	オムニバス	
		畜産経営学特論	1・2③		2※			○		1	1	0	0	0	※選択必修：特論3科目から4単位以上	
		農業政策学特論	1・2④		2※			○		1	0	0	0	0	※選択必修：特論3科目から4単位以上	
		応用農業統計学特論	1・2②		2※			○		2	0	0	0	0	オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上	
		小計（7科目）	—	14	6	0		—		18	5	0	4	0		
	農 業 環 境 工 学 コ ー ス 科 目	農業環境工学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		4	3	0	0	0		
		農業環境工学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	3	0	0	0		
		農業環境工学特論	1・2①		2			○		4	3	0	0	0	オムニバス	
		農業環境工学特別演習	1・2通		4			○		4	3	0	0	0	オムニバス	
		農業機械システム工学特論	1・2④		2			○		3	1	0	0	0	オムニバス	
		農業農村工学特論	1・2②		2			○		1	1	0	0	0	共同	
		農業環境物理学特論	1・2③		2			○		0	1	0	0	0		
		小計（7科目）	—	0	20	0		—		20	15	0	0	0		
	植 物 生 産 科 学 コ ー ス 科 目	植物生産科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		4	3	0	4	0		
		植物生産科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	3	0	4	0		
		植物生産科学特論	1・2①		2			○		4	3	0	4	0	オムニバス	
		植物生産科学特別演習	1・2通		4			○		4	3	0	4	0	オムニバス	
		植物遺伝育種学特論	1・2③		2			○		2	2	0	3	0	オムニバス	
		植物生産環境学特論	1・2④		2			○		3	1	0	3	0	オムニバス	
		植物生産管理学特論	1・2②		2			○		3	1	0	2	0	オムニバス	
		小計（7科目）	—	0	20	0		—		24	16	0	24	0		
	動 物 医 学 コ ー ス 科 目	動物医科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		0	0	0	0	0	兼44	
		動物医科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		0	0	0	0	0	兼44	
		動物医科学特論	1・2①		2			○		0	0	0	0	0	兼8	オムニバス
		動物医科学特別演習	1・2通		4			○		0	0	0	0	0	兼24	オムニバス
		動物機能医科学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼4	オムニバス
		動物機能医科学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス
		動物病態・病因制御学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼4	オムニバス
		動物病態・病因制御学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼8	オムニバス
		動物臨床科学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス
		動物臨床科学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス
		動物臨床科学特論Ⅲ	1・2④		2			○		0	0	0	0	0	兼3	オムニバス
		小計（11科目）	—	0	28	0		—		0	0	0	0	0	兼154	
合計（80科目）			—	22	184	0		—		246	201	9	88	0	兼352	
学位又は称号		修士（農学） / 修士（畜産衛生学）			学位又は学科の分野				農学分野							
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目22単位、専門科目（自コース科目）の選択科目から4単位以上、共通選択科目及び専門科目（他コース科目）から4単位以上修得し、30単位以上修得すること。 畜産衛生学位プログラム履修者は、プログラム必修科目から4単位、プログラム選択科目から4単位以上修得した上で、コースの履修要件を満たすこと。								1 学年の学期区分				4 期				
								1 学期の授業期間				8 週				
								1 時限の授業時間				90分				

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
（畜産学研究科 畜産科学専攻 博士前期課程 農業環境学コース）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共通 必修 科目	国際農畜衛生科学特論	1・2①	2			○			5	4	0	0	0	兼3 オムニバス
	生物資源環境科学特論	1・2①	2			○			8	4	0	1	0	オムニバス
	特別研究特論	1・2	2			○			24	21	1	11	0	兼45 集中
	English Communication for Science	1・2前	2			○			0	0	0	0	0	兼3
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			37	29	1	12	0	兼51
共通 選択 科目	環境法制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	教育学特論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	教育心理学特論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	歴史と生命	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	体育と健康	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼2
	「北海道文学」論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	西洋環境文化論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	外交と食料	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	知的財産制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	教育統計と教育データ分析	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	海外フィールドワークⅠ	1・2		2			○		1	0	0	0	0	兼1 集中
	海外フィールドワークⅡ	1・2		4			○		1	0	0	0	0	兼1 集中
	国内フィールドワーク	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39 集中
	アカデミックプレゼンテーション演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39 集中
	コーポレートワーク演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39 集中
畜産 衛生 学 位 プ ロ グ ラ ム 科 目	畜産衛生学特論	1・2②		2※		○			2	5	0	0	0	オムニバス
	食品衛生・有害物質特論	1・2④		2※		○			1	1	0	0	0	兼4 ※学位プログラム選択者は必修
	畜産衛生課題研究	2通		4			○		1	0	0	0	0	※学位プログラム選択者は必修
	HACCPシステム構築演習	1・2		2			○		1	0	0	0	0	集中
	食品関連法規と食品製造・加工設備保全特論	1・2		2		○			1	0	0	0	0	集中
	食品検査学演習	1・2		2			○		1	1	0	0	0	兼8 集中、オムニバス
	食品流通・地域産業活性化特論	1・2②		2		○			1	0	0	0	0	
	企業戦略特論	1・2③		2		○			1	0	0	0	0	
	小計（23科目）	—	0	50	0	—			83	64	3	3	0	兼142
家畜 生 産 科 学 コ ー ス 科 目	家畜生産科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		3	7	1	2	0	兼1
	家畜生産科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		3	7	1	4	0	兼1
	家畜生産科学特論	1・2①		2		○			3	7	1	4	0	兼1 オムニバス
	家畜生産科学特別演習	1・2通		4			○		3	7	1	4	0	兼1 オムニバス
	家畜育種繁殖学特論	1・2②		2		○			2	3	0	1	0	オムニバス
	家畜管理栄養学特論	1・2③		2		○			0	3	1	1	0	兼1 オムニバス
	家畜生体機能学特論	1・2④		2		○			1	1	0	2	0	オムニバス
	小計（7科目）	—	0	20	0	—			15	35	5	18	0	兼5
環 境 生 態 学 コ ー ス 科 目	環境生態学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		2	2	0	2	0	
	環境生態学特別研究Ⅱ	2通		4			○		2	2	0	2	0	
	環境生態学特論	1・2①		2		○			2	2	0	3	0	オムニバス
	環境生態学特別演習	1・2通		4			○		2	2	0	3	0	オムニバス
	環境生命科学特論	1・2④		2		○			2	2	0	3	0	オムニバス
	生態システム生命科学特論	1・2③		2		○			1	2	0	3	0	オムニバス
	保全生態リスク管理学特論	1・2②		2		○			2	2	0	3	0	オムニバス
	小計（7科目）	—	0	20	0	—			13	14	0	19	0	

専 門 科 目	食 品 科 学 コ ー ス 科 目	食品科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		8	5	0	2	0		
		食品科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		8	5	0	2	0		
		食品科学特論	1・2①		2			○		5	3	0	0	0	オムニバス	
		食品科学特別演習	1・2通		4			○		8	5	0	2	0	オムニバス	
		食品加工・利用学特論	1・2②		2			○		3	2	0	0	0	オムニバス	
		食品栄養化学特論	1・2③		2			○		2	1	0	1	0	オムニバス	
		食品機能科学特論	1・2④		2			○		2	2	0	1	0	オムニバス	
		小計（7科目）	—	0	20	0		—		36	23	0	8	0		
	農 業 経 済 学 コ ー ス 科 目	農業経済学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		3	1	0	1	0		
		農業経済学特別研究Ⅱ	2通		4			○		3	1	0	1	0		
		農業経済学特論	1・2①		2			○		4	1	0	1	0	オムニバス	
		農業経済学特別演習	1・2通		4			○		4	1	0	1	0	オムニバス	
		畜産経営学特論	1・2③		2			○		1	1	0	0	0	オムニバス	
		農業政策学特論	1・2④		2			○		1	0	0	0	0		
		応用農業統計学特論	1・2②		2			○		2	0	0	0	0	オムニバス	
		小計（7科目）	—	0	20	0		—		18	5	0	4	0		
	農 業 環 境 工 学 コ ー ス 科 目	農業環境工学特別研究Ⅰ	1・2通	4				○		4	3	0	0	0		
		農業環境工学特別研究Ⅱ	2通	4				○		4	3	0	0	0		
		農業環境工学特論	1・2①	2				○		4	3	0	0	0	オムニバス	
		農業環境工学特別演習	1・2通	4				○		4	3	0	0	0	オムニバス	
		農業機械システム工学特論	1・2④		2※			○		3	1	0	0	0	オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上	
		農業農村工学特論	1・2②		2※			○		1	1	0	0	0	共同 ※選択必修：特論3科目から4単位以上	
		農業環境物理学特論	1・2③		2※			○		0	1	0	0	0	オムニバス ※選択必修：特論3科目から4単位以上	
		小計（7科目）	—	14	6	0		—		20	15	0	0	0		
	植 物 生 産 科 学 コ ー ス 科 目	植物生産科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		4	3	0	4	0		
		植物生産科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	3	0	4	0		
		植物生産科学特論	1・2①		2			○		4	3	0	4	0	オムニバス	
		植物生産科学特別演習	1・2通		4			○		4	3	0	4	0	オムニバス	
		植物遺伝育種学特論	1・2③		2			○		2	2	0	3	0	オムニバス	
		植物生産環境学特論	1・2④		2			○		3	1	0	3	0	オムニバス	
		植物生産管理学特論	1・2②		2			○		3	1	0	2	0	オムニバス	
		小計（7科目）	—	0	20	0		—		24	16	0	24	0		
	動 物 医 学 コ ー ス 科 目	動物医科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		0	0	0	0	0	兼44	
		動物医科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		0	0	0	0	0	兼44	
		動物医科学特論	1・2①		2			○		0	0	0	0	0	兼8	オムニバス
		動物医科学特別演習	1・2通		4			○		0	0	0	0	0	兼24	オムニバス
		動物機能医科学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼4	オムニバス
		動物機能医科学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス
		動物病態・病因制御学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼4	オムニバス
		動物病態・病因制御学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼8	オムニバス
		動物臨床科学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス
		動物臨床科学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス
		動物臨床科学特論Ⅲ	1・2④		2			○		0	0	0	0	0	兼3	オムニバス
		小計（11科目）	—	0	28	0		—		0	0	0	0	0	兼154	
合計（80科目）			—	22	184	0		—		246	201	9	88	0	兼352	
学位又は称号		修士（農学） / 修士（畜産衛生学）			学位又は学科の分野				農学分野							
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等								
必修科目22単位、専門科目（自コース科目）の選択科目から4単位以上、共通選択科目及び専門科目（他コース科目）から4単位以上修得し、30単位以上修得すること。 畜産衛生学位プログラム履修者は、プログラム必修科目から4単位、プログラム選択科目から4単位以上修得した上で、コースの履修要件を満たすこと。								1 学年の学期区分				4 期				
								1 学期の授業期間				8 週				
								1 時限の授業時間				90分				

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
（畜産学研究科 畜産科学専攻 博士前期課程 植物生産科学コース）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共通 必修 科目	国際農畜衛生科学特論	1・2①	2			○			5	4	0	0	0	兼3 オムニバス
	生物資源環境科学特論	1・2①	2			○			8	4	0	1	0	オムニバス
	特別研究特論	1・2	2			○			24	21	1	11	0	兼45 集中
	English Communication for Science	1・2前	2			○			0	0	0	0	0	兼3
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			37	29	1	12	0	兼51
共通 選択 科目	環境法制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	教育学特論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	教育心理学特論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	歴史と生命	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	体育と健康	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼2
	「北海道文学」論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	西洋環境文化論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	外交と食料	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	知的財産制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	教育統計と教育データ分析	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1
	海外フィールドワークⅠ	1・2		2			○		1	0	0	0	0	兼1 集中
	海外フィールドワークⅡ	1・2		4			○		1	0	0	0	0	兼1 集中
	国内フィールドワーク	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39 集中
	アカデミックプレゼンテーション演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39 集中
	コーポレートワーク演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39 集中
畜産 衛生 学 位 プ ロ グ ラ ム 科 目	畜産衛生学特論	1・2②		2※		○			2	5	0	0	0	オムニバス
	食品衛生・有害物質特論	1・2④		2※		○			1	1	0	0	0	兼4 ※学位プログラム選択者は必修
	畜産衛生課題研究	2通		4			○		1	0	0	0	0	※学位プログラム選択者は必修
	HACCPシステム構築演習	1・2		2			○		1	0	0	0	0	集中
	食品関連法規と食品製造・加工設備保全特論	1・2		2		○			1	0	0	0	0	集中
	食品検査学演習	1・2		2			○		1	1	0	0	0	兼8 集中、オムニバス
	食品流通・地域産業活性化特論	1・2②		2		○			1	0	0	0	0	
	企業戦略特論	1・2③		2		○			1	0	0	0	0	
	小計（23科目）	—	0	50	0	—			83	64	3	3	0	兼142
家畜 生 産 科 学 コ ー ス 科 目	家畜生産科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		3	7	1	2	0	兼1
	家畜生産科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		3	7	1	4	0	兼1
	家畜生産科学特論	1・2①		2		○			3	7	1	4	0	兼1 オムニバス
	家畜生産科学特別演習	1・2通		4			○		3	7	1	4	0	兼1 オムニバス
	家畜育種繁殖学特論	1・2②		2		○			2	3	0	1	0	オムニバス
	家畜管理栄養学特論	1・2③		2		○			0	3	1	1	0	兼1 オムニバス
	家畜生体機能学特論	1・2④		2		○			1	1	0	2	0	オムニバス
	小計（7科目）	—	0	20	0	—			15	35	5	18	0	兼5
環 境 生 態 学 コ ー ス 科 目	環境生態学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		2	2	0	2	0	
	環境生態学特別研究Ⅱ	2通		4			○		2	2	0	2	0	
	環境生態学特論	1・2①		2		○			2	2	0	3	0	オムニバス
	環境生態学特別演習	1・2通		4			○		2	2	0	3	0	オムニバス
	環境生命科学特論	1・2④		2		○			2	2	0	3	0	オムニバス
	生態システム生命科学特論	1・2③		2		○			1	2	0	3	0	オムニバス
	保全生態リスク管理学特論	1・2②		2		○			2	2	0	3	0	オムニバス
	小計（7科目）	—	0	20	0	—			13	14	0	19	0	

専 門 科 目	食品科学コース科目	食品科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		8	5	0	2	0		
		食品科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		8	5	0	2	0		
		食品科学特論	1・2①		2			○		5	3	0	0	0	オムニバス	
		食品科学特別演習	1・2通		4			○		8	5	0	2	0	オムニバス	
		食品加工・利用学特論	1・2②		2			○		3	2	0	0	0	オムニバス	
		食品栄養化学特論	1・2③		2			○		2	1	0	1	0	オムニバス	
		食品機能科学特論	1・2④		2			○		2	2	0	1	0	オムニバス	
	小計（7科目）		—	0	20	0		—		36	23	0	8	0		
	農業経済学コース科目	農業経済学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		3	1	0	1	0		
		農業経済学特別研究Ⅱ	2通		4			○		3	1	0	1	0		
		農業経済学特論	1・2①		2			○		4	1	0	1	0	オムニバス	
		農業経済学特別演習	1・2通		4			○		4	1	0	1	0	オムニバス	
		畜産経営学特論	1・2③		2			○		1	1	0	0	0	オムニバス	
農業政策学特論		1・2④		2			○		1	0	0	0	0			
応用農業統計学特論		1・2②		2			○		2	0	0	0	0	オムニバス		
小計（7科目）		—	0	20	0		—		18	5	0	4	0			
農業環境工学コース科目	農業環境工学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		4	3	0	0	0			
	農業環境工学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	3	0	0	0			
	農業環境工学特論	1・2①		2			○		4	3	0	0	0	オムニバス		
	農業環境工学特別演習	1・2通		4			○		4	3	0	0	0	オムニバス		
	農業機械システム工学特論	1・2④		2			○		3	1	0	0	0	オムニバス		
	農業農村工学特論	1・2②		2			○		1	1	0	0	0	共同		
	農業環境物理学特論	1・2③		2			○		0	1	0	0	0			
小計（7科目）		—	0	20	0		—		20	15	0	0	0			
植物生産科学コース科目	植物生産科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		4	3	0	4	0			
	植物生産科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	3	0	4	0			
	植物生産科学特論	1・2①		2			○		4	3	0	4	0	オムニバス		
	植物生産科学特別演習	1・2通		4			○		4	3	0	4	0	オムニバス		
	植物遺伝育種学特論	1・2③		2※			○		2	2	0	3	0	オムニバス		
	植物生産環境学特論	1・2④		2※			○		3	1	0	3	0	オムニバス		
	植物生産管理学特論	1・2②		2※			○		3	1	0	2	0	オムニバス		
小計（7科目）		—	14	6	0		—		24	16	0	24	0			
動物医科学コース科目	動物医科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		0	0	0	0	0	兼44		
	動物医科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		0	0	0	0	0	兼44		
	動物医科学特論	1・2①		2			○		0	0	0	0	0	兼8	オムニバス	
	動物医科学特別演習	1・2通		4			○		0	0	0	0	0	兼24	オムニバス	
	動物機能医科学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼4	オムニバス	
	動物機能医科学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス	
	動物病態・病因制御学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼4	オムニバス	
	動物病態・病因制御学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼8	オムニバス	
	動物臨床科学特論Ⅰ	1・2②		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス	
	動物臨床科学特論Ⅱ	1・2③		2			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス	
	動物臨床科学特論Ⅲ	1・2④		2			○		0	0	0	0	0	兼3	オムニバス	
	小計（11科目）		—	0	28	0		—		0	0	0	0	0	兼154	
合計（80科目）			—	22	184	0		—		246	201	9	88	0	兼352	
学位又は称号		修士（農学） / 修士（畜産衛生学）			学位又は学科の分野				農学分野							
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目22単位、専門科目（自コース科目）の選択科目から4単位以上、共通選択科目及び専門科目（他コース科目）から4単位以上修得し、30単位以上修得すること。 畜産衛生学位プログラム履修者は、プログラム必修科目から4単位、プログラム選択科目から4単位以上修得した上で、コースの履修要件を満たすこと。								1学年の学期区分				4期				
								1学期の授業期間				8週				
								1時限の授業時間				90分				

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要																
(畜産学研究科 畜産科学専攻 博士前期課程 動物医科学コース)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
共通 必修 科目	国際農畜衛生科学特論	1・2①	2			○			5	4	0	0	0	兼3	オムニバス	
	生物資源環境科学特論	1・2①	2			○			8	4	0	1	0		オムニバス	
	特別研究特論	1・2	2			○			24	21	1	11	0	兼45	集中	
	English Communication for Science	1・2前	2			○			0	0	0	0	0	兼3		
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			37	29	1	12	0	兼51		
共通 選択 科目	環境法制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1	共同	
	教育学特論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1		
	教育心理学特論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1		
	歴史と生命	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1		
	体育と健康	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼2		
	「北海道文学」論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1		
	西洋環境文化論	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1		
	外交と食料	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1		
	知的財産制度論	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	兼1		
	教育統計と教育データ分析	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	兼1		
	海外フィールドワークⅠ	1・2		2			○		1	0	0	0	0	兼1	集中	
	海外フィールドワークⅡ	1・2		4			○		1	0	0	0	0	兼1	集中	
	国内フィールドワーク	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中	
	アカデミックプレゼンテーション演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中	
	コーポレートワーク演習	1・2		2			○		24	19	1	1	0	兼39	集中	
畜産 衛生 学位 プログラム 科目	畜産衛生学特論	1・2②		2※		○			2	5	0	0	0		オムニバス	
	食品衛生・有害物質特論	1・2④		2※		○			1	1	0	0	0	兼4	※学位プログラム選択者は必修 オムニバス ※学位プログラム選択者は必修	
	畜産衛生課題研究	2通		4			○		1	0	0	0	0			
	HACCPシステム構築演習	1・2		2			○		1	0	0	0	0		集中	
	食品関連法規と食品製造・加工設備保全特論	1・2		2		○			1	0	0	0	0		集中	
	食品検査学演習	1・2		2			○		1	1	0	0	0	兼8	集中、オムニバス	
	食品流通・地域産業活性化特論	1・2②		2			○		1	0	0	0	0			
	企業戦略特論	1・2③		2			○		1	0	0	0	0			
	小計（23科目）	—	0	50	0	—			83	64	3	3	0	兼142		
家畜 生産 科学 コース 科目	家畜生産科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		3	7	1	2	0	兼1	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス	
	家畜生産科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		3	7	1	4	0	兼1		
	家畜生産科学特論	1・2①		2		○			3	7	1	4	0	兼1		
	家畜生産科学特別演習	1・2通		4			○		3	7	1	4	0	兼1		
	家畜育種繁殖学特論	1・2②		2		○			2	3	0	1	0			
	家畜管理栄養学特論	1・2③		2		○			0	3	1	1	0	兼1		
	家畜生体機能学特論	1・2④		2		○			1	1	0	2	0			
	小計（7科目）	—	0	20	0	—			15	35	5	18	0	兼5		
	環境 生態 学 コース 科目	環境生態学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		2	2	0	2	0		
環境生態学特別研究Ⅱ		2通		4			○		2	2	0	2	0			
環境生態学特論		1・2①		2		○			2	2	0	3	0			
環境生態学特別演習		1・2通		4			○		2	2	0	3	0			
環境生命科学特論		1・2④		2		○			2	2	0	3	0			
生態システム生命科学特論		1・2③		2		○			1	2	0	3	0			
保全生態リスク管理学特論		1・2②		2		○			2	2	0	3	0			
小計（7科目）		—	0	20	0	—			13	14	0	19	0			

専門科目	食品科学コース科目	食品科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		8	5	0	2	0		
		食品科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		8	5	0	2	0		
		食品科学特論	1・2①		2			○		5	3	0	0	0	オムニバス	
		食品科学特別演習	1・2通		4			○		8	5	0	2	0	オムニバス	
		食品加工・利用学特論	1・2②		2			○		3	2	0	0	0	オムニバス	
		食品栄養化学特論	1・2③		2			○		2	1	0	1	0	オムニバス	
		食品機能科学特論	1・2④		2			○		2	2	0	1	0	オムニバス	
		小計（7科目）	—	0	20	0		—		36	23	0	8	0		
	農業経済学コース科目	農業経済学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		3	1	0	1	0		
		農業経済学特別研究Ⅱ	2通		4			○		3	1	0	1	0		
		農業経済学特論	1・2①		2			○		4	1	0	1	0	オムニバス	
		農業経済学特別演習	1・2通		4			○		4	1	0	1	0	オムニバス	
		畜産経営学特論	1・2③		2			○		1	1	0	0	0	オムニバス	
		農業政策学特論	1・2④		2			○		1	0	0	0	0		
		応用農業統計学特論	1・2②		2			○		2	0	0	0	0	オムニバス	
		小計（7科目）	—	0	20	0		—		18	5	0	4	0		
	農業環境学コース科目	農業環境工学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		4	3	0	0	0		
		農業環境工学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	3	0	0	0		
		農業環境工学特論	1・2①		2			○		4	3	0	0	0	オムニバス	
		農業環境工学特別演習	1・2通		4			○		4	3	0	0	0	オムニバス	
		農業機械システム工学特論	1・2④		2			○		3	1	0	0	0	オムニバス	
		農業農村工学特論	1・2②		2			○		1	1	0	0	0	共同	
		農業環境物理学特論	1・2③		2			○		0	1	0	0	0		
		小計（7科目）	—	0	20	0		—		20	15	0	0	0		
	植物生産科学コース科目	植物生産科学特別研究Ⅰ	1・2通		4			○		4	3	0	4	0		
		植物生産科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	3	0	4	0		
		植物生産科学特論	1・2①		2			○		4	3	0	4	0	オムニバス	
		植物生産科学特別演習	1・2通		4			○		4	3	0	4	0	オムニバス	
		植物遺伝育種学特論	1・2③		2			○		2	2	0	3	0	オムニバス	
		植物生産環境学特論	1・2④		2			○		3	1	0	3	0	オムニバス	
		植物生産管理学特論	1・2②		2			○		3	1	0	2	0	オムニバス	
		小計（7科目）	—	0	20	0		—		24	16	0	24	0		
	動物医科学コース科目	動物医科学特別研究Ⅰ	1・2通	4				○		0	0	0	0	0	兼44	
		動物医科学特別研究Ⅱ	2通	4				○		0	0	0	0	0	兼44	
		動物医科学特論	1・2①	2				○		0	0	0	0	0	兼8	オムニバス
		動物医科学特別演習	1・2通	4				○		0	0	0	0	0	兼24	オムニバス
		動物機能医科学特論Ⅰ	1・2②		2※			○		0	0	0	0	0	兼4	※選択必修：特論7科目から4単位以上
		動物機能医科学特論Ⅱ	1・2③		2※			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス ※選択必修：特論7科目から4単位以上
		動物病態・病因制御学特論Ⅰ	1・2②		2※			○		0	0	0	0	0	兼4	オムニバス ※選択必修：特論7科目から4単位以上
		動物病態・病因制御学特論Ⅱ	1・2③		2※			○		0	0	0	0	0	兼8	オムニバス ※選択必修：特論7科目から4単位以上
		動物臨床科学特論Ⅰ	1・2②		2※			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス ※選択必修：特論7科目から4単位以上
		動物臨床科学特論Ⅱ	1・2③		2※			○		0	0	0	0	0	兼5	オムニバス ※選択必修：特論7科目から4単位以上
		動物臨床科学特論Ⅲ	1・2④		2※			○		0	0	0	0	0	兼3	オムニバス ※選択必修：特論7科目から4単位以上
		小計（11科目）	—	14	14	0		—		0	0	0	0	0	兼154	
合計（80科目）			—	22	184	0		—		246	201	9	88	0	兼352	
学位又は称号		修士（農学） / 修士（畜産衛生学） / 修士（動物医科学）			学位又は学科の分野				農学分野							
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目22単位、専門科目（自コース科目）の選択科目から4単位以上、共通選択科目及び専門科目（他コース科目）から4単位以上修得し、30単位以上修得すること。 畜産衛生学位プログラム履修者は、プログラム必修科目から4単位、プログラム選択科目から4単位以上修得した上で、コースの履修要件を満たすこと。								1 学年の学期区分				4 期				
								1 学期の授業期間				8 週				
								1 時限の授業時間				90分				

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

補正後

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教育課程等の概要															
(畜産学研究科 畜産科学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通必修科目	リサーチコミュニケーション	1・2・3	1				○		23	21	1	14	0	兼42	集中
	獣医・農畜産学特論	1・2・3	1			○			23	19	1	14	0	兼42	集中
	獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1				○		22	21	1	11	0	兼39	集中
	特別研究	1・2・3通	6				○		22	21	1	11	0	兼39	
	小計（4科目）	—	9	0	0	—			90	82	4	50	0	兼162	
研究科共通選択科目	国内リサーチ演習	1・2・3		2			○		22	13	0	0	0	兼23	集中
	海外リサーチ演習	1・2・3		2			○		22	13	0	0	0	兼23	集中
	国内フィールドワーク演習	1・2・3		2			○		22	13	0	0	0	兼23	集中
	海外フィールドワーク演習	1・2・3		2			○		22	13	0	0	0	兼23	集中
	リサーチプロポーザル演習	1・2・3		2			○		23	21	1	14	0	兼45	集中
	リサーチデータ解析演習	1・2・3		2			○		23	21	1	14	0	兼42	集中
	リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3		2			○		23	21	1	14	0	兼45	集中
	リサーチペーパーライティング演習	1・2・3		2			○		23	21	1	14	0	兼45	集中
	リサーチマネジメント演習	1・2・3		2			○		23	21	1	14	0	兼42	集中
	アカデミックレクチャー演習	1・2・3		2			○		22	20	1	11	0	兼42	集中
	アカデミックティーチング演習	1・2・3		2			○		22	20	1	11	0	兼39	集中
	社会人特別演習	1・2・3		2			○		22	13	0	0	0	兼23	集中
畜産衛生学位プログラム科目	食品安全マネジメント・内部監査演習	1・2・3		2			○		1	0	0	0	0		集中
	家畜疫学特論	1・2・3①		2			○		1	0	0	0	0	兼1	共同
	家畜衛生学特論	1・2・3②		2			○		1	3	0	0	0		
	衛生経済学特論	1・2・3③		2			○		0	1	0	0	0		
	国際衛生制度特論	1・2・3④		2			○		0	0	1	0	0	兼2	
	小計（17科目）	—	0	34	0	—			272	214	8	92	0	兼418	
専攻選択科目	獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通		1※			○		20	8	0	0	0	兼23	集中 ※畜産衛生学プログラム履修者は必修
	English Communication for Science	1・2・3前		2			○		0	0	0	0	0	兼3	
	小計（2科目）	—	0	3	0	—			20	8	0	0	0	兼26	
合計（23科目）		—	9	25	0	—			382	304	12	142	0	兼606	
学位又は称号		博士（農学） / 博士（畜産衛生学）			学位又は学科の分野			農学分野							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
研究科共通必修科目から9単位、研究科共通選択科目及び専攻選択科目から3単位以上修得し、12単位以上修得すること。 畜産衛生学位プログラム履修者は、プログラム必修科目から1単位、プログラム選択科目から6単位以上修得すること。								1 学年の学期区分				4 期			
								1 学期の授業期間				8 週			
								1 時限の授業時間				90分			

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

別記様式第2号（その2の1）

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 育 課 程 等 の 概 要															
(畜産学研究科獣医学専攻 博士課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通必修科目	リサーチコミュニケーション	1・2・3・4	1				○		17	10	2	12	0	兼59	集中
	獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1			○			17	10	2	13	0	兼58	集中
	獣医・農畜産学特別演習	1・2・3・4	1				○		16	10	2	10	0	兼55	集中
	特別研究	1・2・3・4通	6				○		16	10	2	10	0	兼55	
	小計（4科目）	—	9	0	0	—			66	40	8	45	0	兼227	
研究科共通選択科目	国内リサーチ演習	1・2・3・4		2			○		15	8	0	0	0	兼35	集中
	海外リサーチ演習	1・2・3・4		2			○		15	8	0	0	0	兼35	集中
	国内フィールドワーク演習	1・2・3・4		2			○		15	8	0	0	0	兼35	集中
	海外フィールドワーク演習	1・2・3・4		2			○		15	8	0	0	0	兼35	集中
	リサーチプロポーザル演習	1・2・3・4		2			○		17	10	2	13	0	兼62	集中
	リサーチデータ解析演習	1・2・3・4		2			○		17	10	2	13	0	兼59	集中
	リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3・4		2			○		17	10	2	13	0	兼62	集中
	リサーチペーパーライティング演習	1・2・3・4		2			○		17	10	2	13	0	兼62	集中
	リサーチマネージメント演習	1・2・3・4		2			○		17	10	2	13	0	兼59	集中
	アカデミックレクチャー演習	1・2・3・4		2			○		16	10	2	10	0	兼57	集中
	アカデミックティーチング演習	1・2・3・4		2			○		16	10	2	10	0	兼54	集中
	社会人特別演習	1・2・3・4		2			○		15	8	0	0	0	兼35	集中
	食品安全マネージメント・内部監査演習	1・2・3・4		2			○		0	0	0	0	0	兼2	集中
	家畜疫学特論	1・2・3・4①		2		○			0	0	1	0	0	兼1	共同
	家畜衛生学特論	1・2・3・4②		2		○			0	0	0	0	0	兼4	
	衛生経済学特論	1・2・3・4③		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
	国際衛生制度特論	1・2・3・4④		2		○			0	0	0	0	0	兼3	
	小計（17科目）	—	0	34	0	—			192	110	15	85	0	兼601	
専攻必修科目 専攻選択科目	English Communication for Science	1・2・3・4前	2			○			0	0	0	0	0	兼3	
	獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4通	1			○			15	8	0	0	0	兼28	集中
	獣医学特論Ⅰ	1・2・3・4	2			○			17	9	0	0	0	兼1	集中
	獣医学特論Ⅱ	1・2・3・4	2			○			17	9	0	13	0	兼1	集中
	獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	1				○		15	8	0	0	0		集中
	獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	1				○		15	8	0	0	0		集中
	小計（6科目）	—	9	0	0	—			79	42	0	13	0	兼33	
	基礎獣医学特論	1・2・3・4①		2		○			6	5	0	0	0		オムニバス
	基礎獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4		2			○		6	5	0	0	0		集中
	基礎獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4		2			○		6	5	0	0	0		集中
	臨床獣医学特論	1・2・3・4②		2		○			4	3	0	0	0	兼1	
	臨床獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4		2			○		4	3	0	0	0		集中
	臨床獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4		2			○		4	3	0	0	0		集中
	応用獣医学特論	1・2・3・4③		2		○			7	1	0	0	0		オムニバス
	応用獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4		2			○		7	1	0	0	0		集中
	応用獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4		2			○		7	1	0	0	0		集中
	動物医療センター特別演習	1・2・3・4		1			○		6	3	0	0	0	兼1	集中
	動物・食品検査診断センター特別演習	1・2・3・4		1			○		2	1	1	1	0		集中 各演習3年に一度開講
	原虫病研究センター特別演習	1・2・3・4		1			○		4	3	0	0	0		
	小計（12科目）	—	0	21	0	—			63	34	1	1	0	兼2	
合計（39科目）		—	18	55	0	—			400	226	24	144	0	兼863	

補正後

学位又は称号	博士（獣医学）	学位又は学科の分野	獣医学分野
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
研究科共通必修科目から9単位、専攻必修科目から9単位、研究科共通選択科目及び専攻選択科目から12単位以上修得し、30単位以上修得すること。		1 学年の学期区分	4 期
		1 学期の授業期間	8 週
		1 時限の授業時間	90分

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
（畜産学研究科 畜産科学専攻 博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際農畜産衛生科学 特論	<p>本研究科のDP1「食料の生産から消費について高度な知識と倫理観を身につけている。」を達成するための科目であり、専門性と学際生の育成を目指す。獣医・農畜産融合の視点から「農場から食卓まで」の高度な実学・学際的知識並びに思考力の涵養を目指す。またグループディスカッション等を通して、問題解決に向けてのプレゼンテーション能力を育成する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回16コマ）</p> <p>第1回：ガイダンス／食と健康と安全の科学</p> <p>1) ガイダンス・情報リテラシー（木下）</p> <p>2) 食品の安全と健康機能性・健康と農畜産物（福島）</p> <p>第2回：家畜生産における品質および安全衛生管理</p> <p>1) 家畜の生産管理と繁殖技術の概要（アコスタ）</p> <p>2) 家畜生産現場での衛生管理の現状（伊藤）</p> <p>第3回：畜産物利用と衛生</p> <p>1) 畜産物利用の概要と今後の眺望（島田）</p> <p>2) 畜産物利用における衛生管理の現状と課題（廣井）</p> <p>第4回：作物生産における品質および安全衛生管理</p> <p>1) 農作物生産の概要と今後の課題（小池）</p> <p>2) 農作物生産現場での衛生管理の現状（得字）</p> <p>第5回：農作物加工と安全衛生管理</p> <p>1) 農産加工の概要と今後の見通し（山内）</p> <p>2) 農産加工現場における衛生管理の現状と課題（山内）</p> <p>第6回：食の安全安心に関する法・倫理・教育</p> <p>1) 食の安全・管理のための法規制概要（岡崎）</p> <p>2) 食の安全・管理のための倫理と教育（渡邊）</p> <p>第7回：食品の衛生と安全の新展開</p> <p>1) 食品衛生に関わる新たな問題への対応（微生物関連）（福田）</p> <p>2) 食品衛生に関わる新たな問題への対応（化学関連）（木下）</p> <p>第8回：リスクマネジメント</p> <p>1) 食に関する重大インシデントを例示（モデルパターン）（木下）</p> <p>2) グループディスカッション（木下）</p>	オムニバス

研究科共通必修科目	生物資源環境科学特論	<p>「生物資源の維持・確保」を基軸に据え、これらの資源を取り巻く自然環境及び人為環境の変動を考慮し、国際的および学際的な視野からリスク管理および問題解決に臨むことができる基盤となる思考力および知識を育むことを目的とする。最新の情報・知見から各々の項目に関する講義を展開し、提示された様々な問題に対する解答を履修者が主体的に導き出す事ができるような教育を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全8回16コマ)</p> <p>第1回：ガイダンス／環境変動と世界の土壌資源</p> <p>1)ガイダンス (押田)</p> <p>2)世界の土壌資源と土壌劣化 (谷)</p> <p>第2回：変動する世界の気候</p> <p>1)世界の気象及び異常気象 (木村)</p> <p>2)気候変動問題とその対策 (梅津)</p> <p>第3回：環境変動と生命圏生態系資源</p> <p>1)生命の多様性と進化～生命圏生態系資源概説 (押田)</p> <p>2)生命圏生態系の保全と管理～生態系サービスの効率利用 (赤坂)</p> <p>第4回：有用動物資源史科学</p> <p>1)自然選択から見た有用動物資源の発展～泌乳形質の進化史 (浦島)</p> <p>2)人為的選択から見た有用動物資源の発展～家畜の進化史 (手塚)</p> <p>第5回：有用動物資源の国際的な維持及び管理</p> <p>1)有用動物資源の飼養および繁殖 (清水)</p> <p>2)有用動物資源の越境性感染症～その現状と対策 (門平)</p> <p>第6回：有用植物資源の国際的な生産と管理</p> <p>1)有用植物資源の授受法と利用 (秋本)</p> <p>2)有用植物資源の生産と管理 (加藤)</p> <p>第7回：生活圏における国際衛生環境問題</p> <p>1)人獣共通感染症の現状と将来予測及びその対策 (五十嵐)</p> <p>2)人獣共通感染症の現状と将来予測及びその対策 (五十嵐)</p> <p>第8回：食と農に起因する国際的社会問題</p> <p>1)貧困と開発～食と農を基軸としたグローバル経済のダイナミズムとその問題点 (耕野)</p> <p>2)国際食糧需給と貿易 (仙北谷)</p>	オムニバス
	特別研究特論	<p>副指導教員が、学生の専門分野に関する講義や研究指導を行うことにより、履修者の研究内容に広がりや深さを与えることを目的としている。</p> <p>履修者の主指導教員が、2名の副指導教員のうちどちらか1名、もしくは両方を特別研究特論担当の副指導教員に指名し、担当となった副指導教員が、履修者の研究計画を踏まえた講義計画・指導計画を立てて実施する。</p> <p>副指導教員による講義および指導は、合計で30時間以上実施する。</p>	
	English Communication for English	<p>国際学会において積極的な役割を果たすため、英語でのコミュニケーションスキルを修得させます。講義においては、学会参加、プレゼンテーション、ポスター発表等の作成に必要な英語能力、要約の書き方とともに、日々の研究活動に関連した語彙力の向上を指導します。</p>	
	科学と人間	<p>授業では、以下の「授業計画」に記したテーマについて資料を読み、討論する。</p> <p>1 現代の科学と科学的な考え</p> <p>2 社会と科学・技術のあり方</p> <p>3 宇宙開発・自動車文明をめぐる諸問題</p> <p>4 脳死と臓器移植をめぐる諸問題</p> <p>5 非科学・疑似科学、UFOはあるか</p> <p>6 宗教・オウム真理教と現代社会</p> <p>7 マンハッタン計画と科学者の責務</p> <p>8 原子力発電と科学者の責務</p> <p>9 クローン技術に関わる諸問題</p> <p>10 環境ホルモンに関わる諸問題</p> <p>11 機械論的自然観と有機体的自然観</p> <p>12 動物園は必要か・工場的畜産の諸問題</p> <p>13 動物実験の是非</p> <p>14 自然科学と社会科学</p>	
	環境法制度論	<p>日本と海外（アメリカ・EU・アフリカ・アジア）における環境保護に関する法制度の歴史を踏まえながら、環境法の基本的な理念と構造、機能、そして環境問題についての裁判を取り上げ、現代における環境法制度の到達点と課題を考える。</p>	

教育学特論	教育学の基礎的理論を踏まえつつ、専門職としての教師のあり方について科学・技術教育の側面から探求するとともに、教職に関する深い知識を養うことを目的に、教育学の各テーマについて、受講者のレポート発表やディスカッション形式を用いた講義を行う。	
教育心理学特論	高等学校の教育現場において生徒指導上の大きな問題となっている「発達障害」「自殺予防と自殺未遂への対応」「進路指導」の3つのテーマを選んで、ゼミ形式で最新の文献を講読するとともに、具体的なケースの検討を通じて教育現場での実際の対応について考える。	
歴史と生命	近現代の世界において、「食」がどのように人を支え、文明概念を形成したのか、あるいはまた、人の健康はどのように考えられていたのか、など、歴史の中の「生命」について、研究所の批判的読み取り、報告を通じて考察する。	
体育と健康	現代人の健康について、健康を維持・増進させるための基礎理論や概念を理解し、体育学的側面から幅広いアプローチを試みる。さらに具体的な方法論や対処法等について検討し、健康を改善するための実践的な能力を養う。受講者数に応じて種目（最大3種目）を設定し、演習形式での授業を展開する。種目担当者は指導計画（最大5回）を立案し、発表・実践指導をする。	
「北海道文学」論	『北海道文学全集』の中から各自作品を選び発表を行い、それをもとに全員で議論をすることにより、北海道の地域性を理解するとともに、広く小説のあり方を考える。	
西洋環境文化論	『映像で学ぶ西洋の環境と文化』をテーマとし、ヨーロッパ・アメリカ各地における気候変動の実態・環境保護活動・資源リサイクルなどを紹介するドキュメンタリー作品の視聴、最新のDVDソフトを用いた芸術性の高い絵画・音楽・映画の鑑賞などを行い、環境と文化に関する議論を進める。	
外交と食料	本講義では、日本外交とは何かを考えた上で、「食料」の観点から現代の日本外交、日本と食料生産国との関係、食料安全において日本社会が直面している問題などについて考える。特に、講義前半では、戦後日本外交史について講義し、後半では、特定の「食料」に焦点を当て、現代の日本外交と食料について考える。	
知的財産制度論	科学技術立国を目指すことは我が国の最重要政策の一つであり、その成果である知的財産（特許、実用新案、意匠、商標、著作物等）をどのように保護し活用していくかは研究・開発に携わる者の使命と言える。本講では特許を中心に知的財産権を概説し、先行技術調査や特許明細書の作成など、実務に役立つ手技の修得を進めるとともに、研究過程で陥りやすい不正行為などの議論も行う。	
教育統計と教育データ分析	教育の改善を図るために必要となる教育評価や教育統計の基礎理論、教育に係る公共データ等の理解を深めつつ、そのデータを収集分析するための基本的スキルを身につけることを目的とする。具体的には、教育評価や教育統計に関する基本的事項に関する講義を一通り行った後、教育目的に応じた教育研究の調査を設計やデータ収集を行い、その成果についてプレゼン発表およびディスカッションを行う。	
海外フィールドワークⅠ	海外において、研究のための野外調査（フィールドワーク）を実施する上で、事前準備や予備調査などを含む調査計画の作成、現地における調査実施とデータ収集、調査結果の解析と調査報告書の作成など、フィールドワークに係る一連の手法を習得する。	集中
海外フィールドワークⅡ	パラグアイ共和国において、JICA青年海外協力隊長期隊員として家畜飼養管理技術、家畜の健康・衛生管理技術等の支援活動を行い、国際協力現場での専門分野の実践を通じて、現地の酪農上の課題を特定するとともに効果的な改善方法を提言する。	集中
国内フィールドワーク	国内において、研究のための野外調査（フィールドワーク）を実施する上で、事前準備や予備調査などを含む調査計画の作成、現地における調査実施とデータ収集、調査結果の解析と調査報告書の作成など、フィールドワークに係る一連の手法を習得する。	集中
アカデミックプレゼンテーション演習	学会やワークショップでのオーラル発表あるいはポスター発表に関して、発表のための事前準備（スライドあるいはポスターの作成、発表練習）、学会におけるプレゼンテーションと質疑への対応、発表後の研究課題抽出と成果報告書の作成などを通じて、情報の発信力や表現力、課題の抽出力や解決力などを高めるとともに、専門分野における研究の意義や位置付け、社会貢献などを理解する。	集中

	コーポレートワーク 演習	共同研究を行っている企業や公的機関等との連携を通じて、企業や公的機関等の人材を活用して学外における調査、分析、実験等研究に係る活動を行い、企業や学外機関での専門分野の実施により、企業や社会の取り組みや課題について学び、実践的な研究遂行能力を習得する。	
畜産衛生学位プログラム科目	畜産衛生学特論	<p>畜産衛生の概念を習得し、家畜の疾病の発症機序や飼養管理、食肉乳の生産加工における衛生管理および衛生環境の構築や農畜産物のトレーサビリティを学ぶことで家畜衛生や食肉乳の衛生を理解し、幅広い畜産衛生の知識をもち畜産環境の衛生管理ができる人材を育成する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回） 第1回：家畜の疾病とその予防（清水） 第2回：家畜の改良と遺伝病（口田） 第3回：飼料およびその原料の生産衛生管理（花田） 第4回：家畜の飼養衛生管理（川島） 第5回：食肉乳の生産衛生管理（福田） 第6回：食肉乳由来加工品の衛生管理（福田） 第7回：防疫および環境対策（アコスタ） 第8回：食品トレーサビリティと認証制度（森松）</p>	オムニバス
	食品衛生・有害物質 特論	<p>食品衛生の概念を習得し、食品に対する微生物あるいは添加物などの安全性に有害な影響を及ぼす物質の種類および毒性発現の機序を学ぶことで毒性物質の危険性を理解し、幅広い毒性学的知識を持ち安全性評価ができる人材を育成する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回） 第1回：化学物質の生体への影響 - 毒性学総論（久保田） 第2回：魚介毒（川合） 致死性の高い食中毒の原因として知られる魚介毒（marine toxin）について、発生状況やそのメカニズムを概説する。 第3回：食品のカビ汚染とマイコトキシン（豊留） 食品の汚染原因となるカビと汚染物質として重要なマイコトキシン（カビ毒）について概説し、それらの国内外の規制の現状やメカニズムを解説する。 第4回：油脂（木下） 油脂の健康機能性を概説したのち、近年問題になっているトランス脂肪酸ならびにグリシドールエステルの生成機構と人の健康への影響について概説する。 第5回：食品添加物（福田） 食品添加物について概説し、その安全性評価法とポジティブリスト制度について解説する。また、国内外における食品添加物に係る法規制や運用の仕組みを解説する。 第6回：残留農薬・残留動医薬（久保田） 残留農薬・残留動医薬について概説し、食品の汚染実態と人への影響等を解説する。 第7回：PCB・ダイオキシン類・環境ホルモン・重金属・放射性物質等（川合） 環境汚染物質による食品汚染と各物質の作用機序等を概説する。 第8回：関連法規、食品に含まれる化学物質の検査法、行政など（山崎） 化学物質の毒性試験方法と評価指標について解説する。また、リスクアナリシスに基づく毒性物質に対する規制の仕組みについて解説する。</p>	オムニバス
	畜産衛生課題研究	企業等において、食品衛生環境、食品生産工程および物流形態などの各分野から一分野を選択し、約2ヶ月間の現場実習を行うことにより課題（問題点）を抽出するとともに、抽出した課題（問題点）の解決策を検討し、現場での改善に役立てるための提案を行う。	
	HACCPシステム構築演習	食品製造・加工現場で導入されているHACCPシステムの構築手順を国際標準である「Codex食品衛生の一般原則」に従い、座学とグループ作業による実習形式で修得する。	集中
	食品関連法規と食品製造・加工設備保全 特論	食品衛生管理に必要な有害微生物の知識と遵守すべき関連法規及び方針・マニュアルの構成と重要項目を理解する。 また、食品製造施設・機器の保全計画立案手順や代表的な機器の点検整備手順を実習形式で修得する。	集中

		食品検査学演習	食品を取り扱い、その品質、性質や機能について研究する上で必要な基礎的な方法から応用的な事項までの知識や技術を習得するとともに、「食の安全と安心」の観点から、食品中に含まれる可能性のある病原微生物や有害物質の検査法の原理及び技術を習得する。 (オムニバス方式／全15コマ) 1,2 乳の成分分析についての講義と演習(浦島) 3,4 残留農薬検出法についての講義と演習(福田) 5-8 化学物質の毒性試験についての講義と演習(久保田, 川合) 9-15 食品の微生物検査についての講義と演習(倉園, 廣井, 豊留, 山崎, 奥村, 楠本)	集中 オムニバス
		食品流通・地域産業活性化特論	企業経営、起業・事業設立に当たって必要な基礎的知識を、実践的に解説する。また、地域において特徴的な取り組みがみられる食品・農業関連企業に注目したケーススタディを通して、企業活動の具体的課題と地域の特徴にたいする理解を深める。これらを通して、地域の個別企業・地域産業の活性化のための方策を講義する。	
		企業戦略特論	経営学に関する基礎知識を習得している者を対象に、マーケティング、経営戦略、マーケティングリサーチについて講義と実習を通して解説する。更に、企業戦略の構築の実習を行う。	
専門科目		家畜生産科学特別研究Ⅰ	主指導教員の指導の下、家畜生産科学に関わる特定の研究課題を設け、研究計画を作成し、研究情報の収集と整理、実験・調査の実施、及びその結果についての検討・考察を行うことで論文作成に必要な技術を涵養するとともに、家畜生産科学の専門家として相応しい倫理観を身に付ける。「家畜生産科学特別演習」の連携科目	
		家畜生産科学特別研究Ⅱ	主指導教員の指導の下、研究課題に沿った研究を進めながら情報の収集と整理、実験・調査の準備と実施、結果の解析と考察を行い、論文作成に繋げる。「家畜生産科学特別Ⅰ」「家畜生産科学特別演習」の発展科目であり、副指導教員による「特別研究」の連携科目。論文執筆や学会発表などに向けて研究活動に必要とされるすべての能力を統合し使いこなす作業を通して総合的な研究遂行能力を涵養する。	
		家畜生産科学特論	授業はオムニバス方式で行ない、1)家畜生産の現状と問題点、2)新しい技術・視点からの家畜生産、3)世界の畜産の現状などを紹介する講義からなる。畜産に関する専門知識の有無にかかわらず履修可能な内容とする。 (オムニバス方式／全8回16コマ) 第1回： 1. 異なる自然、社会、経済環境におけるホルスタイン種乳牛の活用とその問題点(手塚) ホルスタイン種乳牛は高泌乳を目的に改良が重ねられてきた究極の乳牛であり世界の多くの国で導入されている。本講義では北米、アジア、アフリカにおけるホルスタインの飼養状況を比較することで、それぞれの環境における本種の利点と弱点を考察する。 2. 南米の畜産システム(Acosta) 南米の畜産の特徴(環境、代表的な家畜品種、衛生管理システム、生産コスト)、現在の状況、問題点等につて講義する。 第2回： 3. 家畜のバイオテクノロジー、家畜生産からヒト医療まで(村西) 家畜のバイオテクノロジーは、動物の生産分野だけでなく、ヒトの不妊治療や創薬などヒト医療にも貢献している。この授業では、家畜のバイオテクノロジーの有用性と今後の可能性について、最新の知見をもとに考察し、議論する。 4. 草地からの家畜生産(花田) 持続的な草地からの家畜生産の意義について、草食動物による飼料利用性の特徴を活かした食糧生産の重要性、地理的条件に応じた土地利用による食糧生産の重要性ならびに環境保全や地域社会の安定への寄与などの観点から講義する。	オムニバス

第3回：

5. 家畜の遺伝的能力評価の実際と課題（萩谷）

家畜改良の仕組みについて、特に乳牛を例にフィールドデータの種類、収集の仕組み、データ加工と応用方法までを解説する。また、改良の成果と現在の課題、今後の発展方向について考察する。

6. 胎子期（母牛の）栄養状態と出生後の栄養代謝状態と成長（川島）

乳牛は泌乳しながら妊娠できる特殊な動物で搾乳牛群の2/3は妊娠牛である。しかし搾乳牛の飼養管理では当然ながら乳生産が重要視されている。本講義では様々な動物種を例に挙げながら、乳牛における胎子期の栄養と出生後への影響について考察する。

第4回：

7. 馬：家畜から伴侶動物へ（齊藤）

馬は乳や肉の生産だけでなく、共に働くパートナーとして、古来より人と深い関係を持ってきたが、現代社会では馬と人は疎遠になってしまった。希少家畜となってしまった日本在来馬を題材に、馬と人との未来を考察する。

8. 家畜福祉に関する近年の状況（瀬尾）

アニマルウェルフェアの関心は世界的にみると急速に高まってきており、日本でも対応が求められている。国際的なアニマルウェルフェアの状況および日本の現状を解説する。

第5回：

9. 反芻家畜の第一胃による内分泌学的制御（松長）

反芻家畜は単胃動物とは異なり、反芻胃を有している。この消化管構造の違いに伴い、生理学的機能もこれに適応し、代謝像にも変化が認められる。本講義では、その中でも最も重要な特徴である第一胃がもたらす変化について、内分泌学的観点から解説する。

10. 養鶏産業とゲノム解析（後藤）

ニワトリは世界で最も個体数の多い家畜である。それゆえ、養鶏は畜産業において重要な位置を占める。本講義では、養鶏産業の歴史を振り返りながら、近年取り組まれ始めたゲノム解析について概説する。

第6回：

11. 家畜生産と消化管内微生物（福岡）

動物の消化管内には無数の微生物が棲息し、宿主の利用不可能な資源を分解・発酵することで宿主に栄養源として提供している。本講義では主要な家畜であるウシ・ブタ・ニワトリにおける消化管内微生物の機能を解説する。

12. HACCPに準拠した牛群管理システムの考え方（木田）

大規模化が進む酪農現場において、食の安全確保を牛群管理システムの中に構築するための考え方とその手法について学習する（HACCP7原則12手順を含む）。

第7回：

13. 高泌乳牛の健康と繁殖：免疫システムによる調節（宮本）

高泌乳牛は、分娩直後から急激な乳生産を始め、分娩後しばらくは、自らの身体を削って乳成分を補っている。その結果、免疫機能が低下し生産病と繁殖障害に陥りやすい。本講義では、これらの特殊な状況が泌乳牛の免疫機能に与える負の影響と、本来の人工授精、受精、着床などの受胎に関わる免疫システムについて、最新の知見を織り交ぜながら概説する。

14. 牛枝肉評価とその遺伝様式（口田）

わが国を代表する肉用牛の生産構造や枝肉や肉質の特徴を、外国種などと比較することで理解する。その育成、肥育ステージにおける飼養環境に触れながら遺伝様式について学び、これからの肉用牛生産あるいは肉用牛産業のあり方などについて考察する。

第8回：

15. 循環型畜産科学（西田）

従来の生産効率を優先したエネルギー多投入型畜産生産システムは、物質循環系を乱し、水系汚染、地球温暖化ガスの放散など環境に大きな負荷を与える結果となっている。農畜生産システムにおける循環系の問題、特にエネルギー循環(炭素)と物質循環(窒素)について着目し、講義する。

16. 家畜の生殖内分泌における細菌毒性の作用（清水）

環境や疾病などから乳牛が細菌毒素に曝露されることにより、生殖内分泌系のバランスが崩れる。本講義では、細菌由来の内毒素が乳牛の生殖内分泌系に如何に作用するのかについて、最新の知見をもとに考察するとともに解決策を思索する。

	<p>家畜生産科学特別演習</p>	<p>本演習では研究を行うにあたっての心がけ（研究者倫理）、研究の進め方、結果の解析（統計解析など）、日本語、及び英語による論文・要旨の作成、プレゼン、質問に対する受け答え、他の研究に対する批評など研究者にとって必要な資質をワークショップ形式の演習を中心に鍛錬する。</p> <p>（オムニバス方式／全30回） 授業計画（授業は1コマ（2時間）で1回とする） 第1回：前期ガイダンス(手塚) 前期演習の目的と実施方法の説明。演習における各自の目標設定。研究内容によりグループ編成。 第2回：イントロダクション：研究の背景を明確にする(宮本, 萩谷) グループ討論を通して研究背景を具体的に説明できるように論点整理を行う。各グループに教員が張り付きファシリテーションを行う（以下同様）。 第3回：イントロダクション：目的の明確化(宮本, 萩谷) 明確な目的設定のために背景に則した理論的な説明ができるように論点整理を行う。 第4回：イントロダクション：あらすじの作成(宮本, 萩谷) イントロダクションの骨組みを考え、必要となる知識を整理する（重点課題の整理）。 第5回：イントロダクション：概要（背景と目的）発表と批評(宮本, 萩谷) イントロダクションの概要を発表し、質疑応答を通して研究の明確な方向性を確認する。この段階でイントロダクションの基本的骨格と方向性、重点的に調査すべき項目が明らかになるようにする。（課題1：イントロダクション初稿の作成） 第6回：研究者倫理：研究を行うにあたっての心構え(手塚, 瀬尾) 研究を行うにあたって研究者が知っておかなければいけないこと、やらなければならないことを概説する。 第7回：研究者倫理：不正の現場を理解する(手塚, 瀬尾) グループ討論とケーススタディを通して研究不正がなぜ起こるのかを考察する。動物実験、統計処理、結果の発表等不正がおこりやすい点について実例を交えて注意を喚起し、それぞれの演習項目へと繋げる。 第8回：研究者倫理：不正を防ぐための方策(手塚, 瀬尾) グループ討論とケーススタディを通して不正を防ぐための具体的な方策について考察する。 第9回：研究者倫理：動物実験(手塚, 瀬尾) 家畜や実験動物を研究に使用するにあたり考慮しなければならないことを、それぞれの研究に使用する動物種や実験内容に当てはめて検討し、実験へと反映させる（この時点でほとんどの学生が実験動物取扱についての講習会を受講していると思われるが、ここでは具体的な例を用いて主体的な議論を行う）。 第10回：実験計画と実験手法：実験計画を立てる(西田, 川島, 後藤) 実験を計画するにあたって注意すべきポイントを整理し、それぞれが持ち寄った実験計画を用いて改善案を検討する。 第11回：実験計画と実験手法：実験手法を選択する(西田, 川島, 後藤) 実験に必要な方法について理解を深める。使用するデータについてその特性を把握し、使用する統計を選択する（データ処理と統計解析への準備）。 第12回：実験計画と実験手法：材料と方法を書き出す(西田, 川島, 後藤) 材料と方法を書くために必要となる具体的な情報を把握、収集する。（課題2：材料と方法初稿の作成） 第13回：実験計画と実験手法：動物実験計画書を作成する(西田, 川島, 後藤) 動物実験委員会に提出するための計画書を作成する、もしくは既に作成されたものを用いて計画書作成のために重要なポイントを理解する。また分りやすい計画書の書き方を考察する。 第14回：発表と討論：研究背景と材料と方法1（全員） 研究背景、研究目的、実験計画と材料と方法について各自発表と質疑応答を行う。 第15回：発表と討論：研究背景と材料と方法2（全員） 研究背景、研究目的、実験計画と材料と方法について各自発表と質疑応答を行う。 第16回：後期ガイダンス(手塚) 後期演習の目的と実施方法の説明。前期の総括と改善点についてグループ討論を行い、後期の演習へと反映させる。</p>	<p>オムニバス</p>
--	-------------------	---	--------------

第17回：データ処理と統計解析:SASとEZR(口田, 松長, 齊藤)
 SASとフリーオープンソース統計ソフトEZR (Easy R)の解説と基本操作演習。

第18回：データ処理と統計解析:データの特性を理解し、最適な統計を選択する(口田, 松長, 齊藤)
 各自実験データを持ち寄り、その特性と統計処理について討論と演習を通して理解する。また自分の専門以外でどのようなデータがどのように分析されているのか全体討議を通して把握する。

第19回：データ処理と統計解析:統計分析結果の記述(口田, 松長, 齊藤)
 論文を書くにあたって、使用した統計と統計結果を正しく書き出すためのポイントを把握する。(課題3:課題2-材料と方法-のアップグレード)

第20回：結果発表:発表方法の理解と選択(口田, 松長, 齊藤)
 発表フォーマット(図、表、写真、動画、etc)は発表方法(口頭、ポスター、論文)によって変わる。それぞれの発表方法に最適な発表フォーマットと利点、欠点、注意事項を把握する。

第21回：結果発表:論文発表における結果の表示(木田, 清水, 福岡)
 論文やポスター発表では結果の種類によって図、表、写真を用いるが、それぞれ注意すべきこと、表示しなければいけない情報などを自分の結果、もしくは関連分野の論文を用いて把握する。また図や表のタイトルや説明について書き方のポイントを修得する。

第22回：結果発表:プレゼンテーションにおける結果の表示(木田, 清水, 福岡)
 論文を読みこなす力はこの時点でかなりついていると思われるが、このセッションでは必要な情報を、正確に、すばやく取得するための論文読解法について修得する。

第23回：参考文献:読解のポイント(木田, 清水, 福岡)
 論文を書くにあたって適切な箇所適切な引用を行うことが重要である。このセッションでは課題1で作成したイントロダクションを用いて、引用の見直しと充実を図る。(課題4:課題1-イントロダクション-のアップグレード)

第24回：参考文献:適確な引用(木田, 清水, 福岡)
 論文を書くにあたって適切な箇所適切な引用を行うことが重要である。このセッションでは課題1で作成したイントロダクションを用いて、引用の見直しと充実を図る。(課題4:課題1-イントロダクション-のアップグレード)

第25回：参考文献:参考文献の管理と記述(花田, Acosta, 村西)
 文献を読み進めるとともに多数の文献の整理・管理が必要となる。本セッションでは文献管理ソフトなどを用いた文献管理や収集の方法を修得する。また参考論文記述のためのフォーマットを理解し、論文作成に生かす。論文を書くにあたって、使用した統計と統計結果を正しく書き出すためのポイントを把握する。

第26回：英語で論文要旨を書く:構成(花田, Acosta, 村西)
 英語で論文を書くにあたって全体の構成を考慮する必要がある。論文の要旨には通常語数制限があるが、決められた枠組みの中でバランスよく情報をまとめるための手法を修得する。

第27回：英語で論文要旨を書く:作成(花田, Acosta, 村西)
 発表されている論文を参考に英文要旨を作成する。(課題5:要約の英訳)

第28回：発表と討論:論文中間発表1(全員)
 研究課題について各自発表を行い、進捗状況と問題点を把握する。質疑応答を行う。

第29回：発表と討論:論文中間発表2(全員)
 研究課題について各自発表を行い、進捗状況と問題点を把握する。質疑応答を行う。

第30回：総括討論(手塚, 花田, Acosta, 村西)
 受講者それぞれが今後強化しなければならないポイントを把握し次のステップ(e.g., 特別研究, 特別研究特論)での目標を設定する。また演習全体を通して改善点や重点化すべき項目などを洗い出し、次年度に向けた改善策を提言する。

	<p>家畜育種繁殖学特論</p> <p>良い家畜を選抜・改良し、その数を増やすことは畜産の最も基本的な課題の一つである。群検定や後代検定などの育種技術と人工授精や受精卵移植等の繁殖技術の導入によりここ数十年で乳牛の生産性は飛躍的に向上した。その一方でこれらの高泌乳牛では繁殖成績の低下が世界的な問題としてとりあげられている。本講義では家畜改良の両輪の輪である育種と繁殖の両視点から問題を基礎および現場レベルから理解し、解決にむけての方策を探索。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：ガイダンス：家畜改良の仕組みと目的（口田） 家畜改良の仕組みについて、乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏、ブロイラーなどの畜種、用途別に概説する。また、わが国の育種改良における強み、弱点を豪州、米国、韓国などの諸外国と比較しながら考察する。</p> <p>第2回：肉牛の育種改良（口田） わが国を代表する肉用牛である黒毛和種のみならず褐毛和種、日本短角種を題材として、これまでの肉用牛改良の歴史を紹介し、今後の肉用牛改良のあり方について議論する。</p> <p>第3回：乳牛の育種改良（萩谷） 乳牛改良の現状を解説するとともに、乳量や乳脂量など、酪農家で収集されている雌牛のフィールドデータから個々の遺伝的能力を推定するために応用されている理論と技術を紹介する。</p> <p>第4回：最新のゲノム解析と育種改良（後藤） 近年のゲノム解析技術の進展によって、家畜動物においても、個体レベル・集団レベルのゲノム情報が蓄積されつつある。本講義では、家畜のゲノム解析の成果ならびに、それらの育種改良への応用について概説する。</p> <p>第5回：高泌乳牛の繁殖生理と繁殖技術（宮本） 高泌乳牛の特殊な繁殖生理を改めて理解し、世界中で活用されている繁殖技術の現状と課題、今後の展望について考察する。</p> <p>第6回：高泌乳牛の受胎性に関わる免疫システム（宮本） 高泌乳牛の受胎性に関わる要因、すなわち人工授精、受精、着床などに関わる免疫システムについて、最新の知見を織り交ぜながら概説する。</p> <p>第7回：乳牛の感染症と繁殖機能（清水） 近年、高泌乳牛の子宮への細菌感染症が報告されるようになった。本講義では、細菌感染由来の炎症性子宮疾患と卵巣機能との関係について、最新の知見をもとに考察する。</p> <p>第8回：高泌乳牛の繁殖障害（Acosta） 高泌乳繁殖障害の対策、原因、発生状況、診療、治療方法について講義する。</p>	<p>オムニバス</p>
--	---	--------------

	家畜管理栄養学特論	<p>現在の乳牛は泌乳量が驚異的に増加している。牛はどのように高泌乳牛となったのか、そしてその乳牛を飼うためにはどのような管理をすべきかを解説する。さらに感覚のある動物を人間はどのように取り扱うべきかという、家畜福祉の現代的問題についても講義する。また各種飼料資源の栄養学的特徴、乳牛における栄養素の消化および代謝経路ならびに養分要求量の算出方法について講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：飼料と家畜生産能力（花田） 先進国・発展途上国を問わずさらなる家畜の生産能力向上に対する要望が強い。飼料の種類と特徴、飼料摂取量の限界、家畜の生産能力と養分要求量との関係などを講義し、これからの飼料および家畜生産の課題について論議する。</p> <p>第2回：前腸発酵型動物と後腸発酵型動物との飼料利用性の比較（花田） 草食動物は消化管の構造の違いから前腸発酵型(反芻)動物と後腸発酵型動物に分けられるが、家畜としての飼養頭数は圧倒的に牛・羊・山羊などの反芻動物が多い。その理由について両者の栄養素の利用方法を比較しながら考察する。</p> <p>第3回：乳牛の栄養要求量について（西田） 畜産業は、乳、産子、肉、毛、卵などの生産物を得ることを生業としているため、栄養素の不足は許されない。また、愛玩動物ではないので、必要最低限の費用で、生産物の対価を得る必要がある。このような合理的な飼養管理のために、飼料の栄養価や家畜や家禽の栄養要求量を把握しておく必要があり、このことに関して解説する。</p> <p>第4回：アニマルウェルフェアを飼育方法から考える（瀬尾） アニマルウェルフェアに配慮するとは、どのような飼育環境を整備し、飼育管理をすべきなのかを飼育方法別に解説する。また農場からと畜場への輸送方法やと畜場でのアニマルウェルフェア上の問題点についても解説する。</p> <p>第5回：搾乳機器ならび飼養管理システムの技術的進歩（齊藤） 搾乳作業や家畜管理作業において、機械が果たす役割が近年非常に重要になってきており、酪農現場での技術革新は目覚ましいものがある。最新鋭の機械技術について紹介しながら、人間、家畜、機械の望ましい関係を検討する。</p> <p>第6回：栄養・繁殖に関するイベントを軸とした乳牛のライフサイクル（川島） 乳牛は出生から約2年後に初回分娩をむかえ、その後泌乳期と乾乳期を交互に数回繰り返す。本講義では、成育ステージや乳量などの牛の状態や施設など人の管理の都合により、変化していく飼育環境について栄養・繁殖に関することを軸に考える。</p> <p>第7回：栄養代謝状態と繁殖機能との関連性（特に分娩前後）（川島） 成長に関わる代謝ホルモンは春機発動後には繁殖機能に作用し、一方で繁殖に関わる生殖ホルモンは代謝ホルモンに作用するようになる。本講義では、これらの相互作用について栄養代謝状態の変化が著しい分娩前後を中心に考察する。</p> <p>第8回：乳牛の飼養管理評価方法としての代謝プロファイルテスト（木田） 乳牛の飼養管理の適否を科学的に評価する手法としての、代謝プロファイルテストの原理と活用方法について、事例演習を中心に学習する。</p>	
--	-----------	--	--

	<p>家畜生体機能学特論</p> <p>本講義では1) 家畜の生産活動を支える消化器系の機能生理を単胃動物と反芻動物で比較し、それを支える内分泌系や消化管内微生物の役割と生態と共に概説する、2) 家畜が生産に適した形質を獲得していく過程を発生学的視点から概説する、3) 家畜が子孫を残すための生殖戦略とそれを制御する内分泌機構を概説することで、家畜を用いて生産活動をするために必要となる生態機能についての知識を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：ガイダンス：反芻家畜の栄養生理的特徴（松長） 反芻家畜は単胃動物とは異なり、反芻胃を有している。この消化管構造の違いに伴い、消化、吸収を始めとした生理学的機能もこれに適応している。本講義では、反芻家畜の栄養生理学的特徴について比較、検討する。</p> <p>第2回：反芻動物と単胃動物の内分泌特性の概説（松長） 反芻家畜は消化管構造の違いに伴い、代謝像にも変化が認められる。本講義では、反芻家畜の代謝とそれに付随して起こる内分泌反応について概説する。</p> <p>第3回：反芻胃内の微生物と生態（福岡） 反芻胃内には無数の微生物が棲息し、飼料の分解・発酵を担っており、宿主にエネルギー源を供給している。本講義では反芻胃内に特異的に存在する微生物に焦点を当て、それらの生態学的特性を解説する。</p> <p>第4回：反芻胃における栄養素の代謝（福岡） 飼料を構成する炭水化物、タンパク質、脂質は反芻胃内発酵を通して宿主の利用可能な形に転換される。本講義ではそれぞれの栄養素が微生物により分解・発酵を受ける過程を解説し、反芻胃内発酵の特性を考察する。</p> <p>第5回：動物の個体発生と発育について（村西） 哺乳類は、マウスからクジラまで約100μmの大きさの卵子から発生がはじまり、それぞれの形態に成長していく。この授業では、形態形成におけるファイロティピックな系統発生を動物種間で比較し、家畜がどのように人間に有用な機能を獲得していったかを議論する。</p> <p>第6回：動物の神経発生と感覚器について（村西） 生物は、初期に神経原基を発現し、発生の過程でその細胞運命が決定し、感覚器として機能を獲得していく。この授業では、動物の感覚の違いを比較しながら、家畜それぞれの飼養に適した管理方法を考え、議論する。</p> <p>第7回：家畜の繁殖戦略と生殖内分泌（手塚） 子畜の生産は動物にとっても、それを利用する人間にとっても必要不可欠である。本セクションでは季節繁殖と通年繁殖家畜、単胎と多胎家畜の生殖戦略とそれを司る内分泌機構について概説する。</p> <p>第8回：総括：家畜はどのように変えられてきたのか（手塚） 畜産は個体の生存と次世代生産のために最適化されてきた動物を人間のための余剰物（乳、肉、毛など）生産のための家畜へと変えてきた。本講義では畜産を支える“利他的な”生体機能を概説し、家畜改良や生産性向上のためには何をしなければいけないのかを考察する。</p>	オムニバス
	<p>環境生態学特別研究 I</p> <p>主指導教員の指導の下、環境生態学（生態学、環境微生物学、昆虫学、野生動物学、植物学、保全生態学など）に関わる特定の研究課題を設け、研究計画を作成し、研究情報の収集と整理、実験・調査の実施 及びその結果についての検討・考察を行うとともに、環境生態学の専門家として相応しい倫理観を身に付ける。 研究を進めるにあたっては、関係する専門領域にかかわる先端的なトピックを適宜扱う。</p>	
	<p>環境生態学特別研究 II</p> <p>主指導教員の指導の下、環境生態学（生態学、環境微生物学、昆虫学、野生動物学、植物学、保全生態学など）に関わる特定の研究課題を設け、研究計画を作成し、研究情報の収集と整理、実験・調査の実施 及びその結果についての検討・考察を行う。 研究を進めるにあたっては、関係する専門領域にかかわる先端的なトピックを適宜扱う。</p>	

環境生態学特論	<p>現代生態学の全体像を大きく把握させ、生態学に対する広い視野および思考を身につけさせることを目的とする。そのために、多様化する現代生態学の研究分野について、その分野における最新の知見・話題などを専門の教員がオムニバス形式で概説し、あわせて実際に応用される具体例も紹介する。その範囲は生理生態学、景観生態学、行動生態学、森林生態学、草原生態学、分子生態学、疾病生態学、保全生態学におよぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：動物生態学における応用科学と基礎科学のつながり(熊野)</p> <p>第2回：生態学研究の理論的枠組みとデータ解析(赤坂)</p> <p>第3回：植物生態学における植物の形態や機能に関する最新の研究例の紹介(小山)</p> <p>第4回：微生物生態学—共生菌類の生態系での重要性—(橋本)</p> <p>第5回：植生の多様性とそれを支える要因(佐藤)</p> <p>第6回：分子進化の基礎的知識の概説と生態学における応用研究事例の紹介(押田)</p> <p>第7回：獣医疫学手法の基礎—生態学における疫学手法の応用—(門平)</p> <p>第8回：人間の生活が生物の多様性に与える影響(門平)</p>	オムニバス
環境生態学特別演習	<p>農畜産物の生産の場である農地環境とその周辺環境の構成要因である野生動物、昆虫、植物および菌類に関するこれまでの研究の流れと現状についてプレゼンテーションを用いたゼミ形式の議論を通じて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>第1回：農畜産環境における生物多様性(押田)</p> <p>第2回：農畜産環境における生物多様性保全(押田)</p> <p>第3回：希少生物の保護(押田)</p> <p>第4回：害獣の管理(押田)</p> <p>第5回：哺乳類の分子生態学：総論(押田)</p> <p>第6回：哺乳類の分子生態学：各論(押田)</p> <p>第7回：哺乳類の系統地理学：総論(押田)</p> <p>第8回：哺乳類の系統地理学：各論(押田)</p> <p>第9回：農村計画における生態系サービスの意義(赤坂)</p> <p>第10回：都市計画における生態系サービスの意義(赤坂)</p> <p>第11回：土地利用変化と生物多様性：総論(赤坂)</p> <p>第12回：土地利用変化と生物多様性：各論(赤坂)</p> <p>第13回：昆虫の行動制御：総論(熊野)</p> <p>第14回：昆虫の行動制御：各論(熊野)</p> <p>第15回：行動制御機構の害虫防除への応用：原理概説(熊野)</p> <p>第16回：行動制御機構の害虫防除への応用：実施方法概説(熊野)</p> <p>第17回：生物多様性と植生(佐藤)</p> <p>第18回：生物多様性と植物相(佐藤)</p> <p>第19回：農地環境の植生(佐藤)</p> <p>第20回：農地環境の植生管理(佐藤)</p> <p>第21回：植物の形態と環境への適応：総論(小山)</p> <p>第22回：植物の形態と環境への適応：各論(小山)</p> <p>第23回：地球環境の変化と植物：総論(小山)</p> <p>第24回：地球環境の変化と植物：各論(小山)</p> <p>第25回：生態系での腐生菌類の働き：総論(橋本)</p> <p>第26回：生態系での腐生菌類の働き：各論(橋本)</p> <p>第27回：生態系での共生菌類の働き：総論(橋本)</p> <p>第28回：生態系での共生菌類の働き：各論(橋本)</p> <p>第29回：保全医学：(門平)</p> <p>第30回：地球環境とOne health(門平)</p>	オムニバス
環境生命科学特論	<p>環境適応の多様性と原理を、担当教員の研究分野に関連させて解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：環境適応と生命の進化(押田)</p> <p>第2回：菌類の環境適応(橋本)</p> <p>第3回：昆虫の形態・機能と環境適応(熊野)</p> <p>第4回：植物の成長および形態・機能と環境適応(小山)</p> <p>第5回：感染症と家畜の環境適応(門平(押田))</p> <p>第6回：植物の生活史と環境適応(佐藤)</p> <p>第7回：河川生態系における環境適応(赤坂)</p> <p>第8回：哺乳類の生態と環境適応(押田)</p>	オムニバス

生態システム生命科学特論	生態系の機能、動態および現在起きている生態系に関わる諸問題を生物学、生命科学の広い立場から取り上げ、最新の事例や話題を含めて講義する。 (オムニバス方式／全8回) 1. 生態系動態学特論1：農地生態系（熊野） 2. 生態系動態学特論2：河川生態系（赤坂） 3. 生産生態学特論（押田） 4. 生理生態学特論（小山） 5. 共生系生態学特論1：森林生態系（橋本） 6. 共生系生態学特論2：海浜生態系（橋本） 7. 種生態学特論（佐藤） 8. 哺乳類生態学特論（押田）	オムニバス
保全生態リスク管理学特論	生態系、生物多様性などの保全に関わる最新の話題や事例の紹介、リスクの評価と管理など、応用生態学の発展的内容に関して講義する。 (オムニバス方式／全8回) 第1回：なぜ生態系や生物多様性を保全するのか（熊野） 第2回：生態系サービスおよび生態系へのリスク（小山） 第3回：農業・農村管理学1：害虫管理（熊野） 第4回：農業・農村管理学2：害獣管理（赤坂） 第5回：農業・農村管理学3：菌類資源の利用（橋本） 第6回：農業・農村管理学4：植生管理（佐藤） 第7回：家畜と野生動物が共生するための動物疾病リスク分析（門平（押田）） 第8回：生態系や生物多様性を、どう保全するのか（押田）	オムニバス
食品科学特別研究Ⅰ	主指導教員の指導の下、食品科学（食品・生物化学、有機・無機化学、遺伝子、酵素、バイオテクノロジーなど）に関わる特定の研究課題を設け、研究計画を作成し、研究情報の収集と整理、実験・調査の実施及びその結果についての検討・考察を行うとともに、食品科学の専門家として相応しい倫理観を身に付ける。研究を進めるにあたっては、関係する専門領域にかかわる先端的なトピックを適宜扱う。	
食品科学特別研究Ⅱ	主指導教員の指導の下、食品科学（食品・生物化学、有機・無機化学、遺伝子、酵素、バイオテクノロジーなど）に関わる特定の研究課題を設け、研究計画を作成し、研究情報の収集と整理、実験・調査の実施及びその結果についての検討・考察を行う。研究を進めるにあたっては、関係する専門領域にかかわる先端的なトピックを適宜扱う。	
食品科学特論	食品の3つの機能について最新の知見を踏まえて解説する。また高度職業人として必要な分析法、研究開発法並びに食品と微生物の関係を解説し、食品科学関係で生じる諸問題に対して、対応できる能力を涵養する。 (オムニバス方式／全8回) 第1回：食品の1次機能（福島） 栄養成分、ビタミンの発見、代謝概要 第2回：食品の2次機能（食肉）（島田） 食肉の加工特性と加工時における化学的・物理的变化 第3回：食品の2次機能（乳）（中村） 乳の加工特性と加工時における化学的・物理的变化 第4回：食品の2次機能（農産）（小嶋） 農産物の貯蔵・加工時における物理化学的变化 第5回：食品の3次機能（体調調節機能）（韓） 特定保健用食品、特殊用途食品、生活習慣病と食品 第6回：食品の化学分析法および機能性食品の研究（木下） 機器分析法 AOAC法概論 機能性成分 第7回：微生物と食品（大和田） 微生物汚染、微生物利用 第8回：食品科学と健康長寿（浦島） 健康寿命と食品成分との関係	オムニバス

食 品 科 学 コ ー ス 科 目	食品科学特別演習	<p>農畜産物の理化学的性質と機能性、並びに食品加工品の製造技術について、これまでの研究の流れと現状についてプレゼンテーションを用いたゼミ形式の議論を通じて学ぶ。また食品の生化学分析、並びに健康や生物学との関連について、これまでの研究と現状についてプレゼンテーションを用いたゼミ形式で学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>第1回：食品の基礎栄養学；3大栄養素（福島） 第2回：食品の基礎栄養学；微量栄養素（福島） 第3回：食品の応用栄養学；機能性多糖類（韓） 第4回：食品の応用栄養学；機能性ポリフェノール類（韓） 第5回：乳性食品の加工と利用；基礎編（中村） 第6回：乳性食品の加工と利用；応用編（中村） 第7回：畜肉食品の加工と利用；基礎編（島田） 第8回：畜肉食品の加工と利用；応用編（島田） 第9回：農産物食品の加工と利用；基礎編（小嶋） 第10回：農産物食品の加工と利用；応用編（小嶋） 第11回：製パンの加工と利用（山内） 第12回：ポリフェノール食品の加工と利用（小嶋） 第13回：発酵食品の加工と利用；基礎編（小田） 第14回：発酵食品の加工と利用；応用編（小田） 第15回：機能性成分と化学分析；化学反応（木下） 第16回：機能性成分と化学分析；比色法（木下） 第17回：機能性成分と化学分析；クロマトグラフィー（木下） 第18回：機能性成分と化学分析；質量分析（木下） 第19回：食品の機能性；基礎編（得字） 第20回：食品と機能性；応用編（得字） 第21回：食品と機能性；動物性成分（山下） 第22回：食品と機能性；海産物成分（山下） 第23回：食品と健康；基礎編（折笠） 第24回：食品と健康；応用編（折笠） 第25回：食品と健康；乳オリゴ糖（浦島） 第26回：食品と健康；腸内細菌と乳成分（浦島） 第27回：食品と健康；乳タンパク質（福田） 第28回：食品と健康；乳ペプチド（福田） 第29回：機能性物質と生物生産；基礎編（大和田） 第30回：機能性物質と生物生産；応用編（大和田）</p>	オムニバス
	食品加工・利用学特論	<p>農畜産物中の多様な成分の持つ固有の理化学的性質や品質特性について解説するとともに、様々な加工・製造技術と各過程における諸変化を幅広く講義し、食品の品質や安全性維持のための加工技術や衛生管理技術などについて解説する。また、食品の品質評価法、新加工技術等について、最新の科学技術情報などを詳述する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：（島田） 世界の食肉消費動向、筋肉の構造およびその構成成分の生化学的特性 死後筋肉の細胞内で生じる生化学的反応 第2回：（島田） 食肉加工工程における微細レベルでの諸変化 食肉・食肉製品の衛生管理技術 第3回：（中村） 乳の構成成分とその理化学的性質 乳製品の製造過程における乳成分の構造変化と製品の物性変化 第4回：（中村） 乳製品製造に用いられる微生物の生化学的特性 乳・乳製品の国際的な流通に関わる安全性確保技術 - 抗生物質、残留農薬及び微生物毒素の検出法 第5回：（小嶋） 農産物の収穫後の生理と貯蔵 野菜の物理化学的品質特性及び加工特性 第6回：（山内） 穀類の物理化学的品質特性及び加工特性 イモ類の物理化学的品質特性及び加工特性 第7回：（小嶋） 豆類の物理化学的品質特性及び加工特性 果実の物理化学的品質特性及び加工特性 第8回：（小嶋） 農産食品の品質評価 最新加工技術及び品質保持技術</p>	オムニバス

食品栄養化学特論	<p>農畜産食品に含まれる栄養素の化学と栄養について幅広く講義し、食品栄養成分の生理的意義及びその応用について解説するとともに、食品成分の特性と変化、生体調節機能（三次機能）についても化学的及び生物化学的な視点から、その作用機序、機能性評価法などを解説する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>第1回：食品栄養表示と国際動向（福島） 日本と海外の摂取基準の違い、ヘルスクレームの国際動向</p> <p>第2回：食品中の栄養素と消化・吸収（福島） 消化器官の働き、腸管吸収と体内循環</p> <p>第3回：主要栄養素の代謝（木下） 糖質、タンパク質および脂質代謝</p> <p>第4回：微量栄養素の代謝（韓） ミネラル・ビタミン代謝</p> <p>第5回：食品成分の化学とその変化（木下） 新規食品成分の説明、食品の成分変化</p> <p>第6回：食品摂取による体調節作用Ⅰ（山下） 生活習慣病予防と健康長寿</p> <p>第7回：食品摂取による体調節作用Ⅱ（韓） 機能性栄養素摂取と遺伝子発現の調節</p> <p>第8回：まとめと討論（木下）</p>	オムニバス
食品機能科学特論	<p>醸造や発酵などの微生物機能を利用した食料・有用物質生産技術の向上を目指した取り組みをするとともに、機能性成分の微生物生産とその役割を学ぶための分子生物学や生物科学分野の内容を解説する。また遺伝子組換え食品の現状や問題点、更には食品機能の可能性や情報科学についての講義を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>第1回：醸造および発酵に関する微生物 醸造および発酵用微生物の菌株改良（折笠）</p> <p>第2回：バイオエタノール・バイオガス バイオディーゼル燃料（折笠）</p> <p>第3回：バイオマスプラスチック 機能性タンパク質・ペプチドの生産（福田）</p> <p>第4回：発酵食品とその機能性Ⅰ 発酵食品とその機能性Ⅱ（小田）</p> <p>第5回：機能性成分の微生物生産と役割Ⅰ 機能性成分の微生物生産と役割Ⅱ（大和田）</p> <p>第6回：食品の機能性成分の生産 遺伝子組換え食品の機能性と安全性（大和田）</p> <p>第7回：ニュートリゲノミクスと食品の機能 メタボロミクスと食品機能（得字）</p> <p>第8回：遺伝子多型と食品機能 バイオインフォマティクスと食品機能（得字）</p>	オムニバス
農業経済学特別研究Ⅰ	<p>主指導教員の指導の下、農業経済学に関わる特定の研究課題を設け、研究計画を作成し、研究情報の収集と整理、実験・調査の実施 及びその結果についての検討・考察を行うとともに、農業経済学の専門家として相応しい倫理観を身に付ける。 研究を進めるにあたっては、関係する専門領域にかかわる先端的なトピックを適宜扱う。</p>	
農業経済学特別研究Ⅱ	<p>主指導教員の指導の下、農業経済学に関わる特定の研究課題を設け、研究計画を作成し、研究情報の収集と整理、実験・調査の実施 及びその結果についての検討・考察を行う。 研究を進めるにあたっては、関係する専門領域にかかわる先端的なトピックを適宜扱う。</p>	

農業経済学特論	<p>農業経済学の主要テーマについて幅広く講義します。具体的には、日本農業の構造問題、農政改革の経緯と方向、農産物流通の特徴と流通再編問題について詳細に講義し、欧米の農政改革、畜産物流通の特質と効率化の取り組みについても解説します。また、農業経済学に必要な計量的分析法と農林水産統計についても講義します。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：ガイダンス・演習内容の説明と必要な準備に関して説明する。(志賀)</p> <p>第2回：日本農業の構造問題と北海道農業の特質[1] (志賀) 構造改革が課題とされる日本農業の実情を農業政策、農業団体、支援組織などの側面から整理し、北海道農業の特質を講義する。</p> <p>第3回：日米欧の農政改革－改革の経緯とその行方 (金山) 日本の農政改革の背景と展開、課題について講義する。</p> <p>第4回：経済データ統計解析の新しい動向 (姜) 経済統計モデルの構築法と農業経済分析への応用、欧米諸国の農林水産統計の現状と国際比較などを講義する。</p> <p>第5回：農産物流通の特質と流通再編への対応 (仙北谷) 農産物の流通の特質を論理的・実体的に講義する。</p> <p>第6回：畜産物流通の特質と効率化 (仙北谷) 畜産物の流通の進化のプロセス、価格形成との関連について講義する。</p> <p>第7回：開発途上国の畜産開発 (耕野) 開発途上国の経済発展と畜産開発の課題を講義する。</p> <p>第8回：食品安全の規制と貿易 (窪田) 食品安全に係る規制の経済的根拠、貿易における防疫の重要性と課題について講義する。</p>	オムニバス
---------	--	-------

農業経済学特別演習	<p>応用農業統計学特論，農業政策学特論，フードシステム論，および農業経営学特論などの農業経済学に関連する次の演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>第1回：ガイダンス・演習内容の説明と必要な準備（志賀） 第2回～第5回：応用農業統計学特論に関連する演習（姜） 第2回：マクロ経済データの統計分析，コンピュータ実習と討論 第3回：食料の生産性変動とその影響要因の分析，消費構造と価格変動の統計分析，コンピュータ実習と討論 第4回：食料の需給関係とその構造変化の統計分析，消費者意識調査の方法と分析，コンピュータ実習と討論 第5回：調査データの統計分析，コンピュータ実習と討論，レポート作成 第6回～第9回：農業政策学特論に関連する演習（金山） 第6回：経済余剰概念に基づく政策効果分析手法 第7回：価格支持政策の厚生効果 第8回：休耕を伴う農業政策の厚生効果 第9回：農産物輸入規制の厚生効果 第10回～第17回：フードシステム論に関連する演習（仙北谷） 第10回：フードシステムにおけるインテグレーションの役割 第11回：食品輸出入とフードシステム 第12回：農商工連携とフードシステム 第13回：電子商取引の拡大とフードシステム 第14回：食品安全・品質保証とフードシステム 第15回：フードバリューチェーンとフードシステム 第16回：食品マーケティングとフードシステム</p> <p>第17回：食生活の変化とフードシステム 第18回～第21回：農業経営学特論に関連する演習（志賀） 第18回：日本農業の構造把握と構造改革論 第19回：TPPと日本、北海道の農業 第20回：農業の地域性と集落・限界集落、農業団体 第21回：担い手と法人、農業経営政策 第22回～第25回：開発途上国の経済発展理論と畜産開発の課題に関する演習（耕野） 第22回：開発途上国の経済開発モデル 第23回：開発途上国の経済発展の実態と課題 第24回：畜産業の位置づけと畜産経営の実情 第25回：畜産開発と国際的防疫システム 第26回～第29回：食品安全経済学特論に関連する演習（窪田） 第26回：食の安全に関する費用と便益 第27回：抗生物質無添加飼料の経済評価 第28回：GM食品の経済評価 第29回：人獣共通感染症の経済評価 第30回：食料・農業・農村をめぐる諸問題と自身の研究テーマ（総合討論）</p>	オムニバス
畜産経営学特論	<p>先進国および開発途上国の農業・畜産経営の調査、地域調査に不可欠な農業諸統計の活用手法と分析手法の講義、また、それらのための資料収集・解析・活用などの高度な理論的知識などについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：地域調査、経営分析の目的と利用に際しての留意事項（志賀、耕野） 第2回：経営分析指標と農業統計（志賀） 第3回：経営分析にかかわる諸統計と活用手法（耕野） 第4回：経営構造分析と農業統計（志賀） 第5回：農畜産物と農業統計利用（志賀） 第6回：農畜産物生産費と分析手法（志賀） 第7回：地域特性と農業統計利用（志賀、耕野） 第8回：地域特性分析の手法（耕野）</p>	オムニバス
農業政策学特論	<p>1. 農業・食料政策を取り巻く政治経済環境，政策の形成過程，先進国の食料・農業市場における政府介入の目的と意義，経済的帰結について講義する。</p> <p>2. 応用厚生経済学の分析枠組みを用いて，種々の農業・食料政策が国内外の利害関係者の経済的地位に及ぼす影響を講義する。</p> <p>3. 履修者は，特定の政策の厚生効果を分析した研究レポートを作成し，最後の授業でその結果を発表し，総合討論を行う。</p>	

応用農業統計学特論	<p>農企業のマーケティングにおける理論と統計分析方法を習得するとともに、学生が実際の問題に対して学習した手法を独自に実践できるよう、農企業のマーケティング・リサーチの理論・方法およびその応用について講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：ガイダンスと必要事項の解説 (仙北谷)</p> <p>第2回：マーケティング・リサーチの理論 (1) (仙北谷)</p> <p>第3回：マーケティング・リサーチの理論 (2) (仙北谷)</p> <p>第4回：マーケティング・リサーチの理論 (3) (仙北谷)</p> <p>第5回：市場調査の統計的方法 (姜)</p> <p>第6回：マーケティング・リサーチの統計的方法 (1) (姜)</p> <p>第7回：マーケティング・リサーチの統計的方法 (2) (姜)</p> <p>第8回：全体のまとめ、レポートの作成 (仙北谷)</p>	オムニバス
農業環境工学特別研究 I	<p>主指導教員の指導の下、農業環境工学に関わる特定の研究課題を設け、研究計画を作成し、研究情報の収集と整理、実験・調査の実施及びその結果についての検討・考察を行うとともに、農業環境工学の専門家として相応しい倫理観を身につける。研究を進めるにあたっては、関係する専門領域にかかわる先端的なトピックを適宜扱う。</p>	
農業環境工学特別研究 II	<p>主指導教員の指導の下、農業環境工学に関わる特定の研究課題を設け、研究計画を作成し、研究情報の収集と整理、実験・調査の実施及びその結果についての検討・考察を行う。研究を進めるにあたっては、関係する専門領域にかかわる先端的なトピックを適宜扱う。</p>	
農業環境工学特論	<p>農業における土、水、自然環境の関係やそれを用いた持続可能農業の工学的アプローチを講義する。次に、農業機械分野における農用車両のメカニズムや精密農業への応用そして廃棄物の有効利用などについて講義する。最後に、その周辺環境である気象情報、特に北海道特有の土壌凍結が農業に与える影響を解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：講義のガイダンス (辻)</p> <p>第2回：農地工学と農地保全学 (辻)</p> <p>第3回：農業水利と水質保全対策 (宗岡)</p> <p>第4回：農用車両とエネルギー (岸本)</p> <p>第5回：世界の農業機械と精密農業 (佐藤)</p> <p>第6回：生物系廃棄物の再資源化技術とその現実論 (宮竹)</p> <p>第7回：気象資源の農業への応用 (木村)</p> <p>第8回：バイオマスエネルギーの理論と実際 (梅津)</p>	オムニバス

農業環境学コース科目	<p>農業環境工学特別演習</p>	<p>農業機械システム工学特論，農業農村工学特論および大気地盤情報学特論に関連する演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>第1回：特別演習の進め方に関するガイダンス（辻・佐藤）</p> <p>第2回～第5回：農業機械システムにおけるモノづくりの理論と実際（佐藤）</p> <p>第2回：3D-CAD/CAE/CAMの基礎理論とその概要</p> <p>第3回：3D-CADを活用したバーチャル設計手法の演習</p> <p>第4回：CAEを利用した構造・運動機構のコンピュータシミュレーションの解析方法</p> <p>第5回：3Dプリンタを利用したCAM出力の実際</p> <p>第6回～第9回：作物生産における土一車両系の挙動解析（岸本）</p> <p>第6回：作物生産における走行装置の運動解析と動力学的解析方法</p> <p>第7回：けん引状態の土一車両系の解析の方法</p> <p>第8回：制動状態の土一車両系の解析の方法</p> <p>第9回：作業状態の解析と数値計算</p> <p>第10回～第13回：バイオマス管理とその制御法（宮竹）</p> <p>第10回：バイオマス管理技術と制御法演習</p> <p>第11回：バイオマスのコンポスト化演習</p> <p>第12回：バイオマス資源化の熱解析演習</p> <p>第13回：バイオマス資源化の反応速度解析演習</p> <p>第14回～第17回：農業工学分野のGIS演習（辻）</p> <p>第14回：GISで用いる地図投映法とArcGISの基礎演習</p> <p>第15回：既存GISマップを使用した土地利用主題図の作成演習</p> <p>第16回：新規データを用いた作目地図データベース作成演習</p> <p>第17回：農地の等高線作成や三次元地図作成演習</p> <p>第18回～第21回：農林地からの環境負荷の算出・データ整理方法（宗岡）</p> <p>第18回：水質汚濁成分の分類，面源汚濁の定義および流域の土地利用評価</p> <p>第19回：流域・流出成分・水位流量曲線の考え方と比流量の算出・推定方法</p> <p>第20回：流量・負荷量関係式（LQ式）等を用いた流域からの負荷流出量の算出</p> <p>第21回：広域集水域における河川の水質水文評価と水質保全対策</p> <p>第22回～第25回：フィールド調査に必要なGPSの操作法および回収データの整理法（木村）</p> <p>第22回：フィールド調査に必要なGPSの操作および解析方法</p> <p>第23回：フィールドデータを用いたプログラミング演習</p> <p>第24回：多変量解析によるフィールドデータの解析方法</p> <p>第25回：フィールドデータの解析結果の可視化演習</p> <p>第26回～第29回：バイオマスエネルギーの賦存量評価法（梅津）</p> <p>第26回：家畜頭数からの賦存量算定</p> <p>第27回：施設規模の設定</p> <p>第28回：プランニングと許認可取得</p> <p>第29回：コストと収益計算法</p> <p>第30回：特別演習の総合討議（辻・佐藤）</p>	オムニバス
	<p>農業機械システム工学特論</p>	<p>農畜産業で利用されるエネルギーや動力システム，各種畑作物と農作業機械システム，および酪農用機械施設の種類・構造・機能等を学び，その高度な開発設計，利用技術等について理解し，それを利活用できるよう以下の講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：大規模畑作の各種農業機械の種類と機能（佐藤）</p> <p>第2回：農業の機械化や農業情報に関する開発の最新動向（佐藤）</p> <p>第3回：動力システムと熱機関，自然・新エネルギーの利用（岸本）</p> <p>第4回：農用トラクタ工学と耕うん・碎土・整地作業機の構造機能と作業時の動力学（岸本）</p> <p>第5回：農畜産加工と施設生産（梅津）</p> <p>第6回：バイオマスエネルギーの理論と実際（梅津）</p> <p>第7回：粗飼料収穫機および穀物乾燥調製機械の種類と特徴（宮竹）</p> <p>第8回：酪農用の給餌・搾乳・ふん尿処理機械施設の構造と種類（宮竹）</p>	オムニバス

農業農村工学特論	<p>灌漑排水，農村計画，農地保全，地域環境情報，農業造構，農業水利，水環境保全および農業農村工学と環境教育について講義を行う。</p> <p>(全8回)</p> <p>第1回：灌漑排水－農業生産基盤を向上させる積雪寒冷地の灌漑排水</p> <p>第2回：農村計画－農村生活環境の整備と土地利用計画</p> <p>第3回：農地保全－積雪寒冷地における土壌侵食とその対策</p> <p>第4回：地域環境情報－GIS・GPSを用いた農業情報の構築とネットワーク化</p> <p>第5回：農業造構－積雪寒冷地における農業水利施設の維持管理</p> <p>第6回：農業水利－北海道十勝地域の農業と水文・気象</p> <p>第7回：水環境保全－農林地流域の河川水質環境と土地利用評価</p> <p>第8回：農業農村工学と環境教育－貴重な環境の保全と農業土木教育</p>	共同
農業環境物理学特論	寒冷地の農業を取り巻く気象環境に関わる基本的知識を踏まえ、最新の気象情報から環境問題などの具体的な課題について解説する。	
植物生産科学特別研究Ⅰ	主指導教員の指導の下、植物生産科学（栽培植物学、細胞生物学、植物生理学、微生物学、生物実験、植物遺伝育種学、ゲノム工学、植物病理学、土壌学など）に関わる特定の研究課題を設け、研究計画を作成し、研究情報の収集と整理、実験・調査の実施 及びその結果についての検討・考察を行うとともに、植物生産科学の専門家として相応しい倫理観を身に付ける。研究を進めるにあたっては、関係する専門領域にかかわる先端的なトピックを適宜扱う。	
植物生産科学特別研究Ⅱ	主指導教員の指導の下、植物生産科学（栽培植物学、細胞生物学、植物生理学、微生物学、生物実験、植物遺伝育種学、ゲノム工学、植物病理学、土壌学など）に関わる特定の研究課題を設け、研究計画を作成し、研究情報の収集と整理、実験・調査の実施 及びその結果についての検討・考察を行う。研究を進めるにあたっては、関係する専門領域にかかわる先端的なトピックを適宜扱う。	
植物生産科学特論	<p>環境保全型農業を確立するために必要な土壌学、作物学、作物生理学、草地学・草地利用学、育種学、植物病害虫制御学、耕地・草地環境学の各専門分野で必要な知識体系を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：資源循環型農業（谷）</p> <p>第2回：土壌学（谷）</p> <p>第3回：栽培植物学（三浦，森）</p> <p>第4回：植物生理学（春日）</p> <p>第5回：草地学・草地利用学（秋本，平田）</p> <p>第6回：植物遺伝育種学（加藤，大西）</p> <p>第7回：植物病理学（小池，相内）</p> <p>第8回：ジャガイモ遺伝・育種学（實友）</p>	

植物生産科学コース科目	植物生産科学特別演習	<p>植物生産管理学特論、植物生産環境学特論および植物遺伝育種学特論に関連するゼミ形式の演習を行い、環境保全型農畜産業を理解するうえで必要な調査・実験計画の立案および各種解析手法および報告書の作成と成果のプレゼンテーションの手法までを体系的に習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全31回)</p> <p>第1回：ガイダンス (三浦)</p> <p>第2回：希望する研究テーマに関する個人レポートの提出と論議 (三浦)</p> <p>第3回：個人の研究テーマのプレゼンテーションと討論 (三浦)</p> <p>第4回：2年生の調査研究発表の聴講および討論の参加 (全員)</p> <p>第5回：研究の方向性の理解1；研究倫理 (加藤)</p> <p>第6回：研究の方向性の理解2；テーマ設定の方法 (相内)</p> <p>第7回：研究の方向性の理解3；研究の方法 (実験計画法) (秋本)</p> <p>第8回：研究の方向性の理解4；研究の方法 (統計解析) (大西)</p> <p>第9回：研究の方向性の理解5；研究の方法 (資料の収集と記録) (平田)</p> <p>第10回：研究の方向性の理解7；論文の校正と体裁 (春日)</p> <p>第11回：植物生産管理科学に関連する科学論文の解読1：緒論と研究背景の理解 (谷)</p> <p>第12回：植物生産管理科学に関連する科学論文の解読2：材料と方法の理解 (谷)</p> <p>第13回：植物生産管理科学に関連する科学論文の解読3：結果と考察の理解 (谷)</p> <p>第14回：植物生産管理科学に関連する科学論文のプレゼンテーションと討論 (谷)</p> <p>第15回：2年生の調査研究発表の聴講および討論 (全員)</p> <p>第16回：地域の農業試験研究機関の見学：北海道農業研究センター (三浦)</p> <p>第17回：植物生産環境学に関連する科学論文の解読1：緒論と研究背景の理解 (小池)</p> <p>第18回：植物生産環境学に関連する科学論文の解読2：材料と方法の理解 (小池)</p> <p>第19回：植物生産環境学に関連する科学論文の解読3：結果と考察の理解 (小池)</p> <p>第20回：植物生産環境学に関連する科学論文のプレゼンテーションと討論 (小池)</p> <p>第21回：2年生の調査研究発表の聴講および討論 (全員)</p> <p>第22回：地域の農業試験研究機関の見学：十勝農業試験場 (大西)</p> <p>第23回：植物遺伝育種学に関連する科学論文の解読1：緒論と研究背景の理解 (加藤)</p> <p>第24回：植物遺伝育種学に関連する科学論文の解読2：材料と方法の理解 (加藤)</p> <p>第25回：植物遺伝育種学に関連する科学論文の解読3：結果と考察の理解 (加藤)</p> <p>第26回：植物遺伝育種学に関連する科学論文のプレゼンテーションと討論 (加藤)</p> <p>第27回：地域の農業試験研究機関の見学：種苗管理センター (三浦)</p> <p>第28回：学会発表用論旨の整理 (全員)</p> <p>第29回：学会発表用スライドの検討 (全員)</p> <p>第30回：学会発表予行プレゼンテーション (全員)</p> <p>第31回：総合論議 (全員)</p>	オムニバス
-------------	------------	--	-------

植物遺伝育種学特論	<p>近代遺伝学が、農業分野に与えてきたインパクトは、計り知れない。さらに、最近では、ゲノム科学の進展により、植物生産を支える作物の重要遺伝子がゲノム塩基配列を基盤として理解されるようになってきた。この講義では作物のゲノム配列情報に基づいて、育種学が新たに築きつつある作物の進化学、分子育種学、ゲノム育種学、遺伝資源利用学等に焦点をあて、理論的基礎とその育種への応用を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：栽培植物の起源と進化に迫るゲノム科学（三浦）</p> <p>第2回：近縁野生種に内在するゲノム配列の多様性と育種への活用（大西、秋本）</p> <p>第3回：モデル植物のゲノム科学と分子育種への応用（加藤、春日）</p> <p>第4回：ゲノム配列情報は育種をどう変えるか（森、實友）</p> <p>第5回：持続的作物生産を支える育種学 1：環境ストレス耐性の強化（大西、森）</p> <p>第6回：持続的作物生産を支える育種学 2：病害抵抗性の強化（實友）</p> <p>第7回：持続的作物生産を支える育種学 3：超多収に挑む（加藤、三浦）</p> <p>第8回：持続的作物生産を支える育種学 4：機能性強化（加藤、秋本）</p>	オムニバス
植物生産環境学特論	<p>様々な環境要因が植物の生育に影響を与える原理に関して、生物的(植物・病害虫・微生物)・非生物的(土壌・肥料・水・気象)アプローチから理論的基礎を学び、それぞれの分野の相互関係を理解する。さらに、ミクロ・マクロ的視点に立ち、それらを人為的に制御してより安定的な生産環境を確立する方法論について、最新の研究成果やトピックを取り上げながらそのメカニズムについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：植物生産における植物―寄生者間相互作用（小池、相内）</p> <p>第2回：植物生産における土壌環境とその制御（谷）</p> <p>第3回：植物生産における環境ストレスとその細胞応答メカニズム（森、春日）</p> <p>第4回：ストレス耐性の遺伝メカニズム（加藤、大西）</p> <p>第5回：総合的生産環境制御1：植物生産における微環境（森、春日）</p> <p>第6回：総合的生産環境制御2：気候変動により変容する植物生産（谷）</p> <p>第7回：総合的生産環境制御3：植物生産環境の人為的制御（小池、相内）</p> <p>第8回：総合的生産環境制御4：人為的制御と環境保全のバランス（加藤、大西）</p>	オムニバス
植物生産管理学特論	<p>生物学や環境生態、遺伝学、気象学などをベースに、作物を生産する圃場や気象などの立地環境の管理、栽培作物の適切な品種の選択や種苗の生産、病害虫や気象災害からの作物の保護と被害防止などに係る理論的基礎を学ぶとともに、それぞれの分野の相互関係を理解する。さらに、耕地生態系を持続的に管理して、環境に調和した作物生産を続けるために必要な栽培技術について、最新の研究成果やトピックを取り上げながら、具体的かつ実践的なアプローチについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：植物生産における総合的管理技術（谷）</p> <p>第2回：植物生産における立地環境の管理（三浦、秋本）</p> <p>第3回：作物栽培における種苗の生産と管理（實友）</p> <p>第4回：作物栽培における保護技術と防除（小池、相内）</p> <p>第5回：持続的作物生産管理1：近代農業技術の成果と問題点（小池）</p> <p>第6回：持続的作物生産管理2：作物生産と環境保全の両立（谷）</p> <p>第7回：持続的作物生産管理3：単純化と多様化との間の矛盾（相内）</p> <p>第8回：持続的作物生産管理4：地球規模的気候変動への対応（秋本）</p>	オムニバス

動物医科学特別研究 I	主指導教員の指導の下、発生学、形態機能学、生理学、薬理学、生化学などの学問を基礎とする動物医科学に関わる特定の研究課題を設け、研究計画を作成し、研究情報の収集と整理、実験・調査の実施 及びその結果についての検討・考察を行うとともに、動物医科学の専門家として相応しい倫理観を身に付ける。 研究を進めるにあたっては、関係する専門領域にかかわる先端的なトピックを適宜扱う。	
動物医科学特別研究 II	主指導教員の指導の下、発生学、形態機能学、生理学、薬理学、生化学などの学問を基礎とする動物医科学に関わる特定の研究課題を設け、研究計画を作成し、研究情報の収集と整理、実験・調査の実施 及びその結果についての検討・考察を行う。 研究を進めるにあたっては、関係する専門領域にかかわる先端的なトピックを適宜扱う。	
動物医科学特論	<p>基礎生物学や発生学、組織学などをベースに、伴侶動物、産業動物、実験動物、野生動物を対象として、基礎動物医科学、動物病態学、動物感染症学、病因制御学、動物臨床科学といった一連の動物医科学の総論的内容に関する内容を理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：動物基礎形態機能学 (佐々木)</p> <p>第2回：動物基礎薬理学 (石井)</p> <p>第3回：動物基礎病態学 (古林)</p> <p>第4回：動物基礎感染症学 (川本)</p> <p>第5回：獣医公衆衛生学 (廣井)</p> <p>第6回：動物基礎繁殖学 (松井)</p> <p>第7回：基礎小動物医療科学 (大石)</p> <p>第8回：基礎産業動物医療科学 (猪熊)</p>	オムニバス
動物医科学特別演習	<p>伴侶動物、産業動物、実験動物、野生動物を対象として、基礎生物学や発生学、組織学、生理学などをベースに、基礎動物医科学、動物病態学、動物感染症学、病因制御学、動物臨床科学といった一連の動物医科学の内容に関する参加型授業を行うことで実学的知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全32回)</p> <p>第1回：動物解剖学 (骨学) (近藤, 佐々木基)</p> <p>第2回：動物解剖学 (筋学) (近藤, 佐々木基)</p> <p>第3回：動物生理学 (動物性機能) (上川, 石川)</p> <p>第4回：動物生理学 (植物性機能) (上川, 石川)</p> <p>第5回：動物薬理学 (実験的常同行動と神経遮断薬) (室井, 石井)</p> <p>第6回：動物薬理学 (痛みと鎮痛薬) (室井, 石井)</p> <p>第7回：動物病理学 (病理解剖) (堀内, 古林)</p> <p>第8回：動物病理学 (病理組織診断) (堀内, 古林)</p> <p>第9回：動物寄生虫学 (玄)</p> <p>第10回：動物寄生虫病学 (玄)</p> <p>第11回：動物原虫学 (玄)</p> <p>第12回：動物原虫病学 (玄)</p> <p>第13回：動物微生物学 (DNAウイルス) (小川)</p> <p>第14回：動物微生物学 (RNAウイルス) (小川)</p> <p>第15回：動物微生物学 (グラム陽性細菌) (奥村, 倉園)</p> <p>第16回：動物微生物学 (グラム陰性細菌) (奥村, 倉園)</p> <p>第17回：人獣共通感染症学 (ウイルス性, 細菌性) (豊留, 廣井, 山崎)</p> <p>第18回：人獣共通感染症学 (真菌性) (豊留, 廣井, 山崎)</p> <p>第19回：毒性学 (解毒酵素誘導) (久保田, 川合)</p> <p>第20回：毒性学 (異物代謝) (久保田, 川合)</p> <p>第21回：生物統計学 (茅野)</p> <p>第22回：生物統計学 (茅野)</p> <p>第23回：産業動物医療技術 (牛診断) (滄木)</p> <p>第24回：産業動物医療技術 (牛治療) (滄木)</p> <p>第25回：産業動物医療技術 (馬診断) (佐々木直)</p> <p>第26回：産業動物医療技術 (馬治療) (佐々木直)</p> <p>第27回：小動物医療技術 (犬) (富張)</p> <p>第28回：小動物医療技術 (猫) (富張)</p> <p>第29回：繁殖診断技術 (牛) (羽田, 松井)</p> <p>第30回：繁殖診断技術 (馬) (羽田, 松井)</p> <p>第31回：画像診断・解析技術 (小動物) (宮原)</p> <p>第32回：画像診断・解析技術 (大動物) (宮原)</p>	オムニバス

動物機能医科学特論 I	<p>伴侶動物、産業動物、実験動物、野生動物を対象として、それら動物の発生学および細胞、組織、器官における形態機能学的特徴の理解をもとに、動物体としての総合的形態機能を系統進化的な観点をふまえて説明する。さらに、動物体の形態形成を発生工学的に遺伝子レベルで理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：細胞・組織の構造と機能 (北村)</p> <p>第2回：消化器系の発生形態機能 (北村)</p> <p>第3回：外皮・運動器系の発生形態機能 (佐々木)</p> <p>第4回：循環器・呼吸器系の発生形態機能 (佐々木)</p> <p>第5回：泌尿生殖器系の発生形態機能 (佐々木)</p> <p>第6回：感覚器系の発生形態機能 (近藤)</p> <p>第7回：脳・神経系の発生形態機能 (近藤)</p> <p>第8回：動物発生工学 (鈴木)</p>	オムニバス
動物機能医科学特論 II	<p>哺乳動物の体を構成する分子、細胞、組織、器官がもつ機能とその仕組み、機能統合システムとしての神経系と内分泌系について概説するとともに、トピックとして正常機能解明に向けた最近の動向や機能破綻と疾病との関係についても解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：ガイダンス・生体膜と細胞機能 (石川)</p> <p>第2回：糖質・脂質・アミノ酸の代謝生化学 (西川)</p> <p>第3回：腎および消化管機能と上皮膜輸送 (石川)</p> <p>第4回：循環器・呼吸器系の機能とその調節機構 (上川)</p> <p>第5回：内分泌系の機能：分泌と受容のメカニズム (上川)</p> <p>第6回：感覚器の機能と知覚のメカニズム (室井)</p> <p>第7回：運動器の機能とその調節機構 (室井)</p> <p>第8回：脳高次機能について (石井)</p>	オムニバス
動物病態・病因制御学特論 I	<p>伴侶動物、産業動物を中心に動物の疾病の成り立ちを細胞、組織、器官レベルでの説明し、個々の代表的な疾患について病因学的に理解する事で、病因制御を行う上で重要な病態について理解する。また、疾病と免疫について説明し宿主と病原体との関係性を理解する基礎を築く。更に寄生虫病学の観点から、具体的な病因制御について理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：動物病態学①：疾病概論、細胞傷害と細胞死、代謝異常 (古岡)</p> <p>第2回：動物病態学②：細胞の適応と創傷治癒、循環障害 (古岡)</p> <p>第3回：動物病態学③：炎症 (古林)</p> <p>第4回：動物病態学④：腫瘍 (古林)</p> <p>第5回：動物病態学⑤：個々の症例から学ぶ疾病の成り立ち (堀内)</p> <p>第6回：動物病態学⑥：感染と免疫 (玄)</p> <p>第7回：原虫病学 (玄)</p> <p>第8回：寄生虫病学 (玄)</p>	オムニバス
動物病態・病因制御学特論 II	<p>伴侶動物、産業動物、野生動物の感染症の病因微生物(細菌、ウイルス、真菌)の性状・生態、病原性、感染・伝搬経路、疫学特性などを解説し、感染症の診断、制御、予防に関する知識を教授する。また、伴侶動物、産業動物及び畜産物が媒介するヒトの感染症についても解説を行う。更に、化学物質の動物体内での代謝・動態及び毒性発現機序について解説を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：細菌性家畜伝染病学 1 (倉園)</p> <p>第2回：細菌性家畜伝染病学 2 (奥村), 魚病学 (楠本)</p> <p>第3回：ウイルス性家畜伝染病学 (小川)</p> <p>第4回：家禽疾病学 (小川)</p> <p>第5回：真菌性動物感染症学 (豊留)</p> <p>第6回：越境性動物疾病学 (川本)</p> <p>第7回：人獣共通感染症学・食品媒介感染症学 (廣井)</p> <p>第8回：動物における有害物質代謝動態学 (久保田)</p>	オムニバス

	動物臨床学特論Ⅰ	<p>小動物医療学における診療の進め方や、診断に至る考え方を理解するとともに、各種疾患の病因、病態生理、臨床徴候、診断、治療法を講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：診断の進め方、臨床検査学（松本） 第2回：主要症状と鑑別診断、内科学（松本） 第3回：外科免疫、整形外科学（富張） 第4回：腫瘍学（富張） 第5回：画像診断学（宮原） 第6回：軟部組織外科学（大石） 第7回：手術学（大石） 第8回：麻酔学（柳川）</p>	オムニバス
	動物臨床学特論Ⅱ	<p>産業動物の獣医療の場に同行し、動物の健康状態の客観的な評価法と病気の症状（特徴）について学習し、産業動物の健康状態（健康か否か）の客観的な評価法及び病気の動物の取り扱い方と症状の特徴を理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：一般身体検査の方法（山岸） 第2回：子牛の外科疾患（山岸） 第3回：乳牛の周産期疾患（山岸） 第4回：子牛の神経疾患（猪熊） 第5回：牛の循環器疾患（猪熊） 第6回：馬の外科疾患（佐々木） 第7回：牛の蹄病（滄木） 第8回：子牛の下痢症（伊藤）</p>	オムニバス
	動物臨床学特論Ⅲ	<p>産業動物、伴侶動物、野生動物を対象として、各種動物の繁殖生理学の理解をもとに、繁殖機能の人為的制御を利用した人工繁殖技術を説明する。さらに、繁殖障害とその対策を学び、家畜生産における繁殖管理の手法とその重要性を説明する。また、家畜生産における生殖工学技術の応用について紹介する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>第1回：繁殖の人為的制御①（牛、豚PartⅠ）（松井） 第2回：繁殖の人為的制御②（牛、豚PartⅡ）（羽田） 第3回：繁殖の人為的制御③（馬）（南保） 第4回：繁殖の人為的制御④（伴侶および野生動物）（松井） 第5回：繁殖障害（牛、豚）（羽田） 第6回：繁殖障害（馬および伴侶動物）（南保・松井） 第7回：家畜生産における繁殖管理（松井） 第8回：家畜生産における生殖工学の利用（松井）</p>	オムニバス

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
（畜産学研究科 畜産科学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通 必修 科目	リサーチコミュニケーション	専門性の異なる履修者から構成される少人数のグループ活動において、与えられた課題に対する問題解決方法を提案することを通じて、各自の研究内容や研究方法を共有して分野横断的な課題に協力して取り組み、社会ニーズに対応できる実践力とリーダーシップを身につけた教育者・研究者に必要な、他の専門分野の研究者等との間で双方向的なコミュニケーションを確立して社会的諸問題の解決に貢献する能力を育成します。 本科目は、研究科においてに、課題及び担当教員を履修年度ごとに設定します。、演習では、専門性の異なる数名の履修者が協力して課題解決に取り組み、計画の立案から解決方法の提案に至るグループ活動を集中的に行います。担当教員は、演習においてオブザーバーを務め、履修者間の相互のコミュニケーションが円滑に進むように、必要に応じて助言及び指導を行います。	集中
	獣医・農畜産学特論	獣医学分野と農畜産学分野の専門分野が異なる講師による講義を通じて、食と農のグローバル化への対応、食品の安全確保や環境・エネルギー問題への配慮、感染症の制圧といった多様な社会的課題に対応するための獣医学と農畜産学を融合した高度な専門知識と問題解決のための実践力を身につけることを目的とします。 専門分野が異なる4人の講師が多角的な視点から、社会的課題の対応に関する講義を行います。	集中
	獣医・農畜産学特別演習	履修者が取り組んでいる学位論文研究について、副指導教員による個別指導と研究経過に関するディスカッションを通じて、深い学識と高度な専門技術を身につけ、新規性及び独創性の高い先端的研究ができる能力を身につけることを目的とします。 2名の副指導教員が、学位論文の作成を個別に又は連携して指導するとともに、必要に応じて主指導教員が助言を行います。	集中
	特別研究	主指導教員及び副指導教員による個別指導を通じて、学位論文の作成に必要な研究計画の立案から実施、論文の作成に至る一連のスキルと、深い学識と高度な専門技術に基づく新規性及び独創性の高い学術論文を作成する能力を身につけるとともに、研究者として相応しい高い倫理観を身に付けることを目的とします。 個別指導においては、主指導教員及び副指導教員が連携して多面的に指導を行い、学術論文の作成に必要なスキルを教授するとともに、先端研究を担う教育者・研究者として必要な、高い倫理観・道徳観について指導を行います。 なお、倫理教育については、eラーニング（CITI）を利用した学習も実施します。	
	国内リサーチ演習	国内の外部試験研究機関の主導する研究活動に参加することを通じて、思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力と、新規性及び独創性の高い先端的研究ができる研究者としての知識と技術を修得することを目的とします。 履修者は、主指導教員による事前指導を受けた後に、国内での研究活動に参加し、当該機関の研究者（研究員や教員）、の指導を受けながら研究活動の一端を担います。研究活動終了後、履修者は、研究活動で得た成果を取りまとめてレポートを提出し、リサーチ演習報告会で成果報告を行い、ます。主指導教員は、成果の取りまとめに際して必要な助言及び指導を与えるとともに、報告会においてはオブザーバーを務め、必要に応じて助言を行います。	集中

海外リサーチ演習	<p>海外の試験研究機関の主導する研究活動に参加することを通じて、国際通用性のある思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力と、国際水準の先端的研究ができる研究者としての知識と技術を修得することを目的とします。</p> <p>履修者は、主指導教員による事前指導を受けた後に、海外での研究活動に参加し、当該機関の研究者（研究員や教員）の指導を受けながら研究活動の一端を担います。研究活動終了後、履修者は、研究活動で得た成果を取りまとめてレポートを提出し、リサーチ演習報告会で成果報告を行い、ます。主指導教員は、成果の取りまとめに際して必要な助言及び指導を与えるとともに、報告会においてはオブザーバーを務め、必要に応じて助言を行います。</p>	集中
国内フィールドワーク演習	<p>国内の外部試験研究機関の主導するフィールドワークに参加することを通じて、農畜産業のグローバル化に伴う多様な社会ニーズに対応できる実践力と、思考・判断の過程を説明するために必要なコミュニケーション能力を身につけることを目的とします。</p> <p>履修者は、主指導教員による事前指導を受けた後、国内でのフィールドワークに参加し、当該機関の研究者（研究員や教員）からフィールドワークの理論と方法について実践的な指導を受けます。フィールドワーク終了後は、フィールドワークで得た成果を取りまとめてレポートを提出し、フィールドワーク報告会で成果報告を行います。主指導教員は、成果の取りまとめに際して必要な助言及び指導を与えるとともに、報告会においてはオブザーバーを務め、必要に応じて助言を行います。</p>	集中
海外フィールドワーク演習	<p>海外の試験研究機関の主導するフィールドワークに参加することを通じて、国際的な視野を持って農畜産業のグローバル化に伴う多様な社会ニーズに対応できる実践力と、国際通用性のある思考・判断の過程を説明するために必要なコミュニケーション能力を身につけることを目的とします。</p> <p>履修者は、主指導教員による事前指導を受けた後、海外でのフィールドワークに参加し、当該機関の研究者からフィールドワークの理論と方法について実践的な指導を受けます。フィールドワーク終了後は、フィールドワークで得た成果を取りまとめてレポートを提出し、フィールドワーク報告会で成果報告を行い、ます。主指導教員は、成果の取りまとめに際して必要な助言及び指導を与えるとともに、報告会においてはオブザーバーを務め、必要に応じて助言を行います。</p>	集中
リサーチプロポーザル演習	<p>昨今の、大学・研究所等における競争的研究費獲得の重要性に鑑み、研究助成金の申請書作成ならびにヒアリング審査に関する指導を通して、社会ニーズに対応できる実践力とリーダーシップを有する教育者・研究者として必要な研究費獲得能力を育成します。</p> <p>研究助成金への申請においては、履修者の指導教員が、申請書作成のノウハウおよびヒアリング審査におけるポイントを実践的に指導します。また、海外の競争的研究費への申請等、英語による申請に必要なスキルを、外国人教員が実践的に指導します。</p>	集中
リサーチデータ解析演習	<p>生命、食料、環境に関する専門分野における研究スキルの向上を目的として、各専門分野に有用なデータの統計および解析の手法を教授します。</p> <p>各専門分野の統計・解析に必要な知識と応用方法を実践的に身に付けるために、履修者の指導教員が集中的に演習形式の授業を行うとともに、統計学の教員が統計およびデータ解析の基礎を指導します。</p>	集中
リサーチプレゼンテーション演習	<p>国内外の学会あるいは研究会への参加を通じて、国際通用性のある思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身につけることを目的とします。</p> <p>口頭発表あるいはポスター発表に必要なスキルを主指導教員と副指導教員が実践的に個別指導します。また、英語による発表に必要なスキルについては、指導教員と外国人教員が連携して指導します。</p>	集中

リサーチペーパーライティング演習	履修者が、主体的に計画して実行した先端的研究を学術論文に取りまとめることを通じて、国際通用性のある試行・判断の過程を説明するための能力を身につけ、新規性及び独創性の高い先端的研究ができる教育者・研究者としての知識と技術を身につけることを目的とします。 学術論文の投稿に必要な、研究の計画・実行から論文の作成・投稿に至るまでに必要な一連のスキルを主指導教員、及び副指導教員ならびに外国語教員が、連携して、実践的に個別指導します。また、英語論文の作成に必要なスキルについては、指導教員と外国語教員が連携して指導します。	集中
リサーチマネジメント演習	履修者の専門分野と関連する学部あるいは博士前期課程の学生を含む研究グループでのプログ्रेसミーティングにおけるファシリテーターを務めることを通じて、社会ニーズに対応できる実践力とリーダーシップを有する教育者・研究者として全体を統括できる能力を育成します。 プログ्रेसミーティングにおいては履修者の指導教員がオブザーバーを務め、必要な助言および指導を与えることで、リーダーとしてのあり方を実践的に教授します。	集中
アカデミックレクチャー演習	履修者の専門分野と関連する学部あるいは博士前期課程の講義科目について、1回分の模擬講義を実践することを通じて、優れた教育・研究スキルを身につけた教育者・研究者を育成します。 模擬講義の実施に当たっては、その準備から実施に至る一連のスキルについて、主指導教員及び副指導教員が連携して指導します。また、英語による講義の実施に必要なスキルについては、指導教員と外国人教員が連携して指導します。実際の模擬講義においては、主指導教員がオブザーバーを務め、模擬講義の終了後に必要な助言および指導を与えることで、講義による教授法を実践的に指導します。	集中
アカデミックティーチング演習	履修者の専門分野と関連する学部あるいは博士前期課程の学生に対して、自身の専門性に基づく知識と技術に関する個別指導を実践することを通じて、専門分野に関する深い学識と高度な専門技術を備えた教育者・研究者を育成します。 主指導教員は、専門分野の指導に必要な高度な知識と技術について教授するとともに、履修者による個別指導においてはオブザーバーを務め、必要な助言及び指導を与えることで、教育・研究スキルを実践的に教授します。	集中
社会人特別演習	履修者（社会人学生）がそれぞれの職場で実践している、学位論文研究以外での研究活動や普及活動についてのプレゼンテーションと質疑応答を通じて、社会ニーズに対応できる実践力と思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身につけ、それぞれの職場においてリーダーシップを発揮して全体を統括できる能力を育成します。 演習においては、主指導教員が研究・普及活動の事前及び事後に指導を行うとともに、プレゼンテーション発表においてはオブザーバーとして立ち会い、必要な助言を与えます。	集中
食品安全マネジメント・内部監査演習	ISO22000を始めとする食品安全マネジメントシステムの運用・管理を検証する内部監査の実施に関する知識、技能を習得する。 1. ISO22000の目的及びビジネス上での利点や構造、内容の要点を解説する。 2. ISO22000規格要求事項の解説と、その規格要求事項が実際の製造工程でどの様に反映されているかを解説する。 3. ISO19011に従った内部監査基礎と内部監査実習に必要な監査資料の作成手順を解説する。 4. 学内FSMS内部監査実施にメンバーとして参加して、監査実務を経験する。	集中
家畜疫学特論	フィールドにおける疾病のコントロールや食の安全につながる効果的な予防対策を提案するためには、リスク要因や交絡因子を推定する必要がある。原因論、疫学指標、疫学研究方法など疫学の基礎を前半に学び、後半では応用編として、サーベイランス、リスクアセスメント、生産病や感染症、また、食中毒など実際に報告された疫学研究事例（報告書や論文）をゼミ形式で学びながら、クラス全体での議論に重きを置く。	共同

畜産衛生学位プログラム科目	家畜衛生学特論	健康で丈夫な乳肉牛を，高い生産性を維持して飼養・繁殖するための特殊性と問題点を考え，牛の生理的バランスを保って生産してゆくための基礎概念と技術の実際を，ケーススタディを交えながら学ぶ。さらに，乳牛の乳生産に関わる主要な疾病問題や国内外の異なる乳肉牛の飼養管理システムとその衛生管理について、現状と課題を理解する。 授業計画（オムニバス方式/全16コマ） 第1回：高泌乳牛の乳生産，繁殖，栄養の特殊性と問題点（宮本） 第2回：乳牛の健康，生産性，繁殖性のための飼養管理（川島） 第3回：乳牛の健康と生産病：群管理と疾病予防，検査法（木田） 第4回：高泌乳牛の抱える繁殖障害の現状と課題（清水） 第5回：高泌乳牛の抱える繁殖障害の病態生理（清水） 第6回：乳肉牛の衛生管理：日本の現状と課題（アコスタ） 第7回：乳肉牛の衛生管理：世界の現状と課題（アコスタ） 第8回：議論と総括（宮本）	オムニバス
	衛生経済学特論	家畜生産および食品加工における衛生管理システムの経済的評価と社会的ニーズの把握を中心に、社会に求められている衛生管理システムの問題について講義し議論する。	
	国際衛生制度特論	食品由来疾患の問題は、包括的なグローバルな食品安全システムの重要性を強調する。しかし、食糧の規制と、法律、基準、協定、ガイドライン、その他の手段を通じて安全を確保しようとする試みは、様々な国際規制機関が設立されているが、なお問題が存在する。本講義では、効果的かつ包括的な食品安全ネットワークの開発の課題について検討する。 （オムニバス方式/全8回16コマ） 1. Introduction to hygiene policy and food safety（スミス） 2. HACCP training course（スミス） 3. International agencies and standards for hygiene（スミス） 4. Animal welfare 1（瀬尾） 5. Animal welfare 2（瀬尾） 6. Hygiene policy and food safety in Japan 1（岡崎） 7. Hygiene policy and food safety in Japan 2（岡崎） 8. Student presentations and final exam（スミス）	オムニバス
専攻選択科目	獣医・農畜産特別講義	獣医・農畜産融合の視点から、国内外の研究者（外部講師）による臨床獣医学、基礎獣医学、公衆衛生学、家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学等の獣医学分野、農畜産学分野及びその学際分野に関する講義を通じて、最新の知識と技術を駆使した先端的研究を担う能力を身につけることを目的とします。 講義は各専門分野の先端的研究を行っている国内外の研究者（外部講師）が行い、講義におけるディスカッションとレポートの提出後に、主指導教員が必要な助言と指導を行います。	
	English Communication for Science	国際学会において積極的な役割を果たすため、英語でのコミュニケーションスキルを修得させます。講義においては、学会参加、プレゼンテーション、ポスター発表等の作成に必要な英語能力、要約の書き方とともに、日々の研究活動に関連した語彙力の向上を指導します。	集中

（注）

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
（畜産学研究科 獣医学専攻 博士課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通 必修 科目	リサーチコミュニケーション	専門性の異なる履修者から構成される少人数のグループ活動において、与えられた課題に対する問題解決方法を提案することを通じて、各自の研究内容や研究方法を共有して分野横断的な課題に協力して取組み、社会ニーズに対応できる実践力とリーダーシップを身につけた教育者・研究者に必要な、他の専門分野の研究者等との間で双方向的なコミュニケーションを確立して社会的諸問題の解決に貢献する能力を育成する。 本科目は、研究科において、課題及び担当教員を履修年度ごとに設定する。演習では、専門性の異なる数名の履修者が協力して課題解決に取組み、計画の立案から解決方法の提案に至るグループ活動を集中的に行う。担当教員は、演習においてオブザーバーを務め、履修者間の相互のコミュニケーションが円滑に進むように、必要に応じて助言及び指導を行う。	集中
	獣医・農畜産学特論	獣医学分野と農畜産学分野の専門分野が異なる講師による講義を通じて、食と農のグローバル化への対応、食品の安全確保や環境・エネルギー問題への配慮、感染症の制圧といった多様な社会的課題に対応するための獣医学と農畜産学を融合した高度な専門知識と問題解決のための実践力を身につけることを目的とする。 専門分野が異なる4人の講師が多角的な視点から、社会的課題の対応に関する講義を行う。	集中
	獣医・農畜産学特別演習	履修者が取り組んでいる学位論文研究について、副指導教員による個別指導と研究経過に関するディスカッションを通じて、深い学識と高度な専門技術を身につけ、新規性及び独創性の高い先端的研究ができる能力を身につけることを目的とする。 2名の副指導教員が、学位論文の作成を個別に又は連携して指導するとともに、必要に応じて主指導教員が助言を行う。	集中
	特別研究	主指導教員及び副指導教員による個別指導を通じて、学位論文の作成に必要な研究計画の立案から実施、論文の作成に至る一連のスキルと、深い学識と高度な専門技術に基づく新規性及び独創性の高い学術論文を作成する能力の修得を目的とする。 個別指導においては、主指導教員及び副指導教員が連携して多面的に指導を行い、学術論文の作成に必要なスキルを教授するとともに、先端研究を担う教育者・研究者として必要な、高い倫理観・道徳観について指導を行う。	
	国内リサーチ演習	国内の外部試験研究機関の主導する研究活動に参加することを通じて、思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力と、新規性及び独創性の高い先端的研究ができる研究者としての知識と技術の修得を目的とする。 履修者は、主指導教員による事前指導を受けた後に、国内での研究活動に参加し、当該機関の研究者（研究員や教員）の指導を受けながら研究活動の一端を担う。研究活動終了後、履修者は、研究活動で得た成果を取りまとめてレポートを提出し、リサーチ演習報告会で成果報告を行う。主指導教員は、成果の取りまとめに際して必要な助言及び指導を与えると同時に、報告会においてはオブザーバーを務め、必要に応じて助言を行う。	集中
	海外リサーチ演習	海外の試験研究機関の主導する研究活動に参加することを通じて、国際通用性のある思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力及び、国際水準の先端的研究ができる研究者としての知識と技術の修得を目的とする。 履修者は、主指導教員による事前指導を受けた後に、海外での研究活動に参加し、当該機関の研究者（研究員や教員）の指導を受けながら研究活動の一端を担う。研究活動終了後、履修者は、研究活動で得た成果を取りまとめてレポートを提出し、リサーチ演習報告会で成果報告を行う。主指導教員は、成果の取りまとめに際して必要な助言及び指導を与えると同時に、報告会においてはオブザーバーを務め、必要に応じて助言を行う。	集中

研究科共通選択科目	国内フィールドワーク演習	国内の外部試験研究機関の主導するフィールドワークに参加することを通じて、農畜産業のグローバル化に伴う多様な社会ニーズに対応できる実践力と、思考・判断の過程を説明するために必要なコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 履修者は、主指導教員による事前指導を受けた後、国内でのフィールドワークに参加し、当該機関の研究者（研究員や教員）からフィールドワークの理論と方法について実践的な指導を受ける。 フィールドワーク終了後は、フィールドワークで得た成果を取りまとめてレポートを提出し、フィールドワーク報告会で成果報告を行う。主指導教員は、成果の取りまとめに際して必要な助言及び指導を与えるとともに、報告会においてはオブザーバーを務め、必要に応じて助言を行う。	集中
	海外フィールドワーク演習	海外の試験研究機関の主導するフィールドワークに参加することを通じて、国際的な視野を持つ農畜産業のグローバル化に伴う多様な社会ニーズに対応できる実践力と、国際通用性のある思考・判断の過程を説明するために必要なコミュニケーション能力の修得を目的とする。 履修者は、主指導教員による事前指導を受けた後、海外でのフィールドワークに参加し、当該機関の研究者からフィールドワークの理論と方法について実践的な指導を受ける。フィールドワーク終了後は、フィールドワークで得た成果を取りまとめてレポートを提出し、フィールドワーク報告会で成果報告を行う。主指導教員は、成果の取りまとめに際して必要な助言及び指導を与えるとともに、報告会においてはオブザーバーを務め、必要に応じて助言を行う。	集中
	リサーチプロポーザル演習	昨今の、大学・研究所等における競争的研究費獲得の重要性に鑑み、研究助成金の申請書作成ならびにヒアリング審査に関する指導を通して、社会ニーズに対応できる実践力とリーダーシップを有する教育者・研究者として必要な研究費獲得能力を育成する。 研究助成金への申請においては、履修者の指導教員が、申請書作成のノウハウおよびヒアリング審査におけるポイントの実践的な指導を行う。また、海外の競争的研究費への申請等、英語による申請に必要なスキルについて、外国人教員が実践的な指導を行う。	集中
	リサーチデータ解析演習	生命、食料、環境に関する専門分野における研究スキルの向上を目的として、各専門分野に有用なデータの統計および解析の手法を教授する。 各専門分野の統計・解析に必要な知識と応用方法を実践的に身に付けるために、履修者の指導教員が集中的に演習形式の授業を行うとともに、統計学の教員が統計およびデータ解析の基礎を指導する。	集中
	リサーチプレゼンテーション演習	国内外の学会あるいは研究会への参加を通じて、国際通用性のある思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力の修得を目的とする。 口頭発表あるいはポスター発表に必要なスキルを主指導教員と副指導教員が実践的に個別指導します。また、英語による発表に必要なスキルについては、指導教員と外国人教員が連携して指導を行う。	集中
	リサーチペーパーライティング演習	履修者が、主体的に計画して実行した先端的研究を学術論文に取りまとめることを通じて、国際通用性のある試行・判断の過程を説明するための能力を身につけ、新規性及び独創性の高い先端的研究ができる教育者・研究者としての知識と技術の修得を目的とする。 学術論文の投稿に必要な、研究の計画・実行から論文の作成・投稿に至るまでに必要な一連のスキルを主指導教員、及び副指導教員ならびに外国語教員が、連携して、実践的に個別指導します。また、英語論文の作成に必要なスキルについては、指導教員と外国語教員が連携して指導を行う。	集中
	リサーチマネジメント演習	履修者の専門分野と関連する学部あるいは博士前期課程の学生を含む研究グループでのプログレスミーティングにおけるファシリテーターを務めることを通じて、社会ニーズに対応できる実践力とリーダーシップを有する教育者・研究者として全体を統括できる能力を育成する。 プログレスミーティングにおいては履修者の指導教員がオブザーバーを務め、必要な助言および指導を与えることで、リーダーとしてのあり方を実践的に教授する。	集中

アカデミックレクチャー演習	履修者の専門分野と関連する学部あるいは博士前期課程の講義科目について、1回分の模擬講義を実践することを通じて、優れた教育・研究スキルを身につけた教育者・研究者を育成する。模擬講義の実施に当たっては、その準備から実施に至る一連のスキルについて、主指導教員及び副指導教員が連携して指導を行う。また、英語による講義の実施に必要なスキルについては、指導教員と外国人数員が連携して指導を行う。実際の模擬講義においては、主指導教員がオブザーバーを務め、模擬講義の終了後に必要な助言および指導を与えることで、講義による教授法を実践的に指導する。	集中
アカデミックティーチング演習	履修者の専門分野と関連する学部あるいは博士前期課程の学生に対して、自身の専門性に基づく知識と技術に関する個別指導を実践することを通じて、専門分野に関する深い学識と高度な専門技術を備えた教育者・研究者を育成する。主指導教員は、専門分野の指導に必要な高度な知識と技術について教授するとともに、履修者による個別指導においてはオブザーバーを努め、必要な助言及び指導を与えることで、教育・研究スキルを実践的に教授する。	集中
社会人特別演習	履修者（社会人学生）がそれぞれの職場で実践している、学位論文研究以外での研究活動や普及活動についてのプレゼンテーションと質疑応答を通じて、社会ニーズに対応できる実践力と思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身につけ、それぞれの職場においてリーダーシップを発揮して全体を統括できる能力を育成する。演習においては、主指導教員が研究・普及活動の事前及び事後に指導を行うとともに、プレゼンテーション発表においてはオブザーバーとして立ち会い、必要な助言を行う。	集中
食品安全マネージメント・内部監査演習	ISO22000を始めとする食品安全マネジメントシステムの運用・管理を検証する内部監査の実施に関する知識、技能を習得する。 1. ISO22000の目的及びビジネス上での利点や構造、内容の要点を解説する。 2. ISO22000規格要求事項の解説と、その規格要求事項が実際の製造工程でどの様に反映されているかを解説する。 3. ISO19011に従った内部監査基礎と内部監査実習に必要な監査資料の作成手順を解説する。 4. 学内FSMS内部監査実施にメンバーとして参加して、監査実務を経験する。	集中
家畜疫学特論	フィールドにおける疾病のコントロールや食の安全につながる効果的な予防対策を提案するためには、リスク要因や交絡因子を推定する必要がある。原因論、疫学指標、疫学研究方法など疫学の基礎を前半に学び、後半では応用編として、サーベイランス、リスクアセスメント、生産病や感染症、また、食中毒など実際に報告された疫学研究事例（報告書や論文）をゼミ形式で学びながら、クラス全体での議論に重きを置く。	共同
家畜衛生学特論	健康で丈夫な乳肉牛を、高い生産性を維持して飼養・繁殖するための特殊性と問題点を考え、牛の生理的バランスを保って生産してゆくための基礎概念と技術の実際を、ケーススタディを交えながら学ぶ。さらに、乳牛の乳生産に関わる主要な疾病問題や国内外の異なる乳肉牛の飼養管理システムとその衛生管理について、現状と課題を理解する。	
衛生経済学特論	家畜生産および食品加工における衛生管理システムの経済的評価と社会的ニーズの把握を中心に、社会に求められている衛生管理システムの問題について講義し議論する。	
国際衛生制度特論	食品由来疾患の問題は、包括的なグローバルな食品安全システムの重要性を強調する。しかし、食糧の規制と、法律、基準、協定、ガイドライン、その他の手段を通じて安全を確保しようとする試みは、様々な国際規制機関が設立されているが、なお問題が存在する。本講義では、効果的かつ包括的な食品安全ネットワークの開発の課題について検討する。 (オムニバス方式/全8回16コマ) 1. Introduction to hygiene policy and food safety (スミス) 2. HACCP training course (スミス) 3. International agencies and standards for hygiene (スミス) 4. Animal welfare 1 (瀬尾) 5. Animal welfare 2 (瀬尾) 6. Hygiene policy and food safety in Japan 1 (岡崎) 7. Hygiene policy and food safety in Japan 2 (岡崎) 8. Student presentations and final exam (スミス)	オムニバス
English Communication for Science	国際学会において積極的な役割を果たすため、英語でのコミュニケーションスキルを修得させる。講義においては、学会参加、プレゼンテーション、ポスター発表等の作成に必要な英語能力、要約の書き方を教授するとともに、日々の研究活動に関連した語彙力の向上に関する指導を行う。	

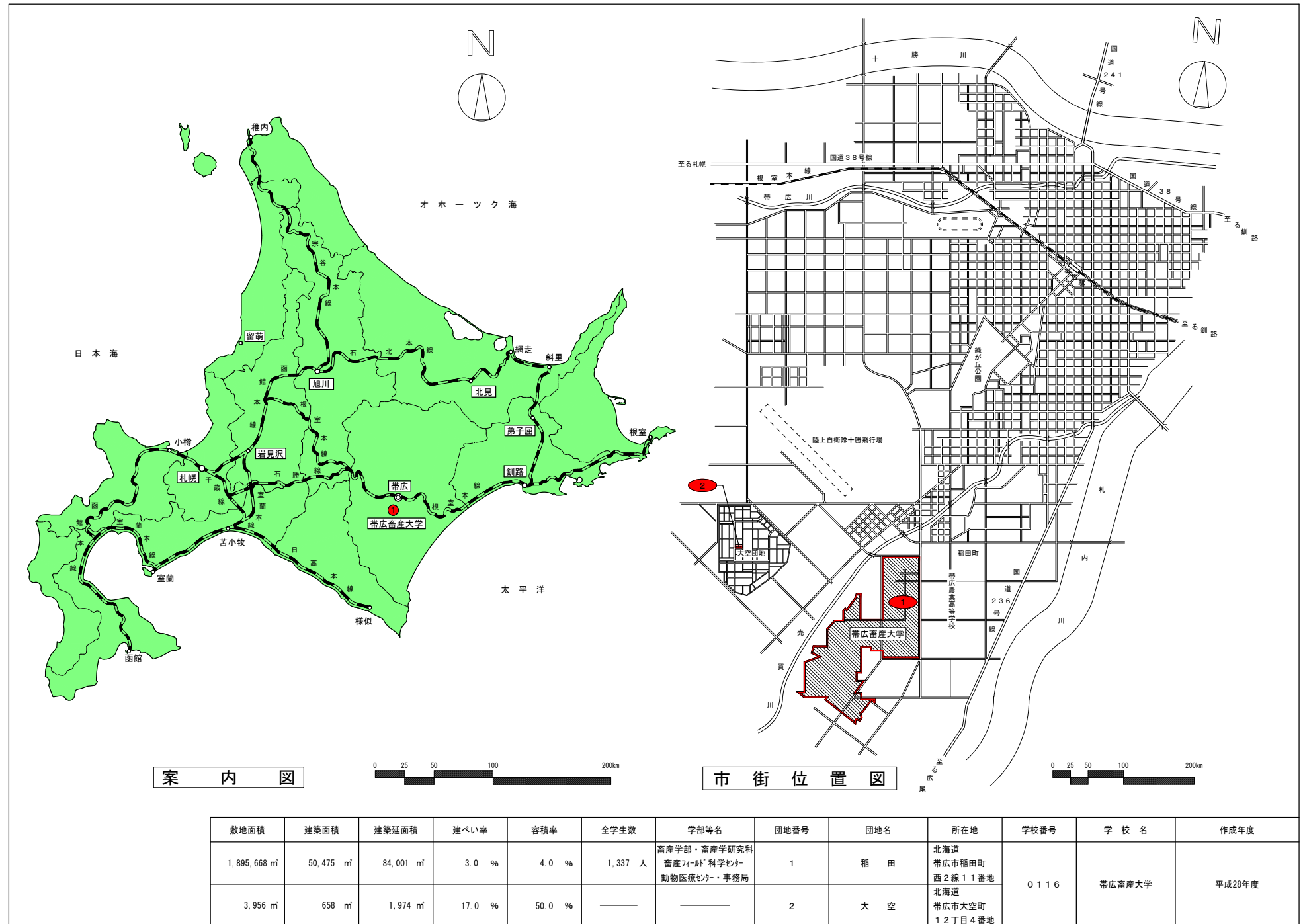
専攻必修科目	獣医・農畜産学特別講義	獣医・農畜産融合の視点から、国内外の研究者（外部講師）による臨床獣医学、基礎獣医学、公衆衛生学、家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学等の獣医学分野、農畜産学分野及びその学際分野に関する講義を通じて、最新の知識と技術を駆使した先端的研究を担う能力を身につけることを目的とする。 講義は各専門分野の先端的研究を行っている国内外の研究者（外部講師）が行い、講義におけるディスカッションとレポートの提出後に、主指導教員が必要な助言と指導を行う。	集中
	獣医学特論Ⅰ	主指導教員が、その専門領域において、指導学生の研究課題に関係する学術情報について講義を行う。受講者は、終了後に受講内容について、自身の研究課題への応用展開などを記述したレポートを提出する。	集中
	獣医学特論Ⅱ	副指導教員が、その専門領域において、指導学生の研究課題に関係する学術情報について講義を行う。履修者は、終了後に受講内容について、自身の研究課題への応用展開などを記述したレポートを提出する。	集中
	獣医学特別演習Ⅰ	履修者の研究課題と同じ専門領域の他の研究機関の専門家を訪問し、最先端の研究活動に触れ、研究の視野を広げるとともに、新たな研究手法などについて学ぶ。履修者は自身の研究課題について、その研究の意義、研究の進捗状況および今後の研究展開について発表を行い、論文研究課題に即した助言・指導を受ける。 履修者は、専門家からの指導内容について、自身の研究課題への応用展開などを記述したレポートを提出する。	集中
	獣医学特別演習Ⅱ	学際的な視野を育むために、他の研究機関から4名の専門家を招き、最新の学術研究や研究理念などに関する講義を実施する。各講義後に、各専門家と履修者が講義テーマについて討論する機会を設け、講義テーマの応用展開などについて議論する。履修者は、4名の専門家による演習の終了後、演習内容を基に自身の研究課題への応用展開などを記述したレポートを提出する。	集中
	基礎獣医学特論	基礎獣医学領域における高度な専門知識を習得するため、最新の学術情報について講義を行う。履修者は、4名の教員の講義（計8回）を選択し、終了後に受講内容について、自身の研究課題への応用展開などを記述したレポートを提出する。 講義内容（教員ごとに記載） 【石川透】 ①動物種差を利用した膜輸送タンパクの構造機能連関解析 ②チャネル・トランスポーター病に関する最新の基礎研究の紹介 【河津 信一郎】 ①顧みられない熱帯病 One Health ②顧みられない熱帯病 疫学調査 【石井利明】 ①離乳期の海馬神経における可塑的变化と海馬記憶について解説する。 ②パーキンソン病の錐体外路症状と認知障害について解説する。 【五十嵐慎】 ①獣医学領域における免疫学について ②免疫学における最新の学術研究の紹介 【横山直明】 ①国内の牛びろプラズマ病の現状 ②海外の牛びろプラズマ病の現状 【佐々木基樹】 ①生殖器系の機能形態解析の実践 ②運動器系の機能形態解析の実践 【西川義文】 ①寄生虫感染症の疫学 ②寄生虫感染症の免疫 【福本晋也】 ①ベクター媒介性感染症汚染地域における感染制御上の課題 ②ベクター媒介性感染症における最新の学術研究の紹介 【加藤健太郎】 ①原虫感染症の解析技術 ②原虫感染症における最新の学術研究の紹介 【室井喜景】 ①物の本能行動に関する最新研究の紹介 ②神経科学に関する最新研究の紹介 【久保田彰】 ①薬物代謝とシトクロムP450 ②代謝酵素誘導とそのメカニズム	オムニバス

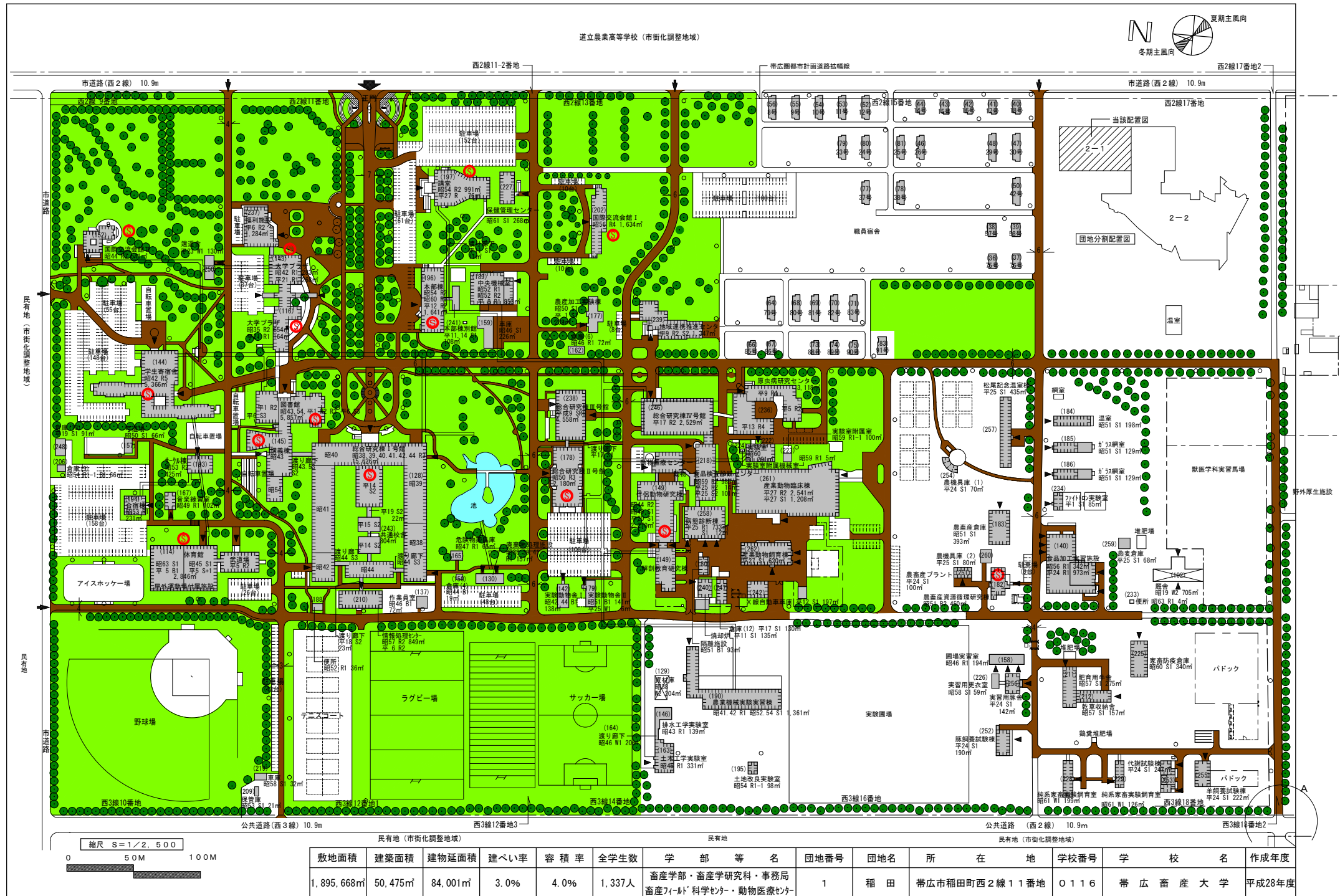
専攻科目 専攻選択科目	基礎獣医学特別演習Ⅰ	基礎獣医学領域についての最新の研究動向を文献調査し、高度な専門知識を習得するとともに、その学術情報について発表を行う。 履修者は、1名の教員を選択し、その教員の指導の下に定期的に開催される研究室および分野内でのセミナーに毎回出席し、質疑応答に参加するとともに、基礎獣医学領域の最新の研究動向が記載された文献を調査し、その内容について発表を行う。また、セミナーで配布したプリントや資料に関連した課題を提示し、次回までレポートとして提出させる。	集中
	基礎獣医学特別演習Ⅱ	基礎獣医学領域において、最新学術情報および高度な専門知識をえるために、国内外の多数の文献を精読し、ミニレビューにまとめる。 履修者は、1名の教員を選択し、基礎獣医学領域の学術論文を多数精読し、教員の指導のもと、1つのテーマについての最新の知見をミニレビューにまとめる。その教員との議論の際に、ミニレビュー作成へ向けての課題を提示し、次回までレポートとして提出させる。	集中
	臨床獣医学特論	臨床獣医学領域における高度な専門知識を習得するため、以下の各領域における最新の学術情報について講義を行う。履修者は、4名の教員の講義（計8回）を選択し、終了後に受講内容について、自身の研究課題への応用展開などを記述したレポートを提出する。 講義内容（教員ごとに記載） 【猪熊壽】 ①難診断疾患の病態解析 ②難診断疾患の診断へのアプローチ 【南保泰雄】 ①馬の繁殖生理学 ②馬の生産管理 【松井基純】 ①牛の臨床現場における繁殖の課題 ②牛の繁殖における最新の学術研究の紹介 【山岸則夫】 ①牛の臨床現場における分娩後疾患の課題 ②牛の分娩後疾患における最新の学術研究の紹介 【松本高太郎】 ①血節足動物媒介性疾患 ②吸血節足動物媒介性疾患の最新の研究の紹介 【富張瑞樹】 ①犬猫の臨床現場におけるがんの現状 ②犬猫のがんに対する最新の学術研究	オムニバス
	臨床獣医学特別演習Ⅰ	臨床獣医学領域についての最新の研究動向を文献調査し、高度な専門知識を習得するとともに、その学術情報について発表を行う。 履修者は、1名の教員を選択し、その教員の指導の下に定期的に開催される研究室および分野内でのセミナーに毎回出席し、質疑応答に参加するとともに、臨床獣医学領域の最新の研究動向が記載された文献を調査し、その内容について発表を行う。また、セミナーで配布したプリントや資料に関連した課題を提示し、次回までレポートとして提出させる。	集中
	臨床獣医学特別演習Ⅱ	臨床獣医学領域において、最新学術情報および高度な専門知識をえるために、国内外の多数の文献を精読し、ミニレビューにまとめる。 履修者は、1名の教員を選択し、臨床獣医学領域の学術論文を多数精読し、教員の指導のもと、1つのテーマについての最新の知見をミニレビューにまとめる。その教員との議論の際に、ミニレビュー作成へ向けての課題を提示し、次回までレポートとして提出させる。	集中

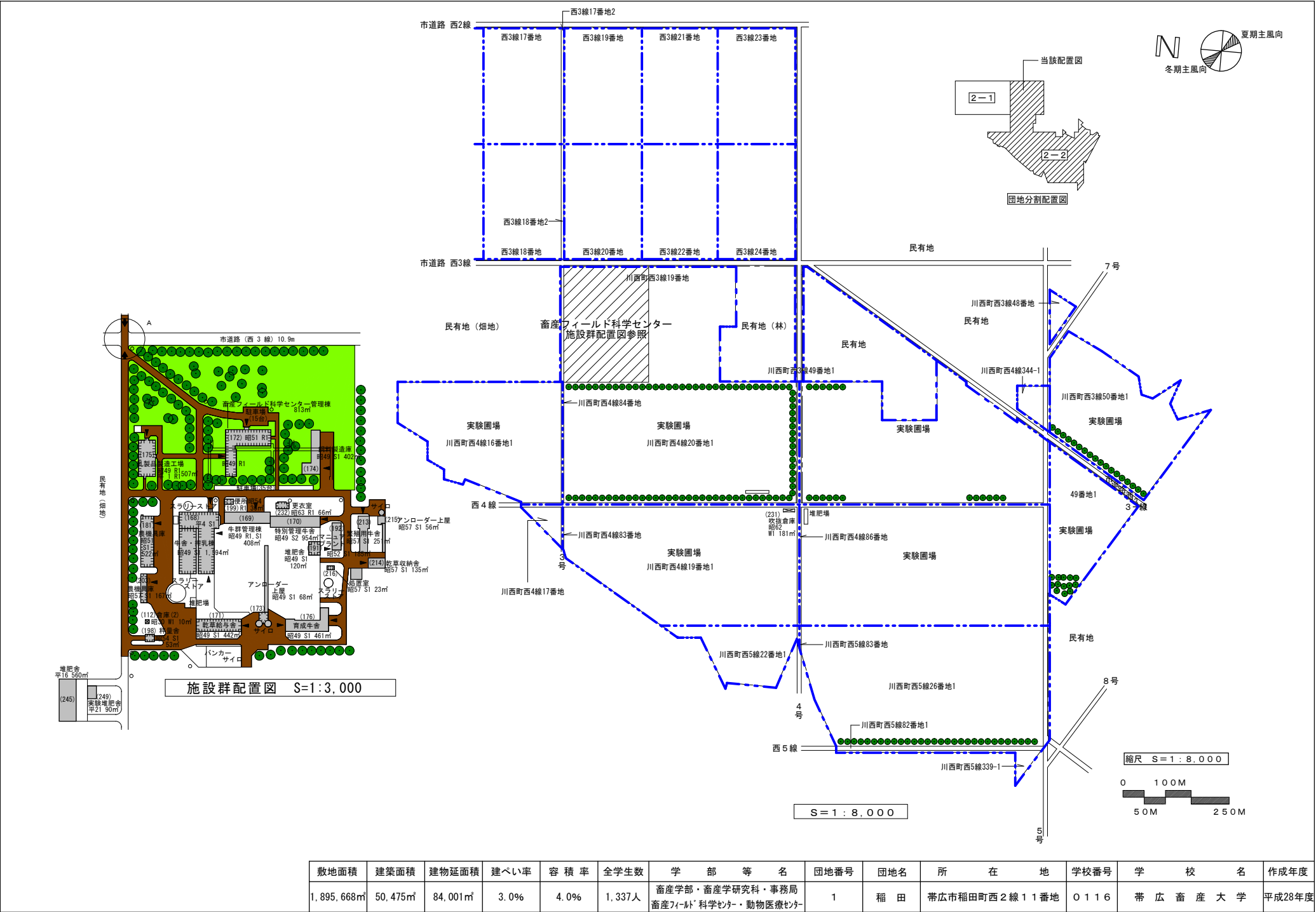
	応用獣医学特論	<p>授業計画</p> <p>応用獣医学領域における高度な専門知識を習得するため、以下の各領域における最新の学術情報について講義を行う。履修者は、4名の教員の講義（計8回）を選択し、終了後に受講内容について、自身の研究課題への応用展開などを記述したレポートを提出する。</p> <p>講義内容（教員ごとに記載）</p> <p>【倉園久生】</p> <p>①菌性食中毒の日本における現状</p> <p>②細菌性食中毒の世界における現状</p> <p>【鈴木宏志】</p> <p>①発生・生殖工学の意義と歴史</p> <p>②発生・生殖工学技術の応用によるバイオメディカルサイエンスへの貢献</p> <p>【玄学南】</p> <p>①マダニ媒介原虫感染症の概要</p> <p>②マダニ媒介原虫感染症の制御</p> <p>【小川晴子】</p> <p>①ウイルスの進化と生物との共存</p> <p>②新興再興ウイルス感染症</p> <p>【古岡秀文】</p> <p>①中枢神経感染症の病理(1)・病態および診断法</p> <p>②中枢神経感染症の病理(2)・細菌、ウイルス、プリオン感染症</p> <p>【古林与志安】</p> <p>①疾患診断への病理学的アプローチ</p> <p>②病態評価における病理学的解析法</p> <p>【川本恵子】</p> <p>①越境性動物疾病（陸生動物）</p> <p>②越境性動物疾病（水生動物）</p> <p>【廣井豊子】</p> <p>①原細菌の宿主細胞移行メカニズム</p> <p>②病原細菌制御に関する国際動向と関連学術研究</p>	オムニバス
	応用獣医学特別演習Ⅰ	<p>応用獣医学領域についての最新の研究動向を文献調査し、高度な専門知識を習得するとともに、その学術情報について発表を行う。</p> <p>履修者は、1名の教員を選択し、その教員の指導の下に定期的に開催される研究室および分野内でのセミナーに毎回出席し、質疑応答に参加するとともに、応用獣医学領域の最新の研究動向が記載された文献を調査し、その内容について発表を行う。また、セミナーで配布したプリントや資料に関連した課題を提示し、次回までにレポートとして提出させる。</p>	集中
	応用獣医学特別演習Ⅱ	<p>応用獣医学領域において、最新学術情報および高度な専門知識をえるために、国内外の多数の文献を精読し、ミニレビューにまとめる。</p> <p>履修者は、1名の教員を選択し、応用獣医学領域の学術論文を多数精読し、教員の指導のもと、1つのテーマについての最新の知見をミニレビューにまとめる。その教員との議論の際に、ミニレビュー作成へ向けての課題を提示し、次回までレポートとして提出させる。</p>	集中
	動物医療センター特別演習	<p>最先端の獣医療を提供する動物医療センターにおける診療業務および研究活動を学び、高度な獣医療について理解する。</p> <p>履修者は、動物医療センターにおける診療への参加、最先端の獣医療に関する知識および技術に関する講義・実習からなる集中プログラム（3日間）から、高度獣医療について学び、理解する。</p> <p>なお、施設紹介、診療実務の見学、研究紹介に関連した課題を提示し、演習終了後にレポートを提出させる。</p>	集中 3年間で1回開講
	動物・食品検査診断センター特別演習	<p>履修者は、動物・食品検査診断センターが提供する、食品有害微生物講習（3日間）への参加を通して、動物衛生や食品衛生に関する最先端の知識および高度な衛生管理について学び、理解する。</p> <p>【講習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サルモネラ属菌や腸管出血性大腸菌等の食中毒発生例の多い病原菌の検出法についての座学および実習（2.5日間）。 ・到達度確認試験 	集中 3年間で1回開講
	原虫病研究センター特別演習	<p>原虫病研究センターにおける研究活動を学び、動物および人の健康に寄与するための原虫病の発生抑制と疾病対策について学ぶ。</p> <p>履修者は、原虫病研究センターにおける研究活動への参加、原虫病に関する最先端の知識および技術に関する講義・実習からなる集中プログラム（3日間）から、原虫病の発生抑制と疾病対策などの衛生管理について学び、理解する。</p> <p>なお、施設紹介、研究紹介に関連した課題を提示し、演習終了後にレポートを提出させる。</p>	集中 3年間で1回開講

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。







○国立大学法人帯広畜産大学大学院学則（案）

（平成 16 年 4 月 8 日学則第 2 号）

第 1 章 総則

（目的）

第 1 条 大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

（研究科、課程及び専攻）

第 2 条 大学院畜産学研究科（以下「研究科」という。）の博士課程に畜産科学専攻及び獣医学専攻を置く。

2 畜産科学専攻の博士課程は、これを前期 2 年の課程及び後期 3 年の課程に区分し、前期 2 年の課程は、これを修士課程として取り扱うものとする。

3 前項の前期 2 年の課程は博士前期課程といい、後期 3 年の課程は博士後期課程という。

4 獣医学専攻の博士課程は、4 年の博士課程とする。

（各専攻の目的）

第 3 条 畜産科学専攻は、動物医科学、家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学等の農畜産科学分野及びその学際分野における最新の知識と技術を駆使して、獣医・農畜産融合の視点から、食の安全確保をはじめとするグローバル化した多様な農畜産に関する課題の解決に取り組むことができる、高度専門職業人、教育者及び研究者を養成することを目的とする。また、国際基準に適応した食品安全マネジメントシステムに関する専門教育を行うことで、畜産衛生の専門家を養成することも目的とする。

2 獣医学専攻は、基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学、臨床獣医学等の獣医学分野における最新の知識と技術を駆使して伴侶動物、産業動物及び野生動物を対象とした高度先端医療を担い、家畜生産を含めた幅広い生命科学の研究領域において、獣医・農畜産融合の視点から、国際水準の先端的研究を行う教育者・研究者を養成することを目的とする。

（コース及び学位プログラム）

第 4 条 畜産科学専攻の博士前期課程は、動物医科学コース、家畜生産科学コース、環境生態学コース、食品科学コース、農業経済学コース、農業環境工学コース及び植物生産科学コースをもって編成する。

2 畜産衛生に関する特定の学位を付与するために、畜産科学専攻に畜産衛生学位プログラムを設置する。

（収容定員等）

第 5 条 研究科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

専攻名	博士前期課程		博士課程及び博士後期課程	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
畜産科学専攻	48 人	96 人	10 人	30 人
獣医学専攻			5 人	20 人
合計	48 人	96 人	15 人	50 人

(標準修業年限及び在学年限)

第6条 畜産科学専攻博士前期課程の標準修業年限は2年、畜産科学専攻博士後期課程の標準修業年限は3年、獣医学専攻博士課程の標準修業年限は4年とする。

2 畜産科学専攻博士前期課程にあつては4年、畜産科学専攻博士後期課程にあつては6年、獣医学専攻博士課程にあつては8年を超えて在学することができない。

(長期にわたる教育課程の履修)

第7条 研究科において、学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修(以下「長期履修」という。)を認めることができる。

2 前項の規定により長期履修を認めることのできる期間は、次に掲げるとおりとする。

(1) 畜産科学専攻博士前期課程 4年以内

(2) 畜産科学専攻博士後期課程 6年以内

(3) 獣医学専攻博士課程 8年以内

3 第1項の規定により長期履修を認められた学生にあつては、長期履修を認められた期間に、1年を加えた期間を超えて在学することができない。ただし、1年を加えた期間が前条第2項に定める期間に満たない場合は、同項に定める期間、在学することができる。

4 前3項に規定するもののほか、長期履修の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

(学年、学期及び休業日)

第8条 研究科の学年は、4月1日に始まり翌年3月31日まで、又は10月1日に始まり翌年9月30日に終わる。

2 研究科の学期及び休業日については、国立大学法人帯広畜産大学学則（平成16年学則第1号。以下「本学学則」という。）の規定を準用する。

第2章 教育方法、授業科目、単位及び履修方法

(教育方法)

第9条 研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)により行う。

2 研究指導を行うために、学生ごとに指導教員を置く。

3 指導教員のうち、研究指導の直接的な責任を有する教員を主指導教員、それ以外の教員を副指導教員という。

4 前項に規定するほか、指導教員に関し必要な事項は、別に定める。

(授業科目及び単位)

第9条の2 研究科における授業科目、単位及び修了に必要な所定の単位（以下、「修了要件単位」という。）は別に定める。

(履修方法)

第10条 学生は、指導教員の指示に従い、履修しようとする科目を定め、当該科目の履修開始前に履修申告しなければならない。

2 前項に規定するほか、履修方法に関し必要な事項は、別に定める。

(他の大学院における授業科目の履修)

第11条 学生が他の大学院の授業科目を履修しようとするときは、本学学則の規定を準用する。ただし、この規定により履修した授業科目の単位については、10単位を限度として研究科における授業科目の履修により修得した単位として認めることができる。

(他の大学院等における研究指導)

第12条 研究科は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学院又は研究所等において、必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

2 研究科は、前項の規定により、学生が他の大学院等において研究指導を受けることを認めようとする場合には、あらかじめ当該他の大学院等との間に、研究指導の範囲、期間その他実施上必要とされる具体的な措置について協議するものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

第13条 研究科は、教育上有益と認めるときは、学生が大学院に入学する前に本学又は他の大学の大学院において履修した授業科目について修得した単位(大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第15条に定める科目等履修生として履修した単位を含む。)を、10単位を超えない範囲で研究科における授業科目の履修により修得した単位として認定することができる。

(単位の認定)

第14条 履修単位の認定は、筆記試験又は口述試験若しくは研究報告により行う。

第3章 進級、課程の修了及び学位の授与

(進級)

第14条の2 学修の進捗状況の審査及び試験に合格した者を、当該学期の翌学期の始めから、次の学年に進級させる。

(博士前期課程の修了及び学位の授与)

第15条 畜産科学専攻博士前期課程に標準修業年限以上在学して修了要件単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格した者を課程の修了者とし、別に定めるところにより修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関し

ては、優れた業績を上げた者については、博士前期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

- 2 前項の場合において、畜産科学専攻博士前期課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

(博士後期課程又は博士課程の修了及び学位の授与)

第16条 畜産科学専攻博士後期課程又は獣医学専攻博士課程に標準修業年限以上在学して修了要件単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格した者を課程の修了者とし、別に定めるところにより博士の学位を授与する。

- 2 前項の規定にかかわらず、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、次に掲げる年数以上在学すれば足りるものとする。

- (1) 畜産科学専攻博士前期課程に2年以上在学して当該課程を修了し、現に畜産科学専攻博士後期課程に在学する者 1年
- (2) 畜産科学専攻博士前期課程に1年以上2年未満在学して当該課程を修了し、現に畜産科学専攻博士後期課程に在学する者 博士前期課程における在学期間を含めて3年
- (3) 現に獣医学専攻博士課程に在学する者 3年

(教育職員免許状)

第17条 畜産科学専攻博士前期課程において、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)に規定する所定の単位を修得した者が取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりとする。

専攻・課程	免許状の種類	免許教科
畜産科学専攻 博士前期課程	高等学校教諭専修免許状	農業

第4章 入学、退学、転学、留学、休学及び復学

(入学の時期)

第18条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第19条 畜産科学専攻博士前期課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条に定める大学の卒業者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
 - (6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (7) 文部科学大臣の指定した者
 - (8) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程若しくは我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了し、本学の大学院において、所定の単位を優秀な成績で修得したと認めた者
 - (9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学の大学院に入学した者であって、本学の大学院において、その教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
 - (10) 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの
- 2 畜産科学専攻博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。
- (1) 修士の学位又は専門職学位(学校教育法第104条第1項の規定に基づき学位規則(昭和28年文部省令第9号)第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下この項において同じ。)を有する者
 - (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
 - (6) 文部科学大臣の指定した者

- (7) 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの
- 3 獣医学専攻博士課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位(学校教育法第104条第1項の規定に基づき学位規則(昭和28年文部省令第9号)第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下この項において同じ。)を有する者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 大学における修業年限6年の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者
- (8) 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの

(入学の志願手続)

第20条 入学志願者は、所定の期日までに入学願書に關係書類を添付して、学長あてに提出するものとする。

(入学者の決定)

第21条 入学者の決定は、学力検査の結果及び出身大学長の提出する調査書の成績並びに面接、健康状態等を総合して行う。

2 前項の検査の方法、時期等については、その都度これを定める。

(休学及び復学)

第22条 休学及び復学については、本学学則の規定を準用する。

2 休学期間は、修士課程及び博士前期課程にあつては2年、博士後期課程にあつては3年を超えることができない。

(退学、除籍、編入学、再入学及び転学)

第23条 退学、除籍、編入学、再入学及び転学については、本学学則の規定を準用する。

(留学)

第 24 条 研究科は、教育上有益と認めるときは、外国の大学の大学院との協議に基づき、学生を当該大学の大学院に留学させることができる。

2 本学学則及び第 11 条の規定は、外国の大学の大学院に留学する場合に準用する。

第 5 章 賞罰

(表彰及び懲戒)

第 25 条 表彰及び懲戒については、本学学則の規定を準用する。

第 6 章 検定料，入学料及び授業料

(検定料)

第 26 条 研究科に入学を志願する者は、検定料を納付しなければならない。

(入学料)

第 27 条 研究科の入学検定に合格した者は、入学料を納付しなければならない。

(授業料)

第 28 条 研究科の授業料は年額とする。

(授業料等の額及び徴収方法)

第 29 条 第 26 条の検定料，第 27 条の入学料及び前条の授業料の額については、別に定める。

2 前項の検定料，入学料及び授業料の徴収方法については、本学学則の規定を準用する。

(免除及び徴収猶予)

第 30 条 入学料，授業料の免除並びに徴収猶予については、別に定める。

第 7 章 研究生，科目等履修生，特別聴講学生，特別研究学生及び外国人留学生

(研究生)

第 31 条 研究科において、特別の事項について研究しようとする者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

(科目等履修生)

第 32 条 本学の大学院の所定の授業科目のうち 1 科目又は数科目を履修しようとする者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

(特別聴講学生)

第 33 条 他の大学の大学院の学生で、大学院において授業科目の履修を志願する者があるときは、当該他の大学の大学院と協議して定めるところにより、選考の上、特別聴講学生として入学を許可することがある。

(特別研究学生)

第 34 条 他の大学の大学院の学生で、大学院において研究指導を受けることを志願する者があるときは、当該他の大学の大学院と協議して定めるところにより、選考の上、特別研究学生として入学を許可することがある。

2 特別研究学生に関する必要な事項は、別に定める。

(公開講座)

第 34 条の 2 大学院に、公開講座を開設することがある。

2 公開講座に関する必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第 35 条 外国人で、教育を受ける目的をもって入国し、大学院に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 前項に規定する外国人留学生については、第 5 条に規定する収容定員外とすることができる。

(本学学則の準用)

第 36 条 第 31 条から第 33 条及び前条に定めるもののほか、研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生については、本学学則の規定を準用する。

第 8 章 運営状況等の公表

(自己点検・評価等)

第 37 条 大学院の教育研究活動等の状況については、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価の結果については、本学の職員以外の者による検証を行うよう努めるものとする。

(教育研究等の状況の公表)

第 38 条 大学院の教育及び研究並びに組織及び運営の状況は、これを公表するものとする。

附 則

1 この学則は、平成 16 年 4 月 8 日から施行し、平成 16 年 4 月 1 日から適用する。

2 平成 16 年度の収容定員は、第 5 条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

区分		収容定員
研究科	畜産管理学専攻	27 人
	畜産環境科学専攻	48 人
	生物資源科学専攻	22 人
	畜産衛生学専攻	15 人
合計		112 人

3 国立大学法人法(平成 15 年法律第 112 号)附則別表第 1 の上欄に掲げる帯広畜産大学の大学院に、平成 16 年 3 月 31 日に在学する者は、同表の下欄に掲げる国立大学法人帯広畜産大学が同法第 4 条第 2 項の規定により設置する同法別表第 1 の第 2 欄に掲げる帯広畜産大学の大学院の学生となるものとし、当該学生の教育課程については、なお従前の例による。

附 則(平成 17 年 3 月 16 日学則第 2 号)

この学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行し、平成 17 年度入学者から適用する。

附 則(平成 17 年 4 月 20 日学則第 4 号)

この学則は、平成 17 年 4 月 20 日から施行する。

附 則(平成 17 年 10 月 19 日学則第 7 号)

この学則は、平成 17 年 10 月 19 日から施行する。

附 則(平成 18 年 2 月 15 日学則第 1 号)

- 1 この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行し、平成 18 年度入学者から適用する。
- 2 畜産衛生学専攻の修士課程は、改正後の第 5 条の規定にかかわらず、平成 18 年 3 月 31 日に当該専攻に在学する者(平成 18 年 4 月 1 日以後において、これらと同一年次に入学した者を含む。)が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 平成 18 年度及び平成 19 年度における博士後期課程の収容定員は、第 6 条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

専攻名	博士後期課程	
	平成 18 年度	平成 19 年度
畜産衛生学専攻	7 人	14 人
合計	7 人	14 人

附 則(平成 19 年 2 月 19 日学則第 2 号)

この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 19 年 3 月 14 日学則第 3 号)

この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行し、平成 19 年度入学者から適用する。

附 則(平成 20 年 1 月 28 日学則第 1 号)

この学則は、平成 20 年 1 月 28 日から施行し、平成 19 年 12 月 26 日から適用する。

附 則(平成 20 年 2 月 21 日学則第 3 号)

この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年 3 月 6 日学則第 4 号)

この学則は、平成 20 年 3 月 6 日から施行する。

附 則(平成 22 年 3 月 18 日学則第 1 号)

- 1 この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

- 2 畜産管理学専攻，畜産環境科学専攻及び生物資源科学専攻は，改正後の第5条の規定にかかわらず，平成22年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなる日までの間，存続するものとし，当該学生の教育課程については，なお従前の例による。
- 3 平成22年度の収容定員は，第5条の規定にかかわらず，次のとおりとする。

専攻名	修士課程及び博士前期課程		博士後期課程	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
畜産生命科学専攻	18人	18人		
食品科学専攻	10人	10人		
資源環境農学専攻	13人	13人		
畜産管理学専攻		9人		
畜産環境科学専攻		24人		
生物資源科学専攻		8人		
畜産衛生学専攻	15人	30人	7人	21人
合計	56人	112人	7人	21人

附 則(平成24年3月15日学則第2号)

この学則は，平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成24年6月14日学則第3号)

この学則は，平成24年6月14日から施行し，平成24年4月18日から適用する。

附 則(平成24年6月14日学則第4号)

この学則は，平成24年10月1日から施行し，平成24年10月入学者から適用する。

附 則(平成24年9月13日学則第5号)

この学則は，平成24年10月1日から施行し，平成24年10月入学者から適用する。

附 則(平成27年1月15日学則第1号)

この学則は，平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成27年7月15日学則第3号)

- 1 この学則は，平成28年4月1日から施行する。ただし，別表第1の改正については，平成28年度入学者から適用する。
- 2 食品加工・利用学コース，食品機能科学コース，環境植物学コース，家畜環境衛生学コース，食品安全学コースは，改正後の第4条の規定にかかわらず，平成28年3月31

日に当該コースに在学する者が、当該コースに在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則(平成 29 年 3 月 日学則第 号)

この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 年 月 日学則第 号)

- 1 この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行し、平成 30 年度入学者から適用する。
- 2 改正前の専攻・コースは、改正後の第 4 条の規定にかかわらず、平成 30 年 3 月 31 日に当該専攻・コースに在学する者が、当該専攻・コースに在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 平成 30 年度から平成 32 年度までの収容定員は、第 5 条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

【平成 30 年度】

専攻名	修士課程及び博士前期課程		博士課程及び博士後期課程	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
畜産科学専攻	48 人	48 人	10 人	10 人
獣医学専攻			5 人	5 人
畜産生命科学専攻		18 人		
食品科学専攻		10 人		
資源環境農学専攻		13 人		
畜産衛生学専攻		15 人		14 人
合計	48 人	104 人	15 人	29 人

【平成 31 年度】

専攻名	博士前期課程		博士課程及び博士後期課程	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
畜産科学専攻	48 人	96 人	10 人	20 人
獣医学専攻			5 人	10 人
畜産衛生学専攻				7 人
合計	48 人	96 人	15 人	37 人

【平成 32 年度】

専攻名	博士前期課程		博士課程及び博士後期課程	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
畜産科学専攻	48 人	96 人	10 人	30 人
獣医学専攻			5 人	15 人
合計	48 人	96 人	15 人	45 人

○国立大学法人帯広畜産大学教授会規程

(平成16年4月7日規程第17号)

改正 平成27年2月18日規程第11号 平成27年3月19日規程第28号

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人帯広畜産大学組織規則(平成16年規則第1号)第19条第2項の規定に基づき、帯広畜産大学教授会(以下「教授会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 教授会は、学長が指名する理事及び専任教授をもって組織する。

(審議事項)

第3条 教授会は、次に掲げる事項を審議し、学長が当該事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項のうち、学長が教授会の意見を聴くことが必要と認めた事項

2 教授会は、前項に定めるもののほか、教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(議長)

第4条 教授会に、議長を置き、学長が指名する理事をもって充てる。

2 議長は、教授会を主宰する。

3 議長に事故があるときは、議長が指名した教授が、その職務を代行する。

(会議)

第5条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

2 教授会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(構成員以外の者の出席)

第6条 議長又は教授会が必要と認めたときは、構成員以外の者を会議に出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(代議員会)

第7条 教授会に代議員会を置き、第3条第1号及び第2号に定める審議事項については、代議員会の議決をもって教授会の議決とする。

2 代議員会に関する事項は、別に定める。

(庶務)

第8条 教授会の庶務は、総務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月7日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則(平成27年2月18日規程第11号)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月19日規程第28号)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類（目次）

1. 設置の趣旨及び必要性	1
（1）社会的背景	1
（2）設置に至るこれまでの取組	3
（3）養成する人材像	6
（4）人材需要の見通しと修了後の進路	9
2. 研究科・専攻の名称及び学位の名称	12
（1）研究科及び専攻の名称	12
（2）学位に付記する専攻分野の名称	13
（3）学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	15
3. 教育課程編成の考え方及び特色	17
（1）教育課程編成の考え方	17
（2）中央教育審議会提言との関係と教育課程の特色	21
4. 教員組織の編成の考え方及び特色	23
5. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件	24
（1）教育方法	24
（2）履修指導・研究指導の方法	25
（3）修了要件	28
6. 施設・設備等の整備計画	28
（1）施設	28
（2）設備	29
（3）図書・電子ジャーナル	29
7. 基礎となる学部との関係	29
8. 入学者選抜の概要	30
（1）アドミッション・ポリシー	30
（2）入学者選抜の方法	31
（3）入学定員と学生の分属	31
9. 取得可能な資格	32
10. 管理運営	32
11. 自己点検・評価	33
12. 情報の公開	34
13. 教育内容等の改善のための組織的な研修等	36

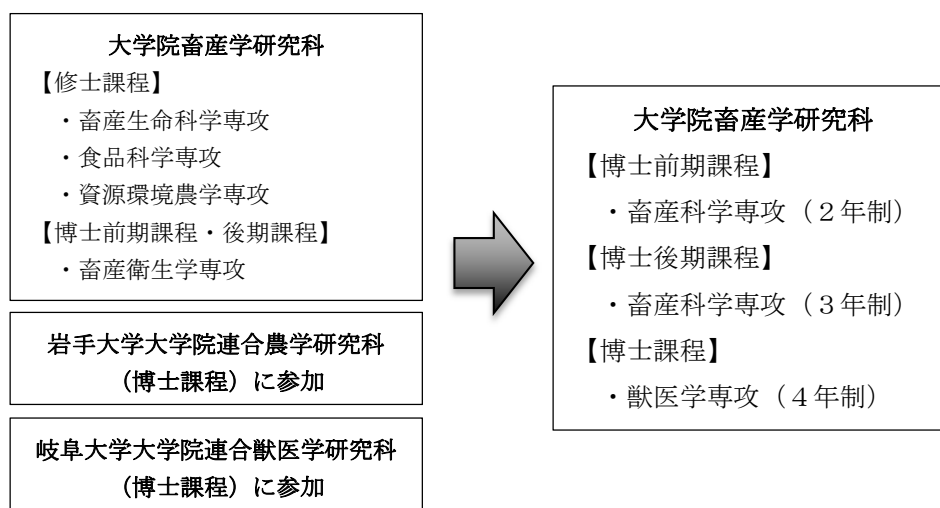
設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性

帯広畜産大学の基本的な目標は、「日本の食料基地」として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃う北海道十勝地域において、生命、食料、環境をテーマに「農学」「畜産学」「獣医学」に関する教育研究を推進し、知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、「食を支え、暮らしを守る」人材の育成を通じて地域及び国際社会に貢献することである。また、平成 26 年に公表した本学のミッションの再定義では、大学院教育改革の方向性として「グローバル人材を育成するため、獣医学分野と農畜産学分野を融合した実学重視の大学院教育を目指す」こと、研究推進の方向性として「獣医・農畜産分野の研究を一層推進し、我が国の農学関連学術分野の発展に寄与するとともに、食料安全保障、感染症対策等の地球規模課題の解決に貢献する」ことを掲げている。

本学の大学院教育では、これまで、牛海綿状脳症（BSE）の発生、腸管出血性大腸菌 0157 による食中毒の多発、食肉偽装等国民及び国の安全保障に大きな影響を及ぼす社会問題の発生等を踏まえ、「食の安全確保」に関する獣医領域と畜産領域の融合による基礎研究開発・実践技術修得を目的とした食料安全保障に貢献する高度人材育成のために、大学院畜産学研究科に「畜産衛生学専攻」（平成 16 年度博士前期課程、平成 18 年度博士後期課程）を設置するなど、獣医・農畜産融合の教育研究を実践してきた。

本設置計画は、近年の農学が直面する社会的課題、本学のこれまでの取組実績等を踏まえ、我が国唯一の国立農学系単科大学という強み・特色を活かし、大学院における獣医・農畜産融合の教育研究と国際通用力を持つ人材育成機能を強化するため、既存の大学院組織を改編して新たな畜産学研究科を設置するものである。（資料 1：畜産学研究科再編計画の概要）



（1）社会的背景

現代社会において農学分野が直面する課題は、三つの局面が複合している。第一の

局面は、食中毒、家畜感染症、食品偽装等の「食の安全」を脅かす諸問題が、農場から食卓に至る家畜生産、感染症対策、飼養管理、食品衛生管理、環境保全、流通、市場等の様々なプロセスにおける負の要因の組み合わせによって引き起こされる点にある。そのため、農学の特定分野の専門性のみでは根本的解決が困難になっている。第二の局面は、世界人口増加に伴う食料確保、国境を越えて移動する食品等の安全確保、感染症の制圧、エネルギー・環境への配慮等、農学系人材の担う課題が世界各国で協調して取り組むべき地球規模にまで拡大していることである。第三の局面は、国際市場の交易拡大、食と農のグローバル化を背景に、国際展開を図る食品関連企業等の国際安全基準の遵守、行政の検疫体制強化が求められ、食の安全安心対策を行使できる人材育成が急務なことである。

これらの課題に対応するための近年の国際社会の動向として、国際獣疫事務局（OIE）、国際連合食料農業機関（FAO）等の国際機関は、人間及び動物の間で流行する感染症の予防、食料供給問題、地球環境を脅かす諸課題の解決に世界中が一丸となって包括的に取り組み、人間や動物の健康を守り、地球の健全な生態系を維持しようという勧告（“One World One Health”）を様々な分野の関係機関に対して盛んに提唱している。また、世界約 170 か国の会員団体で構成される国際標準化機構（ISO）は、WTO 協定に基づき国境を越えて流通する原料・商品の品質、性能、安全性、試験方法等の国際規格を策定しており、グローバル化する現代社会においては、企業等が ISO の国際規格認証を取得することが世界的潮流となっている。特に、ISO22000（食品安全マネジメントシステム規格）の構成要素となる食品製造・加工の安全管理に関する規格（HACCP）については、EU 諸国や米国では HACCP システムによる食品の製造・加工・販売を既に義務化しており、世界的にも義務化の動きが進んでいる。

我が国の動向については、農林水産省が平成 32 年度を目標年度とする「獣医療を提供する体制の整備を図るための基本方針（平成 22 年 8 月）」において、「One Health」の新しい考え方に基づいた学術研究等の確立に向けた取組を支える獣医師の社会的ニーズと果たすべき責任が急速に増大しているとし、特に、産業動物分野・公務員分野の獣医師については、従来の個体診療に加えて農場単位での集団管理衛生技術、農場経営、農場 HACCP に関する知識・技術等の修得を図る機会を増大し、診療だけではなく飼養、管理及び経営等を含む幅広い指導を行う獣医師の養成を推進することとしている。また、同省は今後 10 年程度先までの施策の方向等を示す「食料・農業・農村基本計画（平成 27 年 3 月）」において、日本の農林水産物・食品の輸出や食品産業のグローバル展開を促進するための一方策として、輸出先となる国や事業者等から求められる HACCP、ハラール（イスラム教の教義に基づいて処理、加工された食品等）、GLOBAL G.A.P.（欧州の流通小売の大手企業が策定した取引要件としての「農業生産工程管理」）等の認証取得を促進することとしている。さらに、厚生労働省では、食中毒や異物混入等の事故を防止して食品の安全性の向上を図るため、2020 年までに食品企業等の HACCP 導入義務化を目指し、「食品衛生管理の国際標準化に関する検討会最終とりまとめ（平成 27 年 12 月）」において、食品衛生法等における HACCP によ

る衛生管理の制度化を提言した。

国境を越えて相次いで発生する家畜感染症や食品偽装等の問題は、容易に鎮まる傾向にはない。また、世界規模での市場拡大を背景に、日本が関わる環太平洋パートナーシップ（TPP）協定、日中韓自由貿易協定（FTA）、日 - EU 経済連携協定（EPA）等の経済連携は一層進展し、食の安全対策の重要性は益々高まると予想されている。上述の現代社会の農学が直面する複雑かつ多様な課題とこれらに対応するための社会の要請に応えるため、農学系人材は、専門分野の高度な知識・技術に加えて、農場から食卓までに至る農学の幅広い知識・技術と世界動向・国際基準を見据えた国際通用力を兼ね備えた人材育成が急務となっている。（資料 2：畜産学研究科再編の背景）

（2）設置に至るこれまでの取組

【獣医・農畜産融合の教育研究の推進】

平成 16 年度に設置した大学院畜産学研究科畜産衛生学専攻では、食の安全確保を担う専門家を育成するため、動物由来食品（動物及び乳・肉等）の安全性評価と生産から加工・流通に至る衛生管理について多元的な視点で捉えることを目標とし、農畜産学分野の学部卒業生等に対しては獣医学分野である公衆衛生・人畜共通感染症分野等の観点から知識を補完し、獣医学分野の学部卒業生等に対しては食品や農畜産物の生産や「食」を取り巻く最新の情報等を提供する分野横断的カリキュラムにより教育を実践してきた。また、同専攻は平成 18 年度から「魅力ある大学院教育イニシアティブ（食の安全に関わる高度専門家育成プログラム）」により、学生の研究テーマに即した海外インターンシップ演習、畜産衛生分野の第一線で活躍する専門家の講義等を充実し、平成 20 年度からは「組織的な大学院教育改革推進プログラム（食の安全確保の国際標準化による実践教育）」により、国際社会に求められる標準技術・制度等に関する教育科目・内容の充実、英語による実習教育の強化等を図った。

さらに、上述の獣医学分野と畜産学分野の融合領域「畜産衛生学」を全学的に展開して地球規模の融合実践科学として発展させるため、平成 20～24 年度に「グローバル COE プログラム（“アニマル・グローバル・ヘルス” 開拓拠点 - 地球規模の畜産衛生管理に向けた高度専門家育成 -）」を実施した。本事業では、異なる学術分野の教員・学生による少人数体制（23 のセルユニット）により海外学術研究フィールドを開拓し、研究成果を国内外の学術雑誌等に 215 報（平成 24 年度）の学術論文として発表するとともに、「バイオセキュリティ」「食品リスク」「衛生動物防除」等の新たな重点学際領域を推進した。

【大学の機能強化の推進】

平成 27 年度国立大学法人運営費交付金予算において、本学の機能強化事業「食と動物の国際教育研究拠点の形成」が承認された。本事業は、国際通用力を持つ教育課程及び食の安全確保のための教育システムを保有する我が国唯一の大学として、グローバル社会の要請に即した農学系人材を育成するため、①世界トップレベル大学との

国際共同研究の推進、②国際安全衛生基準適応の実習環境による人材育成、③企業等社会のニーズに即した共同研究・人材育成を柱とし、事業の成果を本設置計画に繋げるものである。(資料3：帯広畜産大学の機能強化)

①世界トップレベル大学との国際共同研究の推進

世界水準の教育研究活動を展開するため、全米獣医学教育ランキング第1位のコーネル大学及び農学分野の世界ランキング第4位のウィスコンシン大学と学術交流協定を締結するとともに、獣医・農畜産融合の国際共同研究を推進し、食と動物に係る世界の諸課題の解決に貢献するための組織として、平成27年4月に「グローバルアグロメディシン研究センター」を設置し、米国両大学との研究交流や招聘教員による特別講義等を実施中である。特に、平成28年度にはコーネル大学が主催する「水生動物医学入門(AQUAVET®コース)」にアジアから初めて大学院生を派遣するとともに、同大学の教育プログラムを本学に導入するために「疫学における発展的方法コース(Advanced Methods in Epidemiology)」を本学教員に受講させ、同教員による疫学統計セミナーを学内で4回実施した。

②国際安全衛生基準適応の実習環境による人材育成

農作物・食品等の国境を越えた流通拡大を背景として企業等に求められている国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材を育成するため、平成26年3月に本学の畜産フィールド科学センター乳製品工場が日本の大学として初めて世界最高水準の食品安全管理マネジメント認証(FSSC22000)を取得した実績に基づき、国際安全基準適応の実習施設群を構築して同施設群を活用した食品安全マネジメント教育を実施中である。このほか、平成28年12月に畜産フィールド科学センター搾乳施設においてISO22000(農場から食卓までのフードチェーン全体における食の安全を守るシステム基準)を取得するとともに、平成29年3月に原虫病研究センター及び動物・食品検査診断センターにおいてISO17025(化学試験、食品試験等を行う試験所の技術能力基準)を取得した。また、大学院生に対して「HACCPシステム構築」、「食品関連法規と食品加工・製造設備保全」等の講義を実施して履修者にHACCPシステム構築専門家資格を付与するなど、本設置計画において本格的に実施する食品安全マネジメント教育プログラムの準備を進めた。

③企業等社会のニーズに即した共同研究・人材育成

社会のニーズが高い実践的共同研究を推進するとともに、企業等の実務家教員による講義・実習を強化するため、平成25年度において地域連携推進センター内にインキュベーションオフィスを新設し、企業5社(よつ葉乳業㈱、日本甜菜製糖㈱、日本ハム㈱、敷島製パン㈱、カルビーポテト㈱)が入居して、同企業所属の客員教授及び大学院社会人入学の同企業社員による利用を開始した。平成27年度には企業との共同研究を推進するとともに学生の研究テーマと企業ニーズのマッチングを図るため、実務家教員として特任教授2名及び教育研究コーディネーター1名を採用して地域連携推進センターに配置し、社会で即戦

力となる人材を育成する体制を整備してオーダーメイド型実務教育を実施中である。採用した特任教授は本設置計画による大学院教育を担当する。

【連合大学院との関係】

本学は、平成2年4月に岐阜大学大学院連合獣医学研究科（構成大学：岐阜大学、岩手大学、東京農工大学、本学）に参加し、平成6年4月に岩手大学大学院連合農学研究科（構成大学：岩手大学、弘前大学、山形大学、本学）に参加した。連合大学院システムは、構成大学の異なる沿革、立地条件、保有施設、強みのある研究分野等の特色を補完して多彩な教育研究を展開し、これまで獣医学と農学のそれぞれの専門分野において多くの大学等の研究者及び社会の多方面で活躍する高度職業人を養成してきた。

近年の各国立大学は、自らの強み・特色を伸長し、社会的役割を一層果たすことが強く求められるようになり、地域の特性や各大学の強みをより一層生かして、互いの教育及び研究内容を補完しあう連携が進んでいる。

農学分野においては特に地方大学で地域創生に資する教育研究組織の再編等による機能強化の動きが加速しており、岩手大学大学院連合農学研究科の構成大学においても、東北地方に所在する岩手大学、弘前大学、山形大学の3大学では、特に東日本大震災以降、東北地域一丸となった地域創成が求められている。

獣医学分野においては2大学間での共同教育学部（課程）の設置が進み、岐阜大学大学院連合獣医学研究科においても、構成大学である岩手大学と東京農工大学は平成24年4月にこの2校で、基幹校である岐阜大学は平成25年4月に鳥取大学とそれぞれ共同獣医学科を設置し、大学院教育は学部の共同教育体制を基盤とする組織体制を計画中である。このように、いくつかの大学では、学部教育からの連続性を保つ形で大学院教育を進める方針をとっている。

本学の学部教育においては、国際通用性のある獣医師を養成する教育課程の実現を目指し、平成24年4月に北海道大学と共同獣医学課程を設置した。この共同獣医学課程において、本学は、我が国唯一の国立農学系単科大学として、畜産関連科目及び産業動物獣医療関連科目の多くを提供しており、獣医・農畜産融合の視点に基づく獣医学教育を担当している。

大学院教育において、北海道大学では、人獣共通感染症対策の専門家養成のため、獣医学研究科、医学研究科等の教員で構成される「国際感染症学院」を新たに設置し、大学院教育の強化を独自に進めている状況である。一方、本学は、農場から食卓に至る一連の教育研究環境を備え、獣医・農畜産融合の視点と世界動向・国際基準を見据えた取り組みにより獣医学・農畜産学の幅広い知識・技術と国際通用力を持つ人材育成を大学院において推進することとしており、これは本学における学部教育からの連続性を踏まえた人材育成の基本方針でもある。このように、獣医・農畜産融合の視点に基づく本学の大学院教育は、北海道大学での大学院教育とは、その方向性が異なるものであり、本学の強み・特色を生かした大学院教育実現のために、本学独自の大学

院を設置するに至った。

これらの状況等を踏まえて岩手大学大学院連合農学研究科は東北地方の創生に貢献する大学として本学以外の3大学の連合農学研究科に再編し、岐阜大学大学院連合獣医学研究科は、4つの構成大学がそれぞれ独自の大学院を設置して連合獣医学研究科を解消し、大学院教育においてそれぞれの大学の強み・特色を一層強化できる組織体制を構築することとした。これまで各連合大学院では、獣医学あるいは農学について、各構成大学の専門領域に関する高度な教育研究を行っており、これは専門領域に特化した人材育成に有効であると考えられてきた。一方、近年は、上述の社会的背景等により専門分野に特化・深化するだけでなく他分野も含め裾野の広い知識と総合力を有する人材育成も求められている。そこで、本学は、本設置計画において、獣医学・農畜産学の幅広い知識・技術を有する人材育成のために、本学の強みである獣医・農畜産融合の教育研究環境を利用した独自の大学院を設置するとともに、これまで各連合大学院が積み重ねてきた専門領域における高度な教育研究を継続して実践するために、連合大学院の解散又は離脱後においても引き続き連合大学院構成大学と連携関係を維持し、副指導教員の就任、学位論文審査委員の就任、特別講義・特別演習・ジョイントシンポジウムの開催等の教育連携を推進することとしている。

(3) 養成する人材像

本研究科は、学部学生時代に身に付けた食と農の大切さ、動植物の命の尊さ等の素養を基礎として、農場から食卓までの幅広い領域を学際的視点で捉える能力とあらゆる現場に適応できる知識・実践力を有するとともに、地球規模課題解決等の国際的視野を備えたグローバル人材を育成する。特に、博士後期課程においては「食料の生産性向上」、「動物及びヒトの健康向上」、「食の安全確保」を担う専門家として問題解決型の高度な研究能力、幅広い見識、国際通用力を備えた人材を育成する。

上述の研究科の「養成する人材像」において、「農場から食卓までの幅広い領域を学際的視点で捉える能力」は、博士前期課程におけるコース共通選択科目、獣医・農畜産融合の動物医科学コース提供科目、畜産衛生学位プログラム提供科目等により養成する。「あらゆる現場に適応できる知識・実践力」は、本学が位置する北海道十勝地域の恵まれた農業環境、学内の多様な教育研究実習施設等の実学環境を活用して、博士前期課程における各コースの専門科目等を展開することにより養成する。「地球規模課題解決等の国際的視野」は、博士前期課程における英語必修科目、国際農畜産衛生科学特論等の科目を提供するとともに、国際協力機構（JICA）との連携協定に基づく海外学生派遣事業、海外協定大学への留学派遣等の各種国際交流事業により養成する。

また、博士後期課程においては、「食料の生産性向上」の専門家養成を主に担当する畜産科学専攻の提供科目、「動物及びヒトの健康向上」の専門家養成を主に担当する獣医学専攻の提供科目、「食の安全確保」の専門家養成を主に担当する畜産衛生学位プログラムの提供科目により高度な研究能力を養成するとともに、研究科共通必

修・選択科目等により幅広い見識と世界トップクラス大学が実施する教育プログラムの導入や海外短期・長期研究等により国際通用力を養成する。

①畜産科学専攻（博士前期課程）

本専攻は、自身の専門分野に加えて隣接他分野の知識を有する視野の広い人材を育成するため、現行の修士課程（畜産生命科学，食品科学，資源環境農学の3専攻）及び博士前期課程（畜産衛生学専攻）を畜産科学専攻の1専攻に包括化することで、本学が掲げる獣医・農畜産融合の教育研究体制を充実する。

また、専門性の高い教育を行うためにコース制を導入し、学部教育の専門教育プログラムである6ユニット（家畜生産科学，環境生態学，食品科学，農業経済学，農業環境工学，植物生産科学）に対応した6コースを配置することにより学部教育との接続を円滑に行うとともに、コース横断型の教育科目を充実することで、農場から食卓までの「食の安全確保」をはじめとする農畜産学に関する課題解決能力と幅広い見識を備えた人材を育成する。さらに、学部畜産科学課程の教育ユニットにはない、獣医学に基礎を置く動物医科学に関するコースを新たに配置することにより、獣医・農畜産融合の教育研究体制をさらに充実するとともに、畜産科学専攻（博士前期課程）から獣医学専攻（博士課程）への接続も可能となる。

なお、本専攻を構成する7コースの養成する人材像は以下のとおりである。

表1：畜産科学専攻各コースの養成する人材像

コース名	養成する人材像
動物医科学	獣医師養成以外の学士課程を卒業した学生を受け入れ、基礎生物学や農畜産学の知識を基に、基礎動物医科学，動物病態学，動物感染症学，病因制御学，さらに動物臨床科学に関する知識を提供し，動物に関する様々な知識を社会に還元できる高度専門職業人を育成する。
家畜生産科学	家畜をはじめとする動物の生体機能，育種，繁殖，栄養，管理等に関する広範かつ体系的な知識や技術を身につけ，畜産・生命科学分野の様々な問題に柔軟に対応できる高度専門職業人，または畜産・生命科学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。
環境生態学	農畜産環境とそれを取り巻く自然環境に関する広範かつ体系的な知識を身につけ環境の保全・管理・利用に関する様々な問題に柔軟に対応できる高度専門職業人，または環境生態学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。

食品科学	農畜産物を原料とした食品の製造・加工及びその機能性・安全性に関する広範かつ最新の知見や技術を提供するとともに、演習や研究活動を通じた専門教育を行うことにより、食品業界をはじめとしてバイオ産業においても活躍できる高度専門職業人、または食品科学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。
農業経済学	農業経済を中心とする社会科学的視点から俯瞰できるような専門教育を行うことにより、フードシステムにおける特定課題の解決に向けた実践的方策を提示することができる高度専門職業人、または農業経済学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。
農業環境工学	農業環境工学の理論と実践に基づく先進的な農業生産技術と環境保全を両立させるための技術体系に関する専門教育を行うことにより、農業農村工学分野や農業機械システム工学分野で活躍できる高度職業専門人、または農業農村工学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。
植物生産科学	作物生産を支える土壌管理から畑作物と飼料作物の育種と栽培、病虫害管理及び草地利用までについて、ラボワークでの基礎からフィールドワークでの実証に至る専門教育を行うことにより、農畜産業の基盤づくりを担える高度専門職業人、または植物生産科学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。

②畜産科学専攻（博士後期課程）

本専攻では、家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学、畜産衛生学、動物医科学の農畜産学分野における新たな「獣医・農畜産学融合」教育体制で食と農のグローバル化を背景にした専門的知識及び創造性と優れた研究開発能力・教育能力を備えた豊かな人間力を持つ教育者・研究者を養成する。

③獣医学専攻（博士課程）

本専攻では、基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学、臨床獣医学等の獣医学分野における最新の知識と技術を駆使した先端研究を担うことができる人材や、伴侶動物、産業動物及び野生動物を対象として高度な最先端医療を推進する臨床獣医師など獣医科学と農畜産科学を融合した柔軟な発想で、農畜産業のグローバル化に伴う多様な社会ニーズに対応できる実践力とリーダーシップを発揮する能力を身につけ、食の安全や動物とヒトの健康の向上に貢献できる指導的な教育者・

研究者を養成する。

④畜産衛生学位プログラム

本プログラムは、農作物・食品等の国境を越えた流通拡大を背景として企業等に求められている国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材を育成するため、本学がこれまで畜産衛生学専攻において実践してきた「食の安全確保」に関する高度な専門教育を、**所属するカリキュラムコースに限定されることなく上記①及び②の全ての学生が履修可能な学位プログラムとして発展させるものである。**本プログラムでは、農畜産物をはじめとする食の安全衛生に関するマネジメントシステム等の専門教育を国際基準に適応した実習環境において行うことにより、優れた実践力及び応用力を身につけた畜産衛生の専門家を養成し、**その専門性に相応しい「修士（畜産衛生学）」及び「博士（畜産衛生学）」の学位を付与する。**また、博士前期課程及び博士後期課程で養成する人材像は以下のとおりである。

【博士前期課程】

HACCP システム専門家教育、六次産業化を目指した新加工技術の開発・製品開発に関する教育を実践的かつ体系的に行うことで、食品安全マネジメントシステムに関する知識及び技術を修得し、企業等と連携して、その知識・技術を現場へ応用できる人材を育成する。

【博士後期課程】

畜産衛生学に関する最先端の知識・技術を修得させる教育に加えて食品安全マネジメントシステムにおける HACCP 専門家教育をさらに発展した内部監査の手法等に関する教育を行うことで、畜産衛生学の国際的な研究者・高度専門家として活躍できる人材を育成する。

（４）人材需要の見通しと修了後の進路

本設置計画を進めるにあたり、人材需要等に関する企業アンケートを実施し、329社の回答を得た。本学の大学院の再編計画については、95.8%（315社）の企業が「社会ニーズに即した人材及び農学が直面する複雑な課題解決に貢献できる人材を育成するため、自身の専門分野に加えて農学の他分野を幅広く修得できるシステム（獣医・農畜産融合教育）を推進する」計画に賛同している。また、「ISO 等国际基準適応の教育環境・実習施設の活用、企業等の実務家教員による実践的な教育の充実、海外大学との教育・研究の交流推進により国際通用力のある人材を育成する」方針についても、96.4%（317社）の企業が賛同している。なお、各課程の修了後の進路等については以下のとおりである。（資料4：畜産学研究科に関する企業アンケート結果）

①畜産科学専攻（博士前期課程）

「動物医科学コース」は、本学が新たに取り組む大学院教育であり、近年の我が国における酪農・畜産業の振興の必要性、人間と動物の共存関係の高まり等を

踏まえ、農畜産学の知識を基礎に、獣医学に関する基礎知識を提供し、動物に関する様々な知識を社会に還元できる高度専門職業人の養成を目的としている。修了生の進路は医療関連企業、製薬会社、動物臨床検査機関等を想定している。修了生は、動物臨床科学に関する知識・技術を修得し、動物臨床における課題や必要性等の動物医療の現状を把握することで、同時に修得した動物の生理機能・形態等の基礎動物医科学の知識を活かしながら様々な動物医療関連の機器、素材、検査試薬等の開発・改良に貢献することが可能である。また、発生学、発生工学、実験動物学、組織学、生理学、薬理学等の基礎動物医科学の知識・技術を修得し、それらに毒性学、病理学等の病態・応用分野の知識を併せ持つことで、製薬会社での動物実験（催奇形性試験、生殖発生毒性試験、安全性試験等）、実験動物飼育管理や実験動物企業でのモデル実験動物作製等への貢献も期待される。さらに、感染症学、食品衛生学、動物衛生学、病理学等の知識・技術を修得し、それらに小動物、大動物の臨床科学に関する知識・技術を併せ持つことで、疾病診断や動物検査領域の職域に貢献することが期待される。

また、獣医学専攻（博士課程）に進学することにより、さらに高度な専門知識・技術及び研究能力を身につけ、国際通用力のある研究者として上記分野に貢献することも期待される。

なお、本コースの新設について企業アンケートを実施したところ、研究から営業・販売等の幅広い職種に依頼したにもかかわらず 87.9%（289 社）の企業が同コースで養成する人材の重要性が高まると回答し、うち関連のある医療関連企業、製薬会社、動物臨床検査機関等の 115 社もの企業から自社に必要とするとの回答を得ており、人材需要は高いと見込んでいる。（資料 5：動物医科学コースの概要、資料 4：畜産学研究科に関する企業アンケート結果）

その他のコースの修了生の進路については、現行の畜産学研究科修士課程の 3 専攻（畜産生命科学、食品科学、資源環境農学）において輩出している人材の進路を想定しており、博士後期課程に進学することに加えて、各種試験研究機関、飼料メーカー、食料品メーカー、農業機械メーカー、農薬・医薬品メーカー、バイオ産業、農業団体、農業等コンサルティング企業、公務員等である。

表 2：畜産学研究科修士課程の過去 5 年間の主な進路状況

業種	主な企業等名
各種試験研究機関	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 独立行政法人農畜産業振興機構
飼料メーカー	明治飼糧株式会社 住商アグリビジネス株式会社 協同飼料株式会社
食料品メーカー	日本甜菜製糖株式会社

	日糧製パン株式会社 よつ葉乳業株式会社
農業機械メーカー	株式会社コーンズ・エージー 株式会社前川製作所
農薬・医薬品メーカー	小林製薬株式会社 日本新薬株式会社 日本農薬株式会社
バイオ産業	日本クレア株式会社 株式会社東北バイオマス技術 株式会社セルバンク 株式会社新日本科学
農業団体	農業協同組合 ホクレン農業協同組合連合会
コンサルティング企業	株式会社長大
公務員	北海道庁（農業普及員等） 帯広市

②畜産科学専攻（博士後期課程）

現行の岩手大学大学院連合農学研究科において本学が輩出している人材の進路を想定しており，大学の研究者，公的試験研究機関の研究者，食品関連企業の研究職，農業関連団体の技術者等である。

表 3：岩手大学大学院連合農学研究科（本学所属）の過去 5 年間の主な進路状況

業種	主な企業等名
大学の教育・研究者	国立大学法人帯広畜産大学 国立大学法人北海道大学 ペラデニヤ大学 中国農業科学院上海獣医研究所
公的試験研究機関の研究者	国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所
食品関連企業の研究職	日本製粉株式会社 中央研究所 丸大食品株式会社
農業関連団体の技術者	ホクレン農業協同組合連合会 全国農業協同組合連合会

③獣医学専攻（博士課程）

現行の岐阜大学大学院連合獣医学研究科において本学が輩出している人材の進路を想定しており、大学の研究者、公的試験研究機関の研究者、製薬関連企業の研究職、農業関連団体獣医師等である。

表 4：岐阜大学大学院連合獣医学研究科（本学所属）の過去 5 年間の進路状況

業種	主な企業等名
大学の教育・研究者	国立大学法人帯広畜産大学 国立大学法人宮崎大学 国立大学法人北海道大学 国立大学法人岐阜大学
公的試験研究機関の研究者	北海道総合研究機構 畜産試験場 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所
製薬関連企業の研究職	富士フイルム RI ファーマ株式会社 小野薬品工業株式会社
農業関連団体の獣医師	十勝農業共済組合 全国農業協同組合連合会 家畜衛生研究所

④畜産衛生学位プログラム

現行の大学院畜産学研究科畜産衛生学専攻（博士前期・後期課程）において輩出している人材の進路を中心に、「1. 設置の趣旨及び必要性（1）社会的背景」のとおり、農作物・食品等の国境を越えた流通拡大を背景として企業等に求められている国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材需要は今後急速に高まると予想している。博士前期課程においては、博士後期課程への進学に加えて、食品関連企業、農業団体、役所等において HACCP システム構築専門家等の食の安全対策を行使できる職員等を想定し、博士後期課程においては、食の安全衛生等に関する大学の研究者、企業等における HACCP システム内部監査員、衛生管理リスク分析者等の専門家を想定している。

2. 研究科・専攻の名称及び学位の名称

（1）研究科・専攻等の名称

大学院畜産学研究科 (Graduate School of Animal and Veterinary Sciences and Agriculture)
①畜産科学専攻（博士前期課程） (Master's Program of Animal Science and Agriculture)

②畜産科学専攻（博士後期課程）

(Doctoral Program of Animal Science and Agriculture)

③獣医学専攻（博士課程）

(Doctoral Program of Veterinary Science)

④畜産衛生学位プログラム（①～③の学生を対象に実施）

(Graduate Degree Program of Animal and Food Hygiene)

研究科の名称は、現在の「畜産学研究科」のとおりとする。なお、英語名称については、新たに獣医学専攻（博士課程）及び畜産科学専攻（博士後期課程）を設置して研究科が担う学問分野を拡充することから、国際的に理解しやすいように現在の Graduate School of Animal Husbandry を変更し、Graduate School of Animal and Veterinary Sciences and Agriculture とする。また、研究科を構成する2つの専攻名は、畜産科学 (Animal Science and Agriculture) 及び獣医学 (Veterinary Science) とし、研究科が担う学問分野を2専攻で区分する名称とする。

畜産衛生学位プログラムは、本学がこれまで畜産衛生学専攻において実践してきた「食の安全確保」に関する専門教育を上記①～③の全ての学生が履修可能な学位プログラムとして発展させるものであり、現行の名称である「畜産衛生学」及び英文名称「Animal and Food Hygiene」を使用する。

（２）学位に付記する専攻分野の名称

①畜産科学専攻（博士前期課程）

コース名	学位の名称
・動物医科学	⇒修士（動物医科学）“Master of Veterinary Life Science” ⇒修士（農学）“Master of Agriculture”
・家畜生産科学	
・環境生態学	
・食品科学	
・農業経済学	
・農業環境工学	
・植物生産科学	

動物医科学コースを修了した者には「修士（動物医科学）“[Master of Veterinary Life Science](#)”」の学位を授与する。

動物医科学コースは、獣医師養成教育以外の教育を受けた学士課程の卒業生を対象としていることから、学位に付記する専攻分野は「獣医学」と明確に区分する必要がある。また、本コースが担う学問領域は、基礎生物学、畜産学等の知識の修得を前提に、獣医学領域である動物臨床科学の知識、発生学・薬理学等の動物機能医科学の知識、感染症学・動物衛生学等の動物病態・病院制御学の知識を多種多様な動物種を対象として教授するため、本専攻の他コースが担う農畜産学

分野とも性質が異なる新たな領域である。したがって、学位に付記する専攻分野はコースの教育内容を明確にするため「獣医学」又は「農学」とせずに、獣医学的な視点に立った教育及び学問体系として広く使用されている「動物医科学」とし、上述の知識の教授によって医療関連企業、製薬会社、病理・臨床検査機関等の医療分野に従事できる人材を育成するものである。さらに、英文名称については、海外において動物医科学は「獣医学」を意味し、Veterinary Medicine や Veterinary Science と記載されるのが一般的であるが、獣医学教育の積上げではない本コースの教育内容とは意を異にする。このため、英文名称はこれらの表記ではなく、獣医学的知識を必要とする領域で活躍できる人材を育成する生命科学の学問体系であるとの意を込めて「修士（動物医科学）“Master of Veterinary Life Science”」とする。本コースのように獣医学領域の研究・教育を、獣医師養成教育以外の教育を受けた学士課程の卒業生に提供する修士課程を開設している大学は国内外にも認められ、宮崎大学の大学院医学獣医学総合研究科には生命科学研究者育成コース「修士（動物医科学）“Master of Veterinary Science”」が開設されている。一方海外でも、動物医科学に関連したプログラム（課程）と学位において、以下のような先行例が認められる。

●University of Georgia, College of Veterinary Medicine (ジョージア州, 米国)

プログラム: Master of Science Program in Comparative Biomedical Sciences

学位名称: Master of Science (M.S.) in Comparative Biomedical Sciences

カリキュラム概要: 病理学, 疫学, 免疫学, ウイルス学, 細菌学, 寄生虫学, 薬理学, 毒性学, 生理学, 解剖学, 行動学などの獣医学及び生物医科学に関連した基礎科学的知識を兼ね備えた人材の育成を目的としたプログラムである。

●University of Guelph, Ontario Veterinary College (ゲルフ, カナダ)

プログラム: Master of Biomedical Science Program

学位名称: Master of Biomedical Science (M.B.S)

カリキュラム概要: 広範囲にわたる生物医科学領域の教育・研究を視野にいたした修士プログラムで、繁殖生物学, 発生学, 細胞および分子病理学, 毒性学, 薬理学に関する教育・研究内容が設定されており、分子および細胞レベルでの動物発生, 様々な組織器官の正常および異常機能, さらに治療法や薬物毒性に関する薬理作用の生物科学的解析などが行われている。

●The University of Edinburgh (エディンバラ, 英国)

プログラム: MS Animal Biosciences Program

学位名称: Master of Science (M.S.) in Animal Biosciences

カリキュラム概要: 本プログラムは、One Biology, One Health, One Medicine の

概念を探究することを主眼として動物生物科学の教育・研究を行っており、これらの知識と技術に裏付けられた独自の研究の遂行を目的としている。プログラムは、Roslin Institute の協力によって実施されている。

上述のように、これら先行例では入学対象に加えて、教育・研究における領域やその内容において本コースのものと多くの共通点を有している。さらに、本コースは、上述の先行大学において実施する生物医科学領域に加え、動物の個体および集団管理といった他の生命科学(Life Science)の領域に関する教育や研究も実践する。したがって、これらの観点から「修士（動物医科学）“Master of Veterinary Life Science”」は国際的通用性を持つと考える。

他の 6 コースを修了した者には、現行の畜産学研究科の修士 3 専攻で授与する学位と同様の「修士（農学）“Master of Agriculture”」を授与する。

なお、畜産衛生学位プログラムを履修し、要件を満たして修了した者には、上記の学位に代えて、④で後述する「修士（畜産衛生学）」の学位を授与する。

②畜産科学専攻（博士後期課程）

現行の岩手大学大学院連合農学研究科で授与する学位と同様の「博士（農学）“Doctor of Agriculture”」を授与する。

なお、畜産衛生学位プログラムを履修し、要件を満たして修了した者には、上記の学位に代えて、④で後述する「博士（畜産衛生学）」の学位を授与する。

③獣医学専攻（博士課程）

現行の岐阜大学大学院連合獣医学研究科で授与する学位と同様の「博士（獣医学）“Doctor of Veterinary Science”」を授与する。

④畜産衛生学位プログラム

本プログラムは、畜産衛生の専門家を養成して、その専門性に相応しい学位を付与するための学位プログラムである。

現行の畜産学研究科畜産衛生学専攻（博士前期・後期課程）は、畜産物由来食品の安全性評価と生産から加工・流通に至るまでの衛生管理に特化した教育研究を行う専攻として設置され、課程修了者には修士（畜産衛生学）又は博士（畜産衛生学）を授与している。畜産衛生学位プログラムは畜産衛生学専攻の教育理念を踏襲するとともに、国内外で急速に進む食品企業等の HACCP 導入義務化の動向等を背景とする食の安全対策の専門人材の需要の高まりに対応するため、現行の畜産衛生学専攻における教育研究を改編・充実し、博士前期課程においては HACCP

システム専門家教育等の食品安全マネジメントシステムに関する知識・技術等を修得して現場に応用できる人材を育成し、博士後期課程においては畜産衛生学に関する最先端の知識・技術や精度の高い HACCP システム内部監査を遂行するための知識・技術等を修得して研究者・高度専門家として活躍する人材を育成する。このため、各課程において本プログラムを履修して修了した者には、以下のとおり現行の畜産衛生学専攻で授与する学位と同様の学位を授与する。

【博士前期課程における本プログラム修了者】

修士（畜産衛生学）“Master of Animal and Food Hygiene”

【博士後期課程における本プログラム修了者】

博士（畜産衛生学）“Doctor of Animal and Food Hygiene”

（３）学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

①畜産科学専攻（博士前期課程）

教育課程で定められた授業科目を履修して所定の修了要件単位を修得し、動物医科学、家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学等の農畜産学分野及びその学際分野における最新の知識と技術を駆使し、「食の安全確保」をはじめとする農畜産学に関する問題解決型の高度な研究能力と幅広い見識を備え、以下の能力を身につけた人に学位を授与する。また、各コースのディプロマ・ポリシーは、資料６に記載する。

- 社会通念上や専門家として相応しい倫理観、道徳観を身につけている人。
- グローバル化を背景とした生命・食料・環境の分野の課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人。
- 国際感覚を備えた思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身につけている人。
- 獣医・農畜産融合の視点から、本専攻に配置された各コースに関する高度専門職業人としての知識と技術を身につけている、または同コースの課題に関する研究者としての基礎的な能力を身につけている人。

②畜産科学専攻（博士後期課程）及び③獣医学専攻（博士課程）

教育課程で定められた授業科目を履修して所定の修了要件単位を修得し、臨床獣医学、基礎獣医学、公衆衛生学、家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学等の獣医学分野、農畜産学分野及びその学際分野における最新の知識と技術を駆使した先端研究を担うため、以下の能力を身につけた人に学位を授与する。また、各専攻のディプロマ・ポリシーは、資料７に記載する。

- 教育者・研究者としての高い倫理観・道徳観を身につけている人。
- 獣医学分野、農畜産学分野及びその学際的分野に関する国際的な視野を持つ

て、農畜産業のグローバル化に伴う多様な社会ニーズに対応できる実践力と、リーダーシップを発揮して国際水準の先端的な研究ができる能力を身につけている人。

- 国際通用性のある思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身につけている人。
- 本研究科に配置された専攻分野に関する学術基盤をなす深い学識と高度な専門技術を備え、獣医・農畜産学融合の視点から新規性及び独創性の高い先端的研究ができる教育者・研究者としての知識と技術を身につけている人。

④畜産衛生学位プログラム

【博士前期課程】

博士前期課程のディプロマ・ポリシーに加えて、畜産物をはじめとする食品の安全衛生に関する国際基準での衛生管理・品質保証に関する高度かつ総合的な知識と技術を有し、優れた実践力及び応用力を身につけている人。

【博士後期課程】

博士後期課程のディプロマ・ポリシーに加えて、「食の安全確保」を担う国際的な研究者としての幅広い知識を有し、優れた問題解決ができる能力を身につけている人。

3. 教育課程編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の考え方

①畜産科学専攻（博士前期課程）

畜産科学専攻博士前期課程は、専門分野を超えた幅広い視点の醸成や、自らの専門課題を理論的・体系的に掘り下げていくために必要な知識・技術の涵養，そして社会で必要とされるスキルや実践的知識の修得を目指した以下の科目群を配置する。また、各コースのカリキュラム・ポリシー，カリキュラム・フローチャートは資料8に記載する。

- eラーニング等を用いた，倫理観を養成する科目を配置する。
- アクティブラーニングを用いた，論理的思考能力を磨き，食の安全確保・生産性向上・環境保全に関する課題設定・解決能力を養成する科目を配置する。
- グローバル社会で活躍するための英語力を修得するため，英語によるプレゼンテーション能力や論文作成能力を高める科目を配置するとともに，身につけた表現力・コミュニケーション能力を実践するためのインターンシップ，海外演習，研究発表に関する科目を配置する。
- 豊かな教養を身につけるための共通教養科目及び高度な専門性を修得するための専攻コア科目を配置するとともに，専門性の高い知識を分野横断的に修得するために，他コース専門科目を選択科目として配置する。

図1 博士前期課程カリキュラム構成

博士前期2年

博士前期1年

必修

選択

畜産衛生課題研究 (4単位)

修士 (農学) / 修士 (動物医科学)

修士 (畜産衛生学)

修士論文公開審査会ないし成果報告審査会

修士論文ないし成果報告書の提出

※修士論文に代わり、6週間以上の企業等研修を通じて課題研究を実施することが可能。

選択必修科目 (6単位以上)

HACCP資格科目群: HACCPシステム構築演習、品質検査学特論、食品関連法規・食品製造加工施設保全特論

6次産業化科目群: 食品流通・地域産業活性化特論、企業戦略特論

進捗状況審査 (畜産衛生学位プログラム受講者は学位選択・判定)

必修科目 (4単位)
(畜産衛生学特論、食品衛生・有害物質特論)

畜産衛生学位プログラム

各コース選択必修科目 (4単位以上)
家畜育種繁殖学特論、環境生命科学特論
食品加工・利用学特論 等

共通選択科目 (他コース科目含め6単位まで)
(HACCP科目、6次産業化科目、英語科目、共通教養科目、共通演習科目)

英語科目 (2単位) ※スクリーニングテスト結果に応じてレベル別に履修

各コース必修特論 (2単位) (動物医科学特論、家畜生産科学特論、環境生態学特論、食品科学特論
農業経済学特論、農業環境工学特論、植物生産科学特論)

国際農畜産衛生科学特論 (2単位) ・ 生物資源環境科学特論 (2単位)

畜産科学専攻 (動物医科学・家畜生産科学・環境生態科学・食品科学・農業経済学・農業環境工学・植物生産科学コース)

畜産科学専攻（博士後期課程）は、将来それぞれの分野で研究をリードし、教育に貢献することができる研究力と指導力の鍛錬に重点をおいたカリキュラム編成を行う。獣医学専攻（博士課程）は、獣医科学及び関連分野の学術基盤をなす深い学識と高度な専門技術を備え、当該分野での研究をリードし、農畜産業のグローバル化に伴う多様な社会ニーズに対応できる実践力とリーダーシップを発揮し、食の安全や動物とヒトの健康の向上に貢献できる人材育成に重点をおいたカリキュラム編成を行う。各専攻には以下の共通の科目群を配置するとともに、専攻独自のカリキュラム・ポリシー、カリキュラム・フローチャートは資料 10 に記載する。

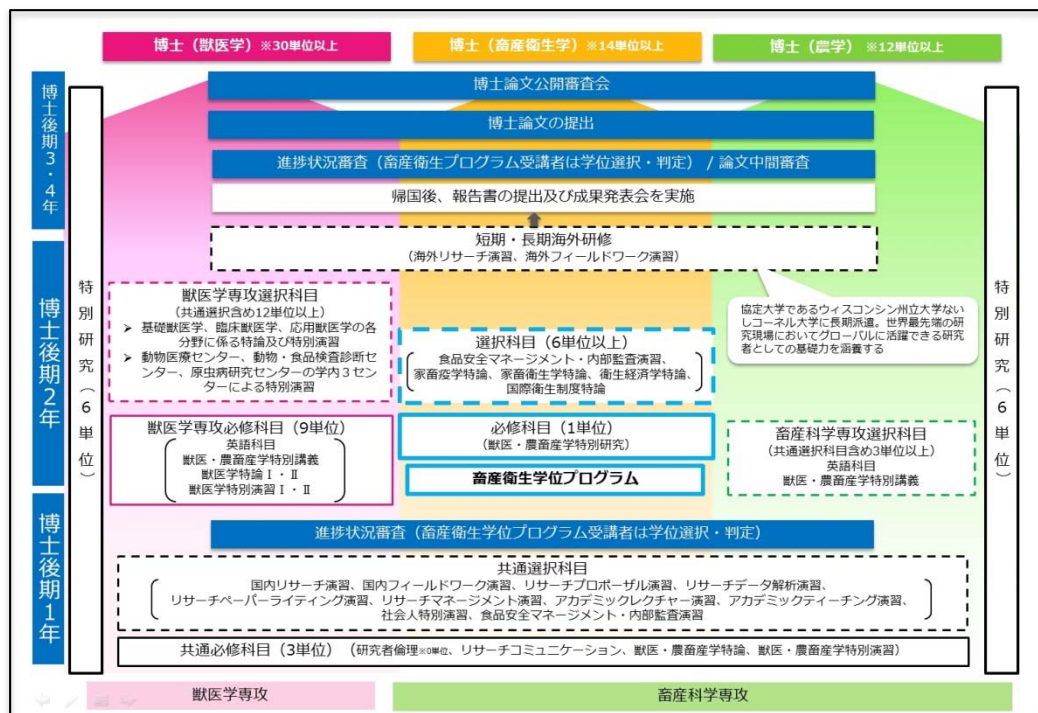
- 18

育成するために、高度な知識と技術を修得し、全体を統括できる能力を修得させる科目を配置する。

- 優れた教育者・研究者になるために、教育・研究スキルを実践的に修得できる科目を配置する。
- 海外での活動を見据え、英語によるプレゼンテーション能力や、ディベート能力及び論文作成能力を高める科目を配置する。
- 最先端の研究能力を修得するため、海外の大学との協力体制による研究インターンシップやフィールドワーク等の国際通用力を養成する科目を配置する。
- 獣医・農畜産融合の視点から、幅広く専門性の高い知識を分野横断的に修得するために共通科目を配置するとともに他専攻科目を選択科目として配置する。さらに地球規模課題の解決を目的として、国際水準の先端的な研究能力を修得するための科目を配置する。

畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）のカリキュラム構成の概要を図2に示す。なお、授業科目の一覧は資料11に記載する。また、畜産科学専攻（博士後期課程）修了者に付与する学位名称は、「博士（農学）」であるが、畜産衛生学位プログラムの履修要件を満たして修了した者については、「博士（農学）」に代えて「博士（畜産衛生学）」を付与する。

図2 博士後期課程及び博士課程カリキュラム構成

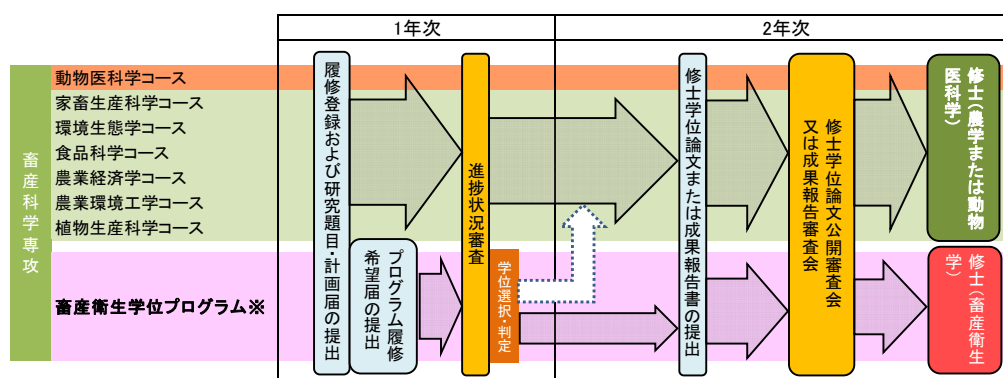


④畜産衛生学位プログラム

博士前期課程においては、国際安全衛生基準の食品安全マネジメントシステム

に関する知識及び技術を実践的かつ体系的に学ぶ授業科目を配置する。また、企業等と連携し、それらの知識・技術の現場への応用を目指す演習科目を配置する。博士後期課程においては、畜産生産現場から食卓における衛生に主眼を置いた畜産衛生学に関する世界最先端の知識と技術を修得させる授業科目を配置する。授業科目の一覧は、資料 9 及び資料 11 に記載する。

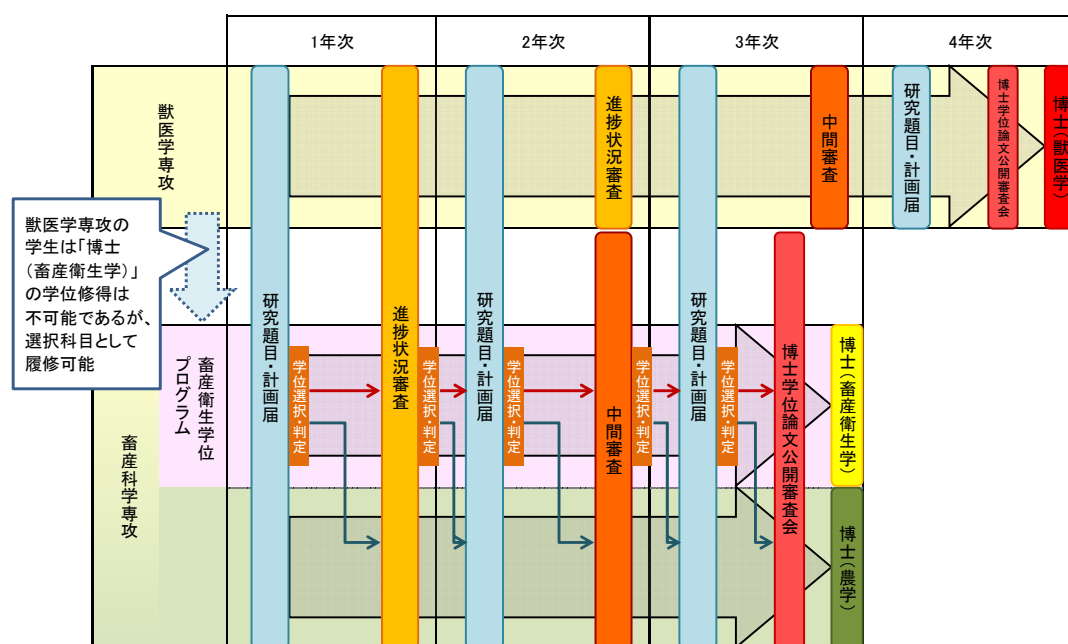
畜産衛生学位プログラムのカリキュラム構成は、博士前期課程については図 1 に、博士後期課程については図 2 に示す。学位取得のためには、前期課程においては、専攻の必修科目に加えて、プログラム必修科目 4 単位、プログラム選択科目から 4 単位以上修得することが必要である。必修科目である「畜産衛生学特論」と「食品衛生・有害物質特論」によって、幅広い畜産学及び食品衛生学に基づく現場の衛生管理の知識や、食品に関連する毒性物質の危険性を理解し、安全性を評価するための基礎的な能力を修得し、その上で、HACCP 資格科目群（「HACCP システム構築演習」、「品質検査学特論」、「食品関連法規・食品製造加工施設保全特論」）ないし 6 次産業化科目群（「食品流通・地域産業活性化特論」、「企業戦略特論」）によって、食品製造・加工現場や企業経営・管理に求められる法規や HACCP 等の諸制度の知識・技術を修得する。これらの畜産衛生に係る知識・技術を基に、食品衛生環境、生産工程及び物流形態等の各分野に関する修士論文ないし課題研究を提出することにより、その専門性に相応しい「修士（畜産衛生学）」の学位を付与する。なお、プログラムの履修登録から学位判定までの流れは以下のとおりである。



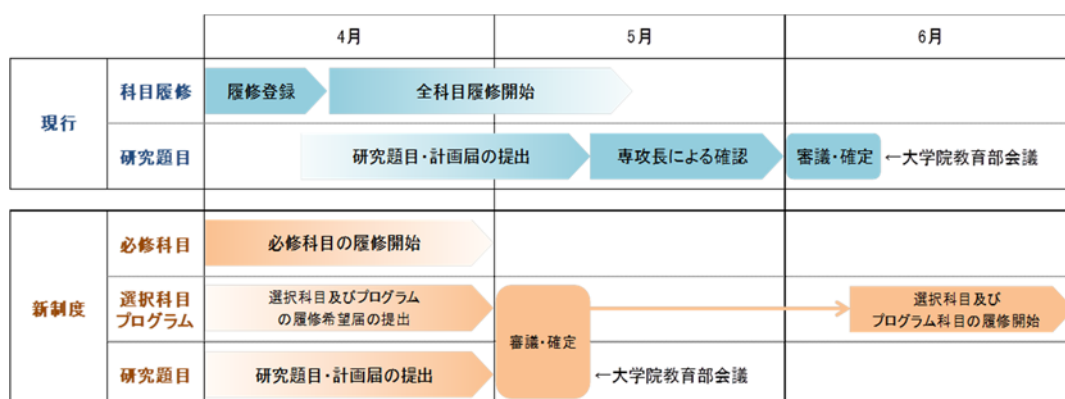
※ 所属するカリキュラムコースに限定されことなく各コース全ての学生が履修可能な学位プログラム。

また、後期課程においては、専攻の必修科目に加えて、プログラム必修科目 1 単位、プログラム選択科目が 6 単位以上修得することが必要である。必修科目である「獣医・農畜産学特別講義」によって、獣医・農畜産融合の視点から分野横断的に獣医学、農畜産学及びその学際分野の先端的知識を修得するとともに、「食品安全マネジメント・内部監査演習」、「家畜衛生学特論」等の選択科目によって、国際基準に応じた食品安全マネジメントシステムの運用管理の検証を可能とする知識・技術や家畜の生産現場における疾病問題や国内外で異なる飼養管理システムとその衛生管

理に係る現状の問題を把握し、課題解決を図るための力を修得する。これらの畜産衛生に係る知識・技術を基に、食品衛生環境、生産工程及び物流形態等の各分野に関する博士論文を提出することにより、その専門性に相応しい「博士（畜産衛生学）」の学位を付与する。なお、獣医学専攻（博士課程）においては、本プログラムにより「博士（畜産衛生学）」の学位修得は不可能であるが、本プログラムの科目については、選択科目として履修可能である。また、プログラムの履修登録から学位判定までの流れは以下のとおりである。



なお、本設置計画において、大学院畜産学研究科に新たに「畜産衛生学位プログラム」を新設すること等に伴い、ディプロマ・ポリシーに基づく学生の履修選択と学びを円滑に進めるため、以下のとおり、選択科目及びプログラム、研究題目の決定を早期化する。



（２）中央教育審議会提言との関係と教育課程の特色

平成 27 年 9 月の「未来を牽引する大学院教育改革 ～社会と協働した「知のプロフ

ェッショナル」の育成～（審議まとめ）」においては、大学院教育の改革の具体的方策として7つの方策が提言されている。本設置計画は、これらの方策のうち専門職大学院の質の向上方策を除く6つの方策に沿ったものである。

①体系的・組織的な大学院教育の推進と学生の質の保証

本設置計画は、大学院における獣医・農畜産融合の教育研究と国際通用力を持つ人材育成機能を強化するための組織再編である。このため、畜産科学専攻（博士前期課程）においては、自身の専門分野に加えて隣接他分野の知識を有する視野の広い人材を育成するため、現行の修士課程（畜産生命科学、食品科学、資源環境農学の3専攻）及び博士前期課程（畜産衛生学専攻）を畜産科学専攻の1専攻に包括化するとともに、複数のコースを設置して他コース開講科目を履修させる体系的かつ広範なコースワークを実施できる教育課程を編成するものである。また、畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）においては、各専攻の教員が他専攻の研究指導を担当できる分野横断型の体制により複合的な教育研究を実施し、農学の複雑な課題に対応できる研究者・高度専門人材を育成する。国際通用力の養成については、企業等に求められている国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材を育成するため、本学が機能強化事業において構築を進めている国際安全衛生基準適応の実習施設群を活用し、畜産衛生学位プログラムにより国際水準の食の安全確保に関する教育研究を実践する。

②産学官民の連携と社会人学び直しの促進

本学では、機能強化事業の一環として、社会のニーズが高い実践的共同研究を推進するとともに、企業等の実務家教員による講義・実習を強化するため、地域連携推進センターのインキュベーションオフィスに複数の食品関連企業の客員教授及び大学院社会人入学の同企業社員が入居している。本設置計画では、これら企業の実務家教員が大学院教育を担当するとともに、畜産衛生学位プログラムにおいて大学院生を長期間企業に派遣して課題研究を実施するなど、企業と協働した教育課程を計画している。

③大学院修了者のキャリアパスの確保と可視化の推進

本学では、学生の研究テーマと企業ニーズのマッチングを図るために企業経験を有する実務家教員及び教育研究コーディネーターを地域連携推進センターに配置している。本設置計画では、大学院生がキャリアパスの確保に向けて広い視野で進路開拓にチャレンジできるよう、地域連携推進センターが中心となって大学院生の希望職種に係る企業等でのインターンシップの長期化及びインターンシップ経験者の割合の増加に取り組む。

④世界から優秀な高度人材を惹き付けるための環境整備

本学では、世界水準の教育研究活動を展開するため、米国コーネル大学及びウィ

スコンシン大学と獣医・農畜産融合の国際共同研究を推進するとともに、両大学が実施する先端的な教育プログラムを導入する機能強化事業を推進している。本設置計画では機能強化事業の成果を導入して国際的に魅力のある大学院教育を構築する。また、事業実施の中心的組織である「グローバルアグロメディシン研究センター」では、国際社会が協調して取り組むべき地球規模課題の解決に貢献するため、当該課題による被害が深刻であるアジア、アフリカ等の開発途上国の人材育成も視野に入れて活動中であり、これら開発途上国の優秀な留学生の受入れを推進する。

⑤教育の質を向上するための規模の確保と機能別分化の推進

本学は、獣医学分野と農畜産学分野を融合した教育研究体制、国際通用力を持つ教育課程及び食の安全確保のための教育システムを保有する我が国唯一の国立農学系単科大学として、グローバル社会の要請に即した農学系人材を育成することを目指しており、本設置計画はこの目標を達成するための大学院教育改革である。また、入学定員の設定にあたっては、資料「学生の確保の見通し等を記載した書類」のとおり、大学院教育の質の向上を図ることを優先した規模としている。

⑥博士課程（後期）学生の処遇の改善

「帯広畜産大学基金」等の多様な財源を活用して、優秀な大学院生に対する奨学金の充実に努めるとともに、特別研究員制度やリサーチ・アシスタント制度等により、大学院生の経済的支援を充実する。

4. 教員組織の編成の考え方及び特色

本学は、獣医学分野と畜産科学分野の有機的な融合を全学的に推進するため、学部・研究科の講座等に所属する教員の組織体制を見直し、平成 20 年 4 月に学部・大学院を通じた一元的な教員所属組織として専門分野に応じた複数の部門で構成する「研究域」を設置した。また、共同利用・共同研究拠点の「原虫病研究センター」、国際共同研究推進施設の「グローバルアグロメディシン研究センター」、学内共同教育研究施設の「畜産フィールド科学センター」、「動物・食品検査診断センター」等の教育研究施設にも専任教員が所属しているが、これら教育研究施設の専任教員も研究域を兼務している。すなわち研究域には本学の全教員が所属しており、教員所属組織である研究域の教員が大学院教育を担当するシステムである（資料 12：教員所属組織（研究域）と学部・大学院の関係）。また、本学では教員の定年を満 63 歳とし、定年後に再雇用を希望する教員は 65 歳まで勤務可能である。現在までの実績では、9 割以上の定年教員が再雇用を希望している。大学院の各課程を担当する専任教員の構成は、「別記様式第 3 号（その 3）」のとおりである。

①畜産科学専攻（博士前期課程）

7 コースからなる本課程において、教員は自身の専門性に応じたコースの主担当とするとともに、全てのコースの教育を担当できることとし、獣医・農畜産学融合の教育研究を実施できる指導体制をとる。また、本課程を担当する専任教員の完成年度における年齢構成は、30代が5名、40代が18名、50代が24名、60代が17名であり、60代教員のうち65歳以上は4名である。これら4名の後任は再雇用期間終了前までに年齢構成、男女比等を考慮して採用する。

②畜産科学専攻（博士後期課程）及び③獣医学専攻（博士課程）

両専攻を担当する教員は、高度な教育研究を担当する上で十分な専門性、教育経験、研究歴並びに実務経験を備えて研究指導を進めることができる教授、准教授で構成する。教員は自身の専門分野の専攻の教育研究を主担当とし、他専攻の研究指導を担当できる分野横断型の体制とする。また、畜産科学専攻を担当する専任教員の完成年度における年齢構成は、30代が5名、40代が18名、50代が23名、60代が17名であり、60代教員のうち65歳以上は4名である。獣医学専攻を担当する専任教員の完成年度における年齢構成は、30代が5名、40代が17名、50代が9名、60代が17名であり、60代教員のうち65歳以上は8名である。65歳以上の畜産科学専攻の教員4名及び獣医学専攻の8名の後任は、再雇用期間終了前までに年齢構成、男女比等を考慮して採用する。

さらに、両専攻では、コーネル大学、ウィスコンシン大学等世界トップクラス大学の教員を招聘し、客員教員として特別講義、研究指導支援等を実施する。

④畜産衛生学位プログラム

本プログラムにおいては、上記①～③の畜産衛生学関連の教員が教育科目を担当するとともに、企業等に求められている国際基準の食品安全マネジメントシステム教育を実施するため、豊富な実務経験と高度な専門性を備えた企業経験のある実務家教員を複数名配置する。

5. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

(1) 教育方法

大学院各専攻の共通コア科目は、高度専門人材・研究者としての基礎知識や高い倫理観を養成する目的で配置している。英語科目及び各共通演習科目については、国際的な視野を持ってグローバル化に伴う多様な社会ニーズに対応できる実践力・リーダーシップを養成する目的で配置している。これらの科目を講義形式で行う場合には、視聴覚教材や映像メディア等を効果的に活用し、学生に興味と関心を喚起させる工夫を行う。

また、各専攻科目や各コース専門科目は、深い学識と高度な専門技術を備え、獣医・農畜産融合の視点から新規性及び独創性の高い先端的研究能力等を養成する目的で

配置している。また、eラーニングを用いた科目として特別研究（研究倫理教育において利用）や英語科目を配置して、教育者・研究者としての高い倫理観・道德観や、国際通用性のある思考・判断の過程を説明するための英語でのプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身につける。本学が位置する北海道十勝地域は、「日本の食料基地」として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃っており、本学のほかに農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター芽室拠点、北海道立総合研究機構十勝農業試験場・畜産試験場等、数多くの試験研究機関も集積している。専門科目の教育研究については、この最適な教育研究フィールドと本学が整備する教育研究施設を活用して「実学」を実践するため、畜産科学専攻では各演習科目において豊富な実務経験と高度な専門性を備えた企業経験のある実務家教員が、世界水準の安全衛生基準に適合した畜産フィールド科学センターの施設を利用して食品製造学分野について実学教育を行うとともに、地域連携推進センターにおいては企業等との連携により6次産業化に関する課題研究、企業ニーズに則した共同研究等を通じて実学教育を行う。獣医学専攻では、学内共同教育研究施設である動物医療センター、動物・食品検査診断センター及び全国共同利用施設である原虫病研究センターにおいて特別演習プログラムを設置する。動物医療センターでは、伴侶及び産業動物の臨床業務を日常的に実施しており、動物・食品検査診断センターでは、地域の農業団体や家畜保健衛生所等と提携して動物感染症の検査や食品検査などを行っている。また、原虫病研究センターでは、伴侶及び産業動物の原虫病・寄生虫病に関する診断サービスを実施している。このように各センターでは、臨床及び検査業務とそれに関わる最先端の研究や現場の課題を解決するための応用研究を行っており、その環境を利用して、各分野についての知識及び技術に関する講義・実習からなる実学教育を行う。論文指導については、学生一人に対してきめ細かい指導を行うため、指導教員グループによって個別、あるいは少人数規模で行うことを原則とする。

（2）履修指導・研究指導の方法

履修指導・研究指導方法の特徴の1つとして、上述のとおり各連合大学院と連携関係を維持する方針であることから、連合大学院構成大学に所属する教員が副指導教員や学位論文審査委員として就任可能な、指導体制や学位審査体制を構築している。

なお、畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）については、連合大学院からの離脱あるいは連合大学院の解散に伴い本学単独の博士課程となるが、「1. 設置の趣旨及び必要性」で詳述したとおり、本改組は、本学独自の博士課程である畜産衛生学専攻の教育体制を融合して本学の強みを生かした新たな博士課程を組織するものであり、本学が目指す、獣医・農畜産融合の研究指導体制はより強化される。また、上述の連合大学院構成大学との連携により、より広い視点からの研究指導体制も可能なものとしている。

【指導体制】

畜産科学専攻（博士前期・後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）の学生指導は、主指導教員 1 名及び副指導教員 2 名が担当し、主指導教員は学生の履修指導、研究指導、生活指導を担当する。また、副指導教員は主指導教員と協力して学生の履修指導、研究指導を行う。

また、畜産衛生学位プログラムを選択する学生にはプログラム・コーディネーターを配置するとともに、プログラム・コーディネーターは指導教員と協力してプログラムを選択した学生の履修指導、課題研究指導等を行う。

【履修モデル】

本設置計画における学位取得に向けた履修モデルについて、畜産科学専攻（博士前期課程）のモデルを資料 13 に、畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）のモデルを資料 14 に添付した。獣医・農畜産融合の視点での科目取得を奨励するとともに、幅広い専門知識を推奨する観点から、年間登録上限科目数の設定（CAP 制）は導入しないこととする。

【アセスメント・ポリシーによる評価】

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・資質の修得状況、カリキュラム・ポリシーに即した学修状況について評価するため、審査方法、審査の観点、審査スケジュール等を定めたアセスメント・ポリシーにより、学生の学習成果を段階的に評価する。（資料 15：アセスメント・ポリシー）

【学位審査手続】

畜産科学専攻（博士前期・後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）の学位審査の行程は、概ね以下のとおりである。

	事 項	内 容
1	進捗状況審査会 (博士後期課程・博士課程の中間審査会含む)	学位論文作成の進捗状況を主指導教員、副指導教員列席のもと報告し、進級についての可否を審査する
2	学位審査委員予定者の提出（主指導教員から）	博士前期課程：主査 1 名，副査 2 名以上 博士後期課程・博士課程：主査 1 名，副査 3 名以上
3	学外審査委員の資格審査（該当がある場合）	大学院教育部会議で資格審査を行う
4	学位申請	学位論文（規定部数）及び学位申請関連書類の提出
5	学位審査委員の決定及び論文審査の付託	大学院教育部会議において学位審査委員の決定及び論文審査、試験の実施を学位審査委員会に付託する
6	論文審査	学位審査委員会は、学位論文の校閲の後、公開發表を行う

7	最終試験	学位審査委員会は、論文審査終了後、論文を中心とした関連科目について口述または筆記等による試験を行う
8	論文審査及び最終試験の結果の要旨報告	学位審査委員会は、論文審査及び最終試験の結果の要旨を学長宛に報告する
9	学位授与審査会（博士後期課程・博士課程のみ）	学位審査委員会からの審査結果に基づき学位授与の可否を審議し、学長に報告する
10	学位授与者の決定	博士前期課程は学位審査委員会から、博士後期課程・博士課程は学位授与審査会からの学位の報告に基づき、学長は、教授会の意見を聴いて学位授与の可否を決定する
11	学位授与	学位授与式において学位記の授与

学位授与の公平性を担保するため、学位審査委員会の主査は主指導教員以外から選出する。また、学位論文審査会・課題研究審査会の審査は、主査・副査全員の参加により、原則として公開で行う。

また、博士後期課程・博士課程の学位審査委員会の副査は主査が指名し、他大学・外部機関等から選出できる。当該副査は、博士課程の指導教員資格審査基準に従って資格審査を行う。ただし、大学院連携に関する協定を締結している他大学の大学院において、該当する課程の研究指導に必要な資格を得ている場合は、あらためて資格審査を要しない。

【研究倫理】

本学では、「国立大学法人帯広畜産大学研究活動の不正行為に関する取扱規程」（資料 16）、「国立大学法人帯広畜産大学研究費の不正使用防止等に関する規程」（資料 17）を制定するとともに、コンプライアンス室の設置等による体制を整備して研究費の適正な運営・管理を実施している。また、これらを本学ウェブサイト（<http://www.obihiro.ac.jp/daigaku/compliance/fuseishiyou.html>）に記載することで、教職員・学生等に周知している。

本設置計画では、畜産科学専攻（博士前期課程）の必修科目「特別研究Ⅰ」、畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）の必修科目「特別研究」において、e-ラーニングを用いた研究者の倫理教育を実施するとともに、本学が毎年定期的実施している「コンプライアンス研修」に大学院生を参加させる等の取組みにより、研究倫理教育を徹底する。また、論文研究の倫理審査は、学位審査委員会で実施する。

【学位論文の公表】

学位論文の公表については、本学の附属図書館が運用している「学術情報リポジトリ」（<http://www.obihiro.ac.jp/~library/index.html>）に記載する。また、附

属図書館にも配架する予定である。

(3) 修了要件（詳細は資料 18 に記載）

①畜産科学専攻（博士前期課程）

必修科目 22 単位，選択科目 8 単位以上の計 30 単位以上を修得し，修士論文又は成果報告の審査及び関連科目の最終試験に合格すること。

②畜産科学専攻（博士後期課程）

必修科目 9 単位，選択科目 3 単位以上の計 12 単位以上を修得し，博士論文の審査及び論文関連科目の最終試験に合格すること。

③獣医学専攻（博士課程）

共通コア科目 9 単位，必修科目 11 単位，選択科目 10 単位以上の計 30 単位以上を修得し，博士論文の審査及び論文関連科目の最終試験に合格すること。

④畜産衛生学位プログラム

博士前期課程においては，プログラム必修科目等を含む必修科目 26 単位，選択科目 6 単位以上の計 32 単位以上を修得し，修士論文又は成果報告の審査及び関連科目の最終試験に合格すること。

また，博士後期課程においては，プログラム必修科目等を含む必修科目 10 単位，選択科目 6 単位以上の計 16 単位以上を修得し，博士論文の審査及び論文関連科目の最終試験に合格すること。

6. 施設・設備等の整備計画

本設置計画においては，修士課程の改組に加えて新たな教育組織として畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）を設置するものであるが，これまで岩手大学大学院連合農学研究科及び岐阜大学大学院連合獣医学研究科の本学配属の大学院生は，本学において教育研究活動を実施していることから，校地・施設の拡張等の整備は基本的に不要である。また，教育研究設備，図書等については，老朽化による更新等の充実の必要性を踏まえて適宜整備を進める。以下に本学の施設・設備等の概要・特色を記載する。

(1) 施設

校舎建物については，教室・教員室・講義室・実験室・実験圃場その他管理関係施設等（建物延面積 31,440 m²）を有し，本設置計画における教育研究を推進するための十分なスペースを確保している。また，その他教育実習・研究現場となる教育研究施設として，畜産フィールド科学センターは搾乳施設，乳製品工場，食肉加工実習施設，実習農場等（校地 1,383,682 m² 建物延面積 15,796 m²）を有し，さらに企業等の共同研究の場である地域連携推進センター（建物延面積 1,347 m²）を有している。獣医学関連施設では，平成 27 年度に新たに病態診断棟，産業動物臨床棟，産業動物飼

育棟、動物・食品検査診断センターで構成する産業動物臨床施設群（建物延面積 8,372 m²）を整備・新設するとともに、共同利用・共同研究拠点である原虫病研究センター（建物延面積 3,118 m²）を有している。また、日本の大学で初めて FSSC22000（世界最高水準の食品安全管理システム）を取得した畜産フィールド科学センター乳製品工場を有するほか、平成 28 年 12 月に畜産フィールド科学センター搾乳施設が ISO22000（農場から食卓までのフードチェーン全体における食の安全を守るシステム基準）を取得するとともに、平成 29 年度 3 月に原虫病研究センター及び動物・食品検査診断センターが ISO17025（化学試験、食品試験等を行う試験所の技術能力基準）を取得し、本設置計画における国際安全衛生基準適応の実習施設群による食の安全に関する教育研究の高度化に向けて準備を進めている。

（２）設備

本学では大型機器等の共同利用を推進するため、平成 25 年度に「共通機器サポート推進室」を設置し、約 60 台の機器を共同利用可能な共通機器として登録し、教職員・学生等の利用に供しており、本設置構想において効率的な利用が可能な状況である。また、今後、大学院各専攻等において特に必要とする設備については適宜整備する。また、学生自習室においては、十分な予習・復習ができるよう情報末端を備えた個席を用意し、教材配布、参考資料、事例、レポートの課題等がインターネットで配信されるシステムとなっており、学生と教員との双方向のコミュニケーションを確保している。

（３）図書・電子ジャーナル

図書は、同一キャンパス内にある附属図書館の蔵書を利用可能である。附属図書館は、平成 28 年 3 月末現在、和書約 16 万 6 千冊、洋書約 4 万 9 千冊、和雑誌約 5 千冊、洋雑誌約 1,300 冊を保有している。また、電子ジャーナルは平成 14 年度から大手 3 社の包括パッケージを契約する等の整備を進め、平成 28 年度には和洋あわせて約 6,100 タイトルが利用可能となっている。データベースについては、平成 16 年度から世界的に著名な論文情報データベースを導入しているほか、各種 Web 上のリソースの情報提供を恒常的に行っており、教育研究環境は十分に整備されている。

閲覧及び視聴覚資料視聴コーナー等の面積は 729 m²、閲覧席は 166 席が設置されており、学生数に比較して十分なスペース及び席数が確保されている。レファレンスに関してはカウンターで随時学生からの質問に対応しており、学生自身が調査するための検索用 PC や冊子体の参考資料も整備されている。また、図書館内は無線 LAN が整備されており、学生が常用している PC を持ち込んで調査・研究を進めることが可能となっている。

7. 基礎となる学部との関係

本学の畜産学部は、学生の目的意識や進路に応じた多様な専門職業教育を提供しており、学生は2年後期から所属する専門ユニットを選択する。ユニットは共同獣医学課程に獣医学教育ユニットを、畜産科学課程に家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学の6つのユニットを設定している。獣医学ユニット（6年制）の学生は、獣医領域の専門性を深めるためには獣医学専攻（博士課程）に進学し、農畜産領域の専門性を深めるためには畜産科学専攻（博士後期課程）に進学する。また、畜産科学課程の6ユニットは、本設置計画において畜産科学専攻（博士前期課程）を構成する動物医科学コース以外の6つのコースと関連しており、学部学生が自身の専門分野を博士前期課程において一層深めるためには、学部ユニットと同分野のコースに進学する。また、動物医科学コースでは畜産科学課程の6ユニットの学生を受け入れる。当該学生がさらに専門性を深め、獣医学分野における最新の知識と技術を駆使した先端的研究を行うためには獣医学専攻（博士課程）に、又、動物医科学分野の専門的な知識・技術を家畜生産科学、環境生態学、食品科学、畜産衛生学等の農学分野に活用するためには畜産科学専攻（博士後期課程）に進学することとなる。（資料12：教員所属組織（研究域）と学部・大学院の関係）

8. 入学者選抜の概要

（1）アドミッション・ポリシー

①畜産科学専攻（博士前期課程）

「食の安全確保」をはじめとする農畜産学に関する課題解決能力と幅広い見識を備えた人材を育成するため、以下のような人を学生として求める。そのために、入学試験では専門と語学に関する筆記試験と研究計画・能力を評価する口述試験を実施する。また、各コースのアドミッション・ポリシーは資料19に記載する。

- 国際的な視野を持って行動でき、農畜産学に関する高度専門職業人を目指す人。
- 各コースの特定分野に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人。
- 各コースで自ら研究計画を立案できる基礎的知識・技術を身につけている人。
- 獣医・農畜産融合の視点から、食の安全確保・生産性向上・環境保全に関する課題に高い関心を持ち、それらの課題解決に積極的に取り組みたい人。

②畜産科学専攻（博士後期課程）及び③獣医学専攻（博士課程）

「獣医・農畜産学融合」・「海外の大学との協力」による教育体制により、食と農のグローバル化を背景にした専門的知識及び創造性と優れた研究開発能力・教育能力を備えた豊かな人間力を持つ研究者・教育者を養成するため、以下のような人を学生として求める。専攻独自のアドミッション・ポリシーは資料20に記載

する。

- 獣医学や農畜産学に関する国際的な視野を持って、高いコミュニケーション能力を身につけて国際水準の先端的な研究を展開できる研究者・教育者を目指す人。
- 本研究科に配置された専攻分野の総合的な知識や先端的研究を探究したい人。
- 獣医学に関する学士課程までの基礎知識と基礎的技術または畜産科学専攻の特定分野に関する修士課程までの基礎知識と基礎的技術を身につけている人。
- 獣医・農畜産学融合分野において自らの研究成果を社会に還元し、学際的な研究においてリーダーシップを発揮する能力を身につけたい人。

(2) 入学者選抜の方法

①畜産科学専攻（博士前期課程）

「一般選抜」では、専門分野に関する小論文、英語、面接、研究計画書及び成績証明書の審査結果を総合して判定し、合格者を決定する。なお、英語試験については、外部試験（TOEFL, TOEIC, IELTS）の成績によっては免除する場合がある。

「社会人特別選抜」では、面接、推薦書、成績証明書、研究計画書及び業績報告書の審査結果を総合して判定し、合格者を決定する。

「外国人留学生特別選抜」では、面接（インターネット利用）、志願理由書、研究計画書、推薦書、成績証明書、小論文及び英語（TOEFL, TOEIC 又は IELTS）の審査結果を総合して判定し、合格者を決定する。

②畜産科学専攻（博士後期課程）及び③獣医学専攻（博士課程）

畜産科学専攻（博士後期課程）の一般選抜は、面接（プレゼンテーション）、研究計画書及び成績証明書の審査結果を総合して判定し、合格者を決定する。また、獣医学専攻（博士課程）の一般選抜は、学力検査（英語、専門科目）、面接（プレゼンテーション）、研究計画書及び成績証明書の審査結果を総合して判定し、合格者を決定する。

「社会人特別選抜」では、面接、研究計画書及び成績証明書の審査結果を総合して判定し、合格者を決定する。

「外国人留学生特別選抜」では、面接（インターネット利用）、研究計画書、推薦書、成績証明書、小論文及び英語（TOEFL, TOEIC 又は IELTS）の審査結果を総合して判定し、合格者を決定する。

(3) 入学定員と学生の分属

①畜産科学専攻（博士前期課程）

本課程の入学定員は 48 名である。学生は入学後に動物医科学、家畜生産科学、

環境生態学，食品科学，農業経済学，農業環境工学，植物生産科学のいずれかのコースに分属されるが，そのコースは学生が師事する主指導教員の担当コースによって決定される。なお，特別な事情がない限り，出願者が当該教員の同意を得て出願書類に記載した教員が主指導教員となる。

各コースの受入れには特に定員を設けないが，畜産学部畜産科学課程の6つのユニットと相關する家畜生産科学，環境生態学，食品科学，農業経済学，農業環境工学，植物生産科学の6コースについては，ユニット定員の比率と同程度の受入れ数を見込んでいる。一方，動物医科学コースは学部に基盤組織のないコースであるが，従来の畜産衛生学専攻（博士前期課程）の平成27年及び平成28年の入学者のうち，獣医学系の教員に師事した学生は12名で，年平均6名であった。このことから，各コースの受入学生数は，動物医科学6名，家畜生産科学10名，環境生態学6名，食品科学10名，農業経済学5名，農業環境工学5名，植物生産科学6名程度と見込んでいる。

	動物 医科学	家畜生 産科学	環 境 生態学	食 品 科 学	農 業 経済学	農業環 境工学	植物生 産科学
ユニット定員	—	50名	30名	50名	25名	25名	30名
コース受入見込	6名	10名	6名	10名	5名	5名	6名

なお，畜産衛生学位プログラムについては入学後に履修選択する学位プログラムであるが，学生アンケートにおいて「興味がある」と回答した学生の割合が11.8%であった（資料1－1）ことから，5～6名程度の履修者を見込んでいる。

②畜産科学専攻（博士後期課程）及び③獣医学専攻（博士課程）

畜産科学専攻（博士後期課程）の入学定員は10名，獣医学専攻（博士課程）の入学定員は5名である。

なお，畜産科学専攻（博士後期課程）の畜産衛生学位プログラムについては，①と同様に入学後に履修選択する学位プログラムであるが，上述の「興味がある」とした学生の割合から，1～2名程度の履修者を見込んでいる。

9. 取得可能な資格

畜産科学専攻博士前期課程では，専修教員免許として高等学校教諭専修免許状（農業）の取得を可能とする。

10. 管理運営

① 大学院の教育を円滑に行うために，畜産学研究科畜産科学専攻及び獣医学専攻そ

れぞれに専攻長 1 名と副専攻長 2 名を置き、学長が選考・任命する。また、畜産科学専攻博士前期課程の各コースにコース長を置く。また、専攻長、副専攻長、コース長は、教員所属組織である「研究域」の部門長等が兼務することとし、学長が選考し任命する。

- ② 畜産衛生学位プログラムの専門教育を円滑に行うために、畜産衛生学位プログラム主任 1 名と畜産衛生学位プログラム・コーディネーター複数名を置き、畜産衛生学位プログラムの専門科目を担当する教員の中から選出する。
- ③ 本学では、大学の教育の充実を図ることを目的として「大学教育センター」が設置されており、同センターに、大学院の学生に対する教育及び学生支援について企画、調整及び運営を行うための「大学院教育部」が置かれている。大学院教育部会議に畜産科学専攻及び獣医学専攻の専攻長及び副専攻長、畜産科学専攻博士前期課程のコース長、畜産衛生学位プログラム主任等が構成員となり、以下の事項について審議を行う。

- 教育課程の編成に関すること。
- 大学院担当教員の資格に関すること。
- 修了に関すること。
- 休学、復学、退学、留学及び除籍に関すること。
- 学生の表彰及び懲戒に関すること。
- 学位（学士の学位を除く。）に関すること。
- 研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び特別研究学生に関すること。
- 留学生の受入及び派遣に関すること。
- 学生の就職支援に関すること。
- 教育予算の使用及び配分に関すること。

また、大学院教育に関する重要事項について、効率的な検討と迅速な意思決定が必要と判断した場合は、学長を本部長とする「教育推進本部」において、当該事項を審議する体制である。

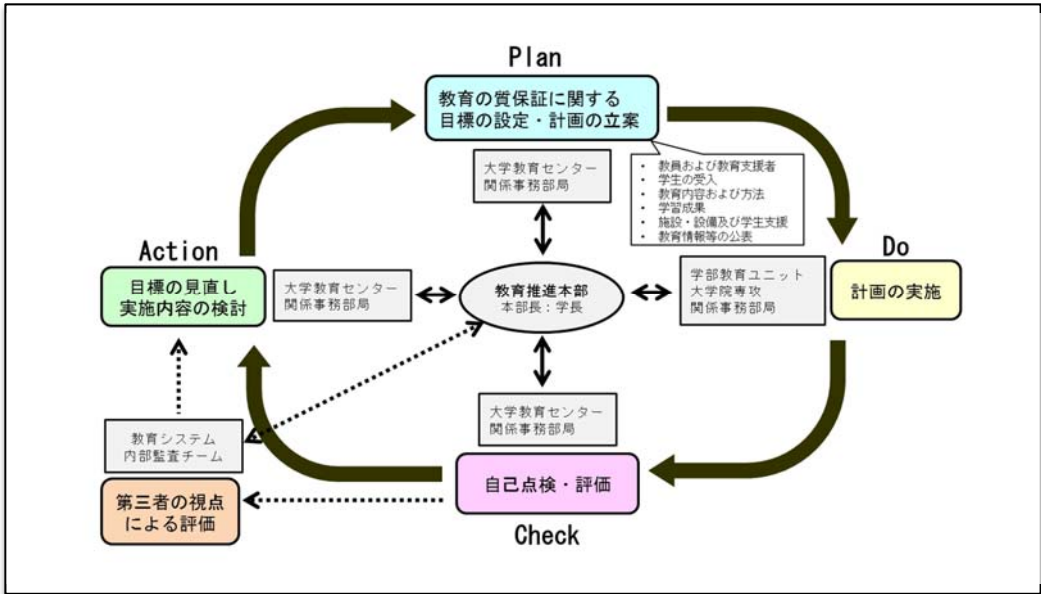
11. 自己点検・評価

本学の「評価ポリシー」では、以下の方針で自己点検・評価を行うこととしている。

- 自己点検・評価は、本学が定めた中期目標・中期計画及び年度計画を照らし合わせ、エビデンスをもとに行うことを基本とし、大学内の各部局で実施する。
- 各部局での自己点検・評価結果は、教育推進本部、研究推進本部または国際化推進本部に提出し、その内容について精査する。
- 自己点検・評価結果及び各推進本部からの意見・助言等をもとに、各部局ではさらなる改善・改革を着実に推進する。
- これらの活動については、客観性及び透明性を確保するための評価を実施し、その結果について積極的に公表する。

特に、教育の内部質保証については、本学が定めた中期目標・中期計画及び年度計画に加えて、教員及び教育支援者、学生の受入、教育内容・方法、学習成果、施設・設備、学生支援、教育情報等の公表に関する目標を定めて計画を立案・実施し、自己点検・評価にもとづいた改善・改革を行うこととし、大学内に設置した教育システム内部監査チームが第三者の視点による評価及び改善方策等の助言を行うことにより、実効性のある教育 PDCA サイクルを着実に稼働させる方針である。

図3 帯広畜産大学の教育 PDCA サイクル



また、アセスメント・ポリシーに基づき学生の学習成果を評価する際に収集したデータ（各種アンケート結果、単位取得状況、授業出席状況、休学・退学の状況等）について、IRを担当する大学情報分析室や大学教育センターの担当部署において分析して大学教育センター長に報告し、課題・改善方策等を各種会議等で検討して教育の質の向上を図る体制とする。（資料21：アセスメントによる教育の検証と改善）

12. 情報の公開

本学は、学校教育法施行規則第172条の2に基づき、教育研究活動等の以下の状況を大学のウェブサイト (<http://www.obihiro.ac.jp/daigaku/gakkyoho/kyoikujyoho.html>) において公表している。

事 項	公表内容
大学の教育研究上の目的に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・学部の目的 ・大学院の目的

教育研究上の基本組織に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・運営組織図 ・機構図
教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・教員組織，教員の数 ・教員の業績等
学生に関すること（入学者に関する受入方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること）	<ul style="list-style-type: none"> ・教育ポリシー ・入学志願者及び入学者数 ・学生の定員及び現員 ・卒業者数及び修了者数 ・主な就職分野及び就職先
教育課程に関すること（授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること）	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス ・年間行事日及び授業日
学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・学則及び大学院学則 ・学位規程 ・授業及び単位制度 ・取得可能な資格
校地，校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセスマップ及び建物配置図 ・土地及び建物面積 ・福利厚生施設 ・学生寮 ・課外活動 ・附属図書館
授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・入学料及び授業料等 ・授業料等免除及び各種保険 ・授業料の納付
学生支援と奨学金に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・授業料等免除と徴収猶予 ・奨学金制度 ・学生相談 ・国際交流及び留学／外国人留学生 ・ハラスメント相談 ・保健管理センター
大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援の基本方針 ・大学教育センター ・保健管理センター

本設置計画における新研究科の情報は，上記の大学ウェブサイトで公開するとともに，パンフレット等も活用して活動状況等の公開に努める。また，大学では上記のほか，以

下の情報等についても公開しており、新研究科の情報も併せて適宜記載する。

- 法人についての情報（組織に関する基本情報，中期計画・年度計画，事業報告，業務の実績報告，自己評価書，機関別認証評価結果，入札情報等）
⇒ <http://www.obihiro.ac.jp/kokai/agency/index.html>
- 教育組織の設置等に関する情報（設置計画書，設置計画履行状況報告書）
⇒ <http://www.obihiro.ac.jp/kokai/sechi/index.html>

13. 教育内容等の改善のための組織的な研修等

本学では、「大学教育センター」に置かれている「教育支援室」が教育内容・授業方法の改善を図るための取組を推進しており、大学院改組後においても引き続き教育内容等の改善に努めていく。

①授業評価

授業評価アンケートを全ての授業科目を対象に実施し，評価結果を直ちに当該授業科目担当者に開示してフィードバックコメントを収集することで，授業担当者の迅速な状況把握と授業内容・方法の改善に繋げる。

②FD・SD 研修会

教員の教育能力の向上のために，最新の教育環境の動向の把握，授業方法・評価方法の改善等をテーマにしたFD・SD研修会を，年に6回以上実施する。FD・SD研修会は，教員及び職員が多数参加することで，教職員一体となった教育の質の向上に繋げる。

③授業参観

授業評価結果の高い授業や特殊な取組みを行っている授業をモデルケースとして，教員による授業参観を実施する。授業参観後は，参加教員によるディスカッションを実施することで授業のあり方を考察し，参加教員の授業への応用や授業内容の改善効果を高める。

≪資料目次≫

資料 1	畜産学研究科再編計画の概要
資料 2	畜産学研究科再編の背景
資料 3	帯広畜産大学の機能強化
資料 4	畜産学研究科に関する企業アンケート結果
資料 5	動物医科学コースの概要
資料 6	ディプロマ・ポリシー／畜産科学専攻（博士前期課程）
資料 7	ディプロマ・ポリシー／畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻
資料 8	カリキュラム・ポリシー／畜産科学専攻（博士前期課程） カリキュラム・フローチャート／畜産科学専攻（博士前期課程）
資料 9	授業科目一覧／畜産科学専攻（博士前期課程）
資料 10	カリキュラム・ポリシー／畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻 カリキュラム・フローチャート／畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻
資料 11	授業科目一覧／畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）
資料 12	教員所属組織（研究域）と学部・大学院の関係
資料 13	履修モデル／畜産科学専攻（博士前期課程）
資料 14	履修モデル／畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）
資料 15	アセスメント・ポリシー
資料 16	研究活動の不正行為に関する取扱規程
資料 17	研究費の不正使用防止等に関する規程
資料 18	修了要件
資料 19	アドミッション・ポリシー／畜産科学専攻（博士前期課程）
資料 20	アドミッション・ポリシー／畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻
資料 21	アセスメントによる教育の検証と改善

資料1 畜産学研究科再編計画の概要

博士前期・後期課程再編図

- 畜産生命科学専攻
- 食品科学専攻
- 資源環境農学専攻
- 畜産衛生学専攻

前期課程の一専攻化

畜産科学専攻

- ◆ 動物医科学コース
- ◆ 家畜生産科学コース
- ◆ 環境生態学コース
- ◆ 食品科学コース
- ◆ 農業経済学コース
- ◆ 農業環境工学コース
- ◆ 植物生産科学コース

「総合力」

生命・食料・環境に関する高度な知識と技術を活用し、農畜産学及び獣医学の専門分野で優れた能力を国内外で発揮

「応用力」

実践的な特別教育プログラムによる社会ニーズに即した課題解決力の修得

「基礎力」

専門性に加え、他分野の幅広い知識・技術の修得

現行の大学院博士後期課程は、3組織に分断

【岐阜大学連合獣医学研究科に参加】

- 大動物臨床・繁殖分野
- 家畜感染症分野
- 病理・薬理分野等

獣医学分野

【帯広畜産大学畜産学研究科】

〈畜産衛生学専攻〉

- 食品安全学分野
- 家畜環境衛生学分野

畜産衛生学分野

【岩手大学連合農学研究科に参加】

- 家畜生産分野
- 食品科学分野
- 生物環境分野
- 農業経済分野 等

農学分野

農学分野が直面する以下の課題解決に資する人材育成のため、獣医・農畜産融合の教育研究体制の構築が急務

「食の安全」に関わる諸問題は、農学の特定分野の専門性のみでは根本的解決が困難

農学系人材が担う課題は、世界各国の様々な分野の専門家が協調して取り組むべき地球規模課題

食と農のグローバル化を背景に、国境を越えて食の安全・安心対策を行使できる人材育成が急務

機能強化

帯広畜産大学大学院畜産学研究科

獣医学専攻

- ・ 分野横断型選択科目群の設置
- ・ 異分野複数教員による研究指導

畜産科学専攻

- ・ 畜産衛生プログラム
- ・ 米国先端大学研修プログラム 等

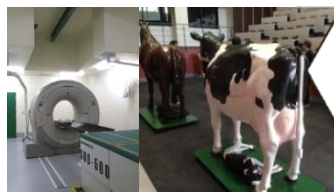
獣医学分野全米1位のコーネル大学との教育研究交流推進

農学分野世界4位のウイスコンシン大学との教育研究交流推進

国際水準の獣医学教育環境の活用

国際安全基準適応の実習施設群の活用

獣医・農畜産融合の視点と世界動向・国際基準を踏まえた教育研究体制により、農学の幅広い知識・技術と国際通用力を持つ高度人材育成を推進



平成27年10月竣工の産業動物臨床棟



世界最高水準の安全衛生基準認証 FSSC22000取得（日本の大学初）

資料2 畜産学研究科再編の背景

農学分野が直面する課題

食中毒、家畜感染症、食品偽装等の「食の安全」に関わる諸問題は、農場から食卓までに至る様々な負の要因が複雑に絡みあって生じるため、農学の特定分野の専門性のみでは根本的解決が困難

世界人口増加に伴う食料確保、国境を越えて移動する食品等の安全確保、感染症の制圧、エネルギー・環境への配慮等、農学系人材が担う課題は、世界各国が協調して取り組むべき地球規模課題

TPP、FTA等による国際市場の拡大、食と農のグローバル化を背景に、国際展開を図る食品関連企業等の国際安全衛生基準の遵守、行政の検疫体制強化等が求められ、食の安全安心対策を行使できる人材育成が急務

【大学院の現状】

- 獣医学は岐阜連大、農学は岩手連大に参加し、それぞれの分野の専門領域に特化した高度人材を育成
- 畜産学研究科畜産衛生学専攻において、獣医・畜産融合の教育研究により「食の安全」に関する高度人材を育成

専門領域に特化した高度な研究指導に加えて、獣医・農畜産融合の教育研究を強化して、分野を超えた複雑な課題解決に資する人材を育成

課題例1：輸入食材安全確保及び国産食材の輸出拡大

関連分野：食品化学、食品加工学、食品衛生学、HACCPシステム構築、植物栄養学、家畜栄養学、家畜衛生学、獣医病理学、獣医生化学、獣医公衆衛生学、食品製造・加工機械工学、生物資源再生工学

課題例2：野生動物や昆虫が媒介する動物疾病の診断・治療・拡散防止

関連分野：産業動物獣医療学、獣医内科学、獣医病理学、獣医薬理学、原虫病学、野生動物管理学、環境昆虫学、衛生経済学

課題例3：バター等加工用原料を安定供給するための国内における生乳生産体制の確立

関連分野：生殖科学、家畜臨床繁殖学、獣医生理学、獣医生化学、草地学、家畜飼養学、農業経営学、農村整備学、草地造成学、草地整備学

獣医学分野

畜産衛生学分野

農畜産学分野

獣医学・農畜産学融合領域

課題例4：6次産業化を目指した農畜産物の新規加工技術の開発及び実用化

関連分野：地域産業活性論、企業戦略論、知的財産制度論、食品化学、食品加工学、食品衛生学、HACCPシステム構築、植物栄養学、家畜栄養学、家畜衛生学、獣医病理学、獣医生化学、獣医公衆衛生学、食品製造・加工機械工学、生物資源再生工学

課題例5：環境変動に対応した持続的食料生産

関連分野：産業動物獣医療学、家畜繁殖学、家畜育種学、家畜衛生学、植物育種学、土壌学、植物栄養学、農業気象学、大気地盤情報学、農業経済学、農業経営学

「我が国唯一の国立農学系単科大学として、農場から食卓までに至る一連の教育研究環境を備え、獣医・農畜産融合の視点と世界動向・国際基準を見据えた取組みにより、農学の幅広い知識・技術と国際通用力を持つ人材育成を推進」

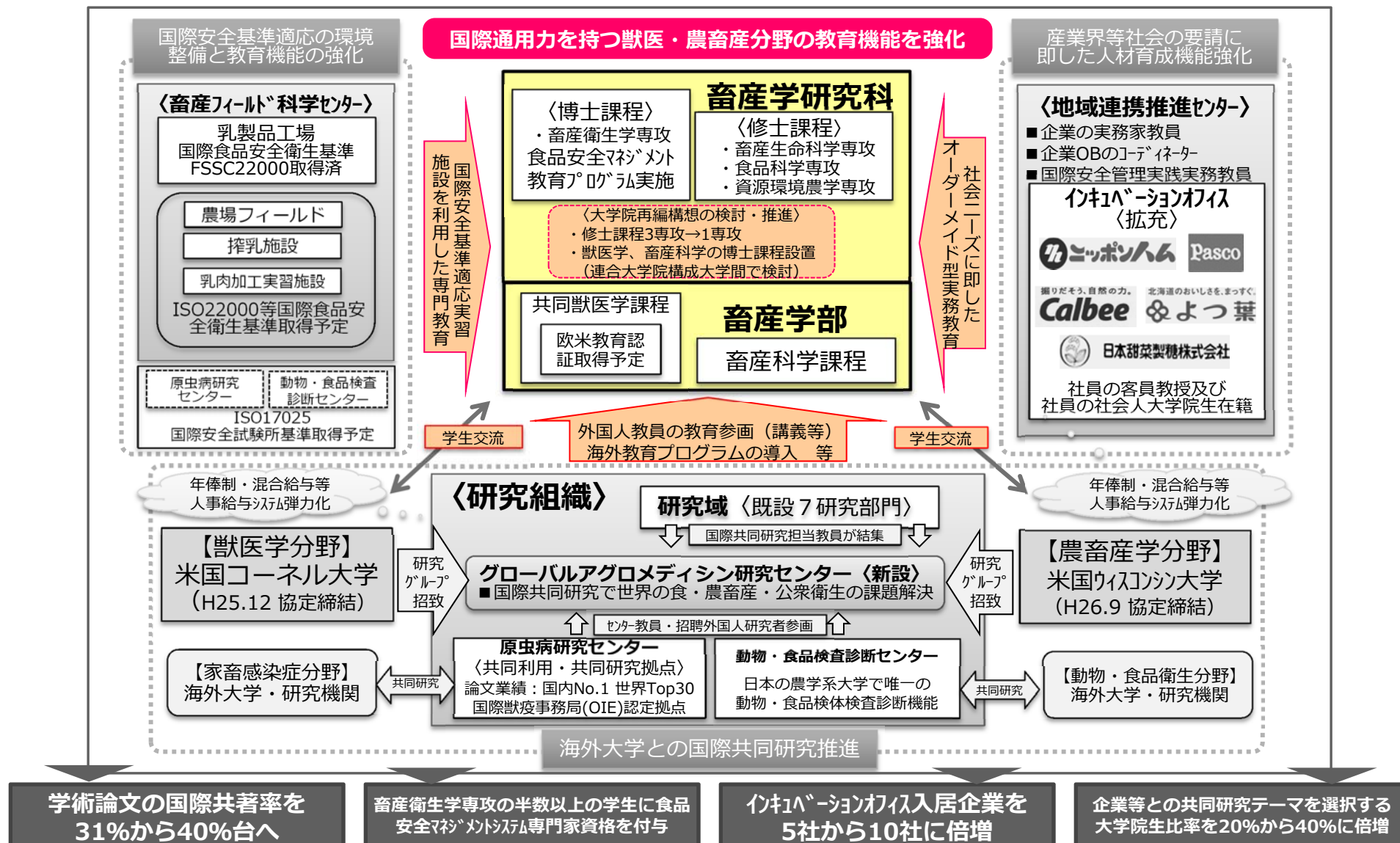
資料3 帯広畜産大学の機能強化

【ミッションの再定義】

グローバル人材を育成するため、獣医学分野と農畜産学分野を融合した実学重視の学部・大学院教育を目指す。

【第3期中期目標】

獣医学分野と農畜産学分野を融合した教育研究体制、国際通用力を持つ教育課程及び食の安全確保のための教育システムを保有する我が国唯一の国立農学系単科大学として、グローバル社会の要請に即した農学系人材を育成する。



帯広畜産大学大学院 畜産学研究科に関する企業アンケート

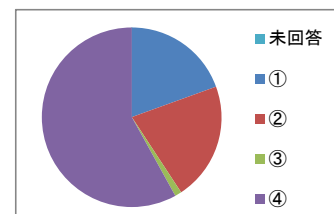
総回答数： 329

送付数： 619

回収率： 53.2%

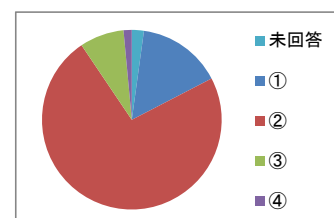
設問1. 貴社・貴機関では、これまでに獣医・農畜産系の大学院修了者を採用したことがありますか。

未回答	未回答	0	0.0%
1. 修士・博士問わず採用実績がある		64	19.5%
2. 修士のみ採用実績がある		70	21.3%
3. 博士のみ採用実績がある		4	1.2%
4. 採用実績はない		191	58.1%



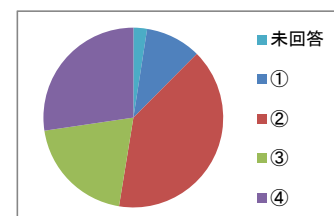
設問2. (設問1で1-3に回答した方にお伺いします) 過去5年間の採用数を教えてください。

未回答	未回答	3	2.2%
1. 0人		21	15.2%
2. 1～10人程度		101	73.2%
3. 10～50人程度		11	8.0%
4. 50人以上		2	1.4%



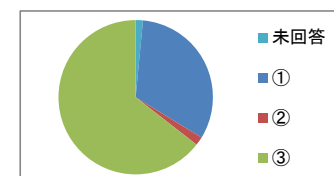
設問3. 貴社・貴機関において、獣医・農畜産学の専門的知識を有した人材は十分に確保されていると思いますか。

未回答	未回答	8	2.4%
1. 十分確保している		33	10.0%
2. 十分ではないが一定数確保している		132	40.1%
3. 確保していないが、今後、確保したいと考えている		66	20.1%
4. そのような人材は不要と考えている		90	27.4%



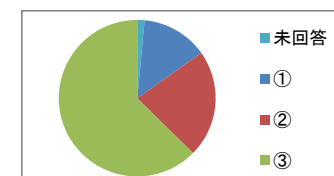
設問4. 貴社・貴機関において、獣医・農畜産学の専門的知識を有した人材の維持・確保増に向けてどのような対応をとる予定ですか。

未回答	未回答	5	1.5%
1. 今後、そういう人材の採用を増やしたい		107	32.5%
2. 現在の職員等を大学院に派遣し、再教育したい		6	1.8%
3. 特段の対応はしない		214	65.0%



設問5. 貴社・貴機関では、これまでに職員等を再教育のため大学院に派遣したことがありますか。また、その必要性を感じたことがありますか。

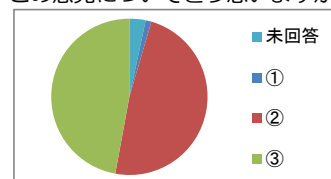
未回答	未回答	5	1.5%
1. 現在、再教育に派遣している。過去に派遣実績がある		45	13.7%
2. 派遣実績はないが、再教育の必要性は感じている		73	22.2%
3. 派遣実績はなく、再教育の必要性も感じていない		206	62.6%



資料4 畜産学研究科に関する企業アンケート結果

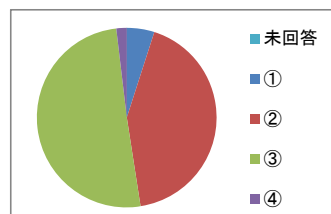
設問6. 博士課程の修了者は、専門性に固執・社会経験に乏しい、といった批判ありますが、この意見についてどう思いますか。

	未回答	11	3.3%
1. まったくそのとおりであると思う		4	1.2%
2. ある程度あてはまると思う		159	48.3%
3. そうは思わない		155	47.1%



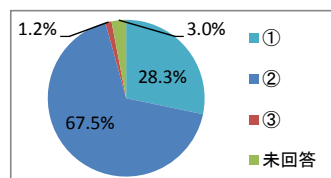
設問7. (設問6で1または2に回答した方にお伺いします) その理由は何によると思いますか。

	未回答	0	0.0%
1. 大学院教育のあり方		8	4.9%
2. 個人の資質		69	42.6%
3. 大学院教育、個人の資質の両方		82	50.6%
4. その他()		3	1.9%



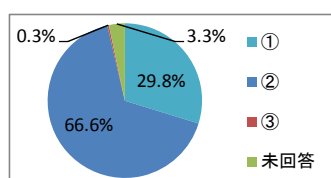
設問8. 本学では社会ニーズに即した人材及び農学が直面する複雑な課題解決に貢献できる人材を育成するため、大学院畜産学研究科の修士及び博士課程において、自身の専門分野に加えて農学の他分野を幅広く修得できるシステム(獣医・農畜産融合教育)を推進することを計画しております。この方針についてどう思いますか。

1. 大いに賛同できる	93	28.3%
2. 賛同できる	222	67.5%
3. 賛同できない	4	1.2%
未回答	10	3.0%



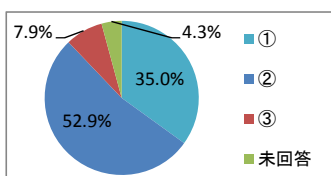
設問9. さらに、大学院畜産学研究科の再編計画においては、ISO等国际基準適応の教育環境・実習施設の活用、企業等の実務家教員による実践的な教育の充実、海外大学との教育・研究の交流推進により国際通用力のある人材の育成を考えております。この方針についてどう思いますか。

1. 大いに賛同できる	98	29.8%
2. 賛同できる	219	66.6%
3. 賛同できない	1	0.3%
未回答	11	3.3%



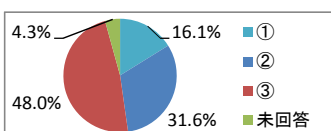
設問10. 本学では、近年の我が国における酪農・畜産業の振興の必要性、人間と動物の共存関係の高まり等を踏まえ、獣医師のみならず動物の健康や動物と社会との関係等を理解する人材育成が必要であるとの認識の下、大学院修士課程において、獣医師養成課程外の学士課程を卒業し、かつ、獣医学分野に興味がある学生を対象とした「動物医科学コース」を新設し、農畜産学の知識を基礎に、獣医学に関する基礎知識を提供し、動物に関する様々な知識を社会に還元できる高度専門職業人の養成を進めたいと考えております。このような教育プログラムを経た人材の重要性は高まると思いますか。また、貴社・貴機関において必要になると思いますか。

1. 重要性が高まり、必要になると考えている	115	35.0%
2. 重要性が高まるが、必要とはしない	174	52.9%
3. 重要性は高まらず、必要ともしない	26	7.9%
未回答	14	4.3%

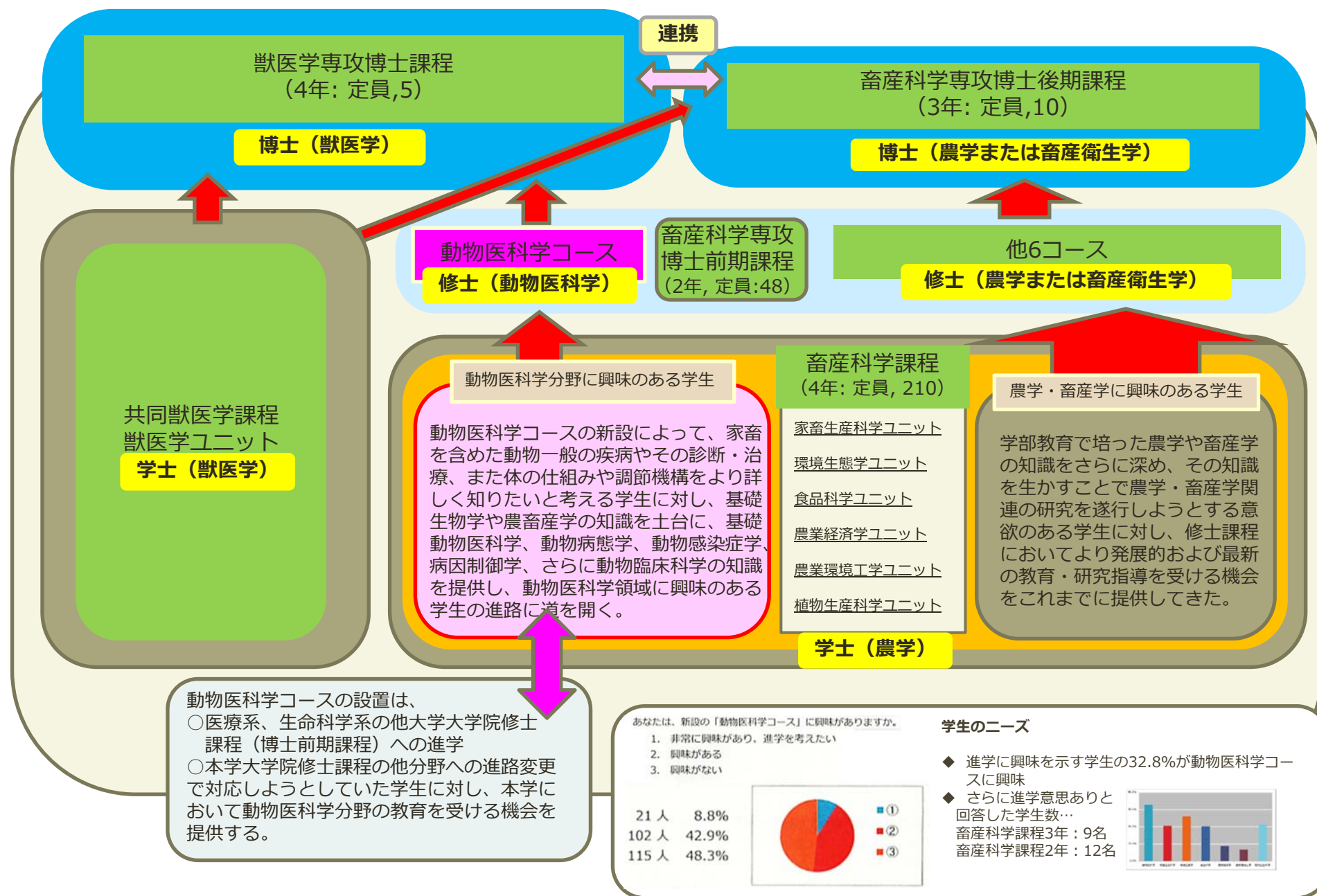


設問11. 設問8-10のような大学院が設置された場合、貴社・貴機関との交流はあると思いますか。

1. 積極的に修了生の採用・職員の再教育などで交流したい	53	16.1%
2. 共同研究等の実績を踏まえてから修了生の採用・職員の再教育	104	31.6%
3. 特段の交流はないと思う	158	48.0%
未回答	14	4.3%



資料5 動物医科学コースの概要



動物医科学コース独自開講科目

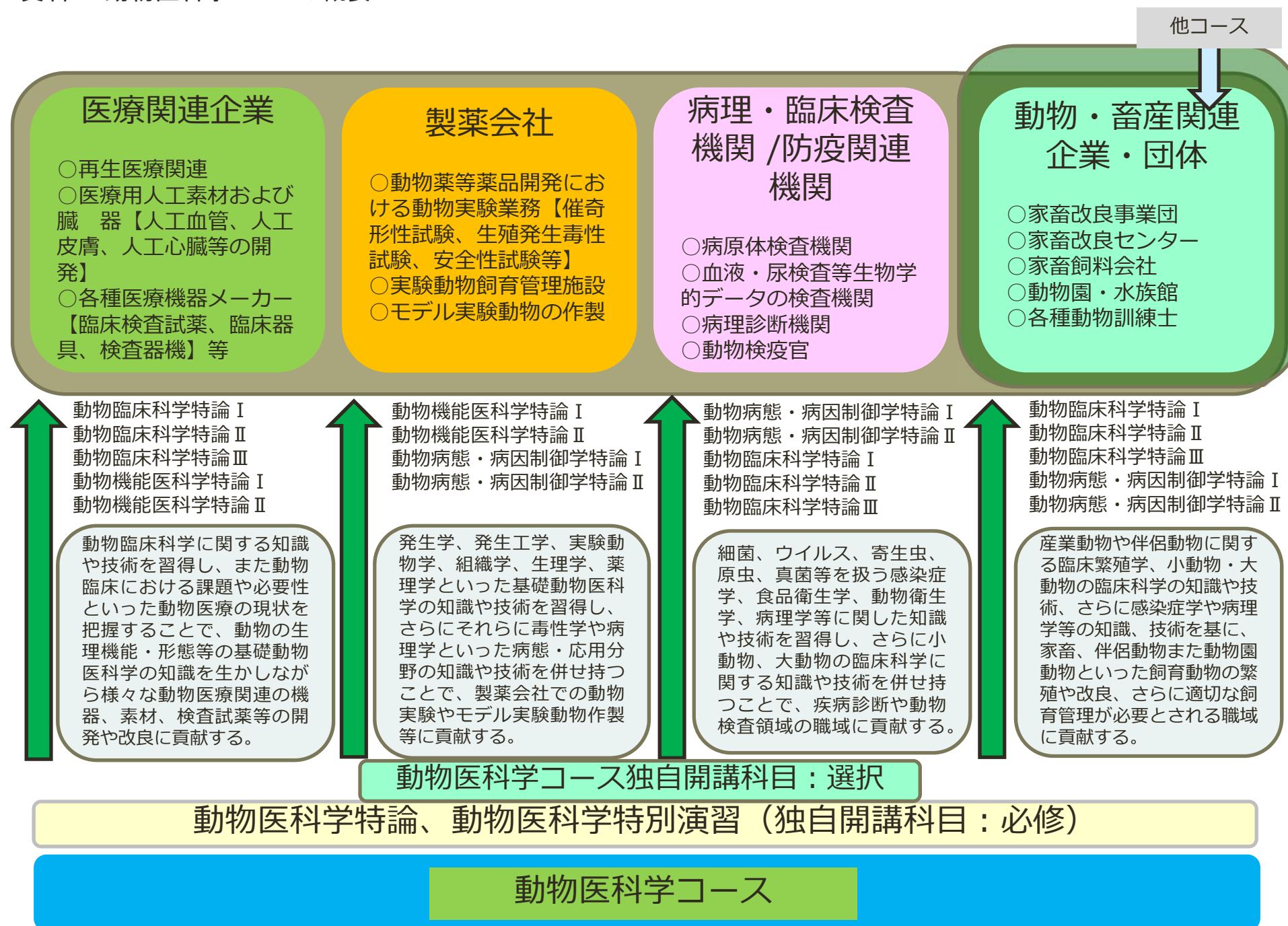
○必修科目（特論2単位、演習4単位）

- ◆動物医科学特論：基礎動物医科学、動物病態学、動物感染症学、病因制御学、動物臨床科学といった一連の動物医科学の総論的内容に関する講義
- ◆動物医科学特別演習：基礎動物医科学、動物病態学、動物感染症学、病因制御学、動物臨床科学といった一連の動物医科学の内容に関する参加型授業

○選択科目（各2単位）

- ◆動物機能医科学特論Ⅰ：発生学、発生工学、形態機能学に関する各論的内容の講義
- ◆動物機能医科学特論Ⅱ：生理学、薬理学、生化学に関する各論的内容の講義
- ◆動物病態・病因制御学特論Ⅰ：動物病態学に関する各論的内容の講義
- ◆動物病態・病因制御学特論Ⅱ：動物感染症学及び病因制御学に関する各論的内容の講義
- ◆動物臨床科学特論Ⅰ：小動物臨床科学に関する各論的内容の講義
- ◆動物臨床科学特論Ⅱ：大動物臨床科学に関する各論的内容の講義
- ◆動物臨床科学特論Ⅲ：繁殖学に関する各論的内容の講義

資料5 動物医科学コースの概要



資料6 ディプロマ・ポリシー／畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）

【専攻共通のディプロマ・ポリシー】

帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻博士前期課程では、教育課程で定められた授業科目を履修して所定の修了要件単位を修得し、動物医科学、家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学等の農畜産学分野及びその学際分野における最新の知識と技術を駆使し、「食の安全確保」をはじめとする農畜産学に関する問題解決型の高度な研究能力と幅広い見識を備え、以下の能力を身につけた人に学位を授与します。

（１）倫理観

社会通念上や専門家として相応しい倫理観、道徳観を身につけている人。

（２）課題設定・解決力

グローバル化を背景とした生命・食料・環境の分野の課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人。

（３）表現力・コミュニケーション能力

国際感覚を備えた思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身につけている人。

（４）専門的知識・技術

獣医・農畜産融合の視点から、本専攻に配置された各コースに関する高度専門職業人としての知識と技術を身につけている、または同コースの課題に関する研究者としての基礎的な能力を身につけている人。

（畜産衛生学位PG）

畜産物をはじめとする食品の国際安全衛生基準での衛生管理・品質保証に関する高度かつ総合的な知識と技術を有し、優れた実践力及び応用力を身につけている人。

【コース別のディプロマ・ポリシー】

動物医科学コース	家畜生産科学コース	環境生態学コース	食品科学コース	農業経済学コース	農業環境工学コース	植物生産科学コース
<p>（１）倫理観 動物医科学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人。</p> <p>（２）課題設定・解決力 動物医科学分野における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人。</p> <p>（３）表現力・コミュニケーション能力 他者の思想や意見を尊重した上で、動物医科学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人。</p> <p>（４）専門的知識・技術 基礎生物学や農畜産学の知識を土台に、基礎動物医科学、動物病態学、動物感染症学、病因制御学、さらに動物臨床科学等動物医科学に関する幅広い専門知識とそれを社会において応用、発展させていく能力を身につけている人。</p>	<p>（１）倫理観 家畜生産科学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人。</p> <p>（２）課題設定・解決力 畜産や生命科学分野における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人。</p> <p>（３）表現力・コミュニケーション能力 他者の思想や意見を尊重した上で、家畜生産科学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人。</p> <p>（４）専門的知識・技術 家畜の生理や行動を理解しそれを遺伝的改良や生産性の向上へと繋げる基礎から応用までの体系的な知識と技術を身につけている人。</p>	<p>（１）倫理観 環境生態学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人。</p> <p>（２）課題設定・解決力 環境生態学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人。</p> <p>（３）表現力・コミュニケーション能力 他者の思想や意見を尊重した上で、環境生態学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人。</p> <p>（４）専門的知識・技術 環境を構成する様々な生命体の役割と機能、相互作用、及び生態系の保全・管理・利用に関する包括的かつ体系的な知識と技術を身につけている人。</p>	<p>（１）倫理観 食品科学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人。</p> <p>（２）課題設定・解決力 食品科学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人。</p> <p>（３）表現力・コミュニケーション能力 他者の思想や意見を尊重した上で、食品科学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人。</p> <p>（４）専門的知識・技術 農畜産物の加工・利用及びそれらの機能性・安全性についての高度な知識と技術及び応用力を身につけている人。</p>	<p>（１）倫理観 農業経済学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人。</p> <p>（２）課題設定・解決力 農業経済学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人。</p> <p>（３）表現力・コミュニケーション能力 他者の思想や意見を尊重した上で、農業経済学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人。</p> <p>（４）専門的知識・技術 地域の資源を利用し、食料の生産性向上を支えるための農業経済に関する高度な知識と技術を身につけている人。</p>	<p>（１）倫理観 農業環境工学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人。</p> <p>（２）課題設定・解決力 農業環境工学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人。</p> <p>（３）表現力・コミュニケーション能力 他者の思想や意見を尊重した上で、農業環境工学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人。</p> <p>（４）専門的知識・技術 地域の資源を利用し、食料の生産性向上を支えるための生産技術や環境制御に関する高度な知識と技術を身につけている人。</p>	<p>（１）倫理観 植物生産科学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人。</p> <p>（２）課題設定・解決力 植物生産科学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人。</p> <p>（３）表現力・コミュニケーション能力 他者の思想や意見を尊重した上で、植物生産科学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人。</p> <p>（４）専門的知識・技術 地域の資源を利用し、食料の生産性向上を支えるための食料生産原理や生産技術に関する高度な知識と技術を身につけている人。</p>

資料7 ディプロマ・ポリシー／畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）

【専攻共通のディプロマ・ポリシー】

帯広畜産大学大学院畜産学研究科獣医学専攻博士課程及び畜産科学専攻博士後期課程では、教育課程で定められた授業科目を履修して所定の修了要件単位を修得し、臨床獣医学、基礎獣医学、公衆衛生学、家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学等の獣医学分野、農畜産学分野及びその学際分野における最新の知識と技術を駆使した先端研究を担うため、以下の能力を身につけた人に学位を授与します。

（１）倫理観

教育者・研究者としての高い倫理観・道徳観を身につけている人。

（２）国際通用力・リーダーシップ

獣医学分野、農畜産学分野及びその学際分野に関する国際的な視野を持って、農畜産業のグローバル化に伴う多様な社会ニーズに対応できる実践力と、リーダーシップを発揮して国際水準の先端的な研究ができる能力を身につけている人。

（３）表現力・コミュニケーション能力

国際通用性のある思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身につけている人。

（４）専門的知識・技術

本研究科に配置された専攻分野に関する学術基盤をなす深い学識と高度な専門技術を備え、獣医・農畜産学融合の視点から新規性及び独創性の高い先端的研究ができる教育者・研究者としての知識と技術を身につけている人。

（畜産衛生学位PG）

「食の安全確保」を担う国際的な研究者としての幅広い知識を有し、優れた問題解決ができる能力を身につけている人。

【専攻別のディプロマ・ポリシー】

獣医学専攻	畜産科学専攻
<p>（１）倫理観</p> <p>基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学、臨床獣医学等の獣医学分野における最新の知識と技術と伴侶動物、産業動物及び野生動物を対象として高度な最先端医療技術及び生命現象や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観を身につけている人。</p> <p>（２）国際通用力・リーダーシップ</p> <p>・生体内部のミクロレベル、個体及び個体群を対象としたマクロレベル、さらに家畜生産を含めた広範囲な生命科学的研究領域において国際水準の先端的研究ができる能力を身につけている人。</p> <p>・生体内部、個体及び個体群を対象とした生態学的研究領域において国際水準の先端的研究ができる能力を身につけている人。</p> <p>・動物医科学に関する幅広い専門分野の知識を身につけ、国際水準の先端的研究ができる能力を身につけている人。</p> <p>・食品安全マネジメントシステムや国内外における農畜産物の安全監視に関する高度な専門知識と獣医療・動物医科学の優れた分析技術や家畜管理技術を生かし、食の安全や動物とヒトの健康の向上に貢献できる能力を身につけている人。</p> <p>（３）表現力・コミュニケーション能力</p> <p>基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学、臨床獣医学等の獣医学分野における専門性について、思考・判断の過程を説明するために国際通用性のあるプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身につけている人。</p> <p>（４）専門的知識・技術</p> <p>食品安全マネジメントシステムや国内外における農畜産物の安全監視に関する高度な専門知識と獣医療・動物医科学の優れた分析技術や家畜管理技術を生かし、食の安全や動物とヒトの健康の向上に貢献でき、獣医学分野、農畜産学分野及びその学際分野に関する国際的な視野を持って、獣医学のグローバル化に伴う多様な社会ニーズに対応できる実践力とリーダーシップを発揮し、国際水準の先端的な研究能力を身につけている人。</p>	<p>（１）倫理観</p> <p>家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学、畜産衛生学、動物医科学の農畜産学分野における最新の知識と技術と生命現象や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観を身につけている人。</p> <p>（２）国際通用力・リーダーシップ</p> <p>・生体内部のミクロレベル、個体及び個体群を対象としたマクロレベル、さらに家畜生産を含めた広範囲な生命科学的研究領域において国際水準の先端的研究ができる能力を身につけている人。</p> <p>・生体内部、個体及び個体群を対象とした生態学的研究領域において国際水準の先端的研究ができる能力を身につけている人。</p> <p>・農畜産物の加工・利用及びそれらの機能性・安全性についての高度な知識と技術及び国際水準の先端的研究ができる能力を身につけている人。</p> <p>・国内外の資源を利用し、食料の生産性向上を支えるための農業経済に関する国際水準の先端的研究ができる能力を身につけている人。</p> <p>・国内外の資源を利用し、食料の生産性向上を支えるための生産技術や環境制御に関する国際水準の先端的研究ができる能力を身につけている人。</p> <p>・動物医科学に関する幅広い専門分野の知識を身につけ、国際水準の先端的研究ができる能力を身につけている人。</p> <p>（３）表現力・コミュニケーション能力</p> <p>家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学分野における専門性について、思考・判断の過程を説明するために国際通用性のあるプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身につけている人。</p> <p>（４）専門的知識・技術</p> <p>家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学分野における高度な知識と技術を身につけ、獣医学分野、農畜産学分野及びその学際分野に関する国際的な視野を持って、農畜産業のグローバル化に伴う多様な社会ニーズに対応できる実践力とリーダーシップを発揮し、国際水準の先端的な研究能力を身につけている人。</p>

資料8 カリキュラム・ポリシー／畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）

【専攻共通のカリキュラム・ポリシー】

帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻博士前期課程ディプロマ・ポリシーに掲げた知識・技能等を修得させるために、以下の点に配慮して教育を行います。

（１）倫理観の養成

e-ラーニング等を用いた、倫理観を養成する科目を配置します。

（２）課題設定・解決能力の養成

アクティブラーニングを用いた、論理的思考能力を磨き、食の安全確保・生産性向上・環境保全に関する課題設定・解決能力を養成する科目を配置します。

（３）国際感覚を備えた実践力の養成

グローバル社会で活躍するための英語力を修得するため、英語によるプレゼンテーション能力や論文作成能力を高める科目を配置するとともに、身につけた表現力・コミュニケーション能力を実践するためのインターンシップ、海外演習、研究発表に関する科目を配置します。

（４）豊かな教養と幅広い学術基盤の形成

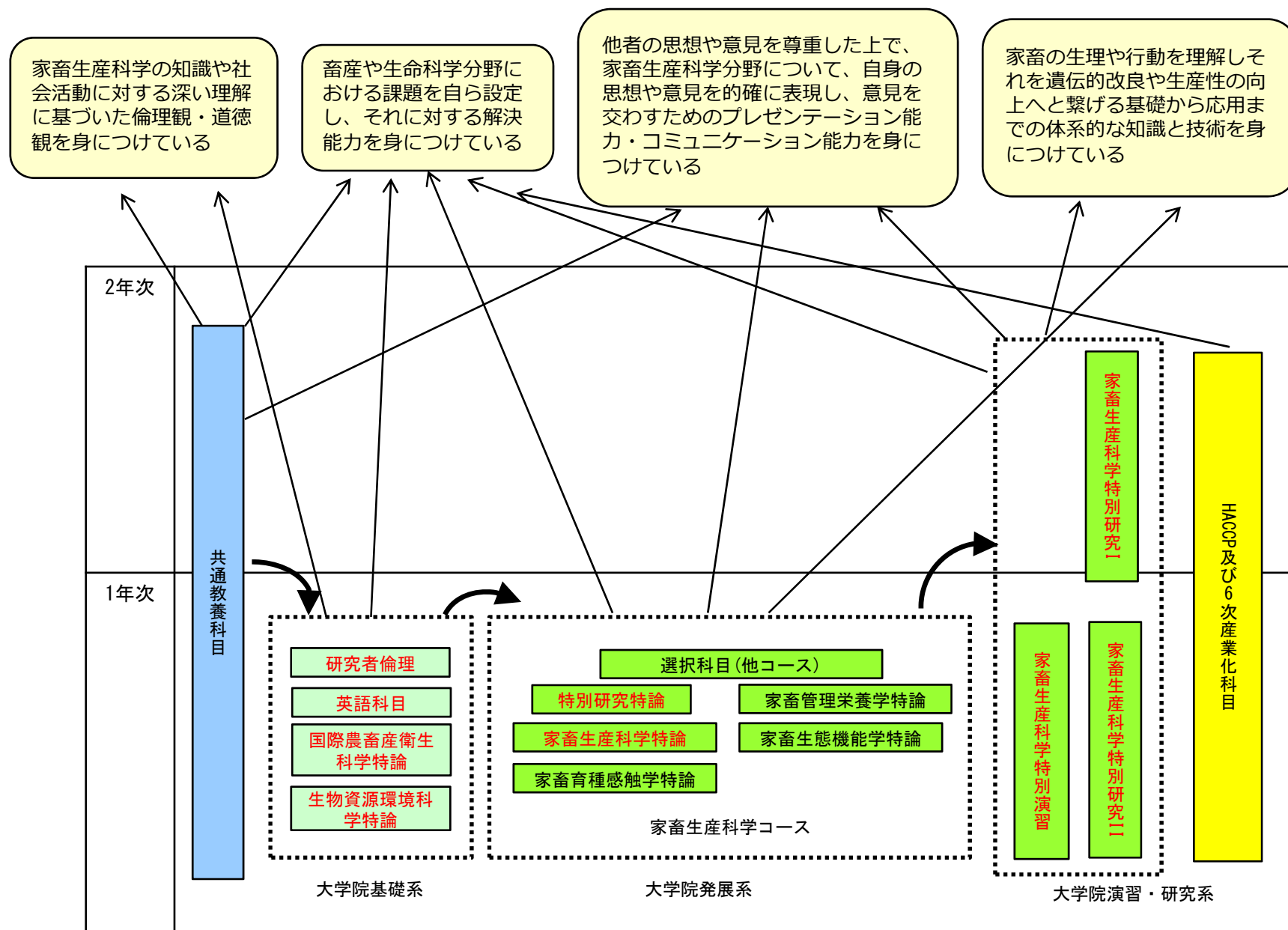
豊かな教養を身につけるための共通教養科目及び高度な専門性を修得するための専攻コア科目を配置するとともに、専門性の高い知識を分野横断的に修得するために、他コース専門科目を選択科目として配置します。

（畜産衛生学位PG）国際安全衛生基準の食品安全マネジメントシステムに関する知識及び技術を実践的かつ体系的に学ぶ授業科目を配置します。さらに企業等と連携し、それらの知識・技術の現場への応用を目指す演習科目を配置します。

【コース別のカリキュラム・ポリシー】

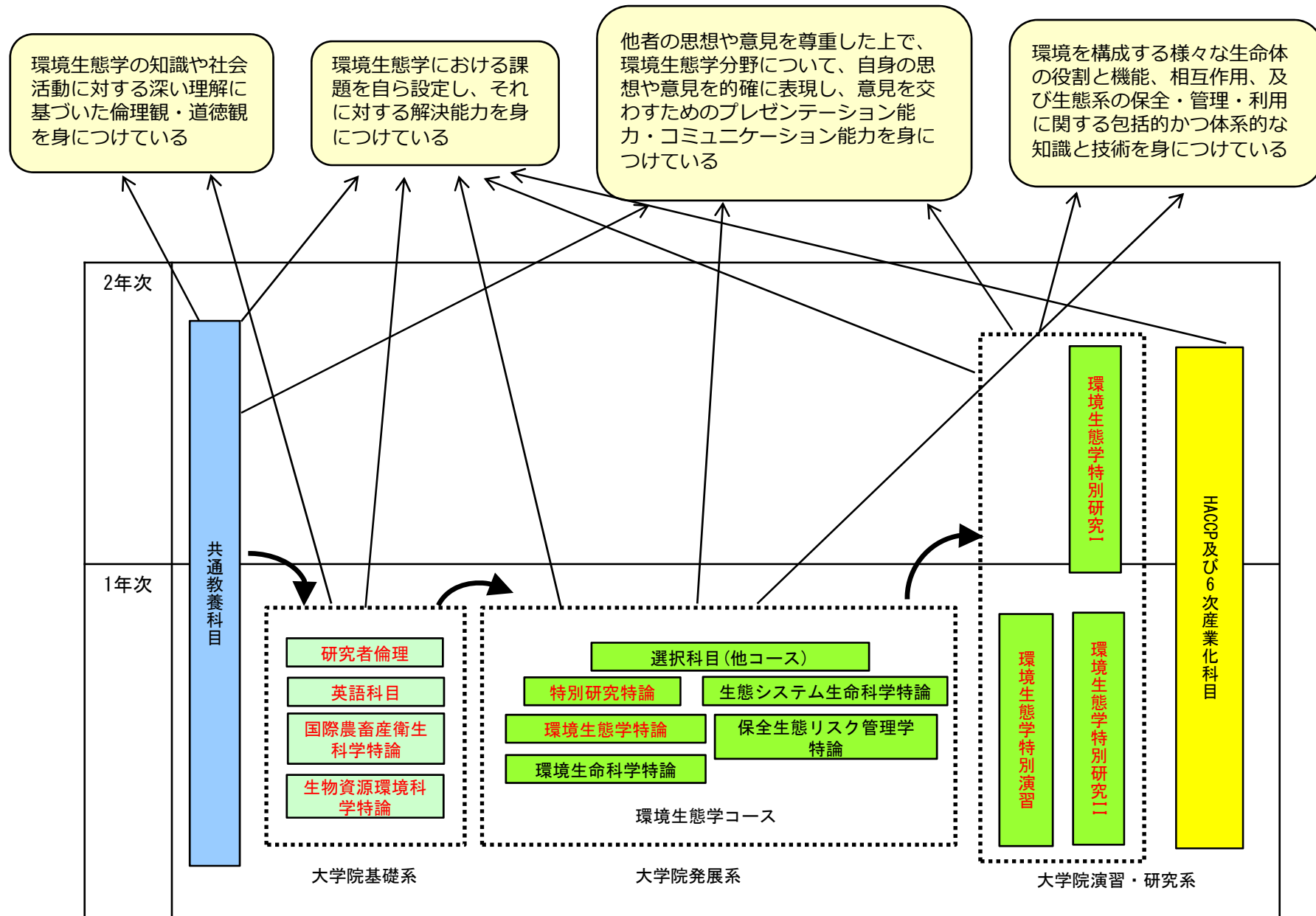
動物医科学コース	家畜生産科学コース	環境生態学コース	食品科学コース	農業経済学コース	農業環境工学コース	植物生産科学コース
上記（１）～（４）の専攻共通のカリキュラム・ポリシーに加え、下記のとおり各コースにおける高度な専門性を修得するための科目を配置しています。						
（５）伴侶動物、産業動物、実験動物、野生動物といった様々な動物を対象として、基礎、病態、感染症、病因制御、動物臨床科学等一連の動物医科学に関する幅広い専門分野を学ぶための科目を配置します。	（５）畜産を従来の生産学的視点だけではなく動物福祉や生態系への配慮等を含めた広い視点で捉え、家畜の生理や行動を理解しそれを遺伝的改良や生産性の向上へと繋げる基礎から応用までの最新の知識と技術を修得する科目を配置します。	（５）農畜産環境とそれを取りまく自然環境を保護から利用まで含めた広い視点で捉え、環境を構成する動物、植物、昆虫、微生物の役割と機能、相互作用、農畜産とのかかわり、そして生態系の保全に関する最新の知識を修得する科目を配置します	（５）農畜産物を原料とした食品の製造・加工及びこれらの機能性・安全性に関して、分子レベルから工業生産レベルまでの広範かつ最新の知見と技術を学ぶための科目を配置します。	（５）わが国の食料基地と位置づけられる北海道十勝地域の資源活用と、持続可能な物質循環を踏まえ、食料生産・流通・消費に関わる経済学や経営学に関する分野の高度な知識と技術を修得させる科目を配置します。	（５）わが国の食料基地と位置づけられる北海道十勝地域の資源を活用し、持続可能な物質循環や地域資源を踏まえ、機械的・生物学的手法や土木技術手法による食料生産環境の改善に関する分野の高度な知識と技術を修得させる科目を配置します。	（５）わが国の食料基地と位置づけられる北海道十勝地域の資源を活用し、持続可能な物質循環や地域資源を踏まえ、植物の生理、生態、遺伝や土壌に関する高度な知識をもとにした植物生産の量的・質的向上に関する分野の高度な知識と技術を修得させる科目を配置します。

カリキュラムフローチャート（博士前期課程 家畜生産科学コース）



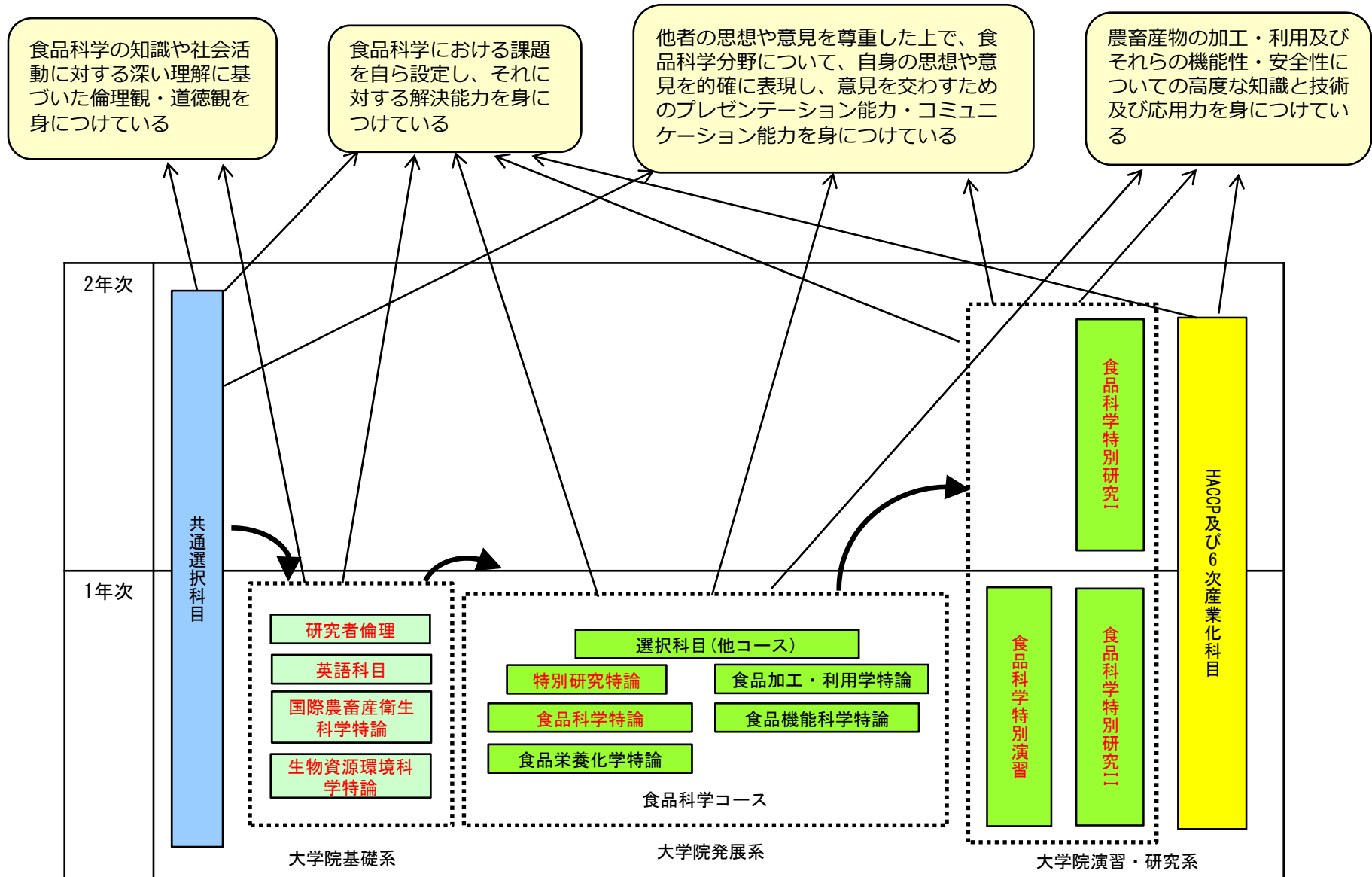
赤字:必修、黒字:選択

カリキュラムフローチャート（博士前期課程 環境生態学コース）



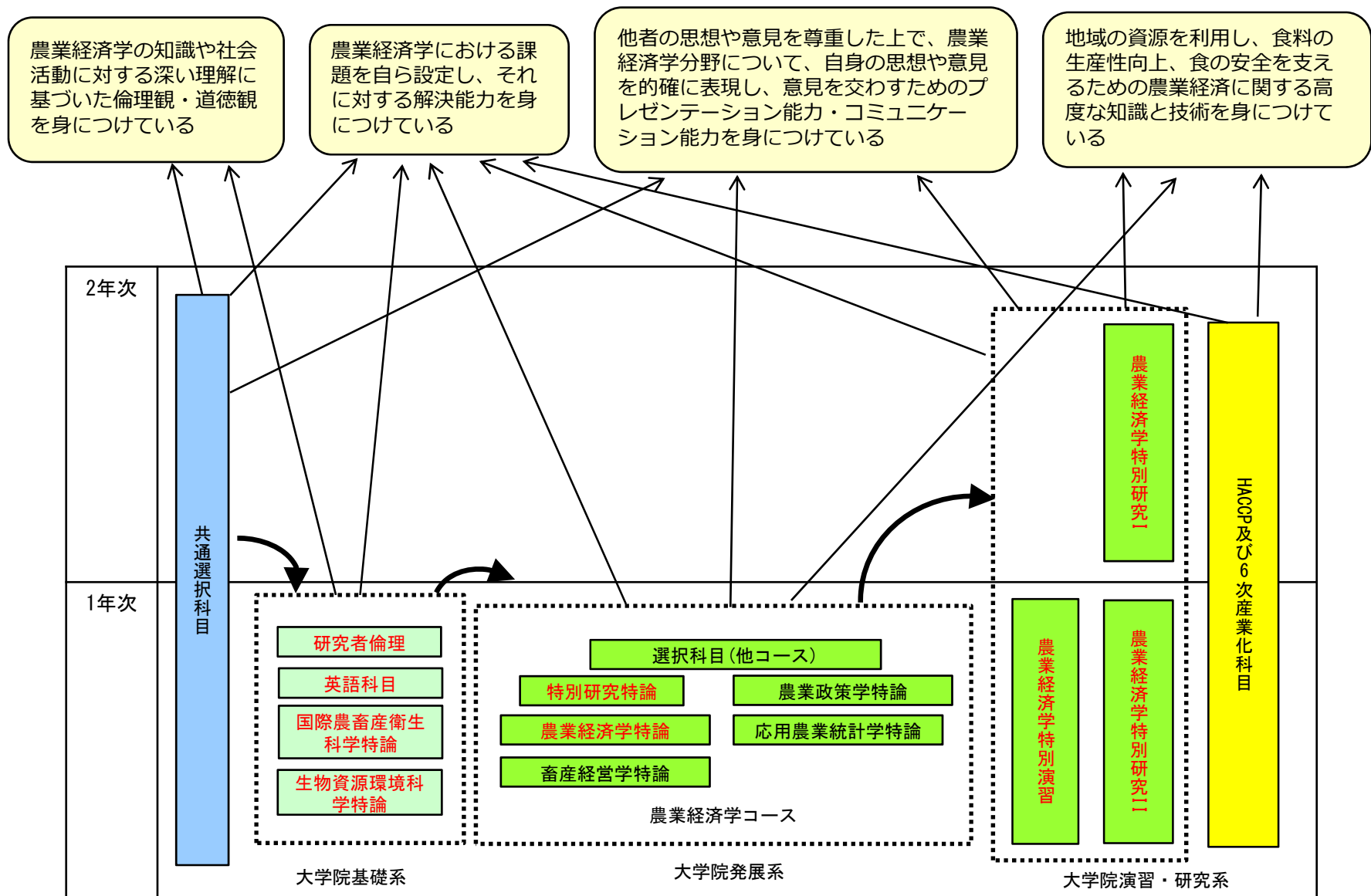
赤字:必修、黒字:選択

カリキュラムフローチャート（博士前期課程 食品科学コース）



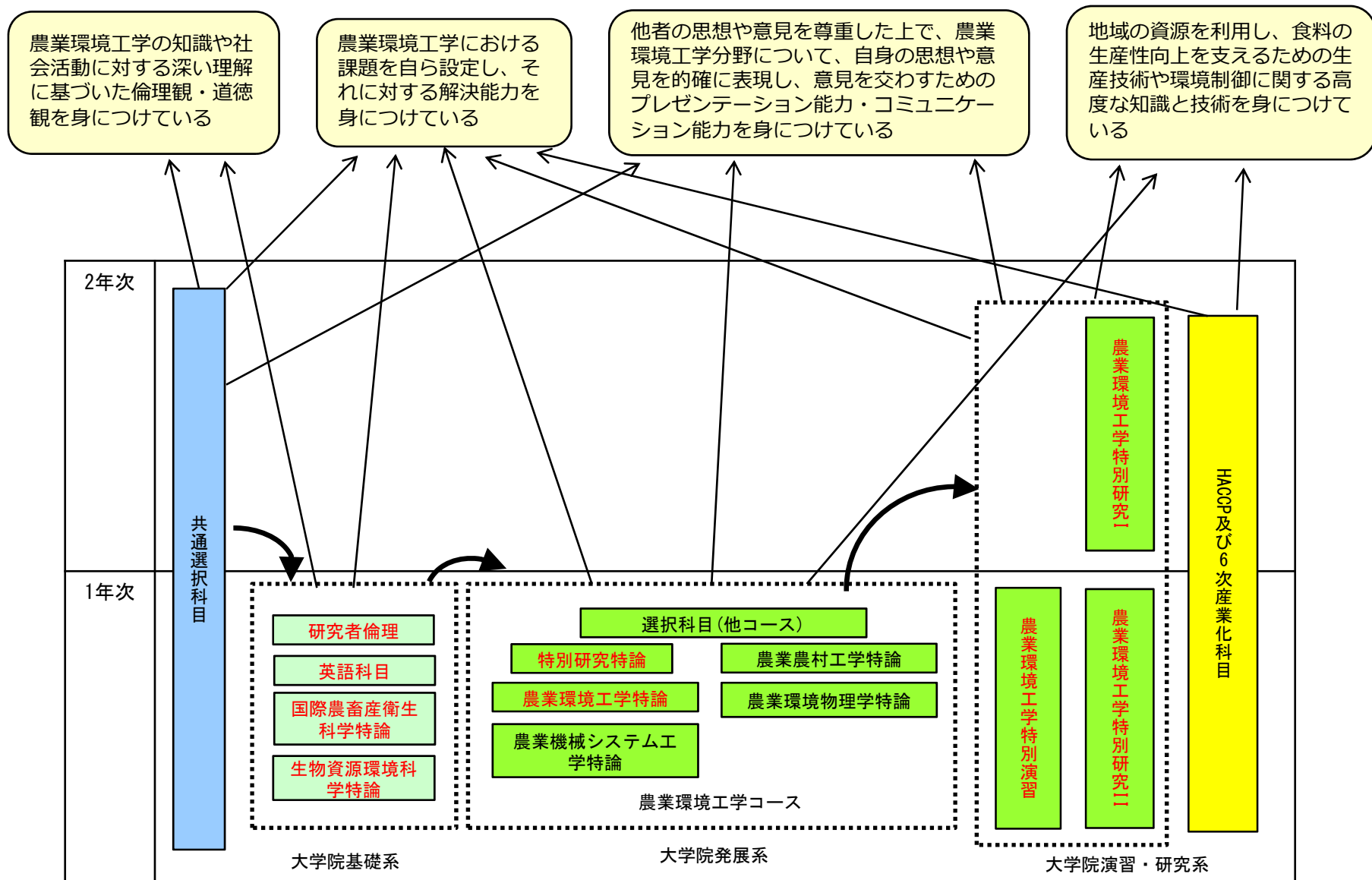
赤字:必修、黒字:選択

カリキュラムフローチャート（博士前期課程 農業経済学コース）



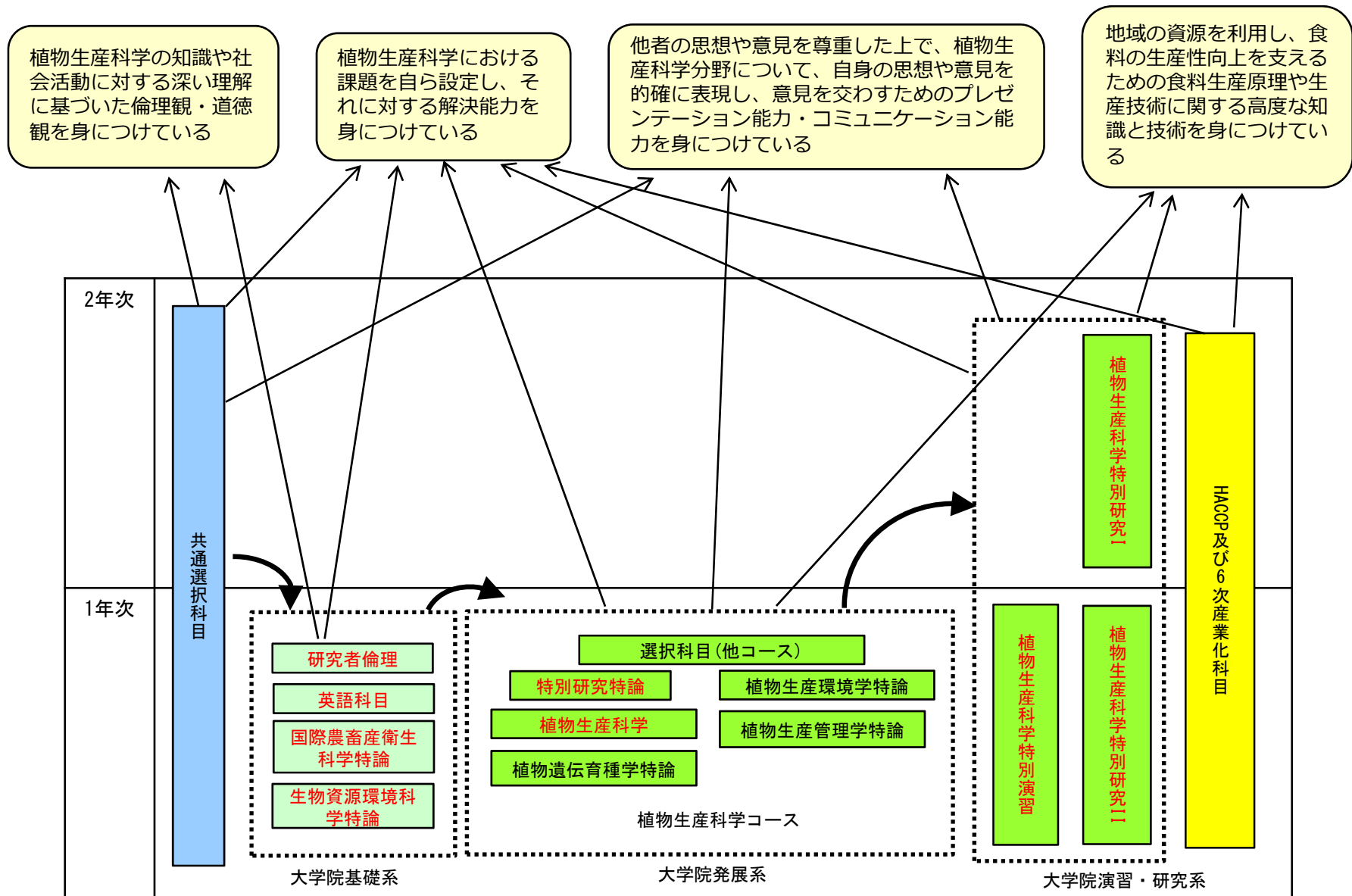
赤字：必修、黒字：選択

カリキュラムフローチャート（博士前期課程 農業環境工学コース）



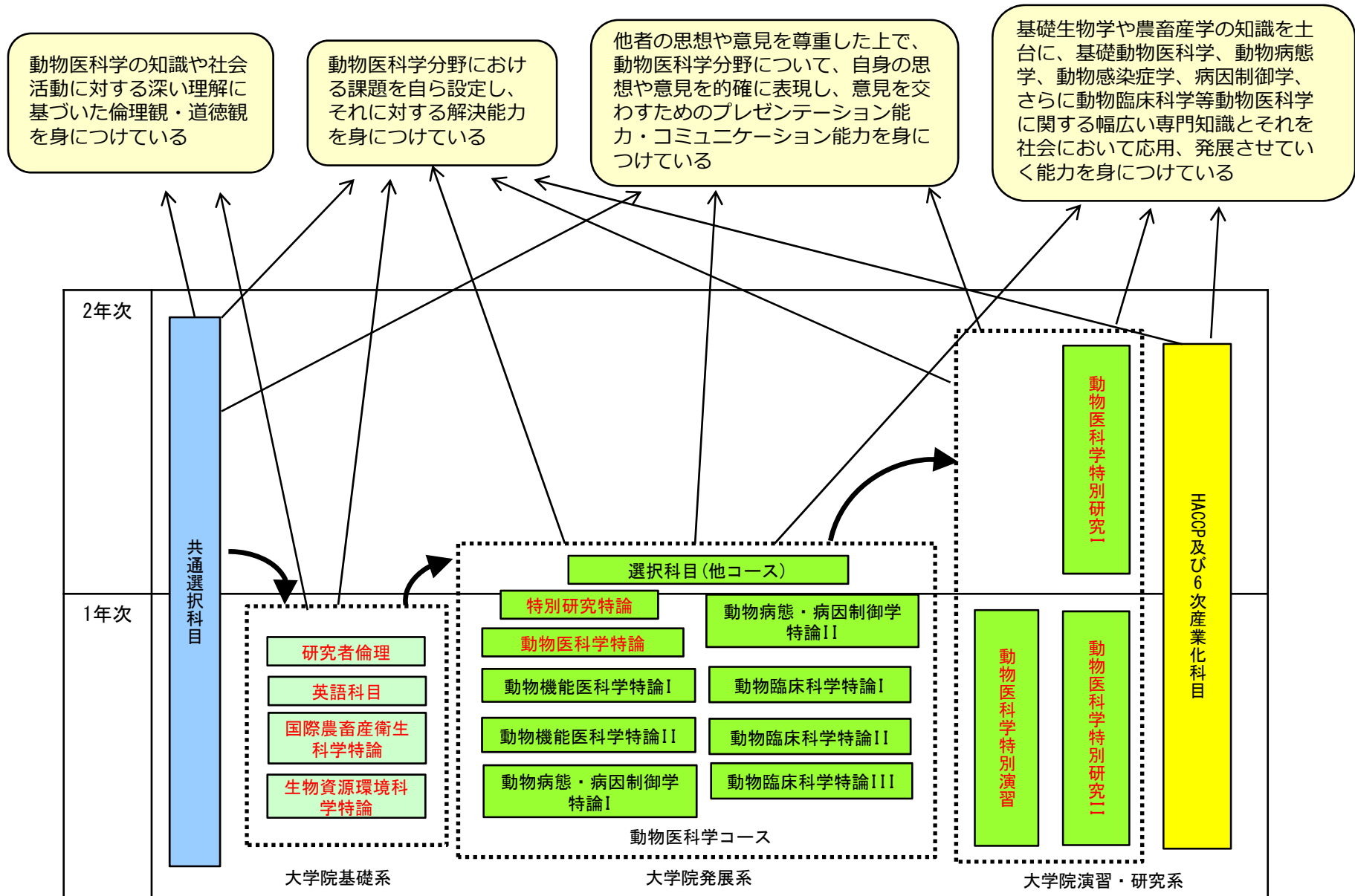
赤字:必修、黒字:選択

カリキュラムフローチャート（博士前期課程 植物生産科学コース）



赤字:必修、黒字:選択

カリキュラムフローチャート（博士前期課程 動物医科学コース）



赤字:必修、黒字:選択

資料9 授業科目一覧／畜産科学専攻(博士前期課程)

共通必修科目

区分	授業科目	単位	修了要件	専修免許状 の科目区分
共通コア科目	国際農畜産衛生科学特論	2	8単位	農業
	生物資源環境科学特論	2		農業
	特別研究特論	2		
英語科目	English Communication for Science	2		

共通選択科目

区分	授業科目	単位	修了要件	専修免許状 の科目区分
HACCP科目	HACCPシステム構築演習	2	他コース科目を 含め4単位まで	
	食品関連法規と食品製造・加工設備保全特論	2		
	食品検査学演習	2		
6次産業化科目	食品流通・地域産業活性化特論	2		
	企業戦略特論	2		
共通教養科目	環境法制度論	2		農業
	教育学特論	2		教職
	教育心理学特論	2		教職
	歴史と生命	2		
	体育と健康	2		
	「北海道文学」論	2		
	西洋環境文化論	2		
	外交と食料	2		農業
	知的財産制度論	2		
	教育統計と教育データ分析	2		教職
共通演習科目	海外フィールドワークⅠ	2		
	海外フィールドワークⅡ	4		
	国内フィールドワーク	2		
	アカデミックプレゼンテーション演習	2		
	コーポレートワーク演習	2		

動物医科学コース

区分	授業科目	単位	修了要件	専修免許状 の科目区分
コース必修科目	動物医科学特別研究Ⅰ	4	14単位	
	動物医科学特別研究Ⅱ ^{*1}	4		
	動物医科学特論	2		農業
	動物医科学特別演習	4		農業
コース選択科目	動物機能医科学特論Ⅰ	2	4単位以上 ^{*2}	農業
	動物機能医科学特論Ⅱ	2		農業
	動物病態・病因制御学特論Ⅰ	2		農業
	動物病態・病因制御学特論Ⅱ	2		農業
	動物臨床科学特論Ⅰ	2		農業
	動物臨床科学特論Ⅱ	2		農業
	動物臨床科学特論Ⅲ	2		農業

家畜生産科学コース

区分	授業科目	単位	修了要件	専修免許状 の科目区分
コース必修科目	家畜生産科学特別研究Ⅰ	4	14単位	
	家畜生産科学特別研究Ⅱ ^{*1}	4		
	家畜生産科学特論	2		農業
	家畜生産科学特別演習	4		農業
コース選択科目	家畜育種繁殖学特論	2	4単位以上 ^{*2}	農業
	家畜管理栄養学特論	2		農業
	家畜生体機能学特論	2		農業

環境生態学コース

区分	授業科目	単位	修了要件	専修免許状 の科目区分
コース必修科目	環境生態学特別研究Ⅰ	4	14単位	
	環境生態学特別研究Ⅱ ^{*1}	4		
	環境生態学特論	2		農業
	環境生態学特別演習	4		農業
コース選択科目	環境生命科学特論	2	4単位以上 ^{*2}	農業
	生態システム生命科学特論	2		農業
	保全生態リスク管理学特論	2		農業

食品科学コース

区分	授業科目	単位	修了要件	専修免許状 の科目区分
コース必修科目	食品科学特別研究Ⅰ	4	14単位	
	食品科学特別研究Ⅱ ^{*1}	4		
	食品科学特論	2		農業
	食品科学特別演習	4		農業
コース選択科目	食品加工・利用学特論	2	4単位以上 ^{*2}	農業
	食品栄養化学特論	2		農業
	食品機能科学特論	2		農業

農業経済学コース

区分	授業科目	単位	修了要件	専修免許状 の科目区分
コース必修科目	農業経済学特別研究Ⅰ	4	14単位	
	農業経済学特別研究Ⅱ ^{*1}	4		
	農業経済学特論	2		農業
	農業経済学特別演習	4		農業
コース選択科目	畜産経営学特論	2	4単位以上 ^{*2}	農業
	農業政策学特論	2		農業
	応用農業統計学特論	2		農業

農業環境工学コース

区分	授業科目	単位	修了要件	専修免許状 の科目区分
コース必修科目	農業環境工学特別研究Ⅰ	4	14単位	
	農業環境工学特別研究Ⅱ ^{*1}	4		
	農業環境工学特論	2		農業
	農業環境工学特別演習	4		農業

コース選択科目	農業機械システム工学特論	2	4単位以上 ^{*2}	農業
	農業農村工学特論	2		農業
	農業環境物理学特論	2		農業

植物生産科学コース

区分	授業科目	単位	修了要件	専修免許状 の科目区分
コース必修科目	植物生産科学特別研究Ⅰ	4	14単位	
	植物生産科学特別研究Ⅱ ^{*1}	4		
	植物生産科学特論	2		農業
	植物生産科学特別演習	4		農業
コース選択科目	植物遺伝育種学特論	2	4単位以上 ^{*2}	農業
	植物生産環境学特論	2		農業
	植物生産管理学特論	2		農業

*1 畜産衛生学位プログラム履修者は、畜産衛生課題研究で代替可

*2 畜産衛生学位プログラム履修者は、畜産衛生学位プログラムの選択科目で代替可

畜産衛生学位プログラム

区分	授業科目	単位	要件	専修免許状 の科目区分
プログラム 必修科目	畜産衛生学特論	2	4単位	
	食品衛生・有害物質特論	2		
プログラム 選択必修科目	畜産衛生課題研究	4	4単位	
	各コースの特別研究Ⅱ	4		
プログラム 選択科目	HACCPシステム構築演習	2	6単位以上	
	食品関連法規と食品製造・加工施設保全特論	2		
	食品検査学演習	2		
	食品流通・地域産業活性化特論	2		
	企業戦略特論	2		

教職専修プログラム

区分	授業科目	単位	要件	専修免許状 の科目区分
プログラム必修科目	教育学特論	2	6単位	教職
	教育心理学特論	2		教職
	教育統計と教育データ分析	2		教職
	国際農畜産衛生科学特論	2		農業
	生物資源環境科学特論	2		農業
	動物医科学特論	2		農業
	動物機能医科学特論Ⅰ	2		農業
	動物病態・病因制御学特論Ⅰ	2		農業
	動物病態・病因制御学特論Ⅱ	2		農業
	動物臨床科学特論Ⅱ	2		農業
	動物臨床科学特論Ⅲ	2		農業
	家畜生産科学特論	2		農業
	家畜生産科学特別演習	4		農業
	家畜育種繁殖学特論	2		農業
	家畜管理栄養学特論	2		農業
	家畜生体機能学特論	2		農業
	環境生態学特論	2		農業
	環境生態学特別演習	4		農業
	環境生命科学特論	2		農業

プログラム 選択科目	生態システム生命科学特論	2	18単位まで	農業
	保全生態リスク管理学特論	2		農業
	食品科学特論	2		農業
	食品科学特別演習	4		農業
	食品加工・利用学特論	2		農業
	食品栄養化学特論	2		農業
	食品機能科学特論	2		農業
	農業経済学特論	2		農業
	農業経済学特別演習	4		農業
	畜産経営学特論	2		農業
	農業政策学特論	2		農業
	応用農業統計学特論	2		農業
	農業環境工学特論	2		農業
	農業環境工学特別演習	4		農業
	農業機械システム工学特論	2		農業
	農業農村工学特論	2		農業
	農業環境物理学特論	2		農業
	植物生産科学特論	2		農業
	植物生産科学特別演習	4		農業
	植物遺伝育種学特論	2		農業
	植物生産環境学特論	2		農業
	植物生産管理学特論	2		農業

博士進学プログラム

区分	授業科目	単位	要件	専修免許状 の科目区分
プログラム 必修科目	所属コースの特別研究Ⅱ ^{*3}	4	14単位 ^{*4}	
	English Communication for Science	2		
	所属コースのコース選択科目3科目	6		農業
	アカデミックプレゼンテーション演習	2		

*3 畜産衛生プログラムを選択している場合でも必ず修得すること

*4 プログラム・コンプリートの要件は、プログラム必修科目すべてについて「A-」以上の成績で修得すること

資料10 カリキュラム・ポリシー／畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）

【専攻共通のカリキュラム・ポリシー】

帯広畜産大学大学院畜産学研究科獣医学専攻博士課程及び畜産科学専攻博士後期課程ディプロマ・ポリシーに掲げた知識・技能等を修得させるために、以下の点に配慮して教育を行います。

（１）研究者としての高度な倫理観の養成

e-ラーニングやアクティブラーニングを用いた、高度な倫理観を養成する科目を配置します。

（２）リーダーシップの養成

・社会ニーズに対応できる実践力とリーダーシップを有する教育者・研究者を育成するために、高度な知識と技術を習得し、全体を統括できる能力を習得させる科目を配置します。

・優れた教育者・研究者になるために教育・研究スキルを実践的に修得できる科目を配置します。

（３）国際通用力の養成

・海外での活動を見据え、英語によるプレゼンテーション能力や、ディベート能力及び論文作成能力を高める科目を配置します。

・最先端の研究能力を修得するため、海外の大学との協力体制による研究インターンシップやフィールドワーク等の国際通用力を養成する科目を配置します。

（４）博士人材としての総合研究力の養成

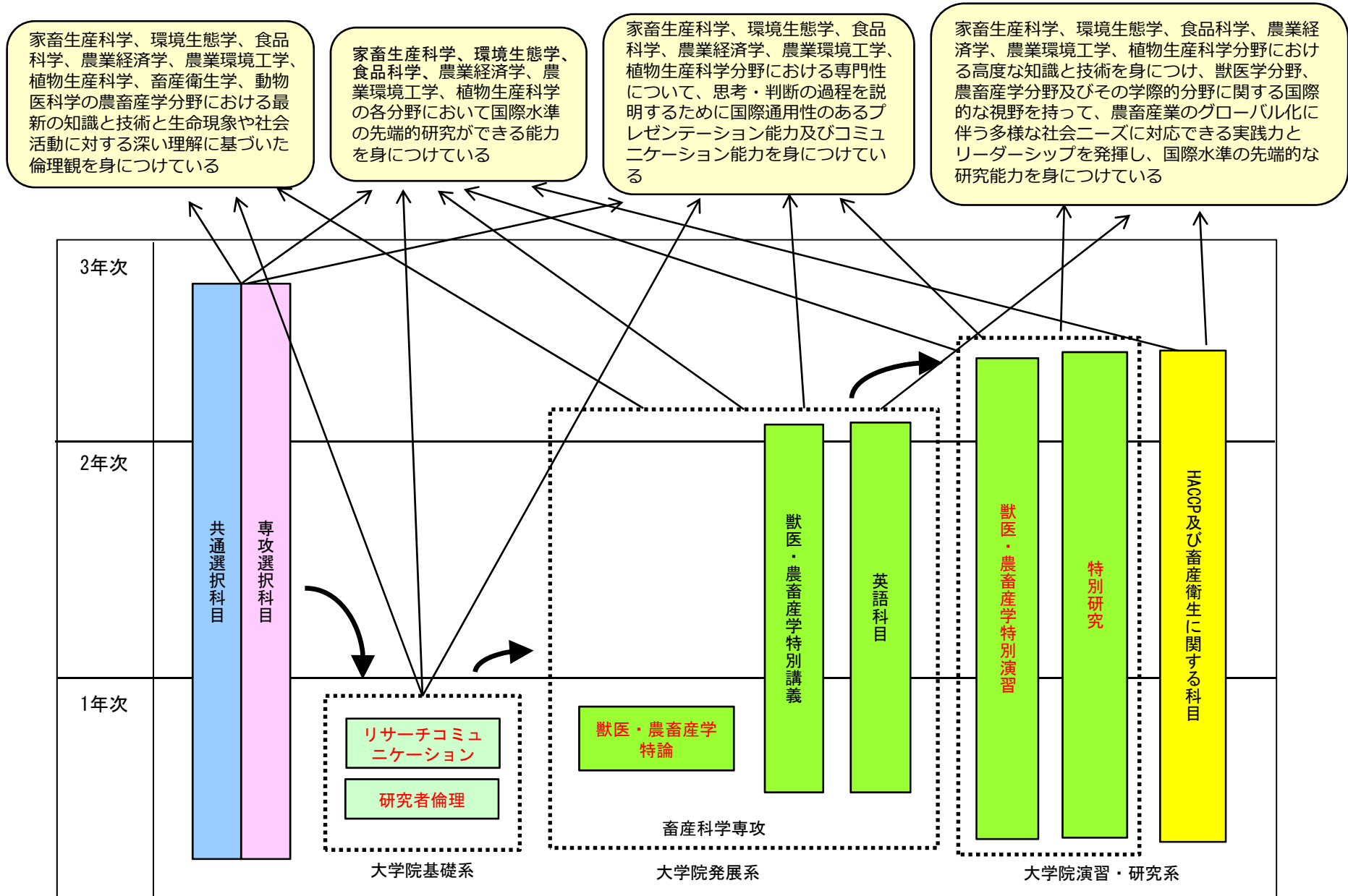
獣医・農畜産融合の視点から、幅広く専門性の高い知識を分野横断的に修得するために共通科目を配置するとともに他専攻科目を選択科目として配置します。さらに地球規模課題の解決を目的として、国際水準の先端的な研究能力を修得するための科目を配置します。

（畜産衛生PG）畜産生産現場から食卓における衛生に主眼を置いた畜産衛生学に関する世界最先端の知識と技術を修得させる授業科目を配置します。

【専攻別のカリキュラム・ポリシー】

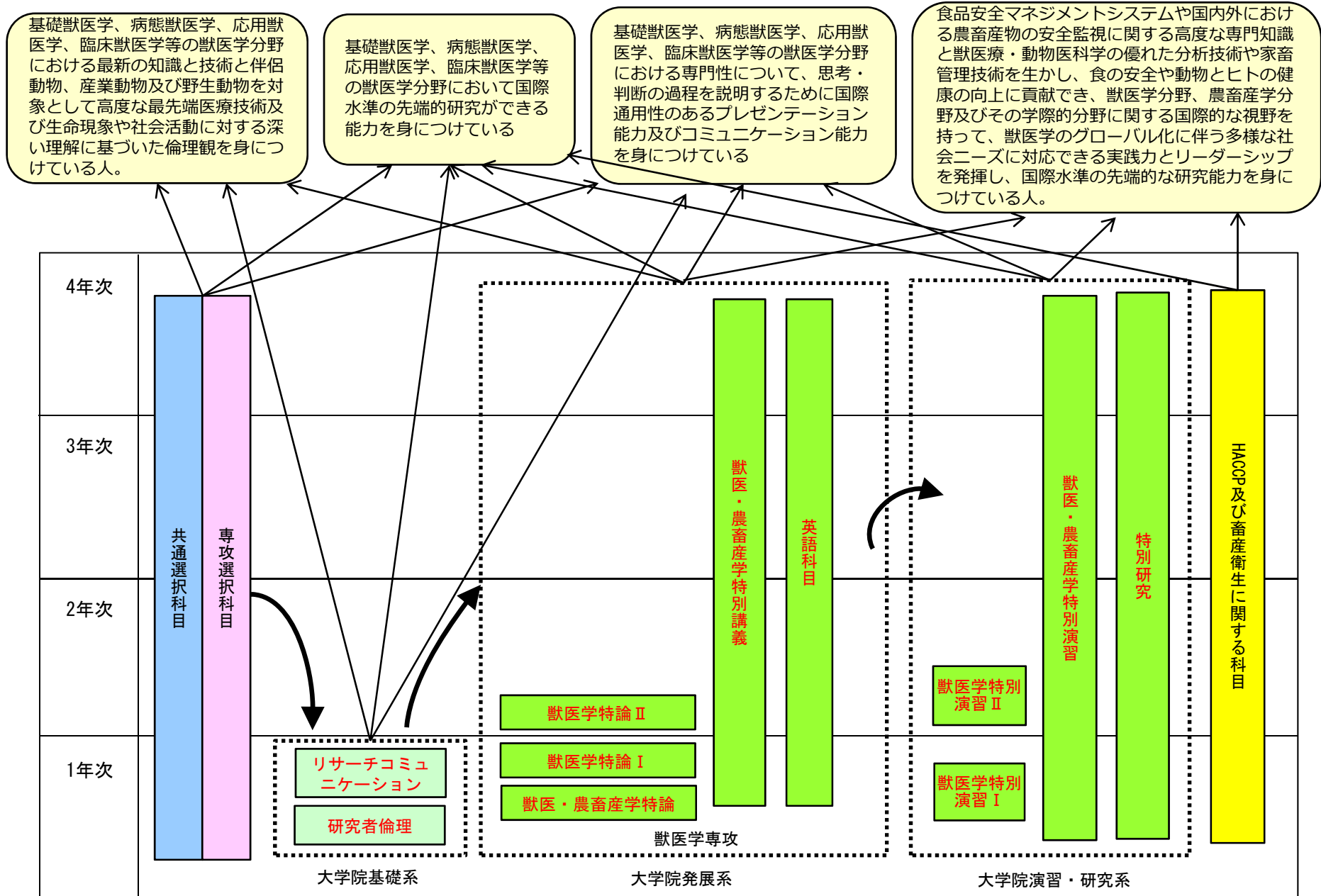
獣医学専攻	畜産科学専攻
上記（１）～（４）の専攻共通のカリキュラム・ポリシーに加え、下記のとおり各コースにおける高度な専門性を修得するための科目を配置しています。	
（５）国際的に活躍・貢献できる研究者の育成を目指し、獣医科学及び関連分野の先端的な専門知識と高度な専門技術を習得させるため、教育の中心となる「専攻コア科目」を必須科目として配置し、高度な専門的知識を修得する科目を用意します。	（５）家畜の生体機能と生産・管理に関して、動物福祉や環境保全などの視点も取り入れた生命科学から生産科学までの広範かつ先端の知識と技術を学ぶための科目を配置します。
（６）食品安全マネジメントシステムや国内外における農畜産物の安全監視に関する高度な専門知識と獣医療・動物医科学の優れた分析技術や家畜管理技術を生かし、食の安全や動物とヒトの健康に関する世界最先端の知識と技術を修得させる授業科目を配置します	（６）成熟化した国際社会における動物福祉や環境保全を踏まえ、自然環境の構成員（野生動物、昆虫、植物）の役割・機能、相互作用及び生態系保全の両立に関する世界最先端の知識と技術を修得させる授業科目を配置します。 （７）農畜産物を原料とした食品の製造・加工及びこれらの機能性・安全性に関して、分子レベルから工業生産レベルまでの広範かつ世界最先端の知見と技術を学ぶための授業科目を配置します。 （８）わが国の食料基地と位置づけられる北海道十勝地域の資源を活用し、持続可能な物質循環や地域資源を踏まえ、植物の生理、生態、遺伝や土壌に関する高度な知識をもとにした植物生産の量的・質的向上に関する世界最先端の知識と技術を修得させる授業科目を配置します。 （９）わが国の食料基地と位置づけられる北海道十勝地域の資源を活用し、持続可能な物質循環や地域資源を踏まえ、食料生産に関わる経済学や経営学に関する世界最先端の知識と技術を修得させる授業科目を配置します。 （１０）わが国の食料基地と位置づけられる北海道十勝地域の資源を活用し、持続可能な物質循環や地域資源を踏まえ、機械的・生物学的手法や土木技術手法による食料生産環境の改善に関する世界最先端の知識と技術を修得させる授業科目を配置します。 （１１）伴侶動物、産業動物、実験動物、野生動物といった様々な動物を対象として、基礎、病態、感染症、病因制御、動物臨床科学等一連の動物医科学に関する世界最先端の知識と技術を修得させる授業科目を配置します。

カリキュラムフローチャート（博士後期課程 畜産科学専攻）



赤字: 必修、黒字: 選択

カリキュラムフローチャート（博士後期課程 獣医学専攻）



赤字: 必修、黒字: 選択

資料11 授業科目一覧／畜産科学専攻(博士後期課程)及び獣医学専攻(博士課程)

共通必修科目

区分	授業科目	単位	修了要件	備考
共通コア科目	リサーチコミュニケーション	1	9単位	
	獣医・農畜産学特論	1		
	獣医・農畜産学特別演習	1		
	特別研究	6		

共通選択科目

区分	授業科目	単位	修了要件	備考
共通科目	国内リサーチ演習	1	畜産科学専攻: 専攻選択科目を 含めて3単位 獣医学専攻: 専攻選択科目を 含めて12単位	
	海外リサーチ演習	1		
	国内フィールドワーク演習	1		
	海外フィールドワーク演習	1		
	リサーチプロポーザル演習	1		
	リサーチデータ解析演習	1		
	リサーチプレゼンテーション演習	1		
	リサーチペーパーライティング演習	1		
	リサーチマネジメント演習	1		
	アカデミックレクチャー演習	1		
	アカデミックティーチング演習	1		
	社会人特別演習	1		
HACCP科目	食品安全マネジメント・内部監査演習	2		内部監査員資格科目

獣医学専攻

区分	授業科目	単位	修了要件	備考
専攻必修科目	獣医・農畜産学特別講義	1	9単位	
	獣医学特論Ⅰ	2		
	獣医学特論Ⅱ	2		
	獣医学特別演習Ⅰ	1		
	獣医学特別演習Ⅱ	1		
	English Communication for Science	2		英語能力によるクラス分けを行う
専攻選択科目	基礎獣医学特論	2	研究科共通科目 を含めて12単位	
	基礎獣医学特別演習Ⅰ	2		
	基礎獣医学特別演習Ⅱ	2		
	臨床獣医学特論	2		
	臨床獣医学特別演習Ⅰ	2		
	臨床獣医学特別演習Ⅱ	2		
	応用獣医学特論	2		
	応用獣医学特別演習Ⅰ	2		
	応用獣医学特別演習Ⅱ	2		

	動物医療センター特別演習	1		3つの特別演習科目をそれぞれ3年に一度、順に開講する
	動物・食品検査診断センター特別演習	1		
	原虫病研究センター特別演習	1		

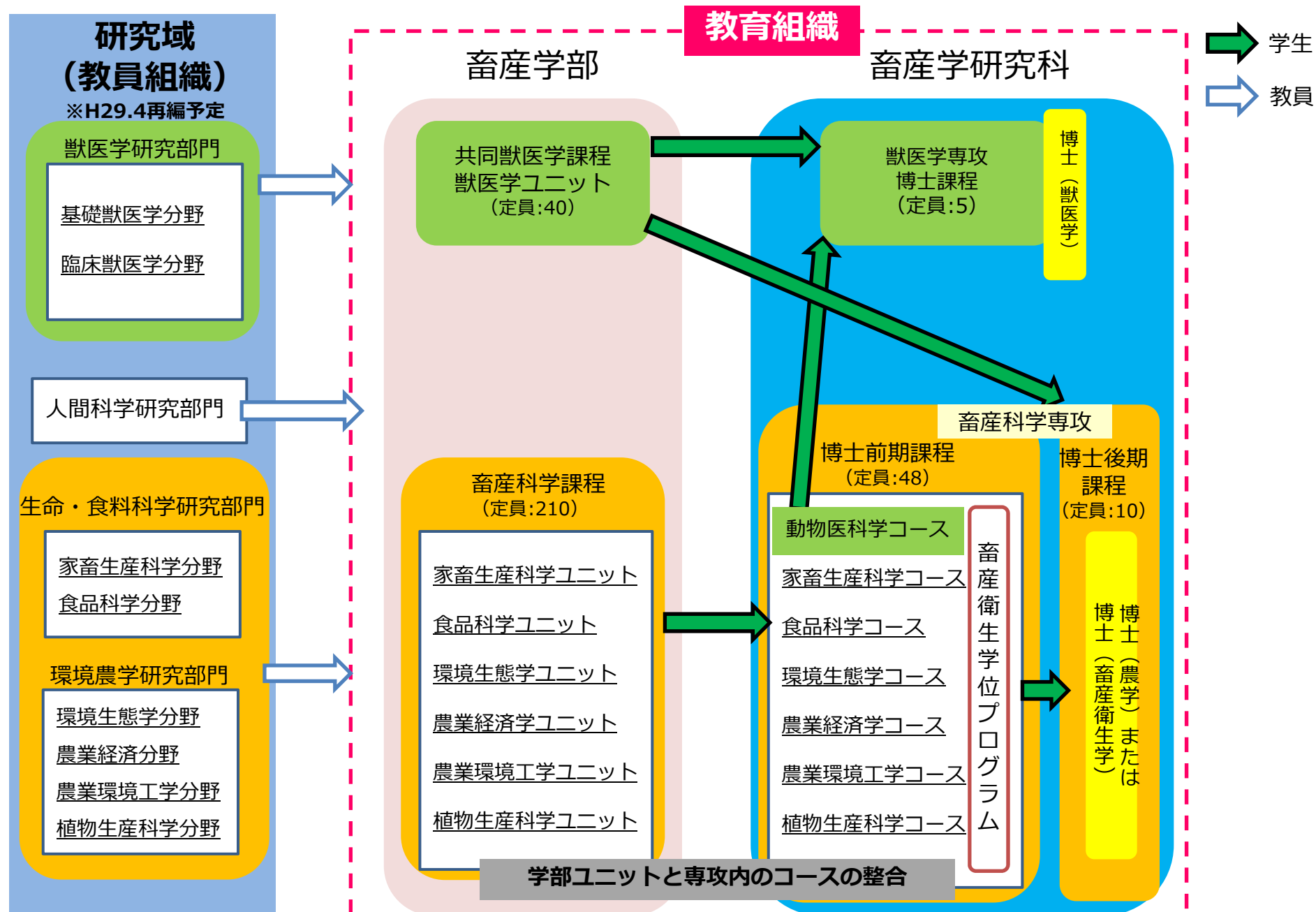
畜産科学専攻

区分	授業科目	単位	修了要件	備考
専攻選択科目	English Communication for Science	2	研究科共通科目を含めて3単位	英語能力によるクラス分けを行う
	獣医・農畜産学特別講義	1		

畜産衛生学位プログラム

区分	授業科目	単位	要件	専修免許状の科目区分
プログラム必修科目	獣医・農畜産学特別講義	1	1単位	
プログラム選択科目	食品安全マネジメント・内部監査演習	2	6単位以上	内部監査員資格科目
	家畜疫学特論	2		
	家畜衛生学特論	2		
	衛生経済学特論	2		
	国際衛生制度特論	2		

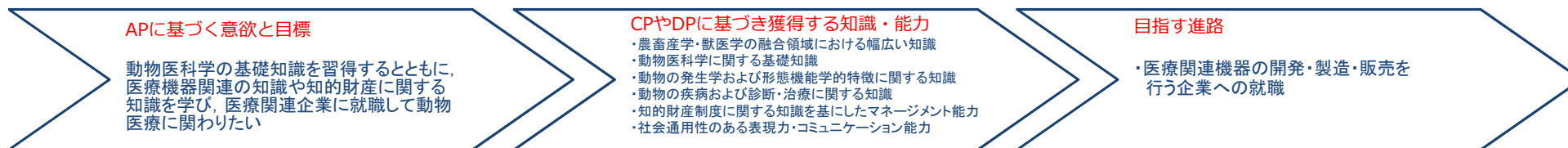
資料12 教員所属組織(研究域)と及び学部・大学院の関係



【動物医科学コース】医療関連企業への就職を目指すモデル

獣医師養成以外の学士課程を卒業した学生を受け入れ、基礎生物学や農畜産学の知識を基に、基礎動物医科学、動物病態学、動物感染症学、病因制御学、さらに動物臨床科学に関する知識を提供し、動物に関する様々な知識を社会に還元できる高度専門職業人を目指します。

＜履修モデル：医療関連企業への就職を目指す場合＞

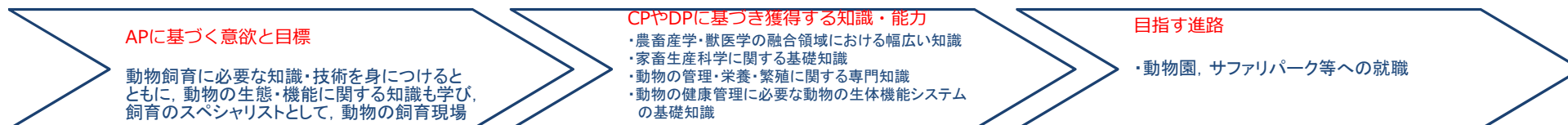


		博士前期 1 年				博士前期 2 年			
共通 コア 科目		国際農畜産衛生科学特論 (2)							
		生物資源環境科学特論 (2)							
					特別研究特論 (2)				
				English Communication For Science (2)					
選択 科目	共通				アカデミックプレゼン テーション演習 (2)				
		知的財産制度論 (2)							
	他コース								
動物医 科学 コース	必修 科目	動物医科学特論 (2)							
			動物医科学特別演習 (4)						
			動物医科学特別研究 I (4)			動物医科学特別研究 II (4)			
	選択 コース		動物機能医科学特論 I (2)	動物機能医科学特論 II (2)					
			動物臨床科学特論 I (2)	動物臨床科学特論 II (2)	動物臨床科学特論 III (2)				

【家畜生産科学コース】

家畜をはじめとする動物の生体機能、育種、繁殖、栄養、管理等に関する広範かつ体系的な知識や技術を身につけ、畜産・生命科学分野の様々な問題に柔軟に対応できる高度専門職業人、または畜産・生命科学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を目指します。

＜履修モデル：動物の飼育現場への就職を目指す場合＞

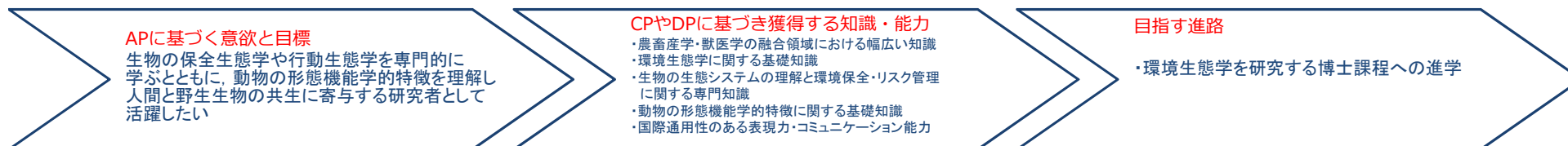


		博士前期 1 年				博士前期 2 年			
共通 コア 科目		国際農畜産衛生科学特論 (2)							
		生物資源環境科学特論 (2)							
					特別研究特論 (2)				
				English Communication For Science (2)					
選択 科目	共通				コーポレートワーク演習 (2)				
	他 コ ー ス			生態システム生命科学特 論 (2)					
				動物機能医科学特論Ⅱ (2)					
家畜生 産科 学 コ ー ス	必修 科 目	家畜生産科学特論 (2)	家畜生産科学特別演習 (4)						
			家畜生産科学特別研究Ⅰ (4)			家畜生産科学特別研究Ⅱ (4)			
	選 択 コ ー ス								
			家畜管理栄養学特論 (2)						
					家畜生体機能学特論 (2)				

【環境生態学コース】

農畜産環境とそれを取り巻く自然環境に関する広範かつ体系的な知識を身につけ、環境の保全・管理・利用に関する様々な問題に柔軟に対応できる高度専門職業人、または環境生態学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を目指します。

<履修モデル：環境生態学を研究する研究職を目指す場合>

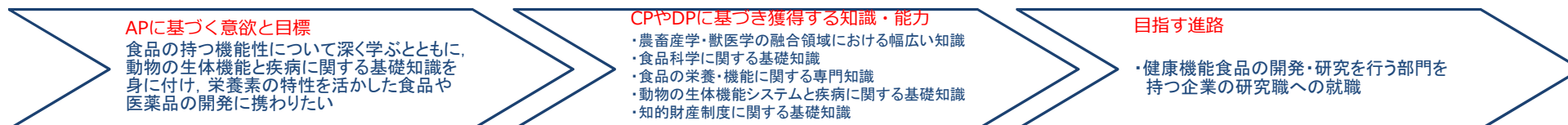


		博士前期 1 年				博士前期 2 年			
共通 コア 科目		国際農畜産衛生科学特論 (2)							
		生物資源環境科学特論 (2)							
				特別研究特論 (2)					
			English Communication For Science (2)						
選択 科目	共通		国内フィールドワーク (2)	アカデミックプレゼン 環境法制度論 (2) デモンストラティブ演習 (2)					
	他コース								
環境生態学 コース	必修 科目	環境生態学特論 (2)	環境生態学特別演習 (4)						
			環境生態学特別研究 I (4)		環境生態学特別研究 II (4)				
	選択 コース		保全生態リスク管理学特 論 (2)						
			生態システム生命科学特 論 (2)						
				環境生命科学特論 (2)					

【食品科学コース】

農畜産物を原料とした食品の製造・加工及びその機能性・安全性に関する広範かつ最新の知見や技術を提供するとともに、演習や研究活動を通じた専門教育を行うことにより、食品業界をはじめとしてバイオ産業においても活躍できる高度専門職業人、または食品科学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を目指します。

＜履修モデル：食品の機能性に着目した製品の開発を行う企業への就職を目指す場合＞

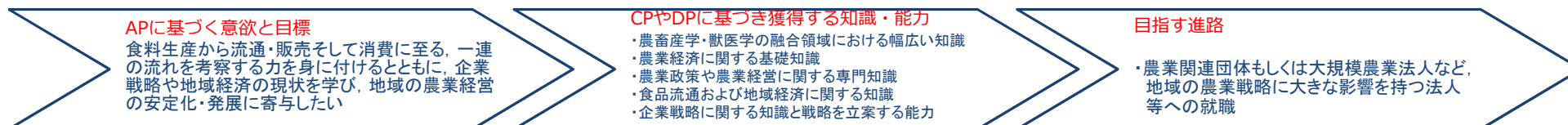


		博士前期 1 年				博士前期 2 年			
共通 コア 科目		国際農畜産衛生科学特論 (2)							
		生物資源環境科学特論 (2)							
					特別研究特論 (2)				
				English Communication For Science (2)					
選 択 科 目	共通	知的財産制度論 (2)			アカデミックプレゼン テーション演習 (2)				
	他コース			動物機能医科学特論Ⅱ (2)					
食 品 科 学 コ ー ス	必 修 科 目	食品科学特論 (2)	食品科学特別演習 (4)						
			食品科学特別研究Ⅰ (4)			食品科学特別研究Ⅱ (4)			
	選 択 コ ー ス								
			食品加工・利用学特論 (2)						
				食品栄養化学特論 (2)					
					食品機能科学特論 (2)				

【農業経済学コース】

農業経済を中心とする社会科学的視点から俯瞰できるような専門教育を行うことにより、フードシステムにおける特定課題の解決に向けた実践的方策を提示することができる高度専門職
業人、または農業経済学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を目指します。

<履修モデル：農業経営戦略を担う農業関連団体等への就職を目指す場合>

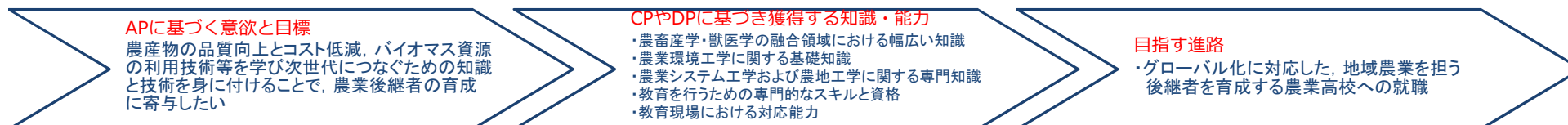


		博士前期 1 年				博士前期 2 年			
共通 コア 科目		国際農畜産衛生科学特論 (2)							
		生物資源環境科学特論 (2)							
					特別研究特論 (2)				
				English Communication For Science (2)					
選択 科目	共通		食品流通・地域産業活性化特論 (2)						
				企業戦略特論 (2)					
					コーポレートワーク演習 (2)				
	他コース								
農業 経済 学 コ ー ス	必修 科目	農業経済学特論 (2)		農業経済学特別演習 (4)					
				農業経済学特別研究 I (4)		農業経済学特別研究 II (4)			
	選択 科目								
			応用農業統計学特論 (2)						
				畜産経営学特論 (2)					
					農業政策学特論 (2)				

【農業環境工学コース】

農業環境工学の理論と実践に基づく先進的な農業生産技術と環境保全を両立させるための技術体系に関する専門教育を行うことにより、農業農村工学分野や農業機械システム学分野で活躍できる高度職業専門人、または農業農村工学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を目指します。

＜履修モデル：農業高校の教員を目指す場合＞

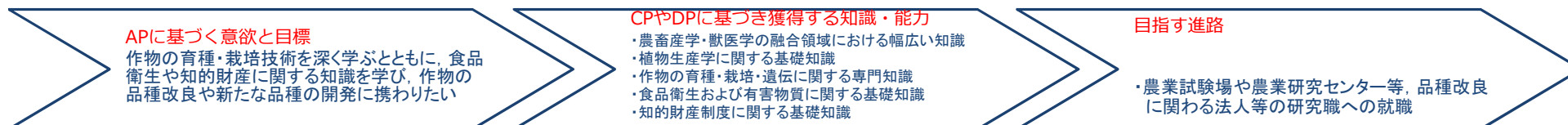


		博士前期 1 年				博士前期 2 年			
共通 コア 科目		国際農畜産衛生科学特論 (2)							
		生物資源環境科学特論 (2)							
					特別研究特論 (2)				
				English Communication for Science (2)					
		教育学特論 (2)		教育心理学特論 (2)					
選択 科目	共通			教育統計と教育データ分析 (2)					
	他コース			畜産経営学特論 (2)					
動物医 科学 コース	必修 科目	農業環境工学特論 (2)		農業環境工学特別演習 (4)					
				農業環境工学特別研究 I (4)				農業環境工学特別研究 II (4)	
	選択 コース								
			農業農村工学特論 (2)						
				農業環境物理学特論 (2)					
					農業機械システム工学特 論 (2)				

【植物生産科学コース】

作物生産を支える土壌管理から畑作物と飼料作物の育種と栽培、病害虫管理及び草地利用までについて、ラボワークでの基礎からフィールドワークでの実証に至る専門教育を行うことにより、農畜産業の基盤づくりを担える高度専門職業人、または植物生産科学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を目指します。

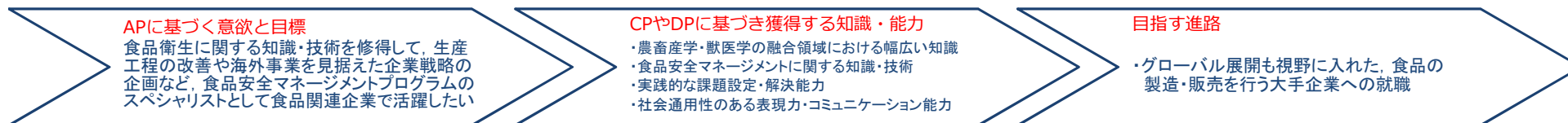
＜履修モデル：新たな品種開発等を行う研究職を目指す場合＞



		博士前期 1 年				博士前期 2 年			
共通 コア 科目		国際農畜産衛生科学特論 (2)							
		生物資源環境科学特論 (2)							
					特別研究特論 (2)				
				English Communication For Science (2)					
選択 科目	共通	知的財産制度論 (2)	国内フィールドワーク (2)		アカデミックプレゼンテーション演習 (2)				
					食品検査学演習 (2)				
	他コース								
植物生産科学 コース	必修 科目	植物生産科学特論 (2)	植物生産科学特別演習 (4)						
			植物生産科学特別研究 I (4)		植物生産科学特別研究 II (4)				
	選択 コース								
			植物生産管理学特論 (2)						
				植物遺伝育種学特論 (2)					
					植物生産環境学特論 (2)				

畜産物をはじめとする食品の安全衛生に関する国際基準での食品安全マネジメントに関する高度かつ総合的な知識と技術を有し、優れた実践力及び応用力を身につけた高度専門職業人を目指します。

＜履修モデル：食品科学コースの学生が、食品安全マネージメントプログラムの専門家として食品関連企業への就職を目指す場合＞

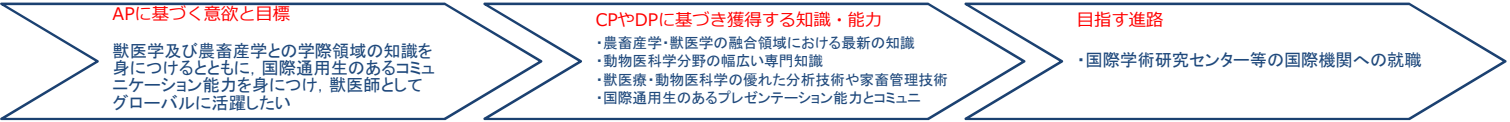


		博士前期 1 年				博士前期 2 年			
共通 コア 科目		国際農畜産衛生科学特論 (2)							
		生物資源環境科学特論 (2)							
		特別研究特論 (2)							
				English Communication For Science (2)					
選択 科目	共通	外交と食料 (2)	コーポレートワーク演習 (2)						
	他コース								
食品 科学 コース	必修 科目	食品科学特論 (2)	食品科学特別演習 (4)						
		食品科学特別研究 I (4)							
	コース 選択								
学位 プログラム 畜産 衛生	必修 プログラム	畜産衛生学特論 (2)							
		食品衛生・有害物質特論 (2)				畜産衛生課題研究 (4)			
	プログラム 選択必修								
	選択 プログラム	H A C C Pシステム構築演習 (2)							
		食品流通・地域産業活性化特論 (2)	企業戦略特論 (2)						
				食品検査学演習 (2)					

【獣医学専攻】

基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学、臨床獣医学等の獣医学分野における最新の知識と技術と伴侶動物、産業動物及び野生動物を対象として高度な最先端医療技術及び生命現象や社会活動に対する深い理解を身につけた、国際水準の先端的な研究者を目指します。

<履修モデル：国際的に活躍できる獣医師を目指す場合>

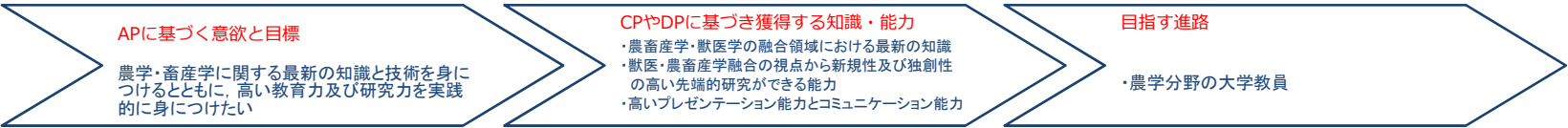


博士後期 1 年				博士後期 2 年				博士後期 3 年				博士後期 3 年			
共通 コア 科目	獣医・農畜産学特論（1）														
		リサーチコミュニケーション（1）													
		特別研究（6）													
		獣医・農畜産学特別演習（1）													
共通 選択 科目		リサーチデータ解析演習（1）													
獣医学 専攻	専攻 必修 科目						English Communication For Science								
		獣医・農畜産学特別講義（1）													
		獣医学特論Ⅰ（2）			獣医学特論Ⅱ（2）										
		獣医学特別演習Ⅰ（1）			獣医学特別演習Ⅱ（1）										
	専攻 選択 科目	基礎獣医学特論（2）													
		基礎獣医学特別演習Ⅰ（2）			基礎獣医学特別演習Ⅱ（2）										
							臨床獣医学特論（2）								
							臨床獣医学特別演習Ⅰ（2）	臨床獣医学特別演習Ⅱ（2）							
		動物医療センター特別演習（2）						動物・食品検査診断センター特別演習（2）							

【畜産科学専攻】

家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学、畜産衛生学、動物医科学の農畜産学分野における最新の知識と技術を駆使した先端研究を担う能力を身につけた、国際水準の先端的な研究者を目指します。

＜履修モデル：農学分野の大学教員を目指す場合＞



		博士後期 1 年				博士後期 2 年				博士後期 3 年			
共通 コア 科目		獣医・農畜産学特論 (1)											
		リサーチコミュニケー ション (1)											
						特別研究 (6)							
						獣医・農畜産学特別演習 (1)							
共通 選 択 科目		リサーチデータ解析演習 (1)											
			アカデミックミーティ ング演習 (1)										
				リサーチプレゼンテー ション演習 (1)									
						アカデミックレクチャー 演習 (1)							
							リサーチペーパーライ ティング演習 (1)						
学 畜 専 産 攻 科 目 選				English Communication For Science (2)									
						獣医・農畜産学特別講義 (1)							

[illegible]

帯広畜産大学大学院畜産学研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・資質の修得状況、カリキュラム・ポリシーに則した学修状況について、以下の3つの審査方法により評価を行います。

1. 単位審査

- 各科目の単位取得に係る学修の成果は、以下について審査します。
- ・授業への出席 やレポート・課題の提出など、各科目で必要とする学修が行われたか
 - ・各科目で設定された、学修到達目標が達成されたか

2. 進級審査

- 学生の進級に係る学修の成果は、以下について審査します。
- ・進級試験において、カリキュラム・ポリシーに従い学修が進んでいると確認されたか
 - ・進捗状況審査会または中間審査会において、研究の進捗状況が、各年次で達成すべき成果に到達していると確認されたか

3. 修了審査

- 学生の修了に係る学修の成果は、以下について審査します。
- ・最終試験において、ディプロマ・ポリシーが達成されたと確認されたか
 - ・学位論文審査会または課題研究審査会において、学位論文もしくは課題研究成果が、学位を得るべき内容であると確認されたか

各審査方法の実施時期等は下表のとおりです。

【畜産科学専攻博士前期課程】

	1年次				2年次					
	前期		後期		前期		後期			
動物医科学コース	履修登録及び研究題目・計画届				進捗状況審査及び進級試験	履修登録及び研究題目・計画届			修士学位論文審査会・課題研究審査会及び最終試験	修士(動物医科学)
家畜生産科学コース										
環境生態学コース										
食品科学コース										
農業経済学コース										
農業環境工学コース										
植物生産科学コース										
畜産衛生プログラム	学位選択・判定			特別／課題判定 学位選択・判定	学位選択・判定				修士(畜産衛生学)	

【獣医学専攻博士課程および畜産科学専攻博士後期課程】

		1年次		2年次		3年次		4年次		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
獣医学専攻					進捗状況審査及び進級試験		中間審査及び進級試験	履修登録及び研究題目計画届		博士(獣医学)
	履修登録及び研究題目計画届		進捗状況審査及び進級試験	履修登録及び研究題目計画届					博士学位論文審査及び最終試験	
畜産科学専攻	畜産衛生学位プログラム	学位選択・判定	学位選択・判定	学位選択・判定	中間審査及び進級試験	学位選択・判定		博士(畜産衛生学)		博士(農学)
							博士学位論文審査及び最終試験			

資料 16 研究活動の不正行為に関する取扱規程

○国立大学法人帯広畜産大学における研究活動の不正行為に関する取扱規程

(平成 19 年 3 月 15 日規程第 33 号)

改正 平成 20 年 3 月 11 日規程第 11 号 平成 25 年 3 月 15 日規程第 22 号

平成 27 年 3 月 19 日規程第 21 号 平成 27 年 7 月 15 日規程第 36 号

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この規程は、国立大学法人帯広畜産大学(以下「本学」という。)において行われる研究活動に係る不正行為に対して厳正に対処するため、必要な事項を定めることにより、本学の名誉と社会的信頼を大きく傷つけるのみならず、人々の科学への信頼を揺るがし、科学の発展を妨げ、社会に甚大な影響を及ぼす不正行為を防止することを目的とする。

(定義)

第 2 条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1) 研究者 役員及び職員(非常勤を含む。)、学生、研究生、研究員、研修員等本学の施設及び設備を使用して研究を行う全ての者をいう。

(2) 不正行為 研究者が行う次に掲げる行為をいう。

イ 研究の申請、実施、報告又は審査における故意の捏造(存在しないデータ、研究結果等を作成することをいう。)、改ざん(研究資料、機器又は研究過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真性でないものに加工すること。)又は盗用(他の研究者のアイディア、分析及び解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究者の了解若しくは適切な表示なく流用すること。)

ロ イに掲げる行為の証拠隠滅又は立証妨害

(3) 競争的資金等 国又は国が所管する独立行政法人から配分される競争的資金を中心とした公募型の研究資金をいう。

(学長の責務)

第 3 条 学長は、研究者の研究倫理を向上させる取組みを推進し、不正行為の防止に努めなければならない。

(研究倫理教育責任者)

第 4 条 本学に研究者に対する研究倫理教育を適切に実施するため、研究倫理教育責任者を置く。

2 研究倫理教育責任者は、学長の指名する理事又は副学長をもって充てる。

(研究者の責務)

資料 16 研究活動の不正行為に関する取扱規程

第5条 本学の研究者は、研究倫理の涵養及び保持に努めるとともに、研究活動に携わる者の行動指針（平成19年制定）を遵守し、不正行為を行ってはならない。

2 研究倫理教育の受講を求められた研究者は、長期出張、休職、休業など正当な理由がある場合を除き、受講しなければならない。

3 学長は、正当な理由なく前項の責務を果たさない研究者に対し、競争的資金等の申請及び使用を認めないこととすることができる。

第5条の2 本学の研究者は、研究活動の正当性の証明手段を確保するとともに、第三者による検証可能性を担保するため、実験・観察記録ノート、実験データその他の研究資料を一定期間適切に保存・管理し、開示の必要性及び相当性が認められる場合には、これを開示しなければならない。

2 前項に規定する資料等の保存に関し必要な事項は、学長が別に定める。

第2章 告発等の受付

（告発等の受付窓口）

第6条 本学における不正行為に関する学内外からの告発又は相談（以下「告発等」という。）の受付窓口（以下「受付窓口」という。）を総務課長及び総務課課長補佐とする。

2 学長が必要と認めたときは、前項に加えて第三者機関に受付窓口を設置することができる。

3 前項により受付窓口を設置したときは、適切な周知に努めるものとする。

4 受付窓口は、次に掲げる業務を行う。

（1）不正行為に関する告発等の受付及び学長への報告

（2）第15条第1項及び第24条第1項に規定する異議申立ての受付及び学長への報告

5 受付窓口以外の職員が告発等を受けた場合は、誠実に対応するよう努めるものとし、受付窓口にその内容を速やかに報告するものとする。

（告発等の受付）

第7条 不正行為の疑いがあると思料する者は、何人も受付窓口を通じて告発等を行うことができる。

2 告発等の方法は、受付窓口に対する文書、電子メール、電話、面談等によるものとする。

3 原則として告発は、顕名により行われ、不正行為を行ったとする研究者、研究グループ、不正行為の態様等、事案の内容が明示され、かつ、不正とする科学的合理的理由が示されていないなければならない。

4 以下に掲げる場合は、当該内容に応じて学長の判断により、告発を受理した場合に準じて取り扱うことができる。

（1）匿名によるなど、前項の定めを満たさない告発があった場合

（2）報道や学会等の研究者コミュニティ等相当の信頼性のある外部機関より不正行為の疑いが指摘された場合

資料 16 研究活動の不正行為に関する取扱規程

(3) 告発の意志を明示しない相談を受け、その内容を確認し、相当の理由があると認めた場合において、相談者に確認しても告発の意志表示がなされない場合

- 5 告発等の方法が、郵送、電子メール等、告発者又は相談者(以下「告発者等」という。)が受付されたか否かを知り得ない方法で行われた場合は、告発者等(匿名による者を除く。)に受け付けたことを通知するものとする。
- 6 他機関から告発等が回付された場合は、受付窓口において受け付けた告発等と同様に扱うものとする。

(告発等の処理従事者の範囲)

第8条 告発等の処理に従事する者は、自らが関係する事案の処理に関与することができない。

- 2 学長が前項に該当する場合は、理事が当該事案の処理を学長に代わって行うものとする。

(告発者等及び被告発者の取扱い)

第9条 告発等の受付に当たっては、告発等の内容や告発者等の秘密を守るため、個室での面談、電子メール及び電話等の内容を受付窓口以外の者が見聞できないように考慮する等適切な方法を講じなければならない。

- 2 学長は、告発者等、被告発者(被相談者を含む。以下この条及び次条において同じ。)、告発等の内容及び調査内容について、調査結果の公表まで告発者等及び被告発者の意に反して調査関係者以外に漏えいしないよう、関係者の秘密保持と情報管理を徹底するなど、適切な措置を講じなければならない。
- 3 学長は、調査事案が漏えいした場合は、告発者等及び被告発者の了解を得て、調査の状況にかかわらず調査事案について公に説明することができる。ただし、告発者等又は被告発者の責により漏えいした場合は、当人の了解は不要とする。
- 4 前項の場合において、学長は、告発者等及び被告発者の職場環境が悪化することのないように、適切な措置を講じなければならない。また、本学の役員及び職員は、告発者等及び被告発者に対して、不利益な取扱いや嫌がらせ等を行ってはならない。
- 5 学長は、悪意(被告発者を陥れるため、あるいは被告発者が行う研究を妨害するため等、専ら被告発者に何らかの損害を与えることや本学に不利益を与えることを目的とする意志。以下同じ。)に基づく告発等を防止するため、調査の結果、悪意に基づく告発等であることが判明した場合は、告発者等の氏名の公表や懲戒処分、刑事告発等必要な措置を講ずることができる。
- 6 学長は、悪意に基づく告発等であることが判明しない限り、単に告発等を行ったことを理由に告発者等に対し、解雇、配置転換、懲戒処分、降格、減給等不利益な取扱いを行ってはならない。

資料 16 研究活動の不正行為に関する取扱規程

- 7 学長は、相当な理由なしに、単に告発等がなされたことのみをもって、被告発者の研究活動を全面的に禁止したり、解雇、配置転換、懲戒処分、降格、減給等不利益な取扱いを行ってはならない。

(告発等の取扱い)

第 10 条 受付窓口は、受け付けた告発等を直ちに学長に報告しなければならない。

- 2 学長は、告発の報告を受けた場合は、直ちに関係する理事と告発を受理するかどうかの協議を行うものとする。
- 3 前項の協議の結果、当該告発について、本学以外の機関が調査を行うべきと判断した場合は、当該機関に当該告発を回付するとともに、その旨を告発者に通知するものとする。
- 4 第 2 項の協議の結果、告発を受理することとした場合は、学長は直ちに調査実施の手続きを行うものとする。
- 5 第 2 項の協議の結果、告発を受理しないこととした場合は、その旨理由を付して告発者に通知するものとする。
- 6 学長は、告発の意志を明示しない相談の報告を受けた場合は、直ちに当該相談を担当する理事を指名し、相談に応じさせるものとする。この場合において相談者に告発の意志がない場合でも、相談に応じた理事の報告によっては、学長の判断により告発を受理した場合に準じて取り扱うことができる。
- 7 不正行為が行われようとしている、あるいは不正行為を求められているという告発等については、学長は直ちに担当する理事を指名して内容の確認を行わせ、その結果を受けて、相当の理由があると認めたときは、被告発者に警告を行うものとする。

第 3 章 告発等に係る事案の調査

第 1 節 調査機関

(調査を行う機関)

第 11 条 不正行為の告発に係る調査の実施については、次により行うものとする。

- (1) 本学に所属(どの研究機関にも所属していないが専ら本学の施設及び設備を使用して研究する場合を含む。以下同じ。)する研究者を被告発者とした不正行為の告発を受理した場合は、原則として本学が告発された事案の調査を行うものとする。
- (2) 被告発者が本学以外の研究機関にも所属する場合は、原則として被告発者が告発された事案に係る研究を主に行っていた機関が中心となり、所属する複数の機関が合同で調査を行うものとする。ただし、中心となる機関や調査に参加する機関については、事案の内容等を考慮して関係機関間において協議するものとする。
- (3) 現に本学に所属する被告発者が、本学と異なる研究機関で行った研究に係る告発を受理した場合は、本学と当該研究が行われた研究機関とが合同で告発された事案の調査を行うものとする。

資料 16 研究活動の不正行為に関する取扱規程

- (4) 被告発者が既に本学に所属していない場合は、現に所属する研究機関が本学と合同で告発された事案の調査を行うものとする。被告発者が現在、どの研究機関にも所属していない場合において、告発された事案に係る研究を本学で行っていた場合は、本学が調査を行うものとする。
- (5) 本学は、前各号において告発された事案の調査を行うこととなった場合、被告発者が本学に現に所属しているかどうかにかかわらず、誠実に調査を行う。
- (6) 本学が必要と認めたときは、他の研究機関、当該事案に研究経費を配分していた本学以外の機関(以下「資金配分機関」という。)又は研究者コミュニティに、調査の委託又は協力を求めるものとする。

第2節 予備調査

(予備調査)

第12条 学長は、前条に基づき告発された事案の調査を本学において行うこととなった場合は、当該調査を担当する理事(以下「担当理事」という。)を指名し、速やかに予備調査を行わせるものとする。

2 担当理事は、次により予備調査を行うものとし、原則として告発を受理した日から30日以内に調査結果を学長に報告するものとする。ただし、30日以内に調査結果を報告できない合理的な理由がある場合は、その理由及び報告予定日を学長に申し出て承認を得るものとする。

- (1) 予備調査は、告発された行為が行われた可能性、告発の際示された科学的合理的理由の論理性、告発された研究の公表から告発までの期間が、生データ、実験又は観察ノート、実験試料又は試薬等研究成果の事後の検証を可能とするものについての各研究分野の特性等に応じた合理的な保存期間を超えるか否か等告発内容の合理性、調査可能性等について調査を行うものとする。
- (2) 告発がなされる前に取り下げられた論文等に対する告発に係る予備調査を行う場合は、取り下げに至った経緯及び事情を含め、不正行為の問題として調査すべきものか否かについて調査を行うものとする。
- (3) 担当理事は、予備調査を行うに当たり、必要と認めるときは、自身を委員長とする予備調査委員会を設置することができる。
- (4) 予備調査委員会の委員は、告発者及び被告発者と直接の利害関係を有しない者のうちから、担当理事が指名する者で構成する。
- (5) 予備調査委員会は、学長への調査結果の報告をもって解散する。

第3節 本調査

(本調査実施の決定)

第13条 学長は、予備調査結果の報告を踏まえ、速やかに本調査を行うか否かを決定するものとする。

資料 16 研究活動の不正行為に関する取扱規程

- 2 学長は、本調査を行うことを決定した場合は、告発者及び被告発者に対し、本調査を行うことを通知し、調査への協力を求めるとともに、文部科学省に報告するものとする。この場合において、被告発者が本学以外の研究機関に所属している場合は、当該研究機関(以下「被告発者所属機関」という。)に、資金配分機関がある場合は当該機関にも通知するものとする。
- 3 学長は、本調査を行わないことを決定した場合は、その旨を理由とともに告発者に通知するものとする。この場合において、担当理事は予備調査に係る資料等について、告発者や資金配分機関の求めに応じ開示することができるよう保存しておくものとする。
- 4 本調査の実施に当たっては、告発者が了承したときを除き、調査関係者以外の者や被告発者に告発者が特定されないよう配慮しなければならない。
- 5 本調査は、原則として実施を決定した日から 30 日以内に開始するものとする。

(調査委員会)

第 14 条 学長は、本調査の実施を決定したときは、調査委員会を設置するものとする。

- 2 調査委員会は、次に掲げる委員により構成する。ただし、委員は、告発者及び被告発者と直接の利害関係を有しない者でなければならない。

(1) 担当理事

(2) 被告発者に係る研究分野の専門知識を有する者(1 名以上の学外者を含む。)

(3) その他学長が必要と認めた者

- 3 前項の委員の半数以上は、本学の身分を有さない学外有識者でなければならない。
- 4 調査委員会に委員長を置き、担当理事をもって充てる。
- 5 学長は、調査委員会を設置したときは、委員の氏名及び所属、調査委員会の権限等について、告発者及び被告発者に通知するものとする。
- 6 調査委員会は、本調査を行う告発に関する全ての処理の終了をもって解散する。

(調査委員に関する異議申立て)

第 15 条 告発者及び被告発者は、理由を付した書面により、受付窓口を通じ学長に対して調査委員会委員に関する異議申立てをすることができる。

- 2 前項の異議申立ては、前条第 4 項の通知を受理した日の翌日から起算して 60 日以内にしなければならない。
- 3 第 1 項による異議申立てを受けた場合、学長は、当該異議申立ての内容を審査し、その内容が妥当であると判断したときは、当該異議申立てに係る委員を交代させるとともに、その旨を告発者及び被告発者に通知するものとする。

(調査方法)

第 16 条 本調査は、告発のあった研究活動に係る論文、実験又は観察ノート、生データ等の各種資料の精査、関係者のヒアリング、再実験の要請等により調査を行うものと

資料 16 研究活動の不正行為に関する取扱規程

する。この場合において、調査委員会は、被告発者に弁明の機会を設けなければならない。

- 2 調査委員会が被告発者に再実験等により再現性を示すことを求めた場合又は被告発者自らの意志によりそれを申し出て調査委員会がその必要性を認めた場合は、調査委員会は、合理的に必要と判断される範囲内においてそれに要する期間及び機会(機器、経費等を含む。)を保証のうえ、調査委員会の指導及び監督のもとで行うものとする。
- 3 告発者、被告発者を含む当該事案の関係者は、調査委員会の行う調査に対し、誠実に協力しなければならない。

(調査の対象となる研究)

第 17 条 調査委員会の調査の対象には、告発に係る研究のほか、調査委員会の判断により、調査に関連した被告発者の他の研究をも含めることができる。

(証拠の保全措置)

第 18 条 調査委員会は、調査に当たり告発に係る研究に関して、証拠となるような資料等を保全する措置をとるものとする。この場合において、本学以外の研究機関において同様の措置を必要とする場合は、直ちに当該研究機関に同様の措置を講ずるよう依頼するものとする。

- 2 調査委員会は、関係資料の隠蔽が行われるおそれがあるなど、必要と認められる場合は、必要最小限の範囲で告発に係る研究活動の停止、調査に関連する場所の一時閉鎖又は実験機器等の使用禁止措置等を行うことができる。
- 3 調査委員会は、前 2 項の措置に影響しない範囲内であれば、被告発者の研究活動を制限しないものとする。

(秘密とすべき情報の保護)

第 19 条 調査委員会は、調査の対象となる公表前のデータ、論文等のうち、研究又は技術上秘密とすべき情報については、調査の遂行上必要な範囲外に漏えいすることのないよう十分配慮しなければならない。

(被告発者の説明責任)

第 20 条 調査委員会の調査において、被告発者が告発に係る疑惑を晴らそうとする場合には、自己の責任において、当該研究が科学的に適正な方法と手続に則って行われたこと、論文等もそれに基づいて適切な表現で書かれたものであることを科学的根拠を示して説明しなければならない。

- 2 前項の被告発者の説明において、被告発者が生データ、実験又は観察ノート、実験試料又は試薬等の不存在等、本来存在すべき基本的な要素の不足により証拠を示せない場合は不正行為とみなされる。ただし、被告発者が善良な管理者の注意義務を履行していたにもかかわらず、その責によらない理由により、基本的な要素を十分に示すことができなくなった場合等正当な理由があると認められる場合はこの限りではない。また、生データ、実験又は観察ノート、実験試料又は試薬等の不存在等が、各研究分

資料 16 研究活動の不正行為に関する取扱規程

野の特性等に応じた合理的な保存期間を超えることによるものである場合についても同様とする。

- 3 調査委員会は、前2項の判断においては、各研究分野の特性に配慮するものとする。
(不正行為か否かの認定方法)

第21条 調査委員会は、前条により被告発者が行う説明を受けるとともに、調査によって得られた物的及び科学的証拠、証言、被告発者の自認等の証拠を総合的に判断して、不正行為か否かの認定を行う。この場合において、証拠の証明力は、調査委員会の判断に委ねられるが、被告発者の研究体制、データチェックのなされ方など様々な点から客観的不正行為事実及び故意性を判断することが重要であり、被告発者の自認を唯一の証拠として不正行為と認定することはできないものとする。

- 2 被告発者が自己の説明によって、不正行為であるとの疑いを覆すことができないときは、不正行為と認定される。また、第20条第2項に規定する本来存在すべき基本的な要素の不足により、不正行為であるとの疑いを覆すに足る証拠を示せないときも同様とする。

第4章 調査結果の報告及び通知

(認定及び報告)

第22条 調査委員会は、原則として調査開始日から150日以内に調査結果をまとめ、不正行為が行われたか否か、不正行為が行われたと認定した場合は、その内容、不正行為に関与した者とその関与の度合い、不正行為と認定された研究に係る論文等の各著者の当該論文等及び当該研究における役割を認定するものとする。ただし、150日以内に認定できない合理的な理由がある場合は、その理由及び認定予定日を学長に申し出て、承認を得るものとする。

- 2 調査委員会は、不正行為は行われなかったと認定する場合であって、調査を通じて告発が悪意に基づくものであることが判明したときは、併せてその旨の認定を行うものとする。ただし、この認定を行うに当たっては、告発者に弁明の機会を設けなければならない。
- 3 調査委員会は、前2項の認定を終了したときは、直ちに学長に報告するものとする。
(調査結果の通知及び報告)

第23条 学長は、調査結果を速やかに告発者及び被告発者(被告発者以外で不正行為に関与したと認定された者を含む。以下同じ。)に通知するとともに、文部科学省に報告するものとする。また、第13条第2項に基づき、本調査を行う旨を被告発者所属機関又は資金配分機関に通知している場合は、当該機関にも当該調査結果を通知するものとする。

- 2 学長は、前項のほか、調査の終了前であっても資金配分機関等の求めに応じ、調査の中間報告を行うものとする。

資料 16 研究活動の不正行為に関する取扱規程

- 3 学長は、悪意に基づく告発と認定があった告発者が他の機関に所属している場合は、当該所属機関(以下「告発者所属機関」という。)にも当該調査結果を通知するものとする。

第5章 異議申立て

(異議申立ての受理)

第24条 不正行為と認定された被告発者及び告発が悪意に基づくものと認定された告発者は、理由を付した書面により、受付窓口を通じ学長に対して異議申立てをすることができる。ただし、同一理由による異議申立てを繰り返すことはできない。

- 2 前項の異議申立ては、調査結果の通知を受理した日の翌日から起算して60日以内に行なければならない。

- 3 第1項による異議申立てを受けた場合、学長は直ちに調査委員会に審査を指示するものとする。ただし、異議申立ての趣旨が、新たに専門性を要する判断が必要となるものである場合は、学長の判断により、調査委員会委員の交代若しくは追加又は調査委員会に代えて他の者に審査させることができる。

(被告発者による異議申立ての審査)

第25条 不正行為と認定された被告発者による異議申立てについて、調査委員会又は調査委員会に代わって審査する者(以下「調査委員会等」という。)は、異議申立ての趣旨、理由等を勘案し、当該事案の再調査を行うか否かを速やかに決定するものとする。

- 2 調査委員会等は、当該事案の再調査を行うまでもなく、異議申立てを却下すべきものと決定した場合は、直ちに学長に報告するものとし、学長は被告発者に当該決定を速やかに通知するものとする。この場合において、当該異議申立てが当該事案の引き延ばしや認定に伴う各措置の先送りを主な目的とすると調査委員会等が判断するときは、学長は以後の異議申立てを受け付けないことを決定し、その旨を併せて通知することができる。
- 3 調査委員会等は、再調査を行うことを決定した場合は、被告発者に対し、先の調査結果を覆すに足る資料の提出等、当該事案の速やかな解決に向けて、再調査に協力することを求めるものとし、その協力が得られない場合には、再調査を行わず、審査を打ち切ることができる。その場合においては、直ちに学長に報告するものとし、学長は被告発者に当該決定を速やかに通知するものとする。
- 4 学長は、不正行為と認定された被告発者による異議申立てを受けたときは、告発者及び被告発者所属機関に通知するとともに、文部科学省及び資金配分機関に報告するものとする。異議申立ての却下及び再調査開始の決定をしたときも同様とする。
- 5 調査委員会等が再調査を開始した場合は、原則として調査開始日から50日以内に先の調査結果を覆すか否かを決定し、その結果を直ちに学長に報告するものとする。ただし、50日以内に報告できない合理的な理由がある場合は、その理由及び報告予定日を学長に申し出て、承認を得るものとする。

資料 16 研究活動の不正行為に関する取扱規程

- 6 学長は、前項の報告を受けたときは、当該結果を被告発者、告発者及び被告発者所属機関に通知するとともに、文部科学省及び資金配分機関に報告するものとする。

(告発者による異議申立ての審査)

- 第 26 条 学長は、悪意に基づく告発と認定された告発者から異議申立てがあった場合は、被告発者及び告発者所属機関に通知するとともに、文部科学省及び資金配分機関に報告するものとする。異議申立ての却下及び再調査開始の決定をしたときも同様とする。
- 2 調査委員会等が再調査を開始した場合は、原則として調査開始日から 30 日以内に先の認定を覆すか否かを決定し、その結果を直ちに学長に報告するものとする。ただし、30 日以内に報告できない合理的な理由がある場合は、その理由及び報告予定日を学長に申し出て、承認を得るものとする。
- 3 学長は、前項の報告を受けたときは、当該結果を告発者、被告発者及び告発者所属機関に通知するとともに、文部科学省及び資金配分機関に報告するものとする。

第 6 章 公表

(調査結果の公表)

- 第 27 条 学長は、不正行為が行われたと認定されたときは、速やかに調査結果を公表するものとする。この場合において、公表する内容は、非公表とすることに合理的な理由がある場合を除き、不正行為に関与した者の氏名及び所属、不正行為の内容、本学が行った措置の内容、調査委員会委員の氏名及び所属、調査方法、調査手順等とする。ただし、告発等がなされる前に取り下げられた論文等において不正行為が行われたと認定されたときは、不正行為に係る者の氏名及び所属を公表しないことができる。
- 2 学長は、不正行為が行われなかったとの認定があった場合は、原則として調査結果を公表しない。ただし、公表までに調査事案が外部に漏えいしていた場合及び論文等に故意によるものでない誤りがあった場合は、調査結果を公表するものとする。この場合において、公表する内容は、非公表とすることに合理的な理由がある場合を除き、不正行為は行われなかったこと(論文等に故意によるものでない誤りがあった場合は、そのことも含む。)、被告発者の氏名及び所属、調査委員会委員の氏名及び所属、調査の方法、調査手順等とする。
- 3 学長は、悪意に基づく告発と認定があった場合は、非公表とすることに合理的な理由がある場合を除き、告発者の氏名及び所属並びに悪意に基づく告発と認定した理由等を公表するものとする。

(再発防止のための措置)

- 第 28 条 学長は、本学で不正行為が行われたことを公表したときは、研究に対する研究倫理の向上に関する措置を講じ、再発防止に努めるものとする。

第 7 章 被告発者等に対する措置

(調査中における一時的措置)

資料 16 研究活動の不正行為に関する取扱規程

第 29 条 学長は、本調査を行うことを決定したときから、調査委員会等の調査結果の報告を受けるまでの間、告発された研究活動に係る研究経費の支出を停止することができる。

(研究経費の使用中止)

第 30 条 学長は、不正行為が行われたと認定された者及び関与したとまでは認定されないが、不正行為が認定された論文等の内容について責任を負う者として認定された著者並びに不正行為と認定された研究活動に係る研究経費の全部又は一部について使用責任を負う者として認定された者(以下「被認定者」という。)に対して、直ちに当該研究経費の使用中止を命ずるものとする。

(論文等取り下げの勧告)

第 31 条 学長は、被認定者に対して、不正行為と認定された論文等の取り下げの勧告を行うものとする。

2 被認定者は、前項の勧告を受けた日の翌日から起算して 60 日以内に、勧告に応ずるか否かの意思表示を学長に行うものとする。

3 学長は、第 1 項の勧告に被認定者が応じなかった場合は、その旨を公表するものとする。

(被認定者等の処分)

第 32 条 被認定者及び悪意に基づく告発と認定された告発者(以下「被認定者等」という。)のうち、本学の職員については、国立大学法人帯広畜産大学職員就業規則(平成 16 年規則第 3 号)、国立大学法人帯広畜産大学非常勤職員就業規則(平成 16 年規則第 4 号)、国立大学法人帯広畜産大学特任教員就業規則(平成 25 年規則第 3 号)、国立大学法人帯広畜産大学職員懲戒規程(平成 16 年規程第 106 号)及び国立大学法人帯広畜産大学教員就業特例規程(平成 16 年規程第 95 号)に基づき、本学の学生については、国立大学法人帯広畜産大学学則(平成 16 年学則第 1 号)及び国立大学法人帯広畜産大学大学院学則(平成 16 年学則第 2 号)に基づき、懲戒処分その他必要な措置を講じるものとする。

(処分の公表)

第 33 条 学長は、前条により被認定者等に処分を行ったときは、その結果を公表するものとする。

(研究経費等の返還)

第 34 条 調査委員会は、不正行為と認定された研究活動に対して配分された研究経費のうち、被認定者に対し使用済額の全額又は一部を返還させるか否かについて判断の上、学長に報告するものとする。

2 学長は、前項の報告を踏まえて返還させることとするときは、教育研究評議会及び役員会の議を経て決定するものとし、決定後直ちに返還を命じるものとする。

3 学長は、前項のほか被認定者等に対して、再現性を示すために行った再現実験の実施に要した経費等、本調査に要した経費の返還を求めるものとする。

資料 16 研究活動の不正行為に関する取扱規程

- 4 学長は、資金配分機関から、当該資金の返還を請求された場合において、被認定者に命じた当該競争的資金に係る返還額が少ないときは、その不足分を被認定者に求償するものとし、被認定者に命じた返還額が多いときは、その差額を被認定者に返還するものとする。

(不正行為が行われなかったと認定された場合の措置)

第 35 条 学長は、不正行為が行われなかったと認定された場合、本調査に際して行った研究経費の支出停止措置を速やかに解除するものとする。

- 2 調査委員会委員長は、本調査に際して行った証拠保全の措置について、不正行為が行われなかったと認定した調査結果通知後、速やかに解除するものとする。
- 3 学長は、不正行為が行われなかったと認定した被告発者の名誉を回復する措置及び不利益が生じないための措置を講ずるものとする。

第 8 章 秘密の保持

(秘密保持義務)

第 36 条 役員、職員及び調査委員会委員となった外部の者は、告発等の内容及び調査等で知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

第 9 章 雑則

(事務)

第 37 条 本学における研究活動に係る不正行為に関する事務は、総務課が行う。

(雑則)

第 38 条 この規程に定めるもののほか、本学における研究活動に係る不正行為に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成 19 年 3 月 15 日から施行する。

附 則(平成 20 年 3 月 11 日規程第 11 号)

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 25 年 3 月 15 日規程第 22 号)

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 27 年 3 月 19 日規程第 21 号)

この規程は、平成 27 年 3 月 19 日から施行する。

附 則(平成 27 年 7 月 15 日規程第 36 号)

この規程は、平成 27 年 7 月 15 日から施行する。

資料 17 研究費の不正使用防止等に関する取扱規程

○国立大学法人帯広畜産大学研究費の不正使用防止等に関する規程

(平成 19 年 10 月 9 日規程第 53 号)

改正 平成 20 年 3 月 11 日規程第 11 号 平成 21 年 3 月 27 日規程第 21 号

平成 24 年 7 月 6 日規程第 30 号 平成 25 年 3 月 15 日規程第 23 号

平成 27 年 3 月 19 日規程第 20 号

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この規程は、国立大学法人帯広畜産大学(以下「本学」という。)における研究費の不正使用の防止及び不正使用が生じた場合における措置等に関し必要な事項を定め、もって研究費の適正かつ有効な活用を図ることを目的とする。

(適用範囲)

第 2 条 本学における研究費の運営及び管理については、国立大学法人帯広畜産大学会計規則(平成 16 年規則第 2 号)、国立大学法人帯広畜産大学予算決算及び出納事務取扱規程(平成 16 年規程第 89 号)その他の関係法令又はこれらに基づく特別の定めのある場合を除くほか、この規程の定めるところによる。

(定義)

第 3 条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 研究費 国立大学法人帯広畜産大学予算管理細則(平成 16 年細則第 28 号)第 6 条第 2 項により定める支出予算区分のうち、研究目的で使用されるものをいう。
- (2) 構成員 本学の役員、職員、学生及びその他本学において身分を有する者をいう。
- (3) 不正使用 本学の構成員又は本学の構成員であった者が本学在職中又は在学中に、研究費を本来の用途以外の用途に使用すること、虚偽の請求に基づき研究費を支出すること、その他法令等に違反して研究費を支出することをいう。
- (4) 競争的資金等 国又は国が所管する独立行政法人から配分される競争的資金を中心とした公募型の研究資金をいう。

(最高管理責任者)

第 4 条 学長は、研究費の運営及び管理に係る最高管理責任者として本学全体を統括し、最終責任を負うものとする。

2 最高管理責任者は、不正使用の発生を抑止する環境及び体制の構築を図り、研究費の適正な運営及び管理を維持するため不正防止計画を策定し周知するとともに、必要な措置を講じるものとする。

3 最高管理責任者は、前項の責務を遂行するため、次二条に定める統括管理責任者に及びコンプライアンス推進責任者に対し必要な指示を行うものとする。

(統括管理責任者)

資料 17 研究費の不正使用防止等に関する取扱規程

第5条 本学に最高管理責任者を補佐し、研究費の適正な運営及び管理について統括する者として、統括管理責任者を置く。

2 統括管理責任者は、学長の指名する理事をもって充てる。

3 統括管理責任者は、最高管理責任者の指示に基づき、不正防止計画の組織的な実施体制を統括し、本学全体の具体的な実施状況を確認して必要な指示を行うとともに、実施状況を最高管理責任者に報告するものとする。

(コンプライアンス推進責任者)

第6条 本学に研究費の運営及び管理に係る不正防止対策について、実質的な責任と権限を持つ者として、コンプライアンス推進責任者を置く。

2 コンプライアンス推進責任者は、学長の指名する理事又は副学長をもって充てる。

3 コンプライアンス推進責任者は、最高管理責任者及び統括管理責任者の指示に基づき、次に掲げる事項を行うものとする。

(1) 不正防止計画に基づく不正防止対策の実施を指示し、定期的に実施状況を確認するとともに、実施状況を統括管理責任者に報告する。

(2) 不正使用防止を図るため、研究費の運営及び管理に関わる全ての構成員に対し、コンプライアンス教育を実施し、受講状況を管理監督する。

(3) 構成員が適切に研究費の管理及び執行を行っているかをモニタリングし、必要に応じて改善を指導する。

(構成員の責務)

第7条 本学の構成員は、倫理観の涵養及び保持に努めるとともに、研究活動に携わる者の行動指針（平成19年制定）を遵守するものとし、不正使用を行ってはならない。

2 本学が構成員に対し、コンプライアンス教育の受講又は誓約書の提出を求めたときは、長期出張、休職、休業など正当な理由がある場合を除き、受講又は提出しなければならない。

3 最高管理責任者は、正当な理由なく前項の責務を果たさない構成員に対し、競争的資金等の申請及び使用を認めないこととすることができる。

(不正防止計画推進部署)

第8条 本学の研究費を適正に運営及び管理し、不正使用を発生させる要因に対応するため、最高管理責任者のもとに不正防止計画推進部署を置く。

2 不正防止計画推進部署は、コンプライアンス室をもって充てる。

3 不正防止計画推進部署は、不正防止計画に基づき不正使用発生要因に対応する具体的な対策を実施するものとする。

(相談窓口の設置)

第9条 本学における研究費に係る事務処理手続き及び使用等に関するルール等について学内外からの相談を受け、明確かつ統一的な運用を図るため、研究費に係る相談窓口(以下「相談窓口」という。)を置く。

資料 17 研究費の不正使用防止等に関する取扱規程

2 相談窓口は、次の各号に掲げる課とする。

- (1) 研究費に係る申請及び受入等の事務処理手続きについて 研究支援課
- (2) 競争的資金等の使用に関するルール等について 研究支援課
- (3) 研究費（競争的資金等を除く。）の使用に関するルール等について 財務課
（通報窓口の設置）

第 10 条 本学における研究費の不正使用に係る学内外からの通報，情報提供等（以下「通報等」という。）の対応を適切に行うため，研究費の不正使用に係る通報窓口（以下「通報窓口」という。）を置く。

2 通報窓口は，総務課長及び総務課課長補佐とする。

3 最高管理責任者が必要と認めたときは，前項に加えて第三者機関に通報窓口を設置することができる。

4 前項により通報窓口を設置したときは，適切な周知に努めるものとする。

第 2 章 不正使用への対応手続き

（研究費の不正使用に係る通報等）

第 11 条 本学において，研究費の不正使用の疑いがあると思料する者は，何人も通報窓口を通じて通報等を行うことができる。

2 通報等の方法は，通報窓口に対する文書，電子メール，電話，面談等によるものとする。

3 通報等は，当該通報等を行う者（以下「通報者」という。）の氏名を明らかにした上で，不正使用を行ったとする者（以下「被通報者」という。），不正使用の態様等，事案の内容が明示され，かつ，不正使用とする合理的な理由が示されていなければならない。

4 匿名によるなど，前項の定めを満たさない通報等については，当該内容に応じて最高管理責任者の判断により，通報等を受理した場合に準じて取り扱うことができる。

5 通報窓口は，郵送，電子メール等，通報者等が受付けされたか否かを知り得ない方法で行われた場合は，通報者（匿名による者を除く。以下同じ。）に受け付けたことを通知するものとする。

6 通報者は，誠意をもって客観的で合理的根拠に基づく通報等を行うものとし，誹謗中傷等その他不正を目的とした通報等（以下「悪意に基づく通報等」という。）を行ってはならない。

（通報窓口の責務）

第 12 条 通報窓口は，前条に規定する通報等を受けたときは，直ちに最高管理責任者，統括管理責任者及びコンプライアンス推進責任者へ報告するものとする。

2 通報窓口は，通報者の氏名を他の者に開示してはならない。ただし，通報者の同意を得た場合は，この限りではない。

（調査要否の決定）

資料 17 研究費の不正使用防止等に関する取扱規程

第 13 条 最高管理責任者は、前条第 1 項の報告を受けたとき又は相当の信頼のある外部機関からの指摘に基づき不正使用があると疑われるときは、直ちに統括管理責任者に通報等の内容の合理性を確認させ、その報告に基づき、通報等を受けた日から 30 日以内に調査の要否を決定するものとする。

2 最高管理責任者は、当該通報等に係る調査を行わないこととした場合は、その旨理由を付して通報者に通知するとともに、当該通報等に関係する公的研究費の配分機関（以下「配分機関」という。）に報告するものとする。

（調査委員会の設置）

第 14 条 最高管理責任者は、前条により調査の実施を決定したときは、直ちに当該事案に係る調査委員会を設置して、調査を行わせるとともに、通報者、被通報者及び配分機関にその旨を報告するものとする。

（調査委員会）

第 15 条 調査委員会は、次に掲げる委員により構成する。ただし、委員は、通報者及び被通報者と特別な利害関係を有しない者でなければならない。

(1) 統括管理責任者

(2) コンプライアンス推進責任者

(3) 最高管理責任者が指名する理事又は副学長

(4) 本学の構成員以外の者で調査に必要な知識又は経験を有する者のうちから最高管理責任者が指名する者

(5) その他最高管理責任者が必要と認めた者

2 調査委員会に委員長を置き、統括管理責任者をもって充てる。ただし、統括管理責任者が前項ただし書きに該当する場合は、最高管理責任者が指名する委員をもって充てる。

3 調査委員会は、通報等に係る書面等の審査並びに通報者、被通報者及び関係者からの事情聴取その他の必要な方法により、不正使用の有無及び不正の内容、関与した者及びその関与の程度、不正使用の相当額等について調査する。

4 統括管理責任者は、調査の実施に当たり、調査方針、調査対象及び方法等について配分機関に報告、協議しなければならない。

5 調査委員会に関する事務は、財務課、研究支援課の協力を得て総務課が行う。

6 調査委員会は、調査を行う通報等に関する全ての処理の終了をもって解散する。

（調査中における研究費の使用停止）

第 16 条 最高管理責任者は、調査の実施を決定したときから調査結果の報告を受けるまでの間、研究費の使用を停止させる必要があると認めた場合は、これを命じるものとする。

（認定）

資料 17 研究費の不正使用防止等に関する取扱規程

第 17 条 調査委員会は、不正使用の有無、不正の内容、関与した者、関与の程度、不正使用の相当額等について調査のうえ認定し、原則として通報等を受けた日から 180 日以内に最高管理責任者に報告するものとする。ただし、180 日以内に報告できない合理的な理由がある場合は、その理由及び報告予定日を最高管理責任者に申し出て、承認を得るものとする。

2 不正使用があったと認定した場合の前項の報告は、認定した調査結果のほか、不正発生要因、不正に関係した者が関わる他の競争的資金等における管理及び監査体制の状況、再発防止計画等を含む調査報告書を作成して行うものとする。

3 調査委員会は、第 1 項ただし書きによる承認を得た場合は、通報等を受けた日から 180 日経過時点における調査結果の中間報告書を作成し、最高管理責任者に報告するものとする。

4 調査委員会は、調査の過程であっても、不正の事実が一部でも確認された場合には、速やかに認定し、最高管理責任者に報告するものとする。

5 調査委員会は、不正使用が行われなかったと認定される場合であって、調査を通じて通報等が悪意に基づくものであることが判明したときは、あわせてその旨を認定し、最高管理責任者に報告するものとする。

6 調査委員会は、第 1 項、第 4 項及び第 5 項の認定に当たっては、被通報者(被通報者以外で不正使用に関与したとされた者を含む。以下「被通報者等」という。)又は前項の通報者に対し、書面又は口頭による弁明の機会を与えなければならない。

(調査結果の通知)

第 18 条 最高管理責任者は、前条による調査結果を速やかに通報者及び被通報者等に通知するものとする。

(異議申し立て)

第 19 条 調査により不正使用と認定された被通報者等又は悪意に基づく通報等と認定された通報者は、最高管理責任者に異議申立てをすることができる。ただし、同一理由による異議申立てを繰り返すことはできない。

2 前項の異議申立ては、前条による調査結果の通知を受理した日の翌日から起算して 14 日以内に異議申立書を提出しなければならない。

3 最高管理責任者は、前項により異議申立てを受けたときは、直ちに調査委員会に審査を指示するとともに、通報者又は被通報者に通知する。

4 調査委員会は、異議申立ての理由等を勘案し、再調査すべきか否かを審査する。

5 調査委員会は、前項の審査結果を速やかに最高管理責任者に報告する。

6 最高管理責任者は、前項の報告を受けたときは、異議申立てを行った者及び第 3 項により通知した者に通知する。

資料 17 研究費の不正使用防止等に関する取扱規程

- 7 調査委員会は、第4項の審査の結果、再調査すべきと決定した場合は、直ちに再調査を実施し、異議申立てを受理した日から30日以内に再調査の結果を最高管理責任者に報告する。
- 8 異議申立てを行った者は、調査委員会の求めに応じ、再調査のために必要な資料を提出しなければならない。この場合において、調査委員会は、指定する期日までに必要な資料の提出がないときは、再調査を打ち切ることができる。
- 9 調査委員会は、前項により再調査を打ち切ったときは、速やかにその旨を最高管理責任者に報告する。
- 10 最高管理責任者は、第7項又は第9項の報告を受けたときは、異議申立てを行った者及び第3項により通知した者に対し、再調査の結果を通知する。

(配分機関への報告等)

第20条 最高管理責任者は、不正使用と認定された場合であって、当該事案に係る研究が公的研究費の配分を受けて行われたものであるときは、通報等を受けた日から210日以内に、調査結果、不正発生要因、不正に関与した者が関わる他の競争的資金等における管理及び監査体制の状況、再発防止計画等を含む最終報告書を配分機関に提出するものとする。ただし、期限までに調査が完了しない場合であっても、調査の中間報告を配分機関に提出するものとする。

- 2 最高管理責任者は、前項のほか、第17条第4項による報告を受けた場合においても速やかに配分機関に報告するものとする。
- 3 前二項に定めるもののほか、最高管理責任者は、調査の終了前であっても配分機関の求めに応じ、調査の進捗状況報告及び調査の中間報告を行うものとする。
- 4 最高管理責任者は、配分機関から当該事案に係る資料の提出、閲覧又は現地調査を求められたときは、調査に支障がある等、正当な理由がある場合を除き、応じるものとする。

(調査結果の公表)

第21条 最高管理責任者は、不正使用と認定されたときは、速やかにを公表するものとする。

- 2 前項により公表する内容は、不正に関与した者の氏名及び所属、不正の内容、本学が公表時までに行った措置の内容、調査委員会委員の氏名及び所属、調査方法、調査手順等とする。ただし、合理的な理由がある場合は、これらの一部を非公表とすることができる。
- 3 最高管理責任者は、悪意に基づく通報等と認定された告発者の氏名及び所属並びに悪意に基づく通報等と認定した理由等を公表するものとする。ただし、合理的な理由がある場合は、これらの一部を非公表とすることができる。

(不正使用等に係る措置)

資料 17 研究費の不正使用防止等に関する取扱規程

第 22 条 最高管理責任者は、第 17 条第 1 項の報告を受けたときは、必要に応じて、被通報者等に対し研究費の使用停止を命じるとともに、適法な状態に回復するため必要な措置及び再発防止のために必要な措置を講じなければならない。

- 2 最高管理責任者は、不正使用と認定された被通報者等及び悪意に基づく通報等と認定された通報者のうち、本学の構成員については、国立大学法人帯広畜産大学職員就業規則(平成 16 年規則第 3 号)、国立大学法人帯広畜産大学特任教員就業規則(平成 25 年規則第 3 号)、国立大学法人帯広畜産大学非常勤職員就業規則(平成 16 年規則第 4 号)、国立大学法人帯広畜産大学職員懲戒規程(平成 16 年規程第 106 号)、国立大学法人帯広畜産大学教員就業特例規程(平成 16 年規程第 95 号)、国立大学法人帯広畜産大学学則(平成 16 年学則第 1 号)及び国立大学法人帯広畜産大学大学院学則(平成 16 年学則第 2 号)に基づく懲戒処分その他必要な措置を講じるものとする。
- 3 最高管理責任者は、私的流用等行為の悪質性が高い場合は、刑事告発及び民事訴訟について検討するものとする。

第 3 章 雑則

(通報者の保護)

第 23 条 通報者は、悪意に基づく通報等であることが判明しない限り、当該通報等を行ったことを理由として、人事、給与その他の身分及び勤務条件等に関し、不利益な取扱いを受けない。

- 2 通報者は、通報等を行ったことが理由と思われる不利益な取扱いを受けたときは、通報窓口を通じ最高管理責任者に申し立てることができる。

(フォローアップ)

第 24 条 最高管理責任者は、通報者が前条第 1 項に規定する不利益な取扱いを受けたとき又は受けるおそれがあると認めるときは、その回復又は防止のために必要な措置を講ずるものとする。

- 2 最高管理責任者は、通報等に係る事実がないことが判明した場合において、被通報者等の名誉が害されたと認めるときは、事実関係の公表その他被通報者等の名誉を回復するために必要な措置を講じなければならない。

(秘密保持義務)

第 25 条 通報窓口、調査委員会委員その他本規程に基づく業務に関与した者は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(その他の経費に係る通報等の取扱い)

第 26 条 研究費以外の経費に係る通報等については、本規程に準じて対応するものとする。

(雑則)

第 27 条 この規程に定めるもののほか、研究費の運営及び管理に関し必要な事項は、別に定める。

資料 17 研究費の不正使用防止等に関する取扱規程

附 則

この規程は、平成 19 年 10 月 9 日から施行する。

附 則(平成 20 年 3 月 11 日規程第 11 号)

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 21 年 3 月 27 日規程第 21 号)

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 24 年 7 月 6 日規程第 30 号)

この規程は、平成 24 年 7 月 6 日から施行し、平成 24 年 7 月 1 日から適用する。

附 則(平成 25 年 3 月 15 日規程第 23 号)

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 27 年 3 月 19 日規程第 20 号)

この規程は、平成 27 年 3 月 19 日から施行する。

【博士前期課程】

	学位	必修科目			選択科目		計
		共通コア科目	コース必修科目	プログラム必修科目・ プログラム選択必修科目	コース選択科目・ プログラム選択科目	他コース選択科目・ 共通選択科目	
7コース	修士 (農学/動物医科学)	8単位	14単位		4単位以上	4単位まで算入可能	30単位以上
畜産衛生学位 プログラム	修士 (畜産衛生学)		10単位	8単位	6単位以上	履修可(修了要件単位への算入不可)	32単位以上

【博士後期・博士課程】

	学位	必修科目			選択科目		計
		共通コア科目	専攻必修科目	プログラム必修科目・ プログラム選択必修科目	プログラム選択科目	専攻選択科目・ 共通選択科目	
畜産科学専攻 博士後期課程	博士 (農学)	9単位				3単位以上	12単位以上
畜産衛生学位 プログラム	博士 (畜産衛生学)			1単位	6単位以上	履修可(修了要件単位への算入不可)	16単位以上
獣医学専攻 博士課程	博士 (獣医学)		9単位			12単位以上	30単位以上

資料19 アドミッション・ポリシー／畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）

【専攻共通のアドミッション・ポリシー】

帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻博士前期課程では、「食の安全確保」をはじめとする畜産学に関する課題解決能力と幅広い見識を備えた人材を育成するため、以下のような人を学生として求めています。そのために、入学試験では専門と語学に関する筆記試験と研究計画・能力を評価する口述試験を実施します。

- （１）国際的な視野を持って行動でき、畜産学に関する高度専門職業人を目指す人。
- （２）各コースの特定分野に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人。
- （３）各コースで自ら研究計画を立案できる基礎的知識・技術を身につけている人。
- （４）獣医・畜産融合の視点から、食の安全確保・生産性向上・環境保全に関する課題に高い関心を持ち、それらの課題解決に積極的に取り組みたい人。

【コース別のアドミッション・ポリシー】

動物医科学コース	家畜生産科学コース	環境生態学コース	食品科学コース	農業経済学コース	農業環境工学コース	植物生産科学コース
（１）基礎動物医科学、動物病態学、動物感染症学、病因制御学、動物臨床科学に関する高度な知識及び技術及び研究能力を身につけ、動物医科学的観点から社会への貢献を目指す人。	（１）家畜やその生産管理に関する高度な知識と技術、研究能力を身につけ、生命科学や畜産学の観点から社会貢献を目指す人。	（１）畜産環境及び自然環境の保全と管理に関する幅広い知識、技術及び研究能力を身につけ、生態学的及び環境科学的観点から社会への貢献を目指す人。	（１）畜産産物を原料とした食品の製造・加工及びこれらの機能性・安全性に関する高度な知識及び技術及び研究能力を身につけ、食品科学的観点から社会への貢献を目指す人。	（１）食料生産・流通・消費に関わる農業経済学や経営学の幅広い、高度な知識と技術を身につけ、農業経済学的観点から社会への貢献を目指す人。	（１）農業工学的素養を基礎として、環境と調和した生産技術改善と地域環境保全の知識を身につけ、農業環境工学的観点から社会への貢献を目指す人。	（１）植物の生理、生態、遺伝や土壌に関する高度な知識をもとにした植物生産の量的・質的向上の高度な知識及び技術及び研究能力を身につけ、植物生産科学的観点から社会への貢献を目指す人。
（２）基礎生物学や畜産学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人。	（２）家畜生産科学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人。	（２）環境生態学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人。	（２）食品科学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人。	（２）農業経済学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人。	（２）農業環境工学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人。	（２）植物生産科学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人。
（３）基礎生物学に関する基礎的知識と基本的技術を踏まえて、動物医科学分野で自ら研究計画を立案できる人。	（３）家畜やその生産管理に関する高度な知識と技術、研究能力を身につけ、家畜生産科学分野で自ら研究計画を立案できる人。	（３）畜産環境及び自然環境の保全と管理の知識、技術及び研究能力を身につけ、環境生態学分野で自ら研究計画を立案できる人。	（３）畜産産物の加工・利用に関する高度な技術や食品のもつ様々な機能性に関する知識を踏まえて、食品科学分野で自ら研究計画を立案できる人。	（３）食料生産・流通・消費に関わる農業経済学や経営学の基礎的な知識と基本的な技術を踏まえて、農業経済学分野で自ら研究計画を立案できる人。	（３）生産技術改善と地域環境保全に関する基礎的な知識と基本的な技術を踏まえて、農業環境工学分野で自ら研究計画を立案できる人。	（３）栽培植物の改良や生産と土壌及び病害虫に関する知識や技術を踏まえて、植物生産科学分野で自ら研究計画を立案できる人。
（４）基礎生物学や畜産学の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人。	（４）家畜やその生産管理に関する諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人。	（４）畜産環境及び自然環境の保全と管理の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人。	（４）食品の製造・加工及びこれらの機能性・安全性の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人。	（４）農業経済学及び経営学の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人。	（４）農業工学的素養を基礎として生産技術と地域環境の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人。	（４）植物生産の量的・質的向上の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人。

資料20 アドミッション・ポリシー／畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）

【専攻共通のアドミッション・ポリシー】

帯広畜産大学大学院畜産学研究科獣医学専攻博士課程及び畜産科学専攻博士後期課程では、「獣医・農畜産学融合」・「海外の大学との協力」による教育体制により、食と農のグローバル化を背景にした専門的知識及び創造性と優れた研究開発能力・教育能力を備えた豊かな人間力を持つ研究者・教育者を養成するため、以下のような人を学生として求めています。

- （１）獣医学や農畜産学に関する国際的な視野を持って、高いコミュニケーション能力を身につけて国際水準の先端的な研究を展開できる研究者・教育者を目指す人。
- （２）本研究科に配置された専攻分野の総合的な知識や先端的研究を探究したい人。
- （３）獣医学に関する学士課程までの基礎知識と基礎的技術または畜産科学専攻の特定分野に関する修士課程までの基礎知識と基礎的技術を身につけている人。
- （４）獣医・農畜産学融合分野において自らの研究成果を社会に還元し、学際的な研究においてリーダーシップを発揮する能力を身につけたい人。

【専攻別のアドミッション・ポリシー】

獣医学専攻	畜産科学専攻
3. アドミッション・ポリシー （１） 獣医学や農畜産学に関する国際的な視野を持って、高いコミュニケーション能力を身につけて国際水準の先端的な研究を展開できる教育者・研究者を目指す人。 （２） 獣医・農畜産学融合分野において自らの研究成果を社会に還元し、動物や人の健康、地球環境や生態系の保全、産業や生命科学の発展に中心的な役割を担い国内外を問わず社会貢献することに意欲のある人。 （３） 獣医学専攻の特定分野に関する総合的な知識や先端的研究を探究したい人。 （４） 獣医学やその関連分野に関する学士課程までの基礎知識と基礎的技術及び応用能力を身に付けている人、または他分野に関する修士課程までの基礎知識と基礎的技術及び応用能力を身に付けている人。	3. アドミッション・ポリシー （１） 獣医学や農畜産学に関する国際的な視野を持って、高いコミュニケーション能力を身につけて国際水準の先端的な研究を展開できる教育者・研究者を目指す人。 （２） 獣医・農畜産学融合分野において自らの研究成果を社会に還元し、動物や人の健康、地球環境や生態系の保全、産業や生命科学の発展に中心的な役割を担い国内外を問わず社会貢献することに意欲のある人。 （３） 畜産科学専攻の特定分野に関する総合的な知識や先端的研究を探究したい人。 （４） 畜産科学専攻の特定分野に関する修士課程までの基礎知識と基礎的技術を身につけている人。

評価項目	評価内容・方法	調査等の実施時期	検証結果・改善方法	情報公開	対象レベル			
					大学教育センター	学部教育 部会議/ 大学院教 育部会議 /入試部 会議	就職支援 室/学生 支援室/ 教育支援 室/入試 方法研室	クラス担任/ ユニット担任 /指導教 員/科目 責任者
履修登録状況	各学位、資格、プログラム等の取得等に向け、履修系統図、履修モデル等にそった履修となっているか。	4月(4月入学者) 10月(10月入学者)	指導教員は、学生の履修登録にあたって指導・助言を行う。畜産衛生学位プログラム履修者については、プログラム・コーディネーターも指導・助言を行う。					○
研究題目及び研究計画の状況	各学位の取得に向け、適切な研究計画が立てられているか。	5月(4月入学者) 11月(10月入学者)	指導教員は、学生の研究題目の設定及び研究計画の作成に指導・助言を行う。設定された研究題目及び研究計画は大学院教育部会議において確認し、必要に応じて指導教員にフィードバックする。			○	○	○
単位修得状況	各年次において、カリキュラム・マップに沿った単位の修得がされているか。	3月(4月入学者) 9月(10月入学者)	進捗状況審査会において指導教員が確認し、必要に応じて学生に個別指導を行う。個別指導を行った学生への指導状況については、毎履修年度末に大学院教育部長に報告する。			○	○	○
授業の出席状況	各授業科目において、適切な出席状況となっているか。	3月(4月入学者) 9月(10月入学者)	指導教員において逐次把握し、必要に応じて個別指導を行う。個別指導を行った学生への指導状況については、毎履修年度末に大学院教育部長に報告する。			○	○	○
授業評価アンケート	学生の自己評価、科目全体の評価、授業内容の評価	10月(前期分) 4月(後期分)	アンケート結果は各授業担当者に開示し、改善案等を提出してもらう。教育支援室は、提出された各科目の改善案等を取りまとめ、アンケート集計結果とともにを大学教育センター長に提出する。	HP	○	○	○	○
進級・休学・退学・復学状況	課程/ユニット/専攻、学年、男女、理由ごとの進級・休学・退学・復学それぞれの人数と入学者数に対する割合	3月	大学院教育部会議は、進級・休学・退学・復学状況を取りまとめ、大学教育センター長に報告する。		○	○		
標準修業年限卒業・修了状況	課程/ユニット/専攻ごとの、標準修業年限卒業・修了者数と入学者数に対する割合、過年度修了者数と平均超過年数	3月	大学院教育部会議は、標準修業年限修了状況をまとめ、大学教育センター長に報告する。		○	○		
入学者アンケート	APの理解度、入学前の学習状況、志望動機	3月	入学者選抜方法研究室は、分析結果を取りまとめ、抽出した問題点と改善案を大学教育センター長に提出する。	HP	○	○	○	
卒業・修了者アンケート	DPに掲げる能力・資質の修得状況、学修満足度（学生の自己評価）	5月	教育支援室は、分析結果を取りまとめ、抽出した問題点と改善案を大学教育センター長に提出する。	HP	○	○	○	
就職先アンケート	DPに掲げる能力・資質の修得状況（就職先による外部評価）	3月	就職支援室は分析結果を取りまとめ、教育支援室と連携して問題点を抽出するとともに改善案を作成し、大学教育センター長に提出する。	HP	○	○	○	

評価項目	評価内容・方法	調査等の実施時期	検証結果・改善方法	情報公開	対象レベル			
					大学教育センター	学部教育部会議/大学院教育部会議/入試部会議	就職支援室/学生支援室/教育支援室/入試方法研室	クラス担任/ユニット担任/指導教員/科目責任者
インターンシップ	インターンシップ経験者の割合、就職先	3月	就職支援室はインターンシップの実施状況及びインターンシップ経験者の就職状況を取りまとめ、教育支援室と連携して分析結果を踏まえた実施案を作成し、大学教育センター長に提出する。	HP	○	○	○	
学生生活実態調査	アルバイト、自学習時間、課外活動状況等	7月(調査報告) 3月(改善案)	学生・課外活動支援室は、調査結果を取りまとめ、分析結果を付して大学教育センター長に報告する。報告内容は大学院教育部会議において検討し、必要に応じて改善案を作成して大学教育センター長に提出する。	HP	○	○	○	
資格修得状況	各種資格の取得又は各プログラムの要件充足の状況	4月	大学院教育部会議は、前年度末までの教職専修免許の取得者及び各種プログラムの要件充足者について取りまとめ、大学教育センター長に報告する	HP	○	○		
進路状況（就職・進学等）	想定される専門領域への就職率・進学率、学生の希望の達成状況	4月	就職支援室は、前年度修了者の進路状況を取りまとめ、大学教育センター長に報告する。	HP	○	○	○	
学修ポートフォリオ	各年次終了時における学修活動の振り返り	7月(分析報告) 3月(改善案)	指導教員は、各履修年度の始めと終わりに、学生の目標設定と自己評価に対する指導・助言を行う。目標設定と自己評価の結果は、教育支援室で取りまとめ、分析結果を付して大学教育センター長に報告する。報告内容は、大学院教育部会議において検討し、必要に応じて改善案を作成して大学教育センター長に提出する。		○	○	○	○
アセスメント・テスト	基礎的な専門知識、技能の定着	2～3月(4月入学者) 8～9月(10月入学者)	毎履修年度末に、指導教員の責任の下に進級試験を実施し、進級試験の結果を大学院教育部長に報告する。		○	○	○	○
シラバス	シラバスの活用状況（教員・学生）及び評価（学生）	3月	教育支援室は、調査結果を分析して問題点を抽出し、調査結果と改善案を大学教育センター長に提出する。		○	○	○	○
ルーブリック	ルーブリックの活用状況（教員）				○	○	○	○
GP	科目ごとのGPの分布・標準偏差・中央値				○	○	○	○

学生の確保の見通し等を記載した書類（目次）

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組	1
（1）学生の確保の見通し	1
ア 現在までの充足状況	1
イ 入学状況把握のためのアンケート	2
ウ 入学定員の設定	4
（2）学生確保に向けた取組状況	7
ア 大学院進学説明会の開催	7
イ 奨学金制度の充実	8
ウ 学生納付金	8
エ 博士進学プログラムの設置	8
2. 人材需要の動向等社会の要請	8
（1）人材の養成に関する目的（概要）	8
（2）人材需要の動向	9
（3）現在までの大学院修了者の推移	10

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組

(1) 学生の確保の見通し

ア 現在までの充足状況

①畜産科学専攻（博士前期課程）

現行の畜産科学研究科修士課程（畜産生命科学専攻，食品科学専攻，資源環境農学専攻）及び博士前期課程（畜産衛生学専攻）の入学定員の合計は 56 名であり，過去 5 年間の入学状況を表 1 に示す。平成 24 年度は東日本大震災の影響により，志願者数・入学者数が減少したが，その後は恒常的に志願者があり，ほぼ入学定員どおりの入学者を確保している。

表 1：過去 5 年間の入学状況

	H24	H25	H26	H27	H28	計	平均
入学定員	56	56	56	56	56	280	56
志願者数	53	71	61	68	65	318	63.6
入学者数	45	55	55	57	54	266	53.2
定員充足率	0.80	0.98	0.98	1.02	0.96	-	0.95

②畜産科学専攻（博士後期課程）及び③獣医学専攻（博士課程）

現行の畜産学研究科畜産衛生学専攻（博士後期課程）の入学定員は 7 名である。また，岩手大学大学院連合農学研究科の入学定員は 4 大学で 32 名，岐阜大学大学院連合獣医学研究科の入学定員は 4 大学で 20 名である。過去 5 年間の畜産衛生学専攻の入学状況及び両連合大学院の本学所属の入学者の状況を表 2～4 に示す。畜産衛生学専攻（博士後期課程）は，志願者数・入学者数は毎年変動があるものの過去 5 年間の入学者数の平均は 8.6 名と入学定員をやや超える状況である。また，岩手大学大学院連合農学研究科の入学者数(本学所属)の過去 5 年間の平均は 9.4 名，岐阜大学大学院連合獣医学研究科の平均は 4.8 名である。

表 2：畜産衛生学専攻（博士後期課程）の過去 5 年間の入学状況

	H24	H25	H26	H27	H28	計	平均
入学定員	7	7	7	7	7	35	7
志願者数	9	15	7	10	7	48	9.6
入学者数	9	12	7	10	5	43	8.6
定員充足率	1.29	1.71	1.00	1.43	0.71	-	1.23

表 3：岩手大学大学院連合農学研究科（本学所属）の過去 5 年間の入学状況

	H24	H25	H26	H27	H28	計	平均
志願者数	8	14	10	12	3	47	9.4
入学者数	8	14	10	12	3	47	9.4

表 4：岐阜大学大学院連合獣医学研究科（本学所属）の過去 5 年間の入学状況

	H24	H25	H26	H27	H28	計	平均
志願者数	8	4	2	5	7	26	5.2
入学者数	6	4	2	5	7	24	4.8

イ 入学状況把握のためのアンケート

平成 28 年 5 月に、畜産科学課程 3・4 年生、共同獣医学課程 5・6 年生、修士課程及び博士前期課程 1・2 年生を対象として、獣医・農畜産融合の教育研究を主要テーマとする新たな大学院畜産学研究科に関する「帯広畜産大学大学院畜産学研究科に関する学生アンケート」を実施した（資料 1 参照）。その結果の要点を以下に示す。

①畜産科学専攻（博士前期課程）に関する調査結果

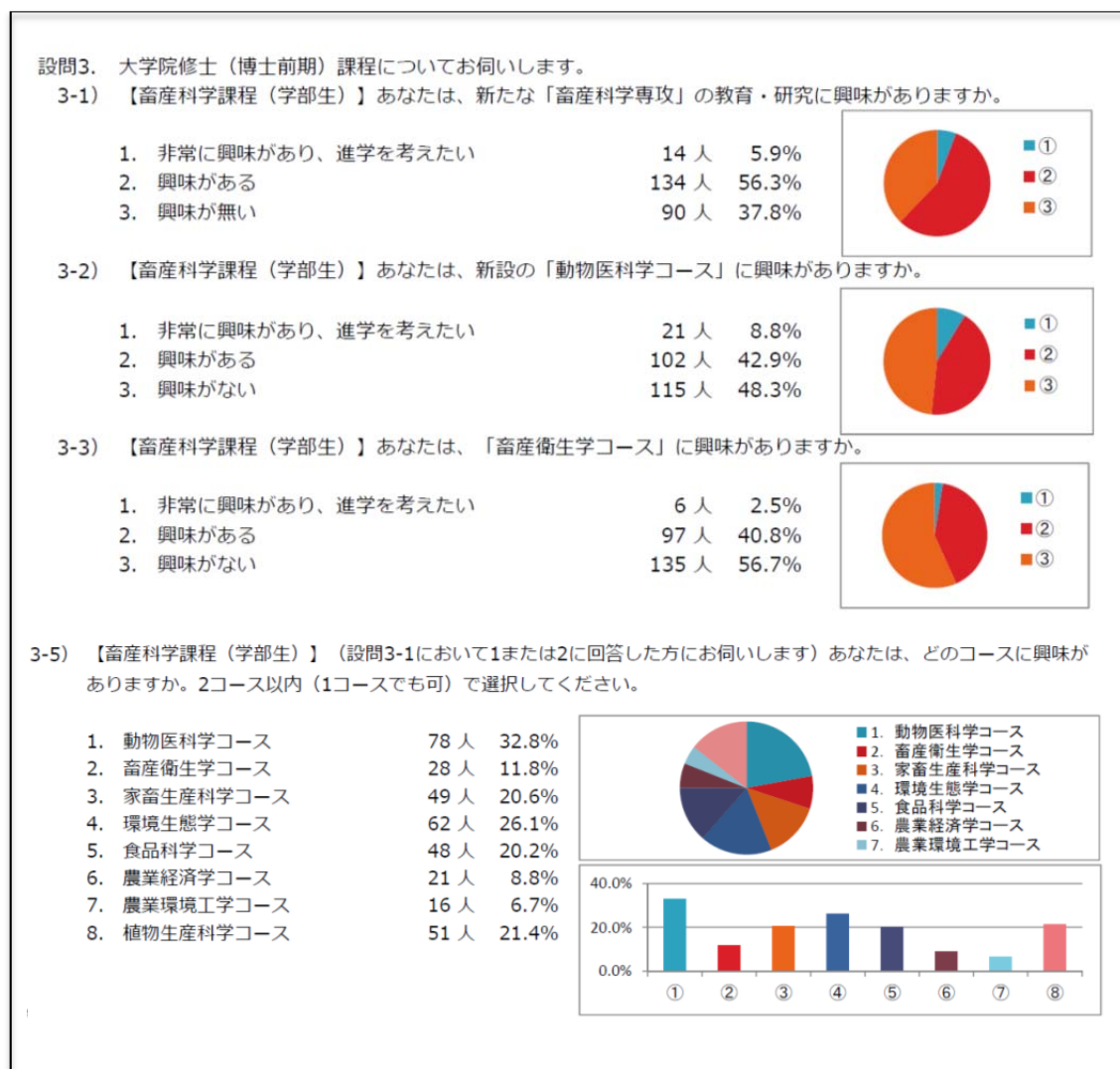
畜産科学課程の学部学生に対して、新たな「畜産科学専攻（前期課程）」の教育・研究に興味があるか否かという問いに対して、238 名のうち 148 名（62.2%）の学生から「興味がある」との回答が得られており、関心の高さが窺えた。

新設する「動物医科学コース」への興味を問う質問項目では、238 名のうち、123 名（51.7%）が「興味がある」と回答している。このうち「非常に興味があり、進学を考えたい」と回答した学生は 21 名であり、学生の進学希望も高いという結果を得た。また、新たな畜産科学専攻（博士前期課程）に興味を示した学生に対して、コース別の興味を質問したところ、「動物医科学コース」に対する興味が最も多い結果となった。

畜産衛生学コース（アンケート後に畜産衛生学位プログラムに変更）への興味を問う質問項目では、238 名のうち 103 名（43.3%）の学生から「興味がある」との回答が得られており、前身の畜産衛生学専攻を発展させた畜産衛生学位プログラムにおける取組についての関心の高さが窺える。

以上のアンケート結果を表 5 に示す。

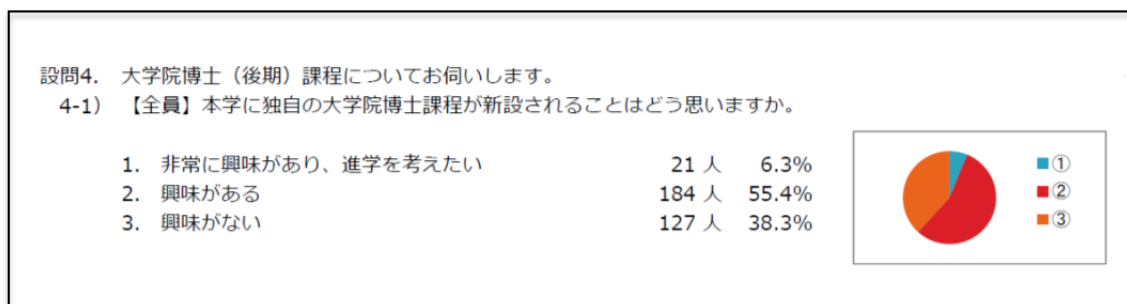
表5：畜産科学専攻（博士前期課程）に関するアンケート結果



②畜産科学専攻（博士後期課程）及び③獣医学専攻（博士課程）に関する調査結果

アンケート対象者全員に対して、本学が独自の大学院博士課程を新設することに対する興味について質問したところ、332名のうち205名（61.7%）の学生から「興味がある」との回答が得られており、このうち「非常に興味があり、進学を考えたい」と回答した学生は21名であった。このことから大学院博士課程に対する学生の関心の高さと進学意欲を確認することができた。このアンケート結果を表6に示す。

表 6：畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）に関するアンケート結果



ウ 入学定員の設定

「ア 現在までの充足状況」及び「イ 入学状況把握のためのアンケート」を踏まえると畜産科学専攻（博士前期課程）の入学定員は、現行の修士課程・博士前期課程の 56 名としても入学定員の確保は十分見込まれる。また、畜産科学専攻（博士後期課程）については、現行の畜産衛生学専攻（博士後期課程）の入学定員（7 人）と連合農学研究科の過去 5 年間の平均入学者数（9 人）を合わせて 16 人、獣医学専攻（博士課程）については、連合獣医学研究科の過去 5 年間の平均入学者数（5 人）とすることも一案である。

一方で本学は、農学・獣医学に関する本学独自の博士課程を新たに設置することから、教員一人当たりの学生数の少人数化、優秀な学生の確保等により大学院における教育研究の一層の質の向上に努める必要があると考えている。

このため、以下のとおり様々な視点から分析を行い、入学定員の検討を行った。

【優秀な学生確保に関する分析】

表 7 のとおり本学の大学院修士課程においては、入学者の約 80%を内部進学者が占めていることから、優秀な学生の確保を目的とした定員設定の一案として、学部卒業時の GPA（以下、学部 GPA）を考慮することが適当であると考えた。その主たる根拠は、第一に学部 GPA と優れた学業成果を収め、学生表彰を受ける大学院生や共同研究に参加する大学院生とには正の相関があること、第二に学部 GPA と大学院生の退学率とには、負の相関があることである。学生表彰を受ける大学院生の GPA 平均は 3.17、共同研究に参加する大学院生の GPA 平均は 3.30 と非常に高い。一方、退学率については、表 8 のとおり学部 GPA2.75 が分岐点となっており、学部 GPA2.75 以上と以下の学生とでは、退学率に約 3 倍の違いがあることがわかる。さらに、一般的に GPA の中央値は 2.5 であることから、学部 GPA2.75 以上の入学生は中間層より高い位置にあり、学部時期において一定の成績を収めた学生と言える。

以上のことから、内部進学割合（79.3%）と、分岐点の数値（GPA2.75 以上）を基

準に定員設定した場合、学部 GPA が 2.75 以上の内部進学者は平均して全体の 85.3% (表 9) であることから、学外進学者 (56 名 \times 0.207) + 学内進学者 (56 名 \times 0.793 \times 0.853) \div 入学定員 (49 名) となる。この定員設定により、優秀な学生を確保するとともに、授業についていけないなどの理由による退学者数の低減が期待される。

表 7：過去 5 年間の内部進学割合

	H24	H25	H26	H27	H28	計	平均
入学者数	45	55	55	57	54	266	53.2
うち学内進学者数	35	40	47	47	42	211	42.2
内部進学割合	0.778	0.727	0.855	0.825	0.778	-	0.793

表 8：平成 24～平成 26 年度の学部 GPA と退学率

学部 GPA	退学率
2.75 未満	31.6%
2.75 以上	10.6%
大学院全体	13.9%

表 9：平成 24～28 年度の内部進学者の学部 GPA 分布

学部 GPA	3.5 以上	3.25 以上 3.5 未満	3 以上 3.25 未満	2.75 以上 3 未満	2.5 以上 2.75 未満	2.25 以上 2.5 未満	2 以上 2.25 未満	2 未満
入学者数	35	53	53	39	19	6	4	2
累積(上位から)	0.166	0.417	0.668	0.853	0.943	0.972	0.991	1.000

【入学者の質保証に関する分析】

大学院の学生の質を維持するためには、入学後の教育の質もさることながら、入り口である入学選抜試験において「相応の競争の原理」が働くことが重要である。「相応の競争の原理」には様々な考え方があるが、今回は全国の国立農学系大学院における志願倍率の平均値以上を目安に分析することとした。表 10 が全国の国立農学系大学院の過去 6 年間の志願倍率である。

表 1 より、畜産科学専攻（博士前期課程）の志願者数の平均値は 63.6 名である。次に、畜産科学専攻（博士後期課程）と獣医学専攻（博士課程）の志願者数については、より正確性を期すため、畜産衛生学専攻（博士後期課程）の学生が指導を受けた教員の畜産系と獣医系の比率（畜産系：獣医系＝1：2）に基づき按分し、両連合大学院の志願者数に加算することとした。表 2 より畜産衛生学専攻（博士後期課程）の志願者数の平均値 9.6 名を按分すると、畜産系 3.2 名、獣医系 6.4 名となる。それらの

人数を岩手大学大学院連合農学研究科と岐阜大学大学院連合獣医学研究科の志願者数の平均値 9.4 名と 5.2 名に加算すると、畜産系 12.6 名、獣医系 11.6 名となる。

これらの志願者数をもとに、各専攻において全国平均以上の志願倍率となる入学定員についてシミュレーションを行った（表 11～13）。この分析結果から、各専攻の入学定員は畜産科学専攻（博士前期課程）を 48 名以下、畜産科学専攻（博士後期課程）を 10 名以下、獣医学専攻（博士課程）を 7 名以下にすると、入学選抜試験において相応の競争原理が働き、学生の質を確保できると考えられる。

表 10：過去 6 年間の全国の国立農学系大学院における志願倍率

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	平均
修士課程	1.504	1.427	1.305	1.257	1.208	1.201	1.317
農学系博士課程	1.165	1.219	1.153	1.086	1.040	1.083	1.156
獣医系博士課程	1.881	1.438	1.391	1.312	1.403	1.433	1.476

（出典：大学ポートレート）

表 11：畜産科学専攻（博士前期課程）の定員シミュレーション

入学定員	56	54	52	50	48	46	参考
志願者数	63.6	63.6	63.6	63.6	63.6	63.6	全国平均
志願倍率	1.136	1.178	1.223	1.272	1.325	1.383	1.317

表 12：畜産科学専攻（博士後期課程）の定員シミュレーション

入学定員	15	14	13	12	11	10	参考
志願者数	12.6	12.6	12.6	12.6	12.6	12.6	全国平均
志願倍率	0.840	0.900	0.969	1.050	1.145	1.260	1.156

表 13：獣医学専攻（博士課程）の定員シミュレーション

入学定員	10	9	8	7	6	5	参考
志願者数	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	全国平均
志願倍率	1.160	1.289	1.450	1.657	1.933	2.320	1.476

【教育の質の維持・向上に関する分析】

上述の各種分析を踏まえ、本学研究科全体の入学定員バランスと入学後の教育の質

の維持・向上に関する分析を行った。現行の大学院修士課程、博士前期課程及び博士後期課程の定員の合計は63名である。博士前期課程を56名から48名に引き下げ、新たに設置する博士課程（獣医学専攻）及び博士後期課程（畜産科学専攻）の定員15名と合わせた全体の定員を現行と同じ63名とすることで、表14のとおり主指導教員1人当たりの学生数を低減し、教育の質を維持・向上することができる。

表14：主指導教員1人あたり学生数の分析

【改組前の入学者数と主指導教員1人あたり学生数】						
	入学者数 (5ヶ年平均)	主指導資格	副指導資格	資格教員合計	主指導1人 あたり学生数 (A)	
修士課程（3専攻）						
畜産衛生学博士前期課程	53.2	70	17	87	0.760	
合 計	53.2	70	17	87	0.760	
畜産衛生学専攻博士後期課程	9	14	1	15	0.643	
岩手大学連合農学研究科	9	35	19	54	0.257	
岐阜大学連合獣医学研究科	5	19	4	23	0.263	
合 計	23	68	24	92	0.388	



入学定員を調整

【改組後の入学定員数と主指導教員1人あたり入学者数】						
	入学定員数	主指導資格	副指導資格	資格教員合計	主指導1人 あたり学生数 (B)	改組前増減 (B)－(A)
畜産科学専攻博士前期課程	48	70	17	87	0.686	
合 計	48	70	17	87	0.686	▲ 0.074
畜産科学専攻博士後期課程	10	43	19	62	0.233	
獣医学専攻博士課程	5	25	5	30	0.200	
合 計	15	68	24	92	0.216	▲ 0.171

これらの分析結果を基に、入学定員は畜産科学専攻（博士前期課程）を48名、畜産科学専攻（博士後期課程）を10名、獣医学専攻（博士課程）を5名とした。

（2）学生確保に向けた取組状況

ア 大学院進学説明会の開催

本学では、平成25年度より、年に2回（5月・10月）、学部学生を対象とした大学院進学説明会を開催している。説明会においては、各専攻の概要と教育内容、修了生の進路状況、奨学金制度等の説明を行っている。参加者数は、平成26年度95名、平成27年度70名、平成28年度89名と、修士課程・博士前期課程の入学定員を大きく上回っており、関心の高さが伺える。

イ 奨学金制度の充実

本学では、修士課程・博士前期課程への進学を希望する本学の優秀な日本人学生を対象とした奨学金制度を設けている。この奨学金制度は、大学院入試試験の受験前に採用を決定することで、学生の進学意欲を高めている。留学生に対する経済支援制度については、修士課程・博士前期課程において「国際交流協定締結大学出身者に対する特別支援制度」、博士後期課程においては「外国人留学生特別支援制度」を設けており、採用者には入学料及び授業料の免除に加えて給付型奨学金を支給している。以上の奨学金制度は、今後拡充する方針である。

また、修士課程・博士前期課程学生を主な対象にティーチング・アシスタント(TA)として採用し、博士後期課程学生を対象にリサーチ・アシスタント(RA)として採用している。TA・RAは希望者全員を採用している状況である。

ウ 学生納付金

「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」により標準額が定められており、各国立大学法人は一定の範囲内で標準額以上の学生納付金を定めることができるが、本学は国立大学法人として教育の機会均等、優れた人材の確保等に配慮して国が定める標準額とする。

エ 博士進学プログラムの設置

畜産科学専攻（博士前期課程）において、学生の研究に対する探究心を深め、博士後期課程への進学へと導くためのプログラムを設置する。本プログラムは、以下の授業科目をすべて「A」以上の成績で修得することを条件に、博士前期課程の2年次に博士後期課程の開講科目を先取りして履修（進学後に単位認定）、博士後期課程に進学した際の奨学金給付等の優遇策を講じ、優秀な大学院生を博士前期・後期課程を通じて育成するものである。

授 業 科 目	単位	要件
博士前期課程各コースの特別研究Ⅱ	4	14 単位
English Communication for Science	2	
所属コース選択科目 3 科目	6	
アカデミックプレゼンテーション演習	2	

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的（概要）

食中毒、家畜感染症、食品偽装等の「食の安全」を脅かす諸問題は、農場から食卓に至る様々なプロセスにおける負の要因の組み合わせによって引き起こされ、農学の特定分野の専門性のみでは根本的解決が困難になっている。また、世界人口増加に伴う食料確保、国境を越えて移動する食品等の安全確保、感染症の制圧、エネルギー・環境への配慮等、農学系人材の担う課題が世界各国で協調して取り組むべき地球規模にまで拡大している。さらに、国際市場の交易拡大、食と農のグローバル化を背景に、国際展開を図る食品関連企業等の国際安全基準の遵守、行政の検疫体制強化が求められ、食の安全安心対策を行使できる人材育成が急務となっている。これら現代社会の農学が直面する複雑かつ多様な課題に対応するため、農学系人材は、専門分野の高度な知識・技術に加えて、農場から食卓までに至る農学の幅広い知識・技術と世界動向・国際基準を見据えた国際通用力を兼ね備えた人材育成が急務となっている。

本設置計画は、帯広畜産大学が我が国唯一の国立農学系単科大学という強み・特色を生かし、既存の大学院組織を改編して獣医・農畜産融合の教育研究と国際通用力を持つ人材育成機能を強化し、現代社会の農学が直面する課題解決に貢献できる人材を育成するものである。

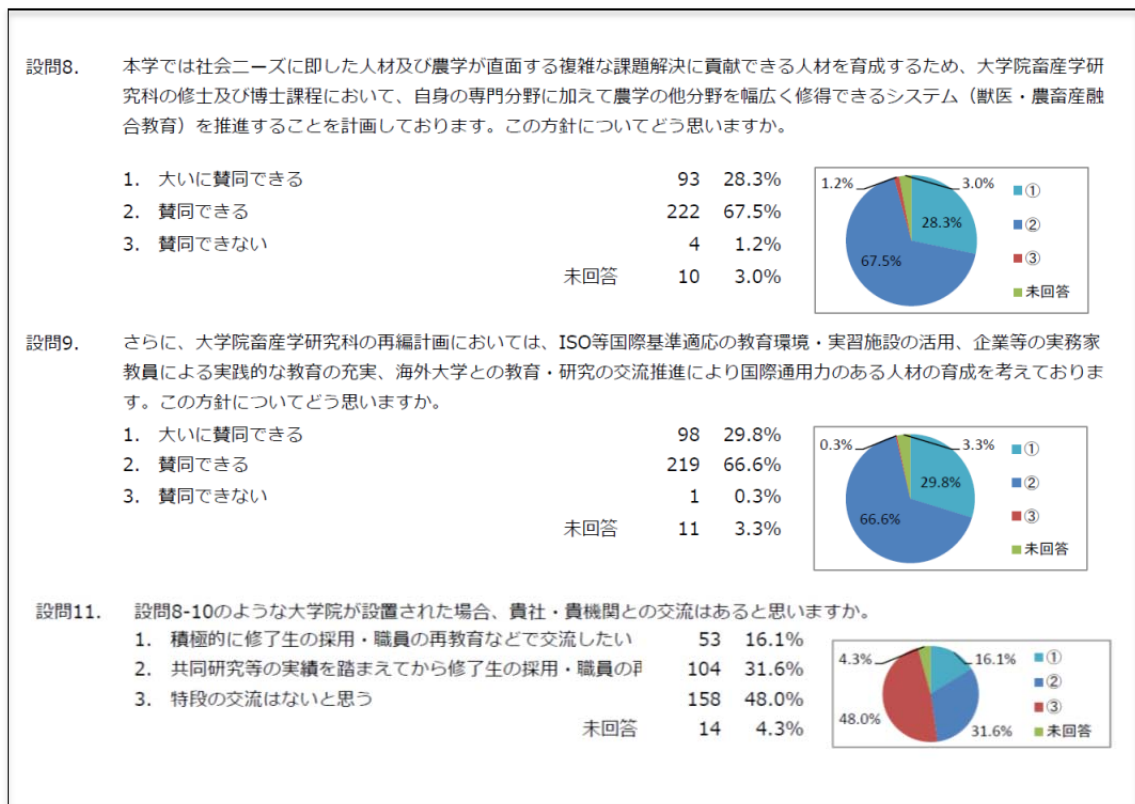
(2) 人材需要の動向

平成 28 年 5 月に、学生の就職先、共同研究や受託研究等の相手先、地方自治体等を対象として、獣医・農畜産融合の教育研究を主要テーマとする新たな大学院畜産学研究科に関する「帯広畜産大学大学院畜産学研究科に関する企業アンケート」を実施した（資料 2 参照）。アンケート調査は 619 企業等に送付し、うち 329 社（53.2%）から回答を得たものである。以下に主要な要点と当該アンケート結果を示す（表 15）。

本学の大学院の再編計画については、315 社（95.8%）の企業が「社会ニーズに即した人材及び農学が直面する複雑な課題解決に貢献できる人材を育成するため、自身の専門分野に加えて農学の他分野を幅広く修得できるシステム（獣医・農畜産融合教育）を推進する」計画に賛同している。また、「ISO 等国际基準適応の教育環境・実習施設の活用、企業等の実務家教員による実践的な教育の充実、海外大学との教育・研究の交流推進により国際通用力のある人材を育成する」方針についても、317 社（96.4%）の企業が賛同している。

さらに、本設置計画における大学院が設置された場合の交流の可能性については、157 社（47.7%）の企業等が「積極的に修了生の採用・職員の再教育で交流したい」又は「共同研究等の実績を踏まえて修了生の採用・職員の再教育で交流したい」との回答を得た。

表 15：企業アンケートの結果



以上のアンケート結果により、本設置計画における人材育成方針に対する社会的ニーズが極めて高いこと、また、企業等における大学院修了生の雇用、本学大学院における社会人学び直しは十分見込まれると判断される。

（3）現在までの大学院修了者の推移

現行の本学畜産学研究科ならびに岩手大学大学院連合農学研究科、岐阜大学大学院連合獣医学研究科の修了者数について過去5年間の実績を示す。

博士前期課程（現行の畜産学研究科修士3専攻及び博士前期課程1専攻）の修了者（表16）は、東日本大震災の影響により入学者が減少した平成24～25年度の影響により、平成25～26年度の修了者が例年に比して少ないものの、その他の年度においては毎年50名程度の修了生を輩出している。

表 16：畜産学研究科修士課程及び博士前期課程 修了者数（H23-H27）

修了年度	H23	H24	H25	H26	H27	合計(平均)
修了者数	51	48	36	40	52	227 (45.4)
うち進学者数	10	9	4	8	9	40 (8)
うち就職者数	32	32	28	29	37	158 (31.6)

また、博士後期課程（現行の畜産学研究科博士後期課程，岩手大学大学院連合農学研究科，岐阜大学大学院連合獣医学研究科）の修了者数（表 17）は，3 研究科の合計で毎年 20 名程度，過去 5 年間で 99 名の修了生を輩出している。

表 17：博士後期課程 修了者数・就職率（H23-H27）

修了年度	H23	H24	H25	H26	H27	合計(平均)	
①帯広畜産大学大学院畜産学研究科							
修了者数	10	11	8	10	6	45	(9)
うち進学者数	1	0	0	0	0	1	(0.2)
うち就職者数	9	11	8	7	5	40	(8)
②岩手大学大学院連合農学研究科							
修了者数	5	7	6	6	9	33	(6.6)
うち進学者数	0	0	0	0	0	0	(0)
うち就職者数	4	7	3	5	5	24	(4.8)
③岐阜大学大学院連合獣医学研究科							
修了者数	3	2	8	5	3	21	(4.2)
うち進学者数	0	0	0	0	0	0	(0)
うち就職者数	2	1	7	4	2	16	(3.2)
①～③合計							
修了者数	18	20	22	21	18	99	(19.8)
うち進学者数	1	0	0	0	0	1	(0.2)
うち就職者数	15	19	18	16	12	80	(16)

《資料目次》

資料 1－1 畜産学研究科に関する学生アンケート結果

資料 1－2 畜産学研究科に関する学生アンケート様式

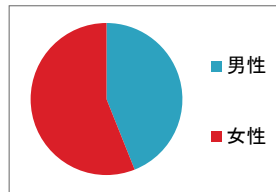
資料 2－1 畜産学研究科に関する企業アンケート結果

資料 2－2 畜産学研究科に関する企業アンケート様式

帯広畜産大学大学院 畜産学研究科に関する学生アンケート

設問1. 【全員】あなたの性別

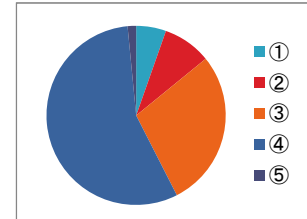
男性	146 人	44.0%
女性	186 人	56.0%



設問2. 進路についてお伺いします。

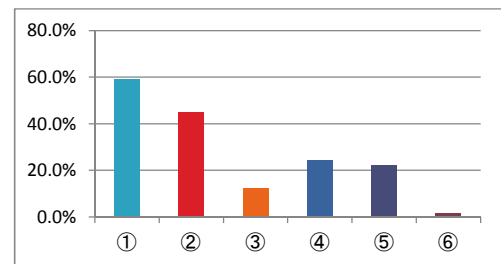
2-1) 【全員】あなたが現在考えている進路について教えてください。

1. 大学院博士（後期）課程まで進学したいと考えている	18 人	5.4%
2. 大学院修士（博士前期）課程まで進学したいと考えている	29 人	8.7%
3. 上記1, 2と併せて就職等も検討中である	94 人	28.3%
4. 進学ではなく就職等を希望している	186 人	56.0%
5. その他（	5 人	1.5%



2-2) 【全員】（設問2-1で1～3に回答した方にお伺いします。）大学院進学を考える上で、何を重視しますか。下記から選択してください。（複数選択可）

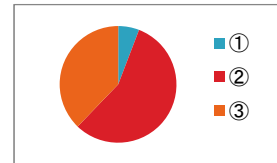
1. 研究内容・研究レベル	196 人	59.0%
2. 研究指導体制（教員・研究設備等）	149 人	44.9%
3. キャリアパス支援の充実	40 人	12.0%
4. 奨学金、TA・RA等の経済的支援	81 人	24.4%
5. 国際的な教育・研究体制の充実	74 人	22.3%
6. その他（	5 人	1.5%



設問3. 大学院修士（博士前期）課程についてお伺いします。

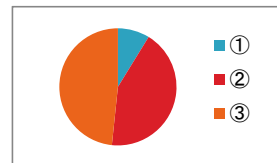
3-1) 【畜産科学課程（学部生）】あなたは、新たな「畜産科学専攻」の教育・研究に興味がありますか。

1. 非常に興味があり、進学を考えたい	14 人	5.9%
2. 興味がある	134 人	56.3%
3. 興味が無い	90 人	37.8%



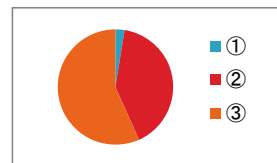
3-2) 【畜産科学課程（学部生）】あなたは、新設の「動物医科学コース」に興味がありますか。

1. 非常に興味があり、進学を考えたい	21 人	8.8%
2. 興味がある	102 人	42.9%
3. 興味が無い	115 人	48.3%



3-3) 【畜産科学課程（学部生）】あなたは、「畜産衛生学コース」に興味がありますか。

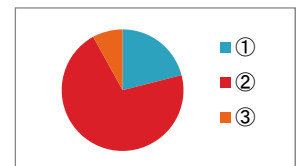
1. 非常に興味があり、進学を考えたい	6 人	2.5%
2. 興味がある	97 人	40.8%
3. 興味が無い	135 人	56.7%



【畜産科学課程（学部生）】新たな「畜産科学専攻」は、社会ニーズに即した実践力のある人材を育成するため、自身の

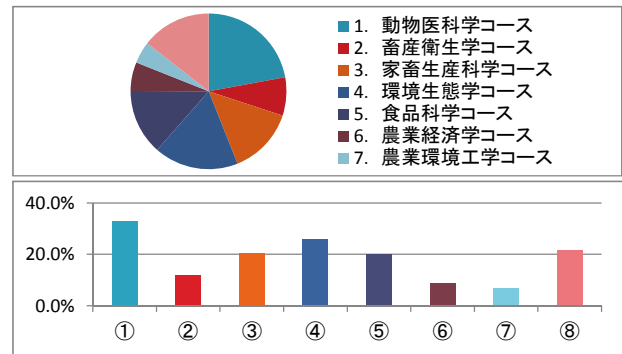
3-4) 専門性に加えて幅広い知識・技術を修得できるよう他コース開講科目の履修を奨励します。この取組についてどのように考えますか。

1. 重要であり、他コース開講科目も積極的に履修すべきである	50 人	21.0%
2. 余力があれば他コース開講科目も履修すべきである	169 人	71.0%
3. 他コース開講科目は履修する必要がない	19 人	8.0%



3-5) 【畜産科学課程（学部生）】（設問3-1において1または2に回答した方にお伺いします）あなたは、どのコースに興味がありますか。2コース以内（1コースでも可）で選択してください。

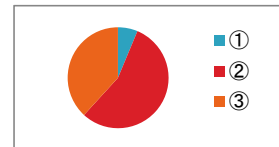
1. 動物医科学コース	78 人	32.8%
2. 畜産衛生学コース	28 人	11.8%
3. 家畜生産科学コース	49 人	20.6%
4. 環境生態学コース	62 人	26.1%
5. 食品科学コース	48 人	20.2%
6. 農業経済学コース	21 人	8.8%
7. 農業環境工学コース	16 人	6.7%
8. 植物生産科学コース	51 人	21.4%



設問4. 大学院博士（後期）課程についてお伺いします。

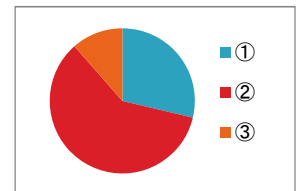
4-1) 【全員】本学に独自の大学院博士課程が新設されることはどう思いますか。

1. 非常に興味があり、進学を考えたい	21 人	6.3%
2. 興味がある	184 人	55.4%
3. 興味がない	127 人	38.3%



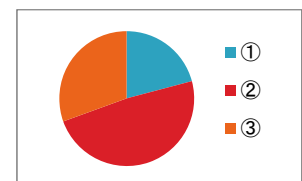
4-2) 【全員】博士（後期）課程においては、農学分野が直面する複雑な課題解決に貢献する人材を育成するため、自身の専門分野に加えて、「分野横断型選択科目群の配置」、「異分野複数教員による研究指導」等を通じて獣医・農畜産融合教育を推進します。この取組についてどのように考えますか。

1. 重要であり、自身の専門性に加えて、他分野の知識・技術も積極的に学ぶべきである	95 人	28.7%
2. 余力があれば、他分野の知識・技術も学ぶべきである	198 人	59.8%
3. 自身の専門分野のみ学ぶことができれば十分である	38 人	11.5%



4-3) 【全員】博士（後期）課程においては、国際通用力を有する人材育成のために、コーネル大学やウィスコンシン大学等のトップクラス大学での調査研究や海外機関でのインターンシップ等を単位化する等、大学院生の積極的な海外派遣を推進します。あなたは海外での教育・研究活動に興味がありますか。

1. 非常に興味があり、積極的に海外での教育・研究に取り組みたい	69 人	20.8%
2. 興味がある	161 人	48.6%
3. 興味がない	101 人	30.5%



最後に、何かご意見ございましたら、下記の記入欄にご記入ください。

帯広畜産大学大学院 畜産学研究科に関する学生アンケート

対象：〈畜産科学課程3・4年生〉〈共同獣医学課程5・6年生〉〈修士課程（博士前期課程）1・2年生〉

現在本学では、以下の事項を柱とする大学院畜産学研究科の再編計画を進めています。

本調査はこの再編計画に対する学生のニーズ等を把握するとともに、調査結果を再編計画に反映することを目的としております。学生の皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。

【大学院修士課程（博士前期課程）】

○ 現在の4専攻を1専攻（畜産科学専攻）に包括し、同専攻に以下の8つのコースを設置する。

1. 動物医科学コース（新設）

※畜産学の知識を基礎に獣医学の基礎知識（基礎動物医科学、動物病態学等）を提供し、国立感染症研究所等の研究機関、検疫所、家畜保健衛生所等の公務員、製薬会社等の民間企業、大学等の教育・研究機関において動物に関わる様々な知識を社会に還元できる人材を育成する。

2. 畜産衛生学コース（既存の畜産衛生学専攻を改編）

※農畜産物の安全確保のためのHACCPシステム、食品製造・加工等マネジメント等の知識を提供し、国際水準の食品衛生管理に精通し、社会で即戦力となる人材を育成する。

3. 家畜生産科学コース（畜産学部・家畜生産科学ユニットと連結）

4. 環境生態学コース（畜産学部・環境生態学ユニットと連結）

5. 食品科学コース（畜産学部・食品科学ユニットと連結）

6. 農業経済学コース（畜産学部・農業経済学ユニットと連結）

7. 農業環境工学コース（畜産学部・農業環境工学ユニットと連結）

8. 植物生産科学コース（畜産学部・植物生産科学ユニットと連結）

○ 各コースの履修学生全員に対して、当該履修コースでの専門分野に加えて他コース開講科目（分野横断型科目群）を提供し、農学の幅広い知識・視野を有する人材を育成する。

【大学院博士課程／博士後期課程】

○ 現在、他大学と共同で運用している連合大学院を離れ、本学単独の獣医学専攻（博士課程）及び畜産科学専攻（博士後期課程）を設置する。

○ 両専攻に「分野横断型選択科目群の配置」、「異分野複数教員による研究指導」、「米国先端大学研修プログラムの実施」等、獣医・農畜産融合の視点と世界動向・国際基準を踏まえた教育体制を整備し、高い専門性に加えて農学の幅広い知識・技術と国際通用力を持つ高度人材育成を推進する。

設問1. 【全員】あなたの性別・所属・学年を教えてください

男性 ・ 女性

畜産科学課程 ・ 共同獣医学課程

畜産生命科学専攻 ・ 食品科学専攻 ・ 資源環境農学専攻 ・ 畜産衛生学専攻

_____ 年

設問2. 進路について伺います。

2-1) 【全員】あなたが現在考えている進路について教えてください。

1. 大学院博士（後期）課程まで進学したいと考えている
2. 大学院修士（博士前期）課程まで進学したいと考えている
3. 上記1, 2と併せて就職等も検討中である
4. 進学ではなく就職等を希望している
5. その他（ ）

2-2) 【全員】（設問2-1で1～3に回答した方にお伺いします。）大学院進学を考える上で、何を重視しますか。下記から選択して下さい。（複数選択可）

1. 研究内容・研究レベル
2. 研究指導体制（教員・研究設備等）
3. キャリアパス支援の充実
4. 奨学金、TA・RA等の経済的支援
5. 国際的な教育・研究体制の充実
6. その他（ ）

設問3. 大学院修士（博士前期）課程について伺います。

3-1) 【畜産科学課程（学部生）】あなたは、新たな「畜産科学専攻」の教育・研究に興味がありますか。

1. 非常に興味があり、進学を考えたい
2. 興味がある
3. 興味が無い

3-2) 【畜産科学課程（学部生）】あなたは、新設の「動物医科学コース」に興味がありますか。

1. 非常に興味があり、進学を考えたい
2. 興味がある
3. 興味がない

3-3) 【畜産科学課程（学部生）】あなたは、「畜産衛生学コース」に興味がありますか。

1. 非常に興味があり、進学を考えたい
2. 興味がある
3. 興味がない

3-4) 【畜産科学課程（学部生）】新たな「畜産科学専攻」は、社会ニーズに即した実践力のある人材を育成するため、自身の専門性に加えて幅広い知識・技術を修得できるよう他コース開講科目の履修を奨励します。この取組についてどのように考えますか。

1. 重要であり、他コース開講科目も積極的に履修すべきである
2. 余力があれば他コース開講科目も履修すべきである
3. 他コース開講科目は履修する必要がない

3-5) 【畜産科学課程（学部生）】（設問3-1において1または2に回答した方にお伺いします）あなたは、どのコースに興味がありますか。2コース以内（1コースでも可）で選択してください。

1. 動物医科学コース
2. 畜産衛生学コース
3. 家畜生産科学コース
4. 環境生態学コース
5. 食品科学コース
6. 農業経済学コース
7. 農業環境工学コース
8. 植物生産科学コース

設問4. 大学院博士（後期）課程についてお伺いします。

4-1) 【全員】 本学に独自の大学院博士課程が新設されることはどう思いますか。

1. 非常に興味があり、進学を考えたい
2. 興味がある
3. 興味がない

4-2) 【全員】 博士（後期）課程においては、農学分野が直面する複雑な課題解決に貢献する人材を育成するため、自身の専門分野に加えて、「分野横断型選択科目群の配置」、「異分野複数教員による研究指導」等を通じて獣医・農畜産融合教育を推進します。この取組についてどのように考えますか。

1. 重要であり、自身の専門性に加えて、他分野の知識・技術も積極的に学ぶべきである
2. 余力があれば、他分野の知識・技術も学ぶべきである
3. 自身の専門分野のみ学ぶことができれば十分である

4-3) 【全員】 博士（後期）課程においては、国際通用力を有する人材育成のために、コーネル大学やウィスコンシン大学等のトップクラス大学での調査研究や海外機関でのインターンシップ等を単位化する等、大学院生の積極的な海外派遣を推進します。あなたは海外での教育・研究活動に興味がありますか。

1. 非常に興味があり、積極的に海外での教育・研究に取り組みたい
2. 興味がある
3. 興味がない

最後に、何かご意見ございましたら、下記の記入欄にご記入下さい。

アンケートは以上です。

ご協力いただきありがとうございました。

帯広畜産大学大学院 畜産学研究科に関する企業アンケート

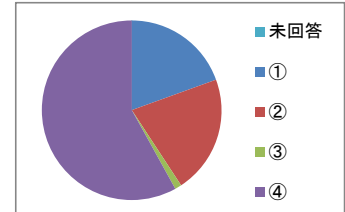
総回答数： 329

送付数： 619

回収率： 53.2%

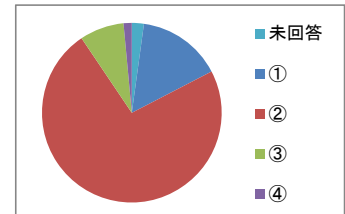
設問1. 貴社・貴機関では、これまでに獣医・農畜産系の大学院修了者を採用したことがありますか。

未回答	未回答	0	0.0%
1. 修士・博士問わず採用実績がある		64	19.5%
2. 修士のみ採用実績がある		70	21.3%
3. 博士のみ採用実績がある		4	1.2%
4. 採用実績はない		191	58.1%



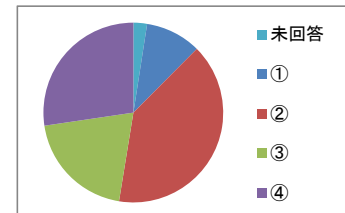
設問2. (設問1で1-3に回答した方にお伺いします) 過去5年間の採用数を教えてください。

未回答	未回答	3	2.2%
1. 0人		21	15.2%
2. 1～10人程度		101	73.2%
3. 10～50人程度		11	8.0%
4. 50人以上		2	1.4%



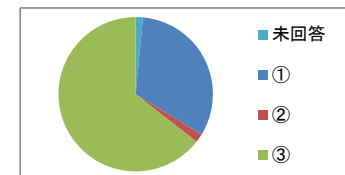
設問3. 貴社・貴機関において、獣医・農畜産学の専門的知識を有した人材は十分に確保されていると思いますか。

未回答	未回答	8	2.4%
1. 十分確保している		33	10.0%
2. 十分ではないが一定数確保している		132	40.1%
3. 確保していないが、今後、確保したいと考えている		66	20.1%
4. そのような人材は不要と考えている		90	27.4%



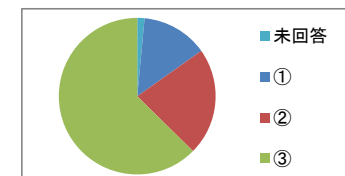
設問4. 貴社・貴機関において、獣医・農畜産学の専門的知識を有した人材の維持・確保増に向けてどのような対応をとる予定ですか。

未回答	未回答	5	1.5%
1. 今後、そういう人材の採用を増やしたい		107	32.5%
2. 現在の職員等を大学院に派遣し、再教育したい		6	1.8%
3. 特段の対応はしない		214	65.0%



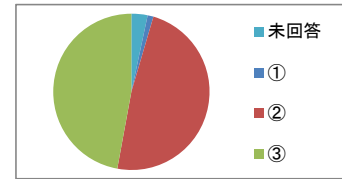
設問5. 貴社・貴機関では、これまでに職員等を再教育のため大学院に派遣したことがありますか。また、その必要性を感じたことがありますか。

未回答	未回答	5	1.5%
1. 現在、再教育に派遣している。過去に派遣実績がある		45	13.7%
2. 派遣実績はないが、再教育の必要性は感じている		73	22.2%
3. 派遣実績はなく、再教育の必要性も感じていない		206	62.6%



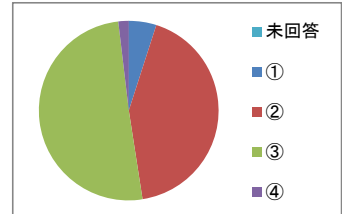
設問6. 博士課程の修了者は、専門性に固執・社会経験に乏しい、といった批判ありますが、この意見についてどう思いますか。

	未回答	11	3.3%
1. まったくそのとおりであると思う		4	1.2%
2. ある程度あてはまると思う		159	48.3%
3. そうは思わない		155	47.1%



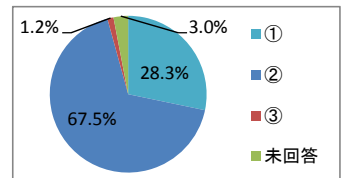
設問7. (設問6で1または2に回答した方にお伺いします) その理由は何によると思いますか。

	未回答	0	0.0%
1. 大学院教育のあり方		8	4.9%
2. 個人の資質		69	42.6%
3. 大学院教育、個人の資質の両方		82	50.6%
4. その他()		3	1.9%



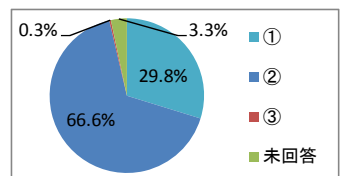
設問8. 本学では社会ニーズに即した人材及び農学が直面する複雑な課題解決に貢献できる人材を育成するため、大学院畜産学研究科の修士及び博士課程において、自身の専門分野に加えて農学の他分野を幅広く修得できるシステム(獣医・農畜産融合教育)を推進することを計画しております。この方針についてどう思いますか。

1. 大いに賛同できる	93	28.3%
2. 賛同できる	222	67.5%
3. 賛同できない	4	1.2%
未回答	10	3.0%



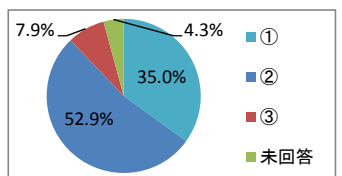
設問9. さらに、大学院畜産学研究科の再編計画においては、ISO等国际基準適応の教育環境・実習施設の活用、企業等の実務家教員による実践的な教育の充実、海外大学との教育・研究の交流推進により国際通用力のある人材の育成を考えております。この方針についてどう思いますか。

1. 大いに賛同できる	98	29.8%
2. 賛同できる	219	66.6%
3. 賛同できない	1	0.3%
未回答	11	3.3%



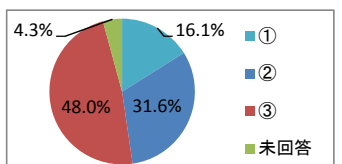
設問10. 本学では、近年の我が国における酪農・畜産業の振興の必要性、人間と動物の共存関係の高まり等を踏まえ、獣医師のみならず動物の健康や動物と社会との関係等を理解する人材育成が必要であるとの認識の下、大学院修士課程において、獣医師養成課程外の学士課程を卒業し、かつ、獣医学分野に興味がある学生を対象とした「動物医科学コース」を新設し、農畜産学の知識を基礎に、獣医学に関する基礎知識を提供し、動物に関する様々な知識を社会に還元できる高度専門職業人の養成を進めたいと考えております。このような教育プログラムを経た人材の重要性は高まると思いますか。また、貴社・貴機関において必要になると思いますか。

1. 重要性が高まり、必要になると考えている	115	35.0%
2. 重要性が高まるが、必要とはしない	174	52.9%
3. 重要性は高まらず、必要ともしない	26	7.9%
未回答	14	4.3%



設問11. 設問8-10のような大学院が設置された場合、貴社・貴機関との交流はあると思いますか。

1. 積極的に修了生の採用・職員の再教育などで交流したい	53	16.1%
2. 共同研究等の実績を踏まえてから修了生の採用・職員の再教育を検討したい	104	31.6%
3. 特段の交流はないと思う	158	48.0%
未回答	14	4.3%



帯広畜産大学大学院 畜産学研究科に関する企業アンケート

以下の設問に○を付けて御回答ください。

設問1. 貴社・貴機関では、これまでに獣医・農畜産系の大学院修了者を採用したことがありますか。

1. 修士・博士問わず採用実績がある
2. 修士のみ採用実績がある
3. 博士のみ採用実績がある
4. 採用実績はない

設問2. (設問1で1-3に回答した方にお伺いします) 過去5年間の採用数を教えて下さい。

1. 0人
2. 1～10人程度
3. 10～50人程度
4. 50人以上

設問3. 貴社・貴機関において、獣医・農畜産学の専門的知識を有した人材は十分に確保されていると思いますか。

1. 十分確保している
2. 十分ではないが一定数確保している
3. 確保していないが、今後、確保したいと考えている
4. そのような人材は不要と考えている

設問4. 貴社・貴機関において、獣医・農畜産学の専門的知識を有した人材の維持・確保増に向けてどのような対応をとる予定ですか。

1. 今後、そういう人材の採用を増やしたい
2. 現在の職員等を大学院に派遣し、再教育したい
3. 特段の対応はしない

設問5. 貴社・貴機関では、これまでに職員等を再教育のため大学院に派遣したことがありますか。また、その必要性を感じたことがありますか。

1. 現在、再教育に派遣している。過去に派遣実績がある
2. 派遣実績はないが、再教育の必要性は感じている
3. 派遣実績はなく、再教育の必要性も感じていない

設問6. 博士課程の修了者は、専門性に固執・社会経験に乏しい、といった批判ありますが、この意見についてどう思いますか。

1. まったくそのとおりであると思う
2. ある程度あてはまると思う
3. そうは思わない

設問7. (設問6で1または2に回答した方にお伺いします) その理由は何に由来としますか。

1. 大学院教育のあり方
2. 個人の資質
3. 大学院教育、個人の資質の両方
4. その他 ()

設問8. 本学では社会ニーズに即した人材及び農学が直面する複雑な課題解決に貢献できる人材を育成するため、大学院畜産学研究科の修士及び博士課程において、自身の専門分野に加えて農学の他分野を幅広く修得できるシステム(獣医・農畜産融合教育)を推進することを計画しております。この方針についてどう思いますか。

1. 大いに賛同できる
2. 賛同できる
3. 賛同できない

設問9. さらに、大学院畜産学研究科の再編計画においては、ISO等国际基準適応の教育環境・実習施設の活用、企業等の実務家教員による実践的な教育の充実、海外大学との教育・研究の交流推進により国際通用力のある人材の育成を考えております。この方針についてどう思いますか。

1. 大いに賛同できる
2. 賛同できる
3. 賛同できない

設問10. 本学では、近年の我が国における酪農・畜産業の振興の必要性、人間と動物の共存関係の高まり等を踏まえ、獣医師のみならず動物の健康や動物と社会との関係等を理解する人材育成が必要であるとの認識の下、大学院修士課程において、獣医師養成課程外の学士課程を卒業し、かつ、獣医学分野に興味がある学生を対象とした「動物医科学コース」を新設し、農畜産学の知識を基礎に、獣医学に関する基礎知識を提供し、動物に関する様々な知識を社会に還元できる高度専門職業人の養成を進めたいと考えております。このような教育プログラムを経た人材の重要性は高まると思いますか。また、貴社・貴機関において必要になると思いますか。

1. 重要性が高まり、必要になると考えている
2. 重要性が高まるが、必要とはしない

3. 重要性は高まらず、必要ともしない

設問11. 設問8-10のような大学院が設置された場合、貴社・貴機関との交流はあると思いますか。

1. 積極的に修了生の採用・職員の再教育などで交流したい
2. 共同研究等の実績を踏まえてから修了生の採用・職員の再教育を検討したい
3. 特段の交流はないと思う

最後に、何か御意見ございましたら、下記の記入欄に御記入下さい。

--

アンケートは以上です。

御協力いただきありがとうございました。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	オクダ キョシ 奥田 潔 ＜平成28年1月1日＞		獣医学博士 農学博士		帯広畜産大学長 (平成28. 1. 1～平成32. 3. 31)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第3号（その2の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教 員 の 氏 名 等													
（畜産学研究科 畜産科学専攻 博士前期課程）													
前判定 結果	調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	当 担 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数
可	1	専	教授	ウヰヲ オシヲ 梅津 一孝 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)			生物資源環境科学特論※ 農業環境工学特論※ 農業環境工学特別演習※ 農業機械システム工学特論※	1・2① 1・2① 1・2通 1・2④	0.1 0.2 0.5 0.5	1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合								特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 農業環境工学特別研究Ⅰ 農業環境工学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可	2	専	教授	ウシマ タス 浦島 匠 ＜平成30年4月＞	農学博 士			生物資源環境科学特論※ 食品科学特論※ 食品科学特別演習※ 食品検査演習※	1・2① 1・2① 1・2通 1・2	0.1 0.2 0.2 0.2	1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合								特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 食品科学特別研究Ⅰ 食品科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可	3	専	教授	オオタ タシ 大和田 琢二 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)			食品科学特論※ 食品科学特別演習※ 食品機能科学特論※	1・2① 1・2通 1・2④	0.2 0.2 0.6	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合								特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 食品科学特別研究Ⅰ 食品科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可	4	専	教授	オンダ タヲ 押田 龍夫 ＜平成30年4月＞	博士 (理 学)			生物資源環境科学特論※ 環境生態学特論※ 環境生態学特別演習※ 環境生命科学特論※ 生態システム生命科学特論※ 保全生態リスク管理学特論※	1・2① 1・2① 1・2通 1・2④ 1・2③ 1・2②	0.8 0.2 1.2 0.8 0.5 0.2	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合								特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 環境生態学特別研究Ⅰ 環境生態学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可	5	専	教授	オタ ユウジ 小田 有二 ＜平成30年4月＞	農学博 士			食品科学特別演習※ 食品機能科学特論※	1・2通 1・2④	0.2 0.2	1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合								特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 食品科学特別研究Ⅰ 食品科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可	6	専	教授	オウ キヅキ 加藤 清明 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)			生物資源環境科学特論※ 植物生産科学特論※ 植物生産科学特別演習※ 植物遺伝育種学特論※ 植物生産環境学特論※	1・2① 1・2① 1・2通 1・2③ 1・2④	0.1 0.1 0.8 0.7 0.2	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合								特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 植物生産科学特別研究Ⅰ 植物生産科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可	7	専	教授	カヒラ ムツ 西平 睦代 ＜平成30年4月＞	Ph. D.			生物資源環境科学特論※ 環境生態学特論※ 環境生態学特別演習※ 環境生命科学特論※ 保全生態リスク管理学特論※	1・2① 1・2① 1・2通 1・2④ 1・2②	0.1 0.8 0.3 0.2 0.2	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合								特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 環境生態学特別研究Ⅰ 環境生態学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		

可	8	専	教授	カナヤマ トシキ 金山 紀久 <平成30年4月>	博士 (農学)	農業経済学特論※ 農業経済学特別演習※ 農業政策学特論	1・2① 1・2通 1・2④	0.2 0.5 2	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
可	9	専	教授	キナモト タシ 岸本 正 <平成30年4月>	農学博士	農業環境工学特論※ 農業環境工学特別演習※ 農業機械システム工学特論※	1・2① 1・2通 1・2④	0.2 0.5 0.5	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合						特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 農業環境工学特別研究Ⅰ 農業環境工学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可	10	専	教授	キバタ ミチオ 木下 朝朗 <平成30年4月>	博士 (農学)	国際農畜産衛生科学特論※ 食品科学特論※ 食品科学特別演習※ 食品栄養化学特論※ 食品衛生・有害物質特論※	1・2① 1・2① 1・2通 1・2③ 1・2④	0.7 0.2 0.5 0.8 0.2	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合						特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 食品科学特別研究Ⅰ 食品科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可	11	専	教授	キウコウキ 妻 興起 <平成30年4月>	博士 (学術)	農業経済学特論※ 農業経済学特別演習※ 応用農業統計学特論※	1・2① 1・2通 1・2②	0.2 0.5 0.7	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合						特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 農業経済学特別研究Ⅰ 農業経済学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可	12	専	教授	クサキ ケイゴ 口田 圭吾 <平成30年4月>	博士 (農学)	家畜生産科学特論※ 家畜生産科学特別演習※ 家畜育種繁殖学特論※ 畜産衛生学特論※	1・2① 1・2通 1・2② 1・2②	0.1 0.2 0.5 0.2	1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合						特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 家畜生産科学特別研究Ⅰ 家畜生産科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可	①	専	教授	コバシ ヒロシ 小嶋 浩 <平成30年4月>	博士 (農学)	食品科学特論※ 食品科学特別演習※ 食品加工・利用学特論※	1・2① 1・2通 1・2②	0.6 1.1 0.6	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合						特別研究特論 海外フィールドワークⅠ 海外フィールドワークⅡ 国内フィールドワーク演習 アカデミックプレゼンテーション演習	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2	2 1 1 2 2	1 1 1 1 1		
新規						食品科学特別研究Ⅰ 食品科学特別研究Ⅱ コーポレートワーク演習	1・2通 2通 1・2	4 4 2	1 1 1		
可						国際農畜産衛生科学特論※ 植物生産科学特論※ 植物生産科学特別演習※ 植物生産環境学特論※ 植物生産管理学特論※	1・2① 1・2① 1・2通 1・2④ 1・2②	0.1 0.1 0.7 0.5 0.3	1 1 1 1 1		
Mマル合	14	専	教授	コバシ マサ月 小嶋 正徳 <平成30年4月>	博士 (農学)	特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 植物生産科学特別研究Ⅰ 植物生産科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
可	15	専	教授	コジマ ミユキ 小嶋 遼之 <平成30年4月>	博士 (農学)	食品科学特別演習※ 食品加工・利用学特論※	1・2通 1・2②	0.1 0.2	1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合						特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 食品科学特別研究Ⅰ 食品科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可	16	専	教授	サトウ タツシ 佐藤 祐聡 <平成30年4月>	博士 (農学)	農業環境工学特論※ 農業環境工学特別演習※ 農業機械システム工学特論※	1・2① 1・2通 1・2④	0.2 0.6 0.5	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合						特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 農業環境工学特別研究Ⅰ 農業環境工学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可	17	専	教授	シバ イイチ 志賀 永一 <平成30年4月>	博士 (農学)	農業経済学特論※ 農業経済学特別演習※ 畜産経営学特論※	1・2① 1・2通 1・2③	0.7 1 1.3	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合						特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 農業経済学特別研究Ⅰ 農業経済学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可	18	専	教授	センボウ ケヤシ 仙北谷 康 <平成30年4月>	博士 (農学)	生物資源環境科学特論※ 農業経済学特論※ 農業経済学特別演習※ 応用農業統計学特論※ 食品流通・地域産業活性化特論 企業戦略特論	1・2① 1・2① 1・2通 1・2② 1・2② 1・2③	0.1 0.5 1 1.3 2 2	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合						特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 農業経済学特別研究Ⅰ 農業経済学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		

可				タニ マサユキ 谷 昌幸	博士 (農学)	生物資源環境科学特論※ 植物生産科学特論※ 植物生産科学特別演習※ 植物生産環境学特論※ 植物生産管理学特論※	1・2① 1・2① 1・2通 1・2④ 1・2②	0.1 0.5 0.7 0.5 0.8	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合	19	専	教授	<平成30年4月>		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 植物生産科学特別研究Ⅰ 植物生産科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				ツジ オサム 辻 修	博士 (農学)	農業環境工学特論※ 農業環境工学特別演習※ 農業農村工学特論	1・2① 1・2通 1・2②	0.8 0.9 0.5	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合	20	専	教授	<平成30年4月>		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 農業環境工学特別研究Ⅰ 農業環境工学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				テラタ マサヒ 手塚 雅文	Ph. D.	生物資源環境科学特論※ 家畜生産科学特論※ 家畜生産科学特別演習※ 家畜生体機能学特論※	1・2① 1・2① 1・2通 1・2④	0.1 0.4 0.8 0.5	1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合	21	専	教授	<平成30年4月>		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 家畜生産科学特別研究Ⅰ 家畜生産科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				フクナミ ミチヒロ 福富 道広	博士 (農学)	国際農畜産衛生科学特論※ 食品科学特論※ 食品科学特別演習※ 食品栄養化学特論※	1・2① 1・2① 1・2通 1・2③	0.1 0.2 0.2 0.5	1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合	22	専	教授	<平成30年4月>		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 食品科学特別研究Ⅰ 食品科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				ミウラ ヒデキ 三浦 秀樹	農学博 士	植物生産科学特論※ 植物生産科学特別演習※ 植物遺伝育種学特論※ 植物生産管理学特論※	1・2① 1・2通 1・2③ 1・2②	0.5 0.9 0.3 0.1	1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合	23	専	教授	<平成30年4月>		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 植物生産科学特別研究Ⅰ 植物生産科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				ミヤタ アキオ 宮本 明夫	農学博 士	家畜生産科学特論※ 家畜生産科学特別演習※ 家畜育種繁殖学特論※	1・2① 1・2通 1・2②	0.1 0.3 0.7	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合	24	専	教授	<平成30年4月>		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 家畜生産科学特別研究Ⅰ 家畜生産科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				ヤマウチ エロキ 山内 宏昭	博士 (工学)	国際農畜産衛生科学特論※ 食品科学特別演習※ 食品加工・利用学特論※	1・2① 1・2通 1・2②	0.3 0.1 0.2	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Mマル合	25	専	教授	<平成30年4月>		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 食品科学特別研究Ⅰ 食品科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				モリワタ フスキ 森松 文毅	博士 (農学)	畜産衛生学特論※	1・2②	0.2	1	帯広畜産大学 地域連携推進セ ンター 特任教 授	5
Mマル合	26	専	特任教授	<平成30年4月>		畜産衛生課題研究	2通	4	1		
可				ワタベ シンゴ 渡辺 信吾	高等専 門学校 卒	HACCPシステム構築演習 食品関連法規と食品製造・加工設備保全特論	1・2 1・2	1 0.5	1 1	帯広畜産大学 地域連携推進セ ンター 特任教 授	5
Mマル合	27	専	特任教授	<平成30年4月>							
可				アキタ マサヒロ 秋本 正博	博士 (農学)	生物資源環境科学特論※ 植物生産科学特論※ 植物生産科学特別演習※ 植物遺伝育種学特論※ 植物生産管理学特論※	1・2① 1・2① 1・2通 1・2③ 1・2②	0.1 0.1 0.1 0.2 0.3	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Mマル合	28	専	准教授	<平成30年4月>		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 植物生産科学特別研究Ⅰ 植物生産科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				アコスタ アヤラ トマス ハビエル ACOSTA AYALA Tomas Javier	博士 (獣医学)	国際農畜産衛生科学特論※ 家畜生産科学特論※ 家畜生産科学特別演習※ 家畜育種繁殖学特論※ 畜産衛生学特論※	1・2① 1・2① 1・2通 1・2② 1・2②	0.1 0.1 0.2 0.2 0.2	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 動物・食品検査 診断センター 准教授	5
Mマル合	29	専	准教授	<平成30年4月>		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 家畜生産科学特別研究Ⅰ 家畜生産科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				オオニシタ マツ 大西 一光	博士 (農学)	植物生産科学特論※ 植物生産科学特別演習※ 植物遺伝育種学特論※ 植物生産環境学特論※	1・2① 1・2通 1・2③ 1・2④	0.1 0.3 0.2 0.2	1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Mマル合	30	専	准教授	<平成30年4月>		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 植物生産科学特別研究Ⅰ 植物生産科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		

可				カハマ クモモ 千春 川島 (国友) 千帆 <平成30年4月>		博士 (農学)	家畜生産科学特論※ 家畜生産科学特別演習※ 家畜管理栄養学特論※ 畜産衛生学特論※	1-2① 1-2通 1-2③ 1-2②	0.1 0.2 0.5 0.2	1 1 1 1	帯広畜産大学 畜産フィールド 科学センター 准教授	5
Mマル合	31	専	准教授				特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 家畜生産科学特別研究Ⅰ 家畜生産科学特別研究Ⅱ	1-2 1-2 1-2 1-2 1-2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				キムラ マサト 木村 賢人 <平成30年4月>		博士 (農学)	生物資源環境科学特論※ 農業環境工科学特論※ 農業環境工科学特別演習※ 農業環境物理学特論※	1-2① 1-2① 1-2通 1-2③	0.1 0.2 0.5 2	1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Mマル合	32	専	准教授				特別研究特論 農業環境工科学特別研究Ⅰ 農業環境工科学特別研究Ⅱ	1-2 1-2通 2通	2 4 4	1 1 1		
可				クマノ ノブヒコ 熊野 了州 <平成30年4月>		博士 (理学)	環境生態学特論※ 環境生態学特別演習※ 環境生命科学特論※ 生態システム生命科学特論※ 保全生態リスク管理学特論※	1-2① 1-2通 1-2④ 1-2③ 1-2②	0.2 0.5 0.2 0.2 0.8	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Mマル合	33	専	准教授				特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 環境生態学特別研究Ⅰ 環境生態学特別研究Ⅱ	1-2 1-2 1-2 1-2 1-2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				コウノ ヒロシ 熊野 拓一 <平成30年4月>		博士 (農学)	生物資源環境科学特論※ 農業経済学特論※ 農業経済学特別演習※ 畜産経営学特論※	1-2① 1-2① 1-2通 1-2③	0.1 0.2 0.5 0.7	1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Mマル合	34	専	准教授				特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 農業経済学特別研究Ⅰ 農業経済学特別研究Ⅱ	1-2 1-2 1-2 1-2 1-2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				シマダ ケンイチロウ 島田 謙一郎 <平成30年4月>		博士 (農学)	国際農畜産衛生科学特論※ 食品科学特論※ 食品科学特別演習※ 食品加工・利用学特論※	1-2① 1-2① 1-2通 1-2②	0.1 0.2 0.2 0.5	1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Mマル合	35	専	准教授				特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 食品科学特別研究Ⅰ 食品科学特別研究Ⅱ	1-2 1-2 1-2 1-2 1-2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				シスノ 勉 清水 隆 <平成30年4月>		博士 (農学)	生物資源環境科学特論※ 家畜生産科学特論※ 家畜生産科学特別演習※ 家畜育種繁殖学特論※ 畜産衛生学特論※	1-2① 1-2① 1-2通 1-2② 1-2②	0.1 0.1 0.2 0.2 0.5	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Mマル合	36	専	准教授				特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 家畜生産科学特別研究Ⅰ 家畜生産科学特別研究Ⅱ	1-2 1-2 1-2 1-2 1-2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				トクノ ヨシタカ 得子 圭彦 <平成30年4月>		博士 (理学)	国際農畜産衛生科学特論※ 食品科学特別演習※ 食品機能科学特論※	1-2① 1-2通 1-2④	0.1 0.2 0.5	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Mマル合	37	専	准教授				特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 食品科学特別研究Ⅰ 食品科学特別研究Ⅱ	1-2 1-2 1-2 1-2 1-2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				サキムラ ヨシシ 中村 正 <平成30年4月>		博士 (農学)	食品科学特論※ 食品科学特別演習※ 食品加工・利用学特論※	1-2① 1-2通 1-2②	0.2 0.2 0.5	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Mマル合	38	専	准教授				特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 食品科学特別研究Ⅰ 食品科学特別研究Ⅱ	1-2 1-2 1-2 1-2 1-2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				ニシダ タケヒロ 西田 武弘 <平成30年4月>		博士 (農学)	家畜生産科学特論※ 家畜生産科学特別演習※ 家畜管理栄養学特論※	1-2① 1-2通 1-2③	0.1 0.2 0.2	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Mマル合	39	専	准教授				特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 家畜生産科学特別研究Ⅰ 家畜生産科学特別研究Ⅱ	1-2 1-2 1-2 1-2 1-2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				ハキヤ ヨシタ 森谷 功一 <平成30年4月>		博士 (農学)	家畜生産科学特論※ 家畜生産科学特別演習※ 家畜育種繁殖学特論※	1-2① 1-2通 1-2②	0.1 0.3 0.2	1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Mマル合	40	専	准教授				特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 家畜生産科学特別研究Ⅰ 家畜生産科学特別研究Ⅱ	1-2 1-2 1-2 1-2 1-2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				ハノモト ヤスシ 橋本 博 <平成30年4月>		博士 (農学)	環境生態学特論※ 環境生態学特別演習※ 環境生命科学特論※ 生態システム生命科学特論※ 保全生態リスク管理学特論※	1-2① 1-2通 1-2④ 1-2③ 1-2②	0.2 0.5 0.2 0.7 0.2	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Mマル合	41	専	准教授				特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 環境生態学特別研究Ⅰ 環境生態学特別研究Ⅱ	1-2 1-2 1-2 1-2 1-2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		
可				ハナダ マサツキ 花田 正明 <平成30年4月>		博士 (農学)	家畜生産科学特論※ 家畜生産科学特別演習※ 家畜管理栄養学特論※ 畜産衛生学特論※	1-2① 1-2通 1-2③ 1-2②	0.1 0.2 0.7 0.2	1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Mマル合	42	専	准教授				特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 家畜生産科学特別研究Ⅰ 家畜生産科学特別研究Ⅱ	1-2 1-2 1-2 1-2 1-2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1		

可	Mマル合	43	専	准教授	ハシ キンタ 韓 圭龍 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		食品科学特論※	1・2①	0.2	1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
								食品科学特別演習※	1・2通	0.2	1		
								食品栄養化学特論※	1・2③	0.5	1		
可	Mマル合	44	専	准教授	ヒラタ マサヒロ 平田 昌弘 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		特別研究特論	1・2	2	1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
								国内フィールドワーク	1・2	2	1		
								アカデミックプレゼンテーション演習	1・2	2	1		
可	Mマル合	45	専	准教授	フナダ ケンジ 福田 健二 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		コーポレートワーク演習	1・2	2	1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
								食品科学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1		
								食品科学特別研究Ⅱ	2通	4	1		
可	Mマル合	46	専	准教授	マツナガノフミ 松長 祐吉 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		植物生産科学特論※	1・2①	0.1	1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
								植物生産科学特別演習※	1・2通	0.1	1		
								特別研究特論	1・2	2	1		
可	Mマル合	47	専	准教授	ミヤザキ アキラ 宮崎 亮仁 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		国内フィールドワーク	1・2	2	1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
								アカデミックプレゼンテーション演習	1・2	2	1		
								コーポレートワーク演習	1・2	2	1		
可	Mマル合	48	専	准教授	ムネオカ トシミ 宗岡 寿美 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		農業環境工学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
								農業環境工学特別研究Ⅱ	2通	4	1		
								農業環境工学特論※	1・2①	0.2	1		
可	Mマル合	49	専	講師	セオ テツヤ 瀬尾 哲也 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		農業環境工学特別演習※	1・2通	0.5	1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
								農業農村工学特論※	1・2②	0.5	1		
								特別研究特論	1・2	2	1		
可	Mマル合	50	専	助教	アイチヂ ダイイ 埴内 大吾 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		国内フィールドワーク	1・2	2	1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
								アカデミックプレゼンテーション演習	1・2	2	1		
								コーポレートワーク演習	1・2	2	1		
可	Mマル合	51	専	助教	アサカ タカミ 朝坂 卓英 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		農業環境工学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
								農業環境工学特別研究Ⅱ	2通	4	1		
								植物生産科学特別演習※	1・2④	0.2	1		
可	Mマル合	52	専	助教	オリハシ シンタ 折笠 善文 ＜平成30年4月＞	博士 （地球 環境科学）		植物生産科学特別演習※	1・2通	0.1	1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
								植物生産科学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1		
								植物生産科学特別研究Ⅱ	2通	4	1		
可	Mマル合	53	専	助教	カスガ ジュン 春日 純 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		食品科学特別演習※	1・2通	0.2	1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
								食品機能科学特論※	1・2④	0.5	1		
								特別研究特論	1・2	2	1		
可	Mマル合	54	専	助教	タケノ (ミヤザキ) サトコ 塚田 (宮崎) きと子 ＜平成30年4月＞	博士 （畜産 衛生学）		食品科学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
								食品科学特別研究Ⅱ	2通	4	1		
								植物生産科学特論※	1・2①	0.2	1		
可	Mマル合	55	専	助教	ゴトウ タツヒコ 後藤 達彦 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		植物生産科学特別演習※	1・2通	0.5	1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
								植物生産科学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1		
								植物生産科学特別研究Ⅱ	2通	4	1		
可	Mマル合	56	専	助教	コヤマ コウヘイ 小山 耕平 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		農業経済学特論※	1・2①	0.2	1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
								農業経済学特別演習※	1・2通	0.5	1		
								特別研究特論	1・2	2	1		
可	Mマル合	57	専	助教	サイウ トモコ 斎藤 朋子 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		国内フィールドワーク	1・2	2	1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
								アカデミックプレゼンテーション演習	1・2	2	1		
								コーポレートワーク演習	1・2	2	1		

可	58	専	助教	サトウ マサシ 佐藤 雅俊 ＜平成30年4月＞	修士 (理 学)	環境生態学特論※ 環境生態学特別演習※ 環境生命科学特論※ 生態システム生命科学特論※ 保全生態リスク管理学特論※	1・2① 4 1 1 2通 0.2 1 1 2③ 0.2 1 1 2② 0.2 1	4 1 1 1 0.5 1 1 0.2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
可	59	専	助教	ウサキモ レナ 賀茂 玲奈 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)	植物生産科学特論※ 植物生産科学特別演習※ 植物遺伝育種学特論※ 植物生産管理学特論※ 特別研究特論 植物生産科学特別研究Ⅰ 植物生産科学特別研究Ⅱ	1・2① 4 1 1 1 2通 0.1 1 1 1 2③ 0.3 1 1 2② 0.2 1	0.1 1 1 1 0.3 1 1 0.2 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
Mマル合							1・2 2 4 1 1 2通 4 1 1	2 1 1 1 4 1 1	1 1 1 1 1 1 1		
可	60	専	助教	フタタ ナオキ 福岡 直希 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)	家畜生産科学特論※ 家畜生産科学特別演習※ 家畜生体機能学特論※	1・2① 4 1 1 1 2通 0.1 1 1 1 2④ 0.5 1	0.1 1 1 1 0.2 1 1 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
可	61	専	助教	ムラシ ユキ 村西 由記 ＜平成30年4月＞	博士 (医 学)	家畜生産科学特論※ 家畜生産科学特別演習※ 家畜生体機能学特論※ 特別研究特論 家畜生産科学特別研究Ⅰ 家畜生産科学特別研究Ⅱ	1・2① 4 1 1 1 2通 0.1 1 1 1 2④ 0.5 1	0.1 1 1 1 0.2 1 1 0.2 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
Mマル合							1・2 2 4 1 1 2通 4 1 1	2 1 1 1 4 1 1	1 1 1 1 1 1 1		
可	62	専	助教	サキ マサヒコ 森 正彦 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)	植物生産科学特論※ 植物生産科学特別演習※ 植物遺伝育種学特論※ 植物生産環境学特論※ 特別研究特論 植物生産科学特別研究Ⅰ 植物生産科学特別研究Ⅱ	1・2① 4 1 1 1 2通 0.1 1 1 1 2③ 0.2 1 1 2④ 0.2 1	0.1 1 1 1 0.1 1 1 0.2 1 1 1 0.2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
Mマル合							1・2 2 4 1 1 2通 4 1 1	2 1 1 1 4 1 1	1 1 1 1 1 1 1		
可	63	専	助教	ヤマシ シンジ 山下 健司 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)	食品科学特別演習※ 食品栄養化学特論※ 特別研究特論 食品科学特別研究Ⅰ 食品科学特別研究Ⅱ	1・2 2 4 1 1 2通 0.2 1 1 1 2③ 0.2 1	0.2 1 1 1 0.2 1 1 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
Mマル合							1・2 2 4 1 1 2通 4 1 1	0.2 1 1 1 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1		
－	64	兼担	教授	イガラシ マコ 五十嵐 楓 ＜平成30年4月＞	博士 (医 学)	特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ	1・2 2 1 1 1 2通 2 4 1 1 2通 4 1 1	2 1 1 1 2 1 1 2 1 4 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授	
－	65	兼担	教授	イシイ シツキ 石井 利明 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)	特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特論※ 動物医科学特別演習※ 動物機能医科学特論Ⅱ※	1・2 2 1 1 1 2通 2 4 1 1 2通 2 4 1 1 2① 0.2 1 1 2通 0.1 1 1 2③ 0.2 1	2 1 1 1 2 1 1 2 1 4 1 1 4 1 0.2 1 0.1 1 0.2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
－	66	兼担	教授	イシイ トオル 石川 透 ＜平成30年4月＞	獣医学 博士	特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物機能医科学特論Ⅱ※	1・2 2 1 1 1 2通 2 4 1 1 2通 2 4 1 1 2③ 0.1 1 1 2③ 0.6 1	2 1 1 1 2 1 1 2 1 4 1 1 4 1 0.1 1 0.6 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
－	67	兼担	教授	イワタ ヒサシ 伊藤 壽 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医 学)	特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特論※ 動物臨床科学特論Ⅱ※	1・2 2 1 1 1 2通 2 4 1 1 2通 2 4 1 1 2① 0.2 1 1 2③ 0.5 1	2 1 1 1 2 1 1 2 1 4 1 1 4 1 0.2 1 0.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
－	68	兼担	教授	オオishiアキヒロ 大石 明広 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)	特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特論※ 動物臨床科学特論Ⅰ※	1・2 2 1 1 1 2通 2 4 1 1 2通 2 4 1 1 2① 0.2 1 1 2② 0.5 1	2 1 1 1 2 1 1 2 1 4 1 1 4 1 0.2 1 0.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
－	69	兼担	教授	オホウ ハムコ 小川 晴子 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医 学)	特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物病態・病因制御学特論Ⅱ※	1・2 2 1 1 1 2通 2 4 1 1 2通 2 4 1 1 2通 0.2 1 1 2③ 0.5 1	2 1 1 1 2 1 1 2 1 4 1 1 4 1 0.2 1 0.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
－	70	兼担	教授	カワグ シンイチロウ 河津 信一郎 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医 学)	特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ	1・2 2 1 1 1 2通 2 4 1 1 2通 2 4 1 1	2 1 1 1 2 1 1 2 1 4 1 1 4 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授	
－	71	兼担	教授	カワサキ ケイコ 川本 恵子 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医 学)	特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特論※ 動物病態・病因制御学特論Ⅱ※	1・2 2 1 1 1 2通 2 4 1 1 2通 2 4 1 1 2① 0.2 1 1 2③ 0.2 1	2 1 1 1 2 1 1 2 1 4 1 1 4 1 0.2 1 0.2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 動物・食品検査 診断センター 教授	
－	72	兼担	教授	キタ カキヤ 木田 克弥 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医 学)	特別研究特論 海外フィールドワークⅠ 海外フィールドワークⅡ 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 家畜生産科学特別研究Ⅰ 家畜生産科学特別研究Ⅱ 家畜生産科学特論※ 家畜生産科学特別演習※ 家畜管理栄養学特論※	1・2 2 1 1 1 2通 2 4 1 1 2通 2 4 1 1 2通 2 4 1 1 2通 0.1 1 1 2通 0.2 1 1 2③ 0.2 1	2 1 1 1 2 1 1 2 1 4 1 1 4 1 2通 2 1 2通 0.1 1 0.2 1 0.2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	

-	73	兼担	教授	キヨムラ ノボ 北村 延夫 <平成30年4月>	獣医学 博士		特別研究特論 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物機能医科学特論Ⅰ※	1・2 1・2通 2通 1・2②	2 4 4 0.6	1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	74	兼担	教授	クラノ ヒサオ 倉園 久生 <平成30年4月>	農学博 士		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物病態・病因制御学特論Ⅱ※ 食品検査学演習※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2③ 1・2	2 2 2 2 4 4 0.1 0.2 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	75	兼担	教授	ケン ガクシ 玄 学南 <平成30年4月>	農学博 士		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物病態・病因制御学特論Ⅰ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2②	2 2 2 2 4 4 0.5 0.7	1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授	
-	76	兼担	教授	コバヤシヨシヤス 古林 寿志宏 <平成30年4月>	博士 (獣医 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特論※ 動物医科学特別演習※ 動物病態・病因制御学特論Ⅰ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2① 1・2通 1・2②	2 2 2 2 4 4 0.2 0.1 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	77	兼担	教授	ササキ ミトキ 佐々木 基樹 <平成30年4月>	博士 (獣医 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特論※ 動物医科学特別演習※ 動物機能医科学特論Ⅰ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2① 1・2通 1・2②	2 2 2 2 4 4 0.6 0.7 0.7	1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	78	兼担	教授	シバダチノミチ 塩口 順一 <平成30年4月>	文学修 士		「北海道文学」論	1・2前	2	1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	79	兼担	教授	スズキ ヒロシ 鈴木 宏志 <平成30年4月>	博士 (獣医 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物機能医科学特論Ⅰ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2②	2 2 2 2 4 4 0.2	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授	
-	80	兼担	教授	トキオカ ヒロシ 時間 裕純 <平成30年4月>	博士 (学校 教育 学)		西洋環境文化論	1・2後	2	1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	81	兼担	教授	ナンバ ヲスオ 南保 孝雄 <平成30年4月>	博士 (獣医 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物臨床科学特論Ⅲ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2④	2 2 2 2 4 4 0.3	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	82	兼担	教授	フルカヒデフミ 古岡 秀文 <平成30年4月>	獣医学 博士		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物病態・病因制御学特論Ⅰ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2②	2 2 2 2 4 4 0.6	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	83	兼担	教授	マツイ ミスミ 松井 基純 <平成30年4月>	博士 (獣医 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特論※ 動物医科学特別演習※ 動物臨床科学特論Ⅲ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2① 1・2通 1・2④	2 2 2 2 4 4 0.2 0.1 1.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	84	兼担	教授	ミヤハラ ミスヲウ 宮原 和郎 <平成30年4月>	博士 (農 学)		特別研究特論 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物臨床科学特論Ⅰ※	1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2②	2 4 4 0.2 0.2	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	85	兼担	教授	ヤマキ シンリョウ 山岸 剛夫 <平成30年4月>	博士 (獣医 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物臨床科学特論Ⅱ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2②	2 2 2 2 4 4 0.9	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	86	兼担	教授	コヤマ オオアキ 横山 直明 <平成30年4月>	博士 (獣医 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授	
-	87	兼担	教授	ワザヘ ショウキ 渡邊 秀之 <平成30年4月>	博士 (心理 学)		国際農畜産衛生科学特論※ 教育心理学特論	1・2① 1・2後	0.1 2	1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	

-	88	兼担	准教授	エリカ クニヒコ 江刺 琴 陽彦 ＜平成30年 4 月＞		体育学 士		体育と健康	1・2前	1	1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	89	兼担	准教授	オホベ キスナリ 岡部 康成 ＜平成30年 4 月＞		修士 (心理 学)		教育統計と教育データ分析	1・2後	2	1	帯広畜産大学 情報分析室 准教授	
-	90	兼担	准教授	おとり ケンロウ 加藤 健太郎 ＜平成30年 4 月＞		博士 (獣医 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーボレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究セン ター 准教授	
-	91	兼担	准教授	クマタ アキラ 久保田 彰 ＜平成30年 4 月＞		博士 (農 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーボレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物病態・病因制御学特論Ⅱ※ 食品衛生・有害物質特論※ 食品検査学演習※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2③ 1・2④ 1・2	2 2 2 2 4 4 0.1 0.2 0.7 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	92	兼担	准教授	ササキ ナオキ 佐々木 直樹 ＜平成30年 4 月＞		博士 (獣医 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーボレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物臨床科学特論Ⅱ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2③	2 2 2 2 4 4 0.2 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	93	兼担	准教授	ササキ ヨウコ 佐々木 洋子 ＜平成30年 4 月＞		博士 (歴史 学)		歴史と生命	1・2前	2	1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	94	兼担	准教授	スミス マーシャル Smith Marshall ＜平成30年 4 月＞		博士 (保健 学)		English Communication for Science	1・2前	2	1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	95	兼担	准教授	トシノリ ミナキ 富家 瑞樹 ＜平成30年 4 月＞		博士 (獣医 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーボレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物臨床科学特論Ⅰ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2②	2 2 2 2 4 4 0.2 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	96	兼担	准教授	シノブ シノブ 西川 義文 ＜平成30年 4 月＞		博士 (農 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーボレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物機能医科学特論Ⅱ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2③	2 2 2 2 4 4 0.2	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究セン ター 准教授	
-	97	兼担	准教授	ヒラギナ ショウキ 平藤 善明 ＜平成30年 4 月＞		博士 (教育 学)		教育学特論	1・2前	2	1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	98	兼担	准教授	ヒロイ トヨコ 廣井 豊子 ＜平成30年 4 月＞		博士 (医 学)		国際農畜産衛生科学特論※ 特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーボレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特論※ 動物医科学特別演習※ 動物病態・病因制御学特論Ⅱ※ 食品検査学演習※	1・2① 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2① 1・2通 1・2③ 1・2	0.1 2 2 2 2 4 4 0.2 0.1 0.5 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	99	兼担	准教授	フナト シンヤ 福本 晋也 ＜平成30年 4 月＞		博士 (獣医 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーボレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究セン ター 准教授	
-	100	兼担	准教授	マモト コウロウ 松本 高太郎 ＜平成30年 4 月＞		博士 (獣医 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーボレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物臨床科学特論Ⅰ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2②	2 2 2 2 4 4 0.6	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	101	兼担	准教授	ムラタ コウイチロウ 村田 浩一郎 ＜平成30年 4 月＞		博士 (人間 科学)		体育と健康	1・2前	1	1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	102	兼担	准教授	ムロイ ヨシカズ 室井 善景 ＜平成30年 4 月＞		博士 (獣医 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーボレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物機能医科学特論Ⅱ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2③	2 2 2 2 4 4 0.1 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	103	兼担	准教授	ヤマザキ エイキ 山崎 栄樹 ＜平成30年 4 月＞		博士 (理 学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーボレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 食品衛生・有害物質特論※ 食品検査学演習※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2④ 1・2	2 2 2 2 4 4 0.1 0.2 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	

-	104	兼担	講師	オカザキマ ユミ 岡崎 まゆみ <平成30年4月>	修士 (法学)		国際農畜産衛生科学特論※ 環境法制度論	1・2① 1・2前	0.1 2	1 1	帯広畜産大学 研究域 講師	
-	105	兼担	講師	オヤノ ミツヲ 宇野 光範 <平成30年4月>	博士 (数理学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通	2 2 2 2 4 4 0.2	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 講師	
-	106	兼担	講師	キャンベル デビッドソン Campbell David Jon <平成30年4月>	M. A.		English Communication for English	1・2前	2	1	帯広畜産大学 研究域 講師	
-	107	兼担	講師	トヨメ タカヒト 豊田 孝仁 <平成30年4月>	博士 (医学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物病態・病因制御学特論Ⅱ※ 食品衛生・有害物質特論※ 食品検査学演習※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2③ 1・2④ 1・2	2 2 2 2 4 4 0.1 0.2 0.2 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 講師	
-	108	兼担	講師	グレンヒル Glen Hill <平成30年4月>	M. S.		English Communication for Science	1・2前	2	1	帯広畜産大学 研究域 講師	
-	109	兼担	講師	ロメロ イサミ ROMERO Isami <平成30年4月>	修士 (学術)		外交と食料	1・2前	2	1	帯広畜産大学 研究域 講師	
-	110	兼担	助教	アオキ タカヒロ 浅木 孝弘 <平成30年4月>	博士 (獣医学)		特別研究特論 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物臨床科学特論Ⅱ※	1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2③	2 4 4 0.2 0.2	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
-	111	兼担	助教	イノウエ メグミ 伊藤 めぐみ <平成30年4月>	博士 (獣医学)		国際農畜産衛生科学特論※ 特別研究特論 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物臨床科学特論Ⅱ※	1・2① 1・2 1・2通 2通 1・2③	0.1 2 4 4 0.2	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
-	112	兼担	助教	オカムラ キヨ 奥村 香保 <平成30年4月>	博士 (医学)		特別研究特論 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物病態・病因制御学特論Ⅱ※ 食品検査学演習※	1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2③ 1・2	2 4 4 0.1 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
-	113	兼担	助教	オミワケ アキヒロ 上川 昭博 <平成30年4月>	獣医 (博士学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物機能医科学特論Ⅱ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2③	2 2 2 2 4 4 0.1 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
-	114	兼担	助教	オウケイ ユウスケ 川合 佑典 <平成30年4月>	博士 (獣医学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 食品衛生・有害物質特論※ 食品検査学演習※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2④ 1・2	2 2 2 2 4 4 0.1 0.5 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
-	115	兼担	助教	クスサキ アキコ 楠本 晃子 <平成30年4月>	博士 (理学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物病態・病因制御学特論Ⅱ※ 食品検査学演習※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2③ 1・2	2 2 2 2 4 4 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
-	116	兼担	助教	コバウダイスケ 近藤 大輔 <平成30年4月>	博士 (獣医学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物機能医科学特論Ⅰ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2②	2 2 2 2 4 4 0.1 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
-	117	兼担	助教	シラサゲ リカ 白藤 梨可 <平成30年4月>	博士 (獣医学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 助教	
-	118	兼担	助教	オカワ ミサト 田川 遼人 <平成30年4月>	博士 (獣医学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
-	119	兼担	助教	ハキダ シンゴ 羽田 真悟 <平成30年4月>	博士 (獣医学)		特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーポレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物臨床科学特論Ⅲ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2④	2 2 2 2 4 4 0.1 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	

-	120	兼担	助教	カリウチ ノブキ 堀内 雅之 <平成30年4月>	博士 (獣 医)	特別研究特論 国内フィールドワーク アカデミックプレゼンテーション演習 コーボレートワーク演習 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物医科学特別演習※ 動物病態・病因制御学特論Ⅰ※	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2通 2通 1・2通 1・2②	1 2 2 2 4 4 0.1 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
-	121	兼担	助教	ヤナギワサザシ 柳川 将志 <平成30年4月>	博士 (獣医 学)	特別研究特論 動物医科学特別研究Ⅰ 動物医科学特別研究Ⅱ 動物臨床科学特論Ⅰ※	1・2 1・2通 2通 1・2②	2 4 4 0.2	1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
-	122	兼担	教育研究 コーディネーター	ミヤキ テフオ 三宅 哲雄 <平成30年4月>	高等学 校卒	知的財産制度論	1・2前	2	1	帯広畜産大学 コーディネーター	

補正後

別記様式第3号（その2の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教 員 の 氏 名 等														
(畜産学研究科 畜産科学専攻 博士後期課程)														
前判定 結果	調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数
可	1	専	教授	ウメノ カズヲ 梅津 一孝 ＜平成30年4月＞		博士 (農 学)		獣医・農畜産学特論	1・2・3		1	1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Dマル合								獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通		1	1		
								リサーチコミュニケーション	1・2・3		1	1		
								獣医・農畜産学特別演習	1・2・3		1	1		
								特別研究	1・2・3通		6	1		
								国内リサーチ演習	1・2・3		2	1		
								海外リサーチ演習	1・2・3		2	1		
								国内フィールドワーク演習	1・2・3		2	1		
								海外フィールドワーク演習	1・2・3		2	1		
								リサーチ・ロボ・サール演習	1・2・3		2	1		
								リサーチデータ解析演習	1・2・3		2	1		
								リサーチ・レベル・シミュレーション演習	1・2・3		2	1		
								リサーチバー・ライティング演習	1・2・3		2	1		
								リサーチマネジメント演習	1・2・3		2	1		
								アカデミックリサーチ演習	1・2・3		2	1		
								アカデミックティーチング演習	1・2・3		2	1		
								社会人特別演習	1・2・3		2	1		
可	2	専	教授	ウラヤマ タカシ 浦島 匡 ＜平成30年4月＞		農学博 士		獣医・農畜産学特論	1・2・3		1	1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Dマル合								獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通		1	1		
								リサーチコミュニケーション	1・2・3		1	1		
								獣医・農畜産学特別演習	1・2・3		1	1		
								特別研究	1・2・3通		6	1		
								国内リサーチ演習	1・2・3		2	1		
								海外リサーチ演習	1・2・3		2	1		
								国内フィールドワーク演習	1・2・3		2	1		
								海外フィールドワーク演習	1・2・3		2	1		
								リサーチ・ロボ・サール演習	1・2・3		2	1		
								リサーチデータ解析演習	1・2・3		2	1		
								リサーチ・レベル・シミュレーション演習	1・2・3		2	1		
								リサーチバー・ライティング演習	1・2・3		2	1		
								リサーチマネジメント演習	1・2・3		2	1		
								アカデミックリサーチ演習	1・2・3		2	1		
								アカデミックティーチング演習	1・2・3		2	1		
								社会人特別演習	1・2・3		2	1		
可	3	専	教授	オオワタ タカシ 大和田 琢二 ＜平成30年4月＞		博士 (農 学)		獣医・農畜産学特論	1・2・3		1	1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Dマル合								獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通		1	1		
								リサーチコミュニケーション	1・2・3		1	1		
								獣医・農畜産学特別演習	1・2・3		1	1		
								特別研究	1・2・3通		6	1		
								国内リサーチ演習	1・2・3		2	1		
								海外リサーチ演習	1・2・3		2	1		
								国内フィールドワーク演習	1・2・3		2	1		
								海外フィールドワーク演習	1・2・3		2	1		
								リサーチ・ロボ・サール演習	1・2・3		2	1		
								リサーチデータ解析演習	1・2・3		2	1		
								リサーチ・レベル・シミュレーション演習	1・2・3		2	1		
								リサーチバー・ライティング演習	1・2・3		2	1		
								リサーチマネジメント演習	1・2・3		2	1		
								アカデミックリサーチ演習	1・2・3		2	1		
								アカデミックティーチング演習	1・2・3		2	1		
								社会人特別演習	1・2・3		2	1		
可	4	専	教授	オシダ タカオ 押田 龍夫 ＜平成30年4月＞		博士 (理 学)		獣医・農畜産学特論	1・2・3		1	1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
Dマル合								獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通		1	1		
								リサーチコミュニケーション	1・2・3		1	1		
								獣医・農畜産学特別演習	1・2・3		1	1		
								特別研究	1・2・3通		6	1		
								国内リサーチ演習	1・2・3		2	1		
								海外リサーチ演習	1・2・3		2	1		
								国内フィールドワーク演習	1・2・3		2	1		
								海外フィールドワーク演習	1・2・3		2	1		
								リサーチ・ロボ・サール演習	1・2・3		2	1		
								リサーチデータ解析演習	1・2・3		2	1		
								リサーチ・レベル・シミュレーション演習	1・2・3		2	1		
								リサーチバー・ライティング演習	1・2・3		2	1		
								リサーチマネジメント演習	1・2・3		2	1		
								アカデミックリサーチ演習	1・2・3		2	1		
								アカデミックティーチング演習	1・2・3		2	1		
								社会人特別演習	1・2・3		2	1		

補正後

可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	5	専	教授	かつり きょうき 加藤 清明 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・ロボ・ザル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・データ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・レベ・ンテーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・バー・ラテイニング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・マネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックディメンション演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
							帯広畜産大学 研究域 教授				5	
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							家畜疫学特論	1・2・3①	2	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	6	専	教授	かほう りゅう 門平 隆代 ＜平成30年4月＞	Ph. D.		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・ロボ・ザル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・データ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・レベ・ンテーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・バー・ラテイニング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・マネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックディメンション演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
							帯広畜産大学 研究域 教授				5	
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
Dマル合	7	専	教授	かやま ひとし 金山 紀久 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							リサーチ・ロボ・ザル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・データ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・レベ・ンテーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・バー・ラテイニング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・マネージメント演習	1・2・3	2	1		
							帯広畜産大学 研究域 教授				5	
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	8	専	教授	きんもと たけし 岸本 正 ＜平成30年4月＞	農学博士		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・ロボ・ザル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・データ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・レベ・ンテーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・バー・ラテイニング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・マネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックディメンション演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
							帯広畜産大学 研究域 教授				5	
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	9	専	教授	きりた みきお 木下 幹朗 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・ロボ・ザル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・データ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・レベ・ンテーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・バー・ラテイニング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・マネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックディメンション演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
							帯広畜産大学 研究域 教授				5	
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	10	専	教授	きくづき 葵 興起 ＜平成30年4月＞	博士 (学術)		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・ロボ・ザル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・データ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・レベ・ンテーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・バー・ラテイニング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・マネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックディメンション演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
							帯広畜産大学 研究域 教授				5	

補正後

可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3通	1 1	1 1		
Dマル合	11	専	教授	クサ ケイ 口田 圭吾 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボ・サル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチバーチャライジング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3通	1 1	1 1		
Dマル合	12	専	教授	コイケ マサヲ 小池 正徳 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボ・サル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチバーチャライジング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3通	1 1	1 1		
Dマル合	13	専	教授	コジマ ミチキ 小嶋 道之 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボ・サル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチバーチャライジング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3通	1 1	1 1		
Dマル合	14	専	教授	サトウ タクト 佐藤 祐聡 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボ・サル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチバーチャライジング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3通	1 1	1 1		
Dマル合	15	専	教授	シカ イイチ 志賀 永一 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボ・サル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチバーチャライジング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5

補正後

可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	16	専	教授	センボウヤサシ 仙北谷 康 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチロボティクス演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチペーパーライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックティーンズ演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	17	専	教授	タニ マサユキ 谷 昌幸 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチロボティクス演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチペーパーライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックティーンズ演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	18	専	教授	ツジ オサム 辻 修 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチロボティクス演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチペーパーライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックティーンズ演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	19	専	教授	テツカ マサフミ 手塚 雅文 ＜平成30年4月＞	Ph. D.		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチロボティクス演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチペーパーライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックティーンズ演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	20	専	教授	フクシマ ミチヒロ 福島 道広 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチロボティクス演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチペーパーライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックティーンズ演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		

補正後

可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3通	1 1	1 1		
Dマル合	21	専	教授	ミウラ ヒデホ 三浦 秀穂 ＜平成30年4月＞		農学博士	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポーザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンクトン演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
可							獣医・農畜産学特論 家畜衛生学特論※ 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3② 1・2・3通	1 0.6 1	1 1 1		
Dマル合	22	専	教授	ミヤマト アキオ 宮本 明夫 ＜平成30年4月＞		農学博士	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポーザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンクトン演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3通	1 1	1 1		
Dマル合	23	専	教授	ヤマウチヒロキ 山内 宏昭 ＜平成30年4月＞		博士 (工学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポーザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンクトン演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
可	24	専	特任教授	ワタベシロ 渡辺 信吾 ＜平成30年4月＞		高等専門学校卒	食品安全マネージメント・内部監査演習	1・2・3	2	1	帯広畜産大学 地域連携推進センター 特任教授	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
Dマル合	25	専	准教授	アキモト マサヒロ 秋本 正博 ＜平成30年4月＞		博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチプロポーザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンクトン演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
可							獣医・農畜産学特論 家畜衛生学特論※ 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3② 1・2・3通	1 0.5 1	1 1 1		
Dマル合	26	専	准教授	アコスタ アヤラトマス ハビエル ACOSTA AYALA Tomas Javier ＜平成30年4月＞		博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポーザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンクトン演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 動物・食品検査 診断センター 准教授	5

補正後

可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	27	専	准教授	オニシカミツ 大西 一光 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチロボ・サル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチレベ・ンション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバー・ラテイニング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックディンク演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
							帯広畜産大学 研究域 准教授				5	
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							家畜衛生学特論※	1・2・3②	0.2	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	28	専	准教授	カシマ クミモ チホ 川島 (国友) 千帆 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチロボ・サル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチレベ・ンション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバー・ラテイニング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックディンク演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
							帯広畜産大学 畜産フィールド 科学センター 准教授				5	
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							リサーチロボ・サル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチレベ・ンション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバー・ラテイニング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックディンク演習	1・2・3	2	1		
							帯広畜産大学 研究域 准教授				5	
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							リサーチロボ・サル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチレベ・ンション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバー・ラテイニング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックディンク演習	1・2・3	2	1		
							帯広畜産大学 研究域 准教授				5	
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							衛生経済学特論	1・2・3③	2	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	31	専	准教授	コウノ ヒロチ 紺野 拓一 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチロボ・サル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチレベ・ンション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバー・ラテイニング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックディンク演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
							帯広畜産大学 研究域 准教授				5	
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	32	専	准教授	シマダ ケンイチロウ 島田 謙一郎 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチロボ・サル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチレベ・ンション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバー・ラテイニング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックディンク演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
							帯広畜産大学 研究域 准教授				5	

補正後

可							獣医・農畜産学特論 家畜衛生学特論※ 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3② 1・2・3通	1 0.5 1	1 1 1		
Dマル合	33	専	准教授	シメズ タカシ 清水 隆 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベルンション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3通	1 1	1 1		
Dマル合	34	専	准教授	トウジ ヨシコ 得子 主彦 ＜平成30年4月＞	博士 (理学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベルンション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
Dマル合	35	専	准教授	ナカムラ タカシ 中村 正 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベルンション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3通	1 1	1 1		
Dマル合	36	専	准教授	ニシダ タカヒロ 西田 武弘 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベルンション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
Dマル合	37	専	准教授	ハギヤ コウチ 萩谷 功一 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベルンション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
D合	38	専	准教授	ハシモト ヤスシ 橋本 靖 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベルンション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5

補正後

D合	39	専	准教授	ハナダ マサキ 花田 正明 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボーズル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベリテーション演習 リサーチバーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3通	1 1	1 1		
Dマル合	40	専	准教授	ハン キョウホ 韓 圭輔 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボーズル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベリテーション演習 リサーチバーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3通	1 1	1 1		
Dマル合	41	専	准教授	ヒラタ マサヒロ 平田 昌弘 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボーズル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベリテーション演習 リサーチバーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3通	1 1	1 1		
Dマル合	42	専	准教授	フクダ ケンジ 福田 健二 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボーズル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベリテーション演習 リサーチバーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3通	1 1	1 1		
Dマル合	43	専	准教授	マツガハ アサヒ 松長 延吉 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボーズル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベリテーション演習 リサーチバーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
Dマル合	44	専	准教授	ミヤザキ フミト 宮竹 史仁 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボーズル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベリテーション演習 リサーチバーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5

補正後

可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1		
Dマル合	45	専	准教授	ムネオカトシミ 宗岡 寿美 <平成30年4月>	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチロボースル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチレベシオン演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバーンライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックティーチング演習	1・2・3	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3	2	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							国際衛生制度特論※	1・2・3④	0.5	1		
Dマル合	46	専	講師	セオ テツヤ 瀬尾 哲也 <平成30年4月>	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							リサーチロボースル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチレベシオン演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバーンライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックティーチング演習	1・2・3	2	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
Dマル合	47	専	助教	アイチダイ 相内 大吾 <平成30年4月>	博士 (農学)		獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							リサーチロボースル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチレベシオン演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバーンライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックティーチング演習	1・2・3	2	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
Dマル合	48	専	助教	アサカタクミ 赤坂 卓美 <平成30年4月>	博士 (農学)		リサーチロボースル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチレベシオン演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバーンライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックティーチング演習	1・2・3	2	1		
D合							特別研究	1・2・3通	6	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
Dマル合	49	専	助教	オカサ ヨシタ 折笠 善太 <平成30年4月>	博士 (地球環境科学)		獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							リサーチロボースル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチレベシオン演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバーンライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックティーチング演習	1・2・3	2	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
Dマル合	50	専	助教	カガ ジュン 春日 純 <平成30年4月>	博士 (農学)		獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							リサーチロボースル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチレベシオン演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバーンライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックティーチング演習	1・2・3	2	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
Dマル合	51	専	助教	オダ (ミヤザキ) サトコ 窪田 (宮崎) さと子 <平成30年4月>	博士 (畜産衛生学)		獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							リサーチロボースル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチレベシオン演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバーンライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1		
							アカデミックティーチング演習	1・2・3	2	1		

補正後

可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
Dマル合	52	専	助教	コトウ タカヒコ 後藤 達彦 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サークル演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベル・セッション演習 リサーチ・バー・ライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
Dマル合	53	専	助教	コヤマ コウヘイ 小山 勝平 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サークル演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベル・セッション演習 リサーチ・バー・ライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
Dマル合	54	専	助教	サイトウトモコ 斉藤 勝子 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション リサーチ・ロボ・サークル演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベル・セッション演習 リサーチ・バー・ライティング演習 リサーチマネージメント演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
Dマル合	55	専	助教	サトウ マサシ 佐藤 雅俊 ＜平成30年4月＞	修士 (理学)		リサーチコミュニケーション リサーチ・ロボ・サークル演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベル・セッション演習 リサーチ・バー・ライティング演習 リサーチマネージメント演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
Dマル合	56	専	助教	サネモト レナ 實友 玲奈 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サークル演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベル・セッション演習 リサーチ・バー・ライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
Dマル合	57	専	助教	フクマ ナオキ 福岡 直希 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション リサーチ・ロボ・サークル演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベル・セッション演習 リサーチ・バー・ライティング演習 リサーチマネージメント演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
Dマル合	58	専	助教	ムラシユキ 村西 由紀 ＜平成30年4月＞	博士 (医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サークル演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベル・セッション演習 リサーチ・バー・ライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
Dマル合	59	専	助教	モリ マサヒコ 森 正彦 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サークル演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベル・セッション演習 リサーチ・バー・ライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5

補正後

Dマル合	60	専	助教	ヤマシタ シンジ 山下 慎司 ＜平成30年4月＞	博士 （農 学）		獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
							リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							リサーチ・ロボースル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・レベーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバーライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1									
アカデミックティーチング演習	1・2・3	2	1									
－	61	兼任	教授	イガラシ マコト 五十嵐 慎 ＜平成30年4月＞	博士 （医 学）		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授	
							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・ロボースル演習	1・2・3	2	1		
リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1									
リサーチ・レベーション演習	1・2・3	2	1									
リサーチバーライティング演習	1・2・3	2	1									
リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1									
アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1									
アカデミックティーチング演習	1・2・3	2	1									
社会人特別演習	1・2・3	2	1									
獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1									
－	62	兼任	教授	イシイ トシアキ 石井 利明 ＜平成30年4月＞	博士 （農 学）		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1	帯広畜産大学 研究域 教授	
							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・ロボースル演習	1・2・3	2	1		
リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1									
リサーチ・レベーション演習	1・2・3	2	1									
リサーチバーライティング演習	1・2・3	2	1									
リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1									
アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1									
アカデミックティーチング演習	1・2・3	2	1									
社会人特別演習	1・2・3	2	1									
獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1									
－	63	兼任	教授	イシカワ トオル 石川 透 ＜平成30年4月＞	獣医学 博士		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1	帯広畜産大学 研究域 教授	
							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							リサーチ・ロボースル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・レベーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバーライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1									
アカデミックティーチング演習	1・2・3	2	1									
－	64	兼任	教授	イノカミ ヒサシ 猪熊 壽 ＜平成30年4月＞	博士 （獣医 学）		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1	帯広畜産大学 研究域 教授	
							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・ロボースル演習	1・2・3	2	1		
リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1									
リサーチ・レベーション演習	1・2・3	2	1									
リサーチバーライティング演習	1・2・3	2	1									
リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1									
アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1									
アカデミックティーチング演習	1・2・3	2	1									
社会人特別演習	1・2・3	2	1									
獣医・農畜産学特別講義	1・2・3通	1	1									
－	65	兼任	教授	オオishi アキヒロ 大石 明広 ＜平成30年4月＞	博士 （農 学）		リサーチコミュニケーション	1・2・3	1	1	帯広畜産大学 研究域 教授	
							獣医・農畜産学特論	1・2・3	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3	1	1		
							特別研究	1・2・3通	6	1		
							リサーチ・ロボースル演習	1・2・3	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3	2	1		
							リサーチ・レベーション演習	1・2・3	2	1		
							リサーチバーライティング演習	1・2・3	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3	2	1		
アカデミックレクチャー演習	1・2・3	2	1									
アカデミックティーチング演習	1・2・3	2	1									

-	66	兼担	教授	カワノ ハルコ 小川 晴子 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーンズ演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	67	兼担	教授	カワノ シンイチロウ 河津 信一郎 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーンズ演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授	
-	68	兼担	教授	カワモト ケイコ 川本 恵子 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーンズ演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 動物・食品検査 診断センター 教授	
-	69	兼担	教授	キタ カツヤ 木田 克弥 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	家畜衛生学特論※	1・2・3②	0.2	1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	70	兼担	教授	クラノ ヒサオ 倉園 久生 ＜平成30年4月＞	農学博士	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーンズ演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	71	兼担	教授	ケン カクナン 玄 学南 ＜平成30年4月＞	農学博士	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーンズ演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授	

補正後

-	72	兼担	教授					リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内外フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロブ・サークル演習 リサーチネットワーク解析演習 リサーチレゼンテーション演習 リサーチバーレーティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義 獣医学特論Ⅰ 獣医学特論Ⅱ 獣医学特別演習Ⅰ 獣医学特別演習Ⅱ 応用獣医学特論※ 応用獣医学特別演習Ⅰ 応用獣医学特別演習Ⅱ 動物医療センター特別演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3③ 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.5 2 2 1	1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	73	兼担	教授					リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内外フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロブ・サークル演習 リサーチネットワーク解析演習 リサーチレゼンテーション演習 リサーチバーレーティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	74	兼担	教授					リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内外フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロブ・サークル演習 リサーチネットワーク解析演習 リサーチレゼンテーション演習 リサーチバーレーティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授	
-	75	兼担	教授					リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 リサーチアロブ・サークル演習 リサーチネットワーク解析演習 リサーチレゼンテーション演習 リサーチバーレーティング演習 リサーチマネージメント演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	76	兼担	教授					リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内外フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロブ・サークル演習 リサーチネットワーク解析演習 リサーチレゼンテーション演習 リサーチバーレーティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	

補正後

ー	77	兼担	教授	マツイ モトスミ 松井 基純 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベネーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックディメンション演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
ー	78	兼担	教授	ヤマギシ/リオ 山岸 剛夫 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベネーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックディメンション演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
ー	79	兼担	教授	コヤマ ナオキ 横山 直明 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベネーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックディメンション演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授	
ー	80	兼担	准教授	カトリ ケンタロウ 加藤 健太郎 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベネーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックディメンション演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 准教授	
ー	81	兼担	准教授	クホタ アキラ 久保田 彰 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチプロポザル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベネーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックディメンション演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	

補正後

-	82	兼担	准教授	ササキ ナオキ 佐々木 直樹 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボ・サル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベ・ンテーション演習 リサーチベ・ー・ラテイニング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	83	兼担	准教授	スミス マーシャル Smith Marshall ＜平成30年4月＞	博士 (保健学)	リサーチロボ・サル演習 リサーチレベ・ンテーション演習 リサーチベ・ー・ラテイニング演習 アカデミックレクチャー演習 国際衛生制度特論※ English Communication for Science	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3④ 1・2・3前	2 2 2 2 1 2	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	84	兼担	准教授	トシノリ ミスキ 富張 瑞樹 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボ・サル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベ・ンテーション演習 リサーチベ・ー・ラテイニング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	85	兼担	准教授	ニシガフ ヨシタ 西川 義文 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボ・サル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベ・ンテーション演習 リサーチベ・ー・ラテイニング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 准教授	
-	86	兼担	准教授	ヒロイ トヨコ 廣井 豊子 ＜平成30年4月＞	博士 (医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボ・サル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベ・ンテーション演習 リサーチベ・ー・ラテイニング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	87	兼担	准教授	フクモ シンヤ 福本 晋也 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボ・サル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベ・ンテーション演習 リサーチベ・ー・ラテイニング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 准教授	

補正後

-	88	兼担	准教授	マツモト コウタロウ 松本 高太郎 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	89	兼担	准教授	ムロイ ヨシカゲ 室井 喜晃 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	90	兼担	准教授	ヤマサキエイト 山崎 栄樹 ＜平成30年4月＞	博士 (理学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	91	兼担	講師	オカザキマユミ 岡崎 まゆみ ＜平成30年4月＞	修士 (法学)		国際衛生制度特論※	1・2・3④	0.5	1	帯広畜産大学 研究域 講師	
-	92	兼担	講師	カネノ ミツリ 茅野 光範 ＜平成30年4月＞	博士 (数理学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習 家畜疫学特論	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3①	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 講師	
-	93	兼担	講師	キャンベル デビッド ジョン Campbell David Jon ＜平成30年4月＞	M. A.		リサーチロボースル演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 アカデミックレクチャー演習 English Communication for Science	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 講師	
-	94	兼担	講師	グレン ヒル Glen Hill ＜平成30年4月＞	M. S.		リサーチロボースル演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 アカデミックレクチャー演習 English Communication for Science	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 講師	
-	95	兼担	講師	トヨメ タカト 豊留 孝仁 ＜平成30年4月＞	博士 (医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティンク演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 講師	

－	96	兼担	助教	アオキ タカヒロ 遠木 孝弘 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サード演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベ・ンテーション演習 リサーチ・バー・ラテイニング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	97	兼担	助教	イトウ メグミ 伊藤 めぐみ ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 リサーチ・ロボ・サード演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベ・ンテーション演習 リサーチ・バー・ラテイニング演習 リサーチマネージメント演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	98	兼担	助教	オカムラ カヨ 奥村 香世 ＜平成30年4月＞	博士 (医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サード演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベ・ンテーション演習 リサーチ・バー・ラテイニング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	99	兼担	助教	おかわり アキヒロ 上川 昭博 ＜平成30年4月＞	獣医 (博士学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サード演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベ・ンテーション演習 リサーチ・バー・ラテイニング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	100	兼担	助教	カワイ ユウスケ 川合 佑典 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サード演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベ・ンテーション演習 リサーチ・バー・ラテイニング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	101	兼担	助教	クモト アキコ 橋本 晃子 ＜平成30年4月＞	博士 (理学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サード演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベ・ンテーション演習 リサーチ・バー・ラテイニング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	102	兼担	助教	コドウダイスケ 近藤 大輔 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サード演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベ・ンテーション演習 リサーチ・バー・ラテイニング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	103	兼担	助教	シラバジ リカ 白藤 梨可 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サード演習 リサーチ・データ解析演習 リサーチ・レベ・ンテーション演習 リサーチ・バー・ラテイニング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 助教	

補正後

-	104	兼担	助教	カワ ミサト 田川 道人 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サル演習 リサーチ・タ解析演習 リサーチ・レゼンテーション演習 リサーチ・バー・ライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
-	105	兼担	助教	ハネダ シンゴ 羽田 真悟 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サル演習 リサーチ・タ解析演習 リサーチ・レゼンテーション演習 リサーチ・バー・ライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
-	106	兼担	助教	ホリウチ ノユキ 堀内 雅之 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・サル演習 リサーチ・タ解析演習 リサーチ・レゼンテーション演習 リサーチ・バー・ライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3通 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
-	107	兼担	助教	ヤマガワ マサシ 柳川 将志 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 リサーチ・ロボ・サル演習 リサーチ・タ解析演習 リサーチ・レゼンテーション演習 リサーチ・バー・ライティング演習 リサーチマネージメント演習	1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3 1・2・3	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	

別記様式第3号（その2の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教員の氏名等														
(畜産学研究科獣医学専攻 博士課程)														
前判定 結果	調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
可	Dマル合	1	専	イガラシ マコ 五十嵐 慎 ＜平成30年4月＞		博士 (医学)		獣医・農畜産学特論	1・2・3・4		1	1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授	5
獣医・農畜産学特別講義								1・2・3・4通		1	1			
獣医学特論Ⅰ								1・2・3・4		2	1			
獣医学特論Ⅱ								1・2・3・4		2	1			
基礎獣医学特論※								1・2・3・4㊦	0.5	1				
原虫病研究センター特別演習								1・2・3・4		1	1			
リサーチコミュニケーション								1・2・3・4		1	1			
獣医・農畜産学特別演習								1・2・3・4		1	1			
特別研究								1・2・3・4通		6	1			
国内リサーチ演習								1・2・3・4		2	1			
海外リサーチ演習								1・2・3・4		2	1			
国内フィールドワーク演習								1・2・3・4		2	1			
海外フィールドワーク演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチロボース&演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチデータ解析演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチレベシテーション演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチベーパーライティング演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチマネージメント演習								1・2・3・4		2	1			
アカデミックリサーチ演習								1・2・3・4		2	1			
アカデミックリサーチ演習								1・2・3・4		2	1			
社会人特別演習								1・2・3・4		2	1			
獣医学特別演習Ⅰ								1・2・3・4		1	1			
獣医学特別演習Ⅱ								1・2・3・4		1	1			
基礎獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4		2	1										
基礎獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4		2	1										
可	Dマル合	2	専	イシイ トシキ 石井 利明 ＜平成30年4月＞		博士 (農学)		獣医・農畜産学特論	1・2・3・4		1	1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
獣医・農畜産学特別講義								1・2・3・4通		1	1			
獣医学特論Ⅰ								1・2・3・4		2	1			
獣医学特論Ⅱ								1・2・3・4		2	1			
獣医学特別演習Ⅰ								1・2・3・4		1	1			
獣医学特別演習Ⅱ								1・2・3・4		1	1			
基礎獣医学特論※								1・2・3・4㊦	0.5	1				
動物・食品検査診断センター特別演習								1・2・3・4		1	1			
リサーチコミュニケーション								1・2・3・4		1	1			
獣医・農畜産学特別演習								1・2・3・4		1	1			
特別研究								1・2・3・4通		6	1			
国内リサーチ演習								1・2・3・4		2	1			
海外リサーチ演習								1・2・3・4		2	1			
国内フィールドワーク演習								1・2・3・4		2	1			
海外フィールドワーク演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチロボース&演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチデータ解析演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチレベシテーション演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチベーパーライティング演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチマネージメント演習								1・2・3・4		2	1			
アカデミックリサーチ演習								1・2・3・4		2	1			
アカデミックリサーチ演習								1・2・3・4		2	1			
社会人特別演習								1・2・3・4		2	1			
獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4		1	1										
獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4		1	1										
基礎獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4		2	1										
基礎獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4		2	1										
可	Dマル合	3	専	イシカトール 石川 透 ＜平成30年4月＞		獣医学 博士		獣医・農畜産学特論	1・2・3・4		1	1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
獣医学特論Ⅰ								1・2・3・4		2	1			
獣医学特論Ⅱ								1・2・3・4		2	1			
基礎獣医学特論※								1・2・3・4㊦	0.5	1				
リサーチコミュニケーション								1・2・3・4		1	1			
獣医・農畜産学特別演習								1・2・3・4		1	1			
特別研究								1・2・3・4通		6	1			
リサーチロボース&演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチデータ解析演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチレベシテーション演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチベーパーライティング演習								1・2・3・4		2	1			
リサーチマネージメント演習								1・2・3・4		2	1			
アカデミックリサーチ演習								1・2・3・4		2	1			
アカデミックリサーチ演習								1・2・3・4		2	1			
社会人特別演習								1・2・3・4		2	1			
基礎獣医学特別演習Ⅰ								1・2・3・4		2	1			
基礎獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4		2	1										

[illegible]

可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義 獣医学特論Ⅰ 獣医学特論Ⅱ 応用獣医学特論※	1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4③	1 1 2 2 0.5	1 1 1 1 1		
Dマル合	8	専	教授	カモト ケイコ 川本 恵子 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 獣医学特別演習Ⅰ 獣医学特別演習Ⅱ 応用獣医学特別演習Ⅰ 応用獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 動物・食品検査 診断センター 教授	5
可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義 獣医学特論Ⅰ 獣医学特論Ⅱ 応用獣医学特論※ 動物・食品検査診断センター 特別演習	1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4③ 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 2 2 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1		
Dマル合	9	専	教授	クサノ ヒサオ 倉岡 久生 ＜平成30年4月＞	農学博士		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 獣医学特別演習Ⅰ 獣医学特別演習Ⅱ 応用獣医学特別演習Ⅰ 応用獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	5
可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義 獣医学特論Ⅰ 獣医学特論Ⅱ 応用獣医学特論※ 原虫病研究センター特別演習	1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4③ 1・2・3・4	1 1 2 2 0.5 1	1 1 1 1 1 1		
Dマル合	10	専	教授	ケン カケナン 玄 学南 ＜平成30年4月＞	農学博士		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 獣医学特別演習Ⅰ 獣医学特別演習Ⅱ 応用獣医学特別演習Ⅰ 応用獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授	5

可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4通	1	1		
							獣医学特論Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特論Ⅱ	1・2・3・4	2	1		
							応用獣医学特論※	1・2・3・4③	0.5	1		
							動物医療センター特別演習	1・2・3・4	1	1		
Dマル合	11	専	教授	コバヤシヨシヤス 吉林 与志安 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション	1・2・3・4	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3・4	1	1		
							特別研究	1・2・3・4通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3・4	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチロボースル演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチペーパーライティング演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3・4	2	1		
							アカデミックリサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							アカデミックライティング演習	1・2・3・4	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	1	1		
							獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	1	1		
							応用獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							応用獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	2	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4通	1	1		
							獣医学特論Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特論Ⅱ	1・2・3・4	2	1		
							基礎獣医学特論※	1・2・3・4①	0.5	1		
Dマル合	12	専	教授	ササキ トキ 佐々木 基樹 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション	1・2・3・4	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3・4	1	1		
							特別研究	1・2・3・4通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3・4	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチロボースル演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチペーパーライティング演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3・4	2	1		
							アカデミックリサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							アカデミックライティング演習	1・2・3・4	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	1	1		
							獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	1	1		
							基礎獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							基礎獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	2	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4通	1	1		
							獣医学特論Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特論Ⅱ	1・2・3・4	2	1		
							応用獣医学特論※	1・2・3・4③	0.5	1		
Dマル合	13	専	教授	ススキヒロシ 鈴木 宏志 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション	1・2・3・4	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3・4	1	1		
							特別研究	1・2・3・4通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3・4	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチロボースル演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチペーパーライティング演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3・4	2	1		
							アカデミックリサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							アカデミックライティング演習	1・2・3・4	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	1	1		
							獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	1	1		
							応用獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							応用獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	2	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
							獣医学特論Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特論Ⅱ	1・2・3・4	2	1		
							臨床獣医学特論※	1・2・3・4②	2	1		
							動物医療センター特別演習	1・2・3・4	1	1		
Dマル合	14	専	教授	ナベキヤスオ 南保 泰雄 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション	1・2・3・4	1	1		
							リサーチロボースル演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチペーパーライティング演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3・4	2	1		
							臨床獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	1	1		
							臨床獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	1	1		

補正後

可	18	専	教授	ヨヤマ ナオキ 横山 直明 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授	5
Dマル合							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4通	1	1		
							獣医学特論Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特論Ⅱ	1・2・3・4	2	1		
							基礎獣医学特論※	1・2・3・4①	0.5	1		
							原虫病研究センター特別演習	1・2・3・4	1	1		
							リサーチコミュニケーション	1・2・3・4	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3・4	1	1		
							特別研究	1・2・3・4通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3・4	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチロボース演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチペーパーライティング演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3・4	2	1		
							アカデミックリサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							アカデミックライティング演習	1・2・3・4	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	1	1		
							獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	1	1		
							基礎獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							基礎獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	2	1		
可	19	専	准教授	カウ ケンタロウ 加藤 健太郎 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)		獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 准教授	5
Dマル合							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4通	1	1		
							獣医学特論Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特論Ⅱ	1・2・3・4	2	1		
							基礎獣医学特論※	1・2・3・4①	0.5	1		
							原虫病研究センター特別演習	1・2・3・4	1	1		
							リサーチコミュニケーション	1・2・3・4	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3・4	1	1		
							特別研究	1・2・3・4通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3・4	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチロボース演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチペーパーライティング演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3・4	2	1		
							アカデミックリサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							アカデミックライティング演習	1・2・3・4	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	1	1		
							獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	1	1		
							基礎獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							基礎獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	2	1		
可	20	専	准教授	クボタ アキラ 久保田 彰 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)		獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
Dマル合							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4通	1	1		
							獣医学特論Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特論Ⅱ	1・2・3・4	2	1		
							基礎獣医学特論※	1・2・3・4①	0.5	1		
							リサーチコミュニケーション	1・2・3・4	1	1		
							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
							獣医・農畜産学特別演習	1・2・3・4	1	1		
							特別研究	1・2・3・4通	6	1		
							国内リサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							海外リサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							国内フィールドワーク演習	1・2・3・4	2	1		
							海外フィールドワーク演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチロボース演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチデータ解析演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチプレゼンテーション演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチペーパーライティング演習	1・2・3・4	2	1		
							リサーチマネージメント演習	1・2・3・4	2	1		
							アカデミックリサーチ演習	1・2・3・4	2	1		
							アカデミックライティング演習	1・2・3・4	2	1		
							社会人特別演習	1・2・3・4	2	1		
							獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4通	1	1		
							獣医学特論Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特論Ⅱ	1・2・3・4	2	1		
							獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	1	1		
							獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	1	1		
							基礎獣医学特論※	1・2・3・4①	0.5	1		
							基礎獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3・4	2	1		
							基礎獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4	2	1		

補正後

[illegible]

補正後

[illegible]

補正後

可							獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別講義 獣医学特論Ⅰ 獣医学特論Ⅱ 基礎獣医学特論※	1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4①	1 1 2 2 0.5	1 1 1 1 1		
Dマル合	27	専	准教授	ムロイ ヨシカギ 室井 喜景 ＜平成30年４月＞	博士 （獣医学）		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボティクスⅥ演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベルテーション演習 リサーチバーチャライジング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医学特別演習Ⅰ 獣医学特別演習Ⅱ 基礎獣医学特別演習Ⅰ 基礎獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 2 2 2	1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
可							獣医・農畜産学特論 動物・食品検査診断センター 特別演習	1・2・3・4 1・2・3・4	1 1	1 1		
Dマル合	28	専	准教授	ヤマサキエイク 山崎 栄樹 ＜平成30年４月＞	博士 （理学）		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 リサーチロボティクスⅥ演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベルテーション演習 リサーチバーチャライジング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	5
D合							特別研究	1・2・3・4通	6	1		
可							獣医・農畜産学特論 家畜疫学特論	1・2・3・4 1・2・3・4①	1 2	1 1		
Dマル合	29	専	講師	カヤノ ミツヲ 茅野 光範 ＜平成30年４月＞	博士 （数理学）		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボティクスⅥ演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベルテーション演習 リサーチバーチャライジング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 講師	5
可							獣医・農畜産学特論 動物・食品検査診断センター 特別演習	1・2・3・4 1・2・3・4	1 1	1 1		
Dマル合	30	専	講師	トヨタ タカヒコ 豊留 孝仁 ＜平成30年４月＞	博士 （医学）		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボティクスⅥ演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベルテーション演習 リサーチバーチャライジング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 講師	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
Dマル合	31	専	助教	アオキ タカヒロ 浅木 孝弘 ＜平成30年４月＞	博士 （獣医学）		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボティクスⅥ演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベルテーション演習 リサーチバーチャライジング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
Dマル合	32	専	助教	イトウ メグミ 伊藤 めぐみ ＜平成30年４月＞	博士 （獣医学）		リサーチコミュニケーション リサーチロボティクスⅥ演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベルテーション演習 リサーチバーチャライジング演習 リサーチマネージメント演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5

可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
Dマル合	33	専	助教	オクムラ アヨ 奥村 晋世 ＜平成30年 4 月＞	博士 (医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチペーパライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
D合							特別研究	1・2・3・4通	6	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
Dマル合	34	専	助教	おがワ アキヒロ 上川 昭博 ＜平成30年 4 月＞	獣医 (博士学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチペーパライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
D合							特別研究	1・2・3・4通	6	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
Dマル合	35	専	助教	カワイ コウスケ 川合 佑典 ＜平成30年 4 月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチペーパライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
D合							特別研究	1・2・3・4通	6	1		
可							獣医・農畜産学特論 動物・食品検査診断センター 特別演習	1・2・3・4 1・2・3・4	1 1	1 1		
Dマル合	36	専	助教	クサモト アキコ 橋本 晃子 ＜平成30年 4 月＞	博士 (理学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチペーパライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
D合							特別研究	1・2・3・4通	6	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
Dマル合	37	専	助教	コンドウ ダイスケ 近藤 大輔 ＜平成30年 4 月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチペーパライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
D合							特別研究	1・2・3・4通	6	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
Dマル合	38	専	助教	シラフジ リカ 白藤 梨可 ＜平成30年 4 月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチペーパライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 原虫病研究センター 助教	5
D合							特別研究	1・2・3・4通	6	1		
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
Dマル合	39	専	助教	オガワ ミチヒト 田川 進人 ＜平成30年 4 月＞	博士 (獣医学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチペーパライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
D合							特別研究	1・2・3・4通	6	1		

補正後

可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
Dマル合	40	専	助教	ハナダ シンゴ 羽田 真樹 ＜平成30年 4 月＞		博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチワーク解析演習 リサーチレベシジョン演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
Dマル合	41	専	助教	ホリナリ リュウキ 堀内 雅之 ＜平成30年 4 月＞		博士 (獣医)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチワーク解析演習 リサーチレベシジョン演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
可							獣医・農畜産学特論	1・2・3・4	1	1		
Dマル合	42	専	助教	ヤマナ アマラン 柳川 特志 ＜平成30年 4 月＞		博士 (獣医学)	リサーチコミュニケーション リサーチロボースル演習 リサーチワーク解析演習 リサーチレベシジョン演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	5
-	43	兼任	教授	ウメタ カズヲ 梅津 一孝 ＜平成30年 4 月＞		博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチワーク解析演習 リサーチレベシジョン演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	44	兼任	教授	ウラシマ タス 浦島 匡 ＜平成30年 4 月＞		農学博 士	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチワーク解析演習 リサーチレベシジョン演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	①	兼任	教授	オオインアサヒロ 大石 明広 ＜平成30年 4 月＞		博士 (農学)	獣医・農畜産学特論 獣医学特論Ⅰ 獣医学特論Ⅱ 臨床獣医学特論※ 動物医療センター特別演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4② 1・2・3・4	1 2 2 0.5 1	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	45	兼任	教授	オオワダ タツジ 大和田 琢二 ＜平成30年 4 月＞		博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチワーク解析演習 リサーチレベシジョン演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	

補正後

-	46	兼担	教授	オシダ タツオ 押田 龍夫 ＜平成30年4月＞	博士 (理学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロポーズ演習 リサーチデモグラフィック解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	47	兼担	教授	カウ キヨキ 加藤 清明 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロポーズ演習 リサーチデモグラフィック解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	48	兼担	教授	カベラ ムツ 門平 睦代 ＜平成30年4月＞	Ph. D.	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロポーズ演習 リサーチデモグラフィック解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 家畜疫学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4① 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	49	兼担	教授	カヤマトシサ 金山 紀久 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 リサーチアロポーズ演習 リサーチデモグラフィック解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	50	兼担	教授	キシモ タツシ 岸本 正 ＜平成30年4月＞	農学博士	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロポーズ演習 リサーチデモグラフィック解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
-	51	兼担	教授	キダ カツヤ 木田 克弥 ＜平成30年4月＞	博士 (獣医学)	家畜衛生学特論※	1・2・3・4②	0.2	1	帯広畜産大学 研究域 教授	

補正後

—	52	兼担	教授	キバタ ミチオ 木下 幹朗 ＜平成30年 4 月＞	博士 (農 学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
—	53	兼担	教授	キウコウキ 姜 興起 ＜平成30年 4 月＞	博士 (学 術)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
—	54	兼担	教授	クサ ケイ 口田 圭吾 ＜平成30年 4 月＞	博士 (農 学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
—	55	兼担	教授	コイケ マサリ 小池 正徳 ＜平成30年 4 月＞	博士 (農 学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
—	56	兼担	教授	コジマ ミチユキ 小嶋 道之 ＜平成30年 4 月＞	博士 (農 学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	

補正後

—	57	兼任	教授	サトウ タツトシ 佐藤 祐徳 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロポーチス演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
—	58	兼任	教授	シガ エイチ 志賀 永一 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロポーチス演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
—	59	兼任	教授	セルボウヤ マスシ 仙北谷 康 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロポーチス演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
—	60	兼任	教授	タニ マサユキ 谷 昌幸 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロポーチス演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	
—	61	兼任	教授	ツジ オサム 辻 修 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロポーチス演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授	

補正後

-	62	兼任	教授	テカハ マサミ 手塚 雅文 ＜平成30年4月＞	Ph. D.		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベントーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授		
-	63	兼任	教授	フクシマ ミチヒロ 福島 道広 ＜平成30年4月＞	博士 （農学）		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベントーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授		
-	64	兼任	教授	ミウラ ヒデネ 三浦 秀穂 ＜平成30年4月＞	農学博士		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベントーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授		
-	65	兼任	教授	ミヤモト アキオ 宮本 明夫 ＜平成30年4月＞	農学博士		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベントーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 家畜衛生学特論※ 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4② 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.6 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授		
-	66	兼任	教授	ヤマウチヒロキ 山内 宏昭 ＜平成30年4月＞	博士 （工学）		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベントーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 教授		
-	67	兼任	特任教授	ワタナベシゴ 渡辺 信吾 ＜平成30年4月＞	高等専門学校卒		食品安全マネージメント・内部監査演習	1・2・3・4	2	1		帯広畜産大学 地域連携推進センター 特任教授	

補正後

-	68	兼任	准教授	アキト マサヒロ 秋本 正博 ＜平成30年 4 月＞	博士 (農 学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	69	兼任	准教授	アコスタ アヤラトマス ハビエル ACOSTA AYALA Tomas Javier ＜平成30年 4 月＞	博士 (獣医 学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 家畜衛生学特論※ 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4② 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 動物・食品検査 診断センター 准教授	
-	70	兼任	准教授	オオニシカズミツ 大西 一光 ＜平成30年 4 月＞	博士 (農 学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	71	兼任	准教授	カワシマ クニモ チホ 川島 (国友) 千帆 ＜平成30年 4 月＞	博士 (農 学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 家畜衛生学特論※ 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4② 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 畜産フィールド 科学センター 准教授	
-	72	兼任	准教授	キムラ マサト 木村 賢人 ＜平成30年 4 月＞	博士 (農 学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	73	兼任	准教授	クマノ ノリウ 熊野 了州 ＜平成30年 4 月＞	博士 (理 学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	

補正後

-	74	兼担	准教授	コウノ ヒロチ 耕野 拓一 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロブ・サード演習 リサーチデモグラフィック解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 衛生経済学特論 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4③ 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	75	兼担	准教授	シマダ ケンイロウ 島田 謙一郎 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロブ・サード演習 リサーチデモグラフィック解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	76	兼担	准教授	シマス カシ 清水 陸 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロブ・サード演習 リサーチデモグラフィック解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 家畜衛生学特論※ 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4② 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	77	兼担	准教授	スミス マーシャル Smith Marshall ＜平成30年4月＞	博士 (保健学)	リサーチアロブ・サード演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 アカデミックリサーチ演習 国際衛生制度特論※ English Communication for Science	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4④ 1・2・3・4前	2 2 2 2 1 2	1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	78	兼担	准教授	トクジ ヨシヒコ 得子 主彦 ＜平成30年4月＞	博士 (理学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロブ・サード演習 リサーチデモグラフィック解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
-	79	兼担	准教授	ナカムラ タシ 中村 正 ＜平成30年4月＞	博士 (農学)	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチアロブ・サード演習 リサーチデモグラフィック解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックライティング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	

補正後

—	80	兼任	准教授	ニシダ タツヒロ 西田 武弘 ＜平成30年 4 月＞	博士 （農 学）	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックディメンション演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
—	81	兼任	准教授	ハギヤ コウイチ 萩谷 功一 ＜平成30年 4 月＞	博士 （農 学）	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックディメンション演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
—	82	兼任	准教授	ハシモト ヤスシ 橋本 靖 ＜平成30年 4 月＞	博士 （農 学）	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックディメンション演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
—	83	兼任	准教授	ハナダ マサアキ 花田 正明 ＜平成30年 4 月＞	博士 （農 学）	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックディメンション演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
—	84	兼任	准教授	ハン キョウホ 韓 圭鎭 ＜平成30年 4 月＞	博士 （農 学）	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックディメンション演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
—	85	兼任	准教授	ヒラタ マサヒロ 平田 昌弘 ＜平成30年 4 月＞	博士 （農 学）	リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチロボースル演習 リサーチデータ解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックディメンション演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	

補正後

—	86	兼任	准教授	フナダ ケンジ 福田 健二 ＜平成30年 4 月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロボーサー演習 リサーチワーク解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
—	87	兼任	准教授	マツカガノヨシ 松長 延吉 ＜平成30年 4 月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチアロボーサー演習 リサーチワーク解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
—	88	兼任	准教授	ミヤケ フミヒト 宮竹 史仁 ＜平成30年 4 月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチアロボーサー演習 リサーチワーク解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
—	89	兼任	准教授	ムネオカトシミ 宗岡 寿美 ＜平成30年 4 月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 国内リサーチ演習 海外リサーチ演習 国内フィールドワーク演習 海外フィールドワーク演習 リサーチアロボーサー演習 リサーチワーク解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 社会人特別演習 獣医・農畜産学特別講義	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 准教授	
—	90	兼任	講師	オガサキマユミ 岡崎 まゆみ ＜平成30年 4 月＞	修士 (法学)		国際衛生制度特論※	1・2・3・4④	0.5	1	帯広畜産大学 研究域 講師	
—	91	兼任	講師	キャンベル デビッドソン Campbell David Jon ＜平成30年 4 月＞	M. A.		リサーチアロボーサー演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 アカデミックレクチャー演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 講師	
—	92	兼任	講師	グレンヒル Glen Hill ＜平成30年 4 月＞	M. S.		リサーチアロボーサー演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 アカデミックレクチャー演習 English Communication for Science	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 講師	
—	93	兼任	講師	セオ テツヤ 瀬尾 哲也 ＜平成30年 4 月＞	博士 (農学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチアロボーサー演習 リサーチワーク解析演習 リサーチプレゼンテーション演習 リサーチペーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックレクチャー演習 アカデミックティーチング演習 国際衛生制度特論※	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4④	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 講師	

補正後

－	94	兼担	助教	アイチダイ 相内 太吾 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボース演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	95	兼担	助教	アカサカタミ 赤坂 卓美 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボース演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	96	兼担	助教	オカサヨシタケ 折笠 善丈 ＜平成30年4月＞	博士 (地球 環境科 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボース演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	97	兼担	助教	カサガ シュン 春日 純 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボース演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	98	兼担	助教	カホタ (ミヤザキ)サトコ 窪田 (宮崎) さと子 ＜平成30年4月＞	博士 (畜産 衛生 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボース演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	99	兼担	助教	コトウ タツヒコ 後藤 達彦 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボース演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	100	兼担	助教	コヤマ コウヘイ 小山 耕平 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチロボース演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習 アカデミックリサーチ演習 アカデミックティーチング演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	101	兼担	助教	サイウ トモコ 齊藤 朋子 ＜平成30年4月＞	博士 (農 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 リサーチロボース演習 リサーチデータ解析演習 リサーチレベシテーション演習 リサーチベーパーライティング演習 リサーチマネージメント演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	

補正後

－	102	兼任	助教	サトウ マサトシ 佐藤 雅俊 ＜平成30年4月＞		修士 (理 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 リサーチ・ロボ・ース・ル演習 リサーチ・タ解析演習 リサーチ・レゼンテーション演習 リサーチ・ペー・ラティンク演習 リサーチ・マネジ・メント演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	103	兼任	助教	ササモ レナ 實友 玲奈 ＜平成30年4月＞		博士 (農 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・ース・ル演習 リサーチ・タ解析演習 リサーチ・レゼンテーション演習 リサーチ・ペー・ラティンク演習 リサーチ・マネジ・メント演習 アカデミックス・リサーチ演習 アカデミックス・リサーチ演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	104	兼任	助教	フクマ ナオキ 福岡 直希 ＜平成30年4月＞		博士 (農 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 リサーチ・ロボ・ース・ル演習 リサーチ・タ解析演習 リサーチ・レゼンテーション演習 リサーチ・ペー・ラティンク演習 リサーチ・マネジ・メント演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	105	兼任	助教	ムラシ ユキ 村西 由紀 ＜平成30年4月＞		博士 (医 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・ース・ル演習 リサーチ・タ解析演習 リサーチ・レゼンテーション演習 リサーチ・ペー・ラティンク演習 リサーチ・マネジ・メント演習 アカデミックス・リサーチ演習 アカデミックス・リサーチ演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	106	兼任	助教	モリ マサヒコ 森 正彦 ＜平成30年4月＞		博士 (農 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・ース・ル演習 リサーチ・タ解析演習 リサーチ・レゼンテーション演習 リサーチ・ペー・ラティンク演習 リサーチ・マネジ・メント演習 アカデミックス・リサーチ演習 アカデミックス・リサーチ演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	
－	107	兼任	助教	ヤマタ シンジ 山下 慎司 ＜平成30年4月＞		博士 (農 学)		リサーチコミュニケーション 獣医・農畜産学特論 獣医・農畜産学特別演習 特別研究 リサーチ・ロボ・ース・ル演習 リサーチ・タ解析演習 リサーチ・レゼンテーション演習 リサーチ・ペー・ラティンク演習 リサーチ・マネジ・メント演習 アカデミックス・リサーチ演習 アカデミックス・リサーチ演習	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4通 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1 6 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 研究域 助教	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(畜産学研究科 畜産科学専攻 博士前期課程)										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	0 人	0 人	0 人	12 人	14 人	0 人	0 人	26 人	
	修 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	1 人	
准 教 授	博 士	0 人	0 人	13 人	8 人	0 人	0 人	0 人	21 人	
	修 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
講 師	博 士	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	
	修 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
助 教	博 士	0 人	10 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	13 人	
	修 士	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
合 計	博 士	0 人	10 人	17 人	20 人	14 人	0 人	0 人	61 人	
	修 士	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	1 人	

(注)

1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。

2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。

3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。

4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(畜産学研究科 畜産科学専攻 博士後期課程)										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	0 人	0 人	0 人	11人	12人	0 人	0 人	23人	
	修 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	1 人	
准 教 授	博 士	0 人	0 人	13人	8 人	0 人	0 人	0 人	21人	
	修 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
講 師	博 士	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	
	修 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
助 教	博 士	0 人	10人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	13人	
	修 士	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
合 計	博 士	0 人	10人	17人	19人	12人	0 人	0 人	58人	
	修 士	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	1 人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(畜産学研究科獣医学専攻 博士課程)										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	0 人	0 人	0 人	11人	6 人	0 人	0 人	17人	
	修 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	
准 教 授	博 士	0 人	0 人	8 人	2 人	0 人	0 人	0 人	10人	
	修 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
講 師	博 士	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人	
	修 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
助 教	博 士	0 人	6 人	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人	12人	
	修 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
合 計	博 士	0 人	6 人	16人	13人	6 人	0 人	0 人	41人	
	修 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短 期 大 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	そ の 他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）

畜産学研究科 畜産科学専攻（M・D）

1. 専攻、コース（特に畜産衛生学位プログラム）と学位の関係性について、説明すること。【2専攻共通】（要望意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 各コースの受け入れ枠について入試方法も含めて説明すること。【2専攻共通】（要望意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3. シラバス P25、26、P148～149 の海外演習科目について、評価方法がわかりにくいため明確にすること。【2専攻共通】（要望意見）・・・・・・・・・・ 5
4. 岩手大学大学院連合農学研究科の構成大学でなくなったことによる指導教員の体制、講義への影響について、具体的に説明すること。（要望意見）・・・・ 7
5. 畜産学衛生学位プログラムについて、カリキュラムコースの性格が強いため、名称について検討すること。（要望意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

畜産学研究科 獣医学専攻（D）

上記の1～3と共通のため省略

(要望意見) 畜産学研究科 畜産科学専攻 (M・D) / 獣医学専攻 (D)

1. 専攻、コース（特に畜産衛生学位プログラム）と学位の関係性について、説明すること。【2 専攻共通】

(対応)

設置の趣旨を記載した書類に専攻・コース及び畜産衛生学位プログラムと学位の関係性を追記した。具体的には、畜産科学専攻の学生は、所属するコースに関わらず、畜産衛生学の学位を希望し、学位プログラムの履修要件を満たした場合、その専門性により、農学あるいは動物医科学の学位に代わって畜産衛生学の学位が付与されるという主旨である。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (9 ページ)

新	旧
本プログラムは、農作物・食品等の国境を越えた流通拡大を背景として企業等に求められている国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材を育成するため、本学がこれまで畜産衛生学専攻において実践してきた「食の安全確保」に関する高度な専門教育を、 <u>所属するカリキュラムコースに限定されることなく上記①及び②の全ての学生が履修可能な学位プログラムとして発展させるものである。</u>	本プログラムは、農作物・食品等の国境を越えた流通拡大を背景として企業等に求められている国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材を育成するため、本学がこれまで畜産衛生学専攻において実践してきた「食の安全確保」に関する高度な専門教育を、上記①～③の全ての学生が履修可能な学位プログラムとして発展させるものである。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (20-21 ページ)

新	旧
学位取得のためには、前期課程においては、 <u>専攻の必修科目に加えて、プログラム必修科目 4 単位、プログラム選択科目から 4 単位以上修得することが必要である。必修科目である「畜産衛生学特論」と「食品衛生・有害物質特論」によって、幅広い畜産学及び食品衛生学に基づく現場の衛生管理の知識や、食品に関連する毒性物質の危険性を理解し、安全性を評価するための基礎的な能力を修得し、その上で、HACCP 資格科目群（「HACCP システム構築演習」、「品質検査学特論」、「食品関連法規・食品製造加工施設保全特論」）ないし 6 次産業化科目群（「食品流通・地域産業活性化特論」、「企業戦略特論」）によって、食品製造・加工現場や企業経営・管理に求められる法規や HACCP 等の諸制度の知識・技術を修得する。これらの畜産衛生に係る知識・技術を基に、食品衛生環境、生産工程及び物流形態等の各分野に関する修士論文ないし課題研究を提出</u>	博士前期課程における畜産衛生学位プログラム履修者は、 <u>前期課程の共通必修科目、共通選択科目を履修の上、プログラム必修科目・選択必修科目・畜産衛生課題研究（企業等研修）ないし所属コースの特別研究Ⅱを履修する。博士後期課程における履修者は、共通必修科目、共通選択科目を履修の上、プログラム必修科目・選択科目を履修する。</u>

<p> <u>することにより、その専門性に相応しい「修士（畜産衛生学）」の学位を付与する。なお、プログラムの履修登録から学位判定までの流れは以下のとおりである。また、後期課程においては、専攻の必修科目に加えて、プログラム必修科目1単位、プログラム選択科目か6単位以上修得することが必要である。必修科目である「獣医・農畜産学特別講義」によって、獣医・農畜産融合の視点から分野横断的に獣医学、農畜産学及びその学際分野の先端的知識を修得するとともに、「食品安全マネジメント・内部監査演習」、「家畜衛生学特論」等の選択科目によって、国際基準に応じた食品安全マネジメントシステムの運用管理の検証を可能とする知識・技術や家畜の生産現場における疾病問題や国内外で異なる飼養管理システムとその衛生管理に係る現状の問題を把握し、課題解決を図るための力を修得する。これらの畜産衛生に係る知識・技術を基に、食品衛生環境、生産工程及び物流形態等の各分野に関する博士論文を提出することにより、その専門性に相応しい「博士（畜産衛生学）」の学位を付与する。なお、獣医学専攻（博士課程）においては、本プログラムにより「博士（畜産衛生学）」の学位修得は不可能であるが、本プログラムの科目については、選択科目として履修可能である。</u> </p>	
--	--

(要望意見) 畜産学研究科 畜産科学専攻 (M・D) / 獣医学専攻 (D)

2. 各コースの受け入れ枠について入試方法も含めて説明すること。【2専攻共通】

(対応)

設置の趣旨を記載した書類に各コースの受け入れ枠について過去2年の配属傾向を分析し、項目を新設して記載した。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (31-32 ページ)

新	旧
<p>(3) 入学定員と学生の分属</p> <p><u>①畜産科学専攻 (博士前期課程)</u></p> <p><u>本課程の入学定員は48名である。学生は入学後に動物医科学、家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学のいずれかのコースに分類されるが、そのコースは学生が師事する主指導教員の担当コースによって決定される。なお、特別な事情がない限り、出願者が当該教員の同意を得て出願書類に記載した教員が主指導教員となる。</u></p> <p><u>各コースの受入れには特に定員を設けないが、畜産学部畜産科学課程の6つのユニットと相関する家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学の6コースについては、ユニット定員の比率と同程度の受入れ数を見込んでいる。一方、動物医科学コースは学部基盤組織のないコースであるが、従来の畜産衛生学専攻 (博士前期課程) の平成27年及び平成28年の入学者のうち、獣医学系の教員に師事した学生は12名で、年平均6名であった。このことから、各コースの受入学生数は、動物医科学6名、家畜生産科学10名、環境生態学6名、食品科学10名、農業経済学5名、農業環境工学5名、植物生産科学6名程度と見込んでいる。</u></p> <p><u>なお、畜産衛生学位プログラムについては入学後に履修選択する学位プログラムであるが、学生アンケートにおいて「興味がある」と回答した学生の割合が11.8%であった (資料1-1) ことから、5~6名程度の履修者を見込んでいる。</u></p> <p><u>②畜産科学専攻 (博士後期課程) 及び③獣医学専攻 (博士課程)</u></p>	<p>(追加)</p>

<p>畜産科学専攻（博士後期課程）の入学定員は10名、獣医学専攻（博士課程）の入学定員は5名である。</p> <p>なお、畜産科学専攻（博士後期課程）の畜産衛生学位プログラムについては、①と同様に入学後に履修選択する学位プログラムであるが、上述の「興味がある」とした学生の割合から、1～2名程度の履修者を見込んでいる。</p>	
---	--

(要望意見) 畜産学研究科 畜産科学専攻 (M・D) / 獣医学専攻 (D)

3. シラバス P25、26、P148～149 の海外演習科目について、評価方法がわかりにくいため明確にすること。【2 専攻共通】

(対応)

「海外フィールドワークⅠ」、「海外フィールドワークⅡ」、「海外フィールドワーク演習」、「国内フィールドワーク演習」の4科目について、評価対象及び方法を明確にし、修正内容をシラバスに反映した。

(新旧対照表) シラバス「海外フィールドワークⅠ」

新	旧
<p>授業計画 (派遣期間: 1 ヶ月程度)</p> <p>1. 学内派遣前研修として、現地での研究活動に必要な知識・技術、英語やスペイン語等の現地で必要な語学能力、現地農業事情などの習得</p> <p>2. 短期派遣隊員として、短期派遣の目的達成に向けた活動計画の作成</p> <p>3. 現地活動、現地活動報告会</p> <p>4. 報告会での発表、<u>活動報告書</u>の作成</p> <p>学生に対する評価</p> <p><u>派遣前研修成果、活動計画書、同行教員による活動評価活動報告書、現地での活動報告会および帰国後の学内報告会でのプレゼンテーション、活動報告書から総合的に判定する。</u></p> <p><u>評価の割合: 派遣前研修・活動計画評価 20%、活動評価 20%、報告評価 40%</u></p>	<p>授業計画 (派遣期間: 1 ヶ月程度)</p> <p>1. 学内派遣前研修として、現地での研究活動に必要な知識・技術、英語やスペイン語等の現地で必要な語学能力、現地農業事情などの習得</p> <p>2. 短期派遣隊員として、短期派遣の目的達成に向けた活動計画の作成</p> <p>3. 現地活動、現地活動報告会</p> <p>4. 報告会での発表、報告書の作成</p> <p>学生に対する評価</p> <p>活動計画書、活動報告書、報告会でのプレゼンから総合的に判定する。</p>

(新旧対照表) シラバス「海外フィールドワークⅡ」

新	旧
<p>授業計画</p> <p>派遣活動期間: 2 年間</p> <p>1. 派遣前研修 (家畜飼養管理等の知識・技術、語学(スペイン語)、現地の酪農事情等)</p> <p>2. JICA 要請書に基づく現地活動計画書の作成</p> <p>3. 現地活動 <u>(4 半期ごとに定期活動報告書を作成して JICA に提出)</u></p> <p>4. 活動成果報告書の作成、報告会 (JICA 及び本学) におけるプレゼンテーション</p> <p>学生に対する評価</p>	<p>授業計画</p> <p>派遣活動期間: 2 年間</p> <p>1. 派遣前研修 (家畜飼養管理等の知識・技術、語学(スペイン語)、現地の酪農事情等)</p> <p>2. JICA 要請書に基づく現地活動計画書の作成</p> <p>3. 現地活動</p> <p>4. 活動成果報告書の作成、報告会 (JICA 及び本学) におけるプレゼンテーション</p> <p>学生に対する評価</p>

派遣前研修成果、活動計画書、定期活動報告書（年４回）、現地での活動報告会および帰国後の報告会におけるプレゼンテーション、活動成果報告書から総合的に評価する。 評価の割合：派遣前研修・活動計画評価 10%、活動評価 40%、報告評価 40%	活動計画書、活動報告書、報告会におけるプレゼンテーション内容から総合的に判断。また、派遣活動期間中の半年毎に JICA に提出する活動報告、JICA パラグアイ事務所の活動評価等を成績評価の参考とする。
--	---

（新旧対照表）シラバス「海外フィールドワーク演習」

新	旧
<p>学生に対する評価</p> <p><u>フィールドワーク計画書</u>、<u>レポート</u>および<u>受入先で指導を行った研究者からの評価報告書</u>を元に受講者の<u>取り組む姿勢や問題解決に向けた提言内容</u>について評価し、<u>それを参考として、フィールドワーク報告会におけるプレゼンテーションおよび最終成果報告書</u>を総合的に判定して評価を行います。</p> <p>評価の割合：<u>フィールドワーク計画書 10%、レポート 10%、受入先の評価報告書 10%、フィールドワーク報告会 40%、最終成果報告書 30%</u></p>	<p>学生に対する評価</p> <p>レポートおよび受入教員からの報告書を元に受講者の<u>研究への取り組む姿勢や問題解決に向けた提言内容</u>、<u>成果発表におけるプレゼンテーション能力</u>を総合して評価を行います。</p>

（新旧対照表）シラバス「国内フィールドワーク演習」

新	旧
<p>学生に対する評価</p> <p><u>フィールドワーク計画書</u>、<u>レポート</u>および<u>受入先で指導を行った研究者からの評価報告書</u>を元に受講者の<u>取り組む姿勢や問題解決に向けた提言内容</u>について評価し、<u>それを参考として、フィールドワーク報告会におけるプレゼンテーションおよび最終成果報告書</u>を総合的に判定して評価を行います。</p> <p>評価の割合：<u>フィールドワーク計画書 10%、レポート 10%、受入先の評価報告書 10%、フィールドワーク報告会 40%、最終成果報告書 30%</u></p>	<p>学生に対する評価</p> <p>レポートおよび受入教員からの報告書を元に受講者の<u>研究への取り組む姿勢や問題解決に向けた提言内容</u>、<u>成果発表におけるプレゼンテーション能力</u>を総合して評価を行います。</p>

(要望意見) 畜産学研究科 畜産科学専攻 (M・D) / 獣医学専攻 (D)

4. 岩手大学大学院連合農学研究科の構成大学でなくなったことによる指導教員の体制、講義への影響について、具体的に説明すること。

(対応)

設置の趣旨を記載した書類に、本学独自の研究科設置によっても指導教員体制や講義に影響があり、教育の質が低下することがない旨を追記した。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (25 ページ)

新	旧
<p>(2) 履修指導・研究指導の方法</p> <p>履修指導・研究指導方法の特徴の1つとして、上述のとおり各連合大学院と連携関係を維持する方針であることから、連合大学院構成大学に所属する教員が副指導教員や学位論文審査委員として就任可能な、指導体制や学位審査体制を構築している。</p> <p><u>なお、畜産科学専攻(博士後期課程)及び獣医学専攻(博士課程)については、連合大学院からの離脱あるいは連合大学院のが解散に伴いして本学単独の博士課程となるが、「1. 設置の趣旨及び必要性」で詳述したとおり、本改組は、本学独自の博士課程である畜産衛生学専攻の教育体制を融合して本学の強みを生かした新たな博士課程を組織するものであり、本学が目指す、獣医・農畜産融合の研究指導体制はより強化される。また、上述前述の連合大学院構成大学との連携により、より広い視点からの研究指導体制も可能なものとしている。</u></p>	<p>(2) 履修指導・研究指導の方法</p> <p>履修指導・研究指導方法の特徴の1つとして、上述のとおり各連合大学院と連携関係を維持する方針であることから、連合大学院構成大学に所属する教員が副指導教員や学位論文審査委員として就任可能な、指導体制や学位審査体制を構築している。</p>

(要望意見) 畜産学研究科 畜産科学専攻 (M・D) / 獣医学専攻 (D)

5. 畜産学衛生学位プログラムについて、カリキュラムコースの性格が強いため、名称について検討すること。

(対応)

要望意見 1 に回答のとおり、今回の改組では本学がこれまで畜産衛生学専攻において実践してきた「食の安全確保」に関する高度な専門教育を、所属するカリキュラムコースに限定されることなく全ての学生が履修可能な学位プログラムとして発展させとともに、畜産衛生学分野の専門性を深めることで、畜産衛生学の学位を取得するためのプログラムであるため、名称は当初のとおり「畜産衛生学位プログラム」とする。